

武蔵野市障害者計画・第4期障害福祉計画策定のための  
武蔵野市障害者福祉についての実態調査  
報 告 書

平成26年3月

武 蔵 野 市



# 目次

<b>第1章 調査の概要</b> .....	1
1. 調査実施の目的 .....	3
2. 調査設計 .....	3
3. 回収結果 .....	3
4. 調査結果を見る上での注意事項 .....	3
<b>第2章 調査結果のまとめ</b> .....	5
1. 回答者について .....	7
2. 本人について .....	7
3. 本人の状況について .....	7
4. 保健・医療について .....	7
5. 相談・情報入手について .....	8
6. 通園・通学について .....	8
7. 就労について .....	9
8. 外出の状況について .....	9
9. 趣味の活動や地域の活動について .....	9
10. 災害時の対応について .....	10
11. 障害福祉サービスについて .....	10
12. 暮らしの場について .....	10
13. 障害者の権利について .....	11
14. 施策要望について .....	11
<b>第3章 調査結果の詳細</b> .....	13
1. 回答者について .....	15
(1) 回答者.....	15
2. 本人について .....	16
(1) 性別と年齢.....	16
(2) 居住地区.....	17
(3) 生活場所.....	18
(4) 同居者.....	19
(5) 収入源.....	19
(6) 世帯年収.....	21
3. 本人の状況について .....	22
(1) 手帳の所持状況.....	22
(2) 手帳の種類と等級.....	22
(3) 身体障害の種類.....	26
(4) 医療費の助成状況.....	27
(5) 受けている障害や疾患の診断.....	28

(6) 主な障害・疾患	29
(7) 主な障害・疾患が判明した年齢	31
(8) 介助や支援の必要性	33
(9) 介助や支援が必要な場面	35
(10) 介護保険の認定状況	38
(11) 要介護度	40
(12) 利用中（利用経験あり）の介護サービス	42
4. 保健・医療について	44
(1) 医師の診療や訪問看護の状況	44
(2) かかりつけ医の有無	46
(3) 健康・医療面での困りごと	48
5. 相談や情報入手について	51
(1) 日常生活で困っていること	51
(2) 相談相手の有無	53
(3) 相談先	55
(4) 相談する際に不便なこと	58
(5) 相談相手がない理由	61
(6) 市の生活支援に関するサービスの情報入手源	62
6. 通園・通学について	65
(1) 通園・通学状況	65
(2) 父親、母親の就労状況	66
(3) 通園・通学先	67
(4) 通園・通学する上で困っていること	68
(5) 放課後や休日のサービス利用状況	70
7. 就労について	72
(1) 就労状況	72
(2) 現在の職場への就職時期	74
(3) 就職の際に利用した機関	76
(4) 今後の就労意向	78
(5) 就労の際に心配なこと	80
(6) 必要な就労支援	83
8. 外出の状況について	86
(1) 外出頻度	86
(2) 外出の際の移動手段	88
(3) 外出時に困ること	91
(4) 外出しない理由	93
9. 趣味の活動や地域の活動について	95
(1) 趣味などの活動への参加状況	95
(2) 参加していない理由	97
(3) 参加したい活動（参加中も含む）	100

10. 災害時の対応について	103
(1) 災害時要援護者支援対策事業への登録状況	103
(2) 登録していない理由	105
(3) 自宅での災害への備え	108
(4) 災害時の不安	109
11. サービスの利用等について	111
(1) 障害福祉サービスの利用状況	111
(2) 障害福祉サービスを利用する際の不便	113
(3) 障害者虐待に該当する事項の認知	117
12. 今後のことについて	119
(1) 将来の暮らし方	119
(2) 暮らしたい場所	121
(3) 周囲の障害理解が足りないと感じる場面	123
(4) 充実すべき障害者福祉施策	126
(5) 意見・要望（自由記述）	128
13. 介助・支援者について	136
(1) 介助・支援者の状況	136
(2) 介助・支援に費やす時間	142
(3) 介助・支援で困っていること	144
(4) 意見・要望（自由記述）	146
<b>第4章 調査票</b>	<b>151</b>



# 第 1 章 調査の概要





## 1. 調査実施の目的

この調査は、平成26年度に策定予定の武蔵野市障害者計画・第4期障害福祉計画に反映するとともに、日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料として活用するために実施した。

## 2. 調査設計

調査対象：平成25年11月1日現在武蔵野市が援護の実施機関である身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳の各手帳所持者と自立支援医療（精神通院）受給者で「つながり」、「こころのつながり」送付対象者、及び難病者福祉手当受給者全数  
※障害が重複する場合は主なもの

調査方法：郵送法（郵送配布－郵送回収） 督促1回

調査票は障害に応じてルビ付版、拡大版等で送付した。

調査期間：平成25年12月6日（金）～12月24日（火）

## 3. 回収結果

区 分	発送数	有効回収数	有効回収率
身体障害	2,879	1,637	56.9%
知的障害	823	484	58.8%
精神障害	915	426	46.6%
難病・特定疾患	1,187	725	61.1%
合計	5,804	3,272	56.4%

## 4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。



## 第2章 調査結果のまとめ



## 1. 回答者について

- 本人による回答は、精神障害、難病・特定疾患は8割台、身体障害は7割となっているが、知的障害では対象者の年齢が若いこともあり約1割と少なく、「宛名の本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入」が7割近くを占めている。以降の分析をみる場合には、上記の点に留意する必要がある。

## 2. 本人について

- 年齢は、身体障害では「75歳以上」が約5割を占め高齢層が多い。一方、知的障害では6歳から29歳の若年層、精神障害では40歳から64歳の壮年期にかけて多い。難病・特定疾患では50歳以上が多く、75歳以上も3割を占めている。

## 3. 本人の状況について

- 手帳の状況としては、身体障害では「1級」「2級」の重度が合わせて4割以上を占め、身体障害の種類は「肢体不自由」が5割、「内部」が3割台と多い。
- 知的障害では「1度」は少なく、「2度」「3度」「4度」がそれぞれ3割程度を占めている。また、知的障害では主な障害・疾患として約2割が「発達障害」をあげている。発達障害については年齢別で見たとき、18歳以下では3割台、19～29歳でも約1割が主たる障害としてあげている。
- 精神障害では「1級」は少なく、「2級」が約半数を占め、「3級」が約4割となっている。また、精神障害では主な障害・疾患として「高次脳機能障害」が1.9%あげられている。
- 普段の生活における介助や支援を必要とする割合は知的障害で8割を超え、障害区分の中で唯一「必要」が「不要」を上回っている。必要な介助の内容をみると、「家事」は調査区分にかかわらず5割以上、「外出」「市役所や事業者との手続き」「日常の買い物」などの外出を伴う行動は身体障害、知的障害、難病・特定疾患で5割を超える。また、知的障害ではこの他にも「お金の管理」や「薬・服薬の管理」も6割以上となり支援を必要とする場面が多くなっている。
- 要介護認定を受けているのは年齢層の高い身体障害と難病・特定疾患で3割から4割となっているが、知的障害と精神障害では受けていない人が8割前後を占めている。これを年齢別にみると、要介護認定を受けているのは65～74歳で27.2%、75歳以上で55.0%となっている。
- 要介護認定区分は幅広く分布し、「福祉用具購入・貸与」や「訪問介護（ホームヘルプ）」、「通所介護（デイサービス）」などの介護サービスを利用している人が多い。

## 4. 保健・医療について

- 精神障害では9割、難病・特定疾患では6割の人が医療費の助成を受けている。身体障害と知的障害では3～4割であり、受けていない人の方が多い。また、難病・特定疾患では難病者福祉手当を受給しているのが45.4%となっている。
- かかりつけ医が市内にいるのは身体障害と難病・特定疾患では半数以上となっているが、知的障害、精神障害では3割台にとどまり障害区分による違いが大きい。
- 健康管理や医療の面で困ったり不便に思うことは「特にない」という回答が多くなっているが、「通院するのが大変」はいずれの障害でも2割台となっている他、知的障害では「障害のため症状が正確に伝えられない」「近所で診療をしてくれる医療機関がない」「受診の手続きや案内など

が障害への配慮に欠けている」などの指摘も多くなっている。医療費の負担の重さをあげているのは各障害で1割台みられるが、現状では通院や診察時の具体的な問題を指摘する声の方が多くなっている。

## 5. 相談・情報入手について

- 日常生活において、何か困っていることが「ある」は、知的障害と精神障害では半数を超えている。
- 相談相手が「いる」はいずれの障害も6割以上を示し、相談先は精神障害と難病・特定疾患では「医療機関」が5割前後、知的障害では「施設や就労支援事業所」や「学校の先生」が多くなっている。また、知的障害では「びーと」(15.3%)、精神障害では「ライフサポートMEW」(23.5%)といった支援機関の利用も比較的多くなっている。
- 相談の際の不便なこととして、知的障害と精神障害では「相談先が限られている」、「実際の支援につながらない」、「相談先の知識不足や対応に不満」などの不満が多くなっている。
- 相談先がない理由では、精神障害と難病・特定疾患では「相談先が分からない」が4割に達している。また、精神障害では「他人に相談するのが不安」も4割以上と多くなっている。これを年齢別に見た場合、「相談先が分からない」は19～29歳と50～64歳で5割前後と多く、障害や年齢層を考慮した相談先の周知方法を検討する必要があるといえる。
- サービスや福祉関連情報の入手については、市役所や市報が多く利用されており、市民の情報源としてより一層頼れる存在となっていく必要がある。一方で、難病・特定疾患では他の調査区分と比べて少なくなっており、難病・特定疾患の対象者に対して市役所や市報の役割を届けていく必要がある。
- 障害者福祉課の広報誌（「つながり」「こころのつながり」）は対象となっている身体障害と知的障害からの利用は多くなっており、情報源としての評価が得られている。その一方、精神障害や難病・特定疾患での利用は少なく、広報誌の種類、発行対象拡充も検討課題の一つである。

## 6. 通園・通学について

- 18歳以下の対象では通園・通学している人が95.5%とほとんどを占め、通園・通学先は「小学校・中学校（特別支援学級）」が3割、「特別支援学校」が2割、「専門学校、高等専修学校、各種学校」が1割台となっている。年齢別にみると、0～5歳は「幼稚園」(52.2%)が多く、6～18歳は「小学校・中学校（特別支援学級）」(36.3%)、「特別支援学校」(25.0%)となっている。
- 通園・通学する上で困っていることでは、4人に1人が「通うのが大変」としている他、「受け入れてくれる学校の数が少ない」「障害に応じた授業のサポートが不十分」「学校以外の相談先がない」といった支援体制に関する指摘も多くなっている。
- また、18歳以下の対象の母親で就労している人は33.5%、「働いていないが、できれば働きたい」は35.1%となっており、就労を希望する母親は7割を超えていることから、保護者、特に母親のワーク・ライフ・バランスの観点からも各種支援を検討していく必要がある。
- 放課後や休日のサービスに関して、現在の利用状況よりも今後の希望が伸びているサービスとしては「日中一時支援」「障害者福祉センター（音楽療法など）」「学童クラブ」などが目立っている。

る。

- 「放課後等デイサービス」と「日中一時支援」は現状ではどちらも週1回の利用となっているが、半数程度の人は週2回以上利用したいと希望しており、利用回数の平均はどちらも約2回であった。

## 7. 就労について

- 対象者の内、19歳から49歳にかけては就労している人が多く、就労の形態としては、難病・特定疾患では会社員等、知的障害と精神障害ではパート、アルバイト等が多くなっている。また、知的障害では約4割の人が就労継続支援A型・B型や就労移行支援を利用して働いている。
- 知的障害や精神障害では診断を受けた後に現在の職場に就労した人が7～8割を占め、就労支援の必要性は高い。就労の際に利用した機関としては、知的障害は「通っていた学校」が、精神障害では「ハローワーク」が多く、「武蔵野市障害者就労支援センター『あいる』」は知的障害と精神障害で1割台となっている。一方、身体障害と難病・特定疾患では診断を受ける前から継続している人が多い。
- 現在未就労の人の就労意向をみると、19～49歳では「パート、アルバイト等」が2割台、「会社員」が1割台となっている。就労の際に心配なこととして、自分の健康状態や体力に不安を感じているのは精神障害と難病・特定疾患で7割台、身体障害でも5割台、知的障害では「疾患や障害の特性に合う仕事があるか」が5割と多くなっており、それぞれの体力や障害の状況に合わせた仕事内容の調整が必要である。また、知的障害と精神障害からは「職場の人間関係」も3～4割台あげられており、仕事探しの支援だけでなく、職場との調整、さらに仕事以外の生活全般を含めた相談支援が必要となっている。
- 知的障害からは「作業所や就労継続・移行支援などの場がたくさんあること」(31.0%)が重要との声もあり、一般企業への就労だけでなくより広く働く場所を確保していくことも課題である。

## 8. 外出の状況について

- 49歳以下の外出頻度は高く、「徒歩」や「電車」、「路線バス」といった公共交通機関がよく利用されている。また、身体障害では「タクシー」が37.1%と他の調査区分より多くなっている。
- 外出時に困ることは「特にない」という意見が半数を占めるが、身体障害では道路や駅のバリアフリーの問題、知的障害では介助者がいないという問題も1割程度指摘されている。
- 外出しない理由には「健康や体力に自信がない」が精神障害で6割、身体障害と難病・特定疾患では5割台となっており、介助者がいれば、解消が出来ることも推測される。一方、精神障害においては「外出するのが不安」「経済的余裕がない」「行くところがない」など複数の要素が絡み合っている。

## 9. 趣味の活動や地域の活動について

- 現在、趣味などの活動には3割の人が参加していると回答している。今後参加したい活動として、知的障害では「スポーツ」が44.6%と特に多く、「音楽」が30.0%、「美術」も22.5%となっている。精神障害では「パソコン講習」(24.4%)をあげるものが多い。
- 一方、参加していない理由には「参加したい活動がない」「一人では参加しにくい」「どのような

活動があるのかわからない」「参加するきっかけがない」といった理由も比較的多くあげられており、活動の種類や参加の呼びかけに工夫が必要である。

## 10. 災害時の対応について

- 市の災害時要援護者支援対策事業に登録しているのは1割未満となっている。未登録の理由としては、身体障害、精神障害、難病・特定疾患では「自分で十分避難できる」が最も多い理由となっている。一方で、知的障害、精神障害、難病・特定疾患からは「事業そのものを知らない」や「事業の仕組みや内容がわからない」「登録したいが、方法がわからない」という回答も少なくなく、周知の問題が浮き彫りになっている。なお、要援護者登録事業において課題とされている「プライバシーが守られるか心配」は知的障害と精神障害で1割台と一定程度みられるが、現状ではむしろ事業に関する周知の問題の方が大きい。
- 災害時には「できるだけ自宅で避難していきたいが水や食料が入手できるか不安がある」としているのは知的障害と精神障害で4割台と特に多くなっている。この他にも避難所での生活に不安を感じる知的障害、精神障害の人は多く、在宅での避難行動をサポートするための生活物資や災害情報の提供体制の整備が急務である。
- また、精神障害と難病・特定疾患では薬や必要な医療的ケアに不安を感じている人も4割以上となっている。これらの不安を解消するには災害予防意識の啓発と自らの備えを促すだけでなく地域の支えが不可欠であり、災害時要援護者への支援体制の充実とその周知が重要な課題となっている。

## 11. 障害福祉サービスについて

- 障害福祉サービスを「利用している」のは知的障害では6割以上だが、難病・特定疾患では「利用していない」が8割以上、身体障害と精神障害でも6割台となり、障害区分による偏りが大きい。
- 障害福祉サービスの利用の際に不便だと思うことでは、「何が利用できるのかわからない」や「サービスに関する情報が少ない」という声が少なくない。特に精神障害ではこれらの情報不足を指摘するものが3割前後に達しており、制度やサービス内容についての情報提供方法の改善とともに、必要に応じて利用を促すことも求められているといえる。
- また、サービス利用者からは利用回数や日数の制限、手続きや日程調整の煩雑さといった利用方法に関する問題が1割程度あげられており、利用支援の観点を強化していく必要もある。

## 12. 暮らしの場について

- 将来の暮らしの希望をみると「家族と一緒に暮らしたい」は難病・特定疾患と身体障害で4～5割台と多く、知的障害では「グループホーム・ケアホームで暮らしたい」が3割台、精神障害では「独立して暮らしたい」が3割台と比較的多くなっている。なお、精神障害においてはグループホーム・ケアホームの希望は3%と現状では少ない。
- また、現在の生活場所別に見てみると、グループホームやケアホームを利用している人では「グループホーム・ケアホーム」が3割以上、施設に入所中の人も「入所施設」が5割以上と多くなっており、利用者から施設への一定の評価が見て取れる。



- 生活エリアとしては「武蔵野市内」を希望する人が多数を占め、市外で暮らしたいとする人はわずかである。多くの人が武蔵野市内で将来も生活していきたいと考えていることがわかる結果であり、その希望を叶えられるよう、住まいの場の確保を引き続き充実していくことが重要である。

### 13. 障害者の権利について

- 周囲の障害者理解については、身体障害と難病・特定疾患では特に問題ないという意見が半数以上を占めているが、知的障害では他の調査区分と比べて理解されていないと感じる項目が多く、特に「電車やバス、タクシーなどで出かけるとき」「お店で食料品や日用品などの買い物をするとき」「風邪をひいたり怪我をしたりして、病院にかかるとき」「レストランなどで外食するとき」などで3割前後となっている。また、精神障害では4人に1人が「正社員やアルバイト、パートタイマーなどとして仕事をしようとするとき」をあげており、就労に際しての職場の理解不足の問題が大きくなっている。
- 障害者虐待防止法において身体的虐待、心理的虐待、経済的虐待、性的虐待、放棄・放任の事項が障害者虐待に該当することを認知していたのは4割程度であり、4人に1人は「いずれも知らない」と回答している。障害者の権利の問題は今後さらに大きく取り上げられていくであろうが、まず当事者とその周囲の人たちに向けて、法に定められた権利やその権利を守る制度を浸透させていくことが求められる。

### 14. 施策要望について

- 「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」「住宅の整備、住宅探しの支援」「地震や台風など災害時の支援体制の整備」は障害に関わらず上位にあげられており、共通した施策要望となっている。この他、身体障害と難病・特定疾患では「障害者が利用しやすい移動手段の整備」、知的障害と精神障害では「日中の居場所の確保（大人のための）」も上位にあげられている。
- また、知的障害では「住宅の整備、住宅探しの支援」が5割台と特に多く、「発達障害児・者への支援」も2割台、精神障害と難病・特定疾患からは「就労支援」が上位にあげられているなど障害による重点の違いも見られる。
- とりわけ多くの要望が集まっている相談窓口の充実、住宅整備、災害時の支援体制は生活の根幹に対する不安が読みとれる。特に「相談窓口の充実」はアンケートの全体からも情報不足や周知不足の問題として浮かび上がってきたものであり、一層の工夫や対象の拡大が必要となっている。



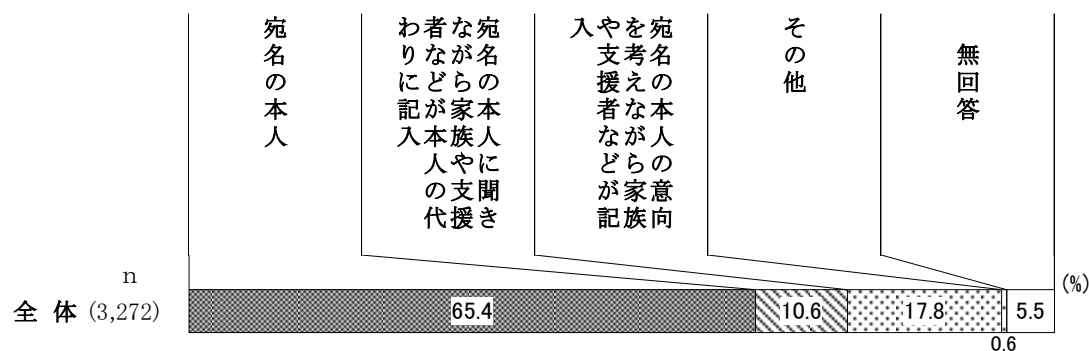
## 第3章 調査結果の詳細



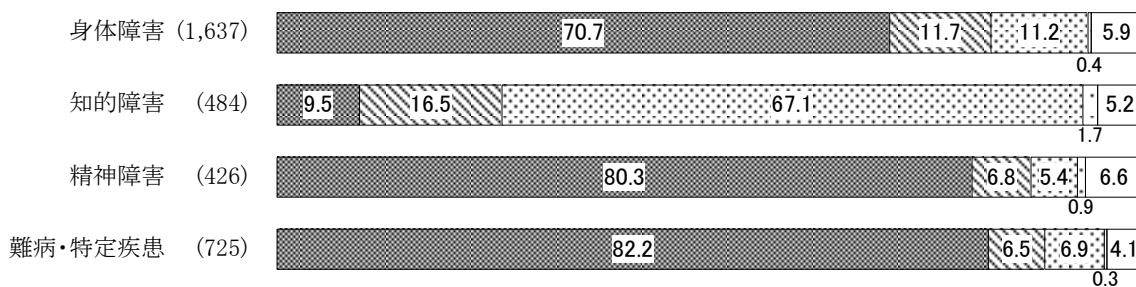
# 1. 回答者について

## (1) 回答者

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)



### 【調査区分】



調査票の記入者は、「(宛名の) 本人」が最も多く65.4%となっている。

調査区分ごとにみると、「(宛名の) 本人」は精神障害 (80.3%)、難病・特定疾患 (82.2%) が8割台、身体障害が70.7%となっているが、知的障害では9.5%と少なく、「宛名の本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入」が67.1%となっている。

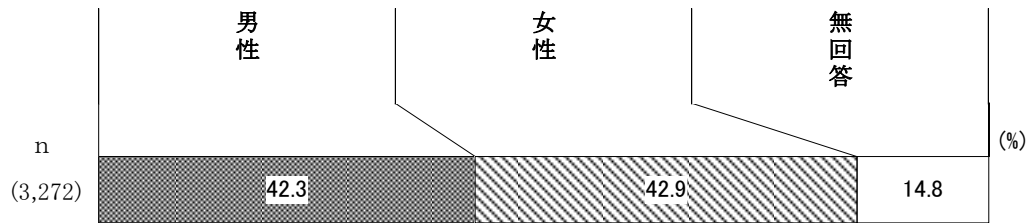
以降の分析をみる場合には、上記の点に留意する必要がある。

## 2. 本人について

### (1) 性別と年齢

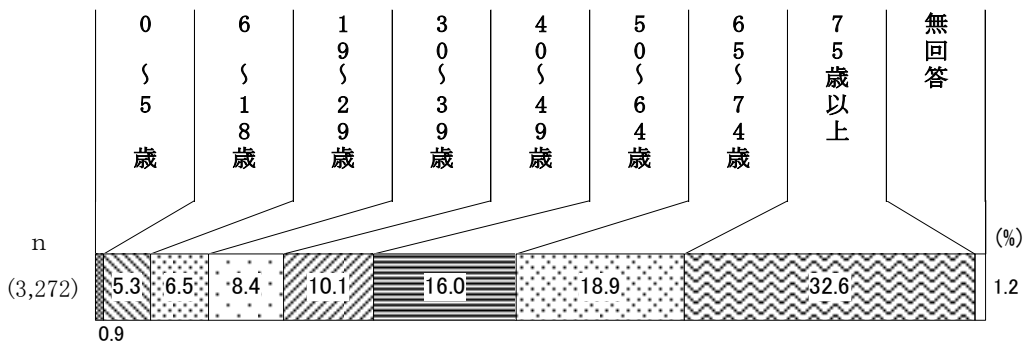
問2 あなたの性別と現在の年齢をお答えください。(1つに○)

#### (1) 性別



性別は、「男性」が42.3%、「女性」が42.9%となっている。

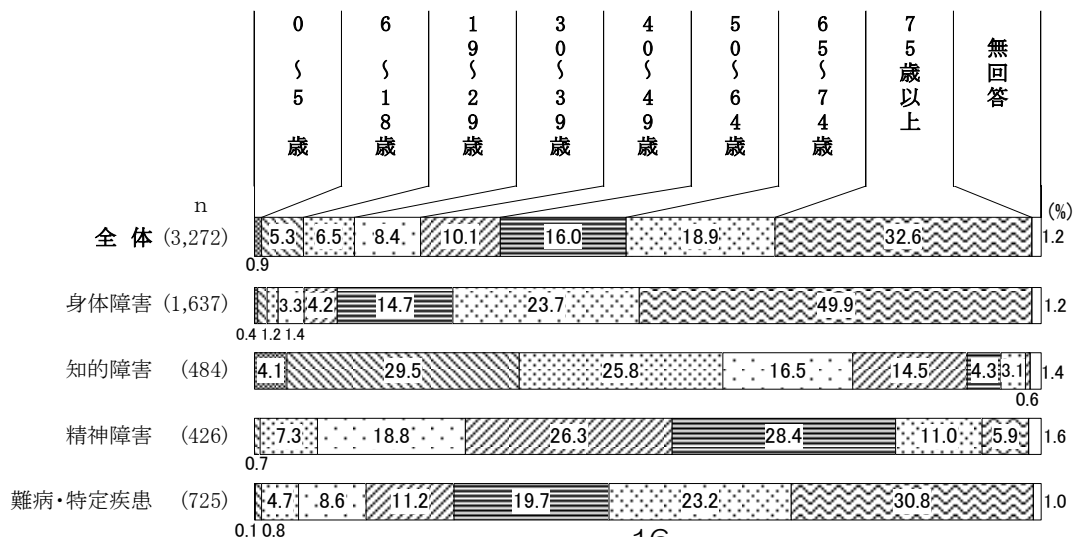
#### (2) 年齢



年齢は、「75歳以上」が32.6%で最も多く、「65～74歳」は18.9%で、65歳以上の高齢者が51.5%となっている。

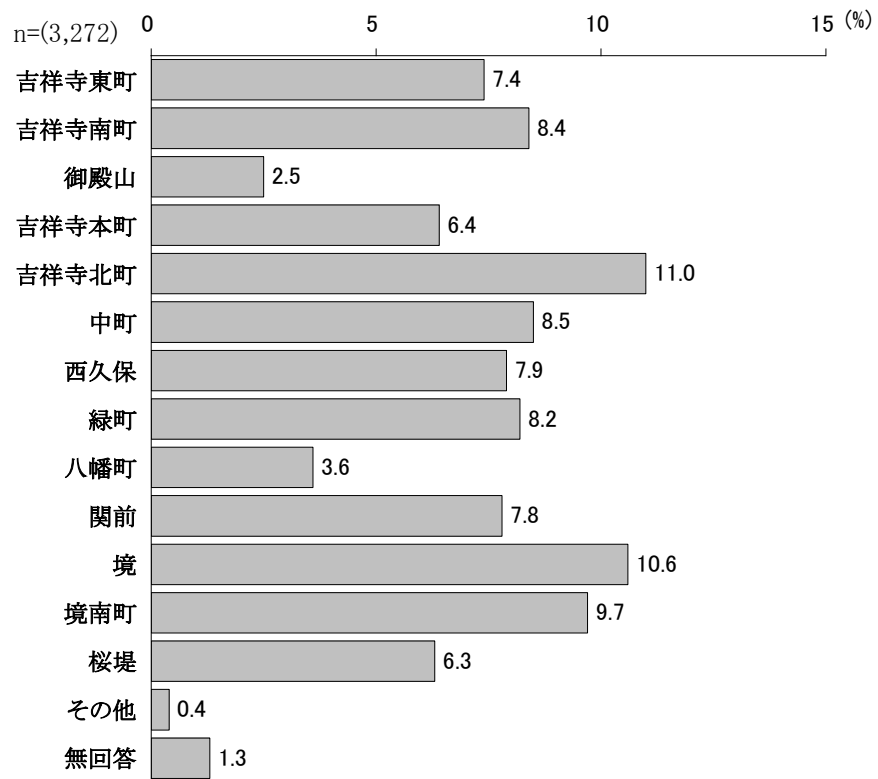
調査区分別にみると、身体障害では「75歳以上」が49.9%と2人に1人、知的障害では6歳から29歳の若年層、精神障害では40歳から64歳の年齢にかけて多くみられる。難病・特定疾患では50歳以上で多くみられ、75歳以上では30.8%となっている。

#### 調査区分別



## (2) 居住地区

問3 あなたのお住まいの地区はどこですか。(1つに○)

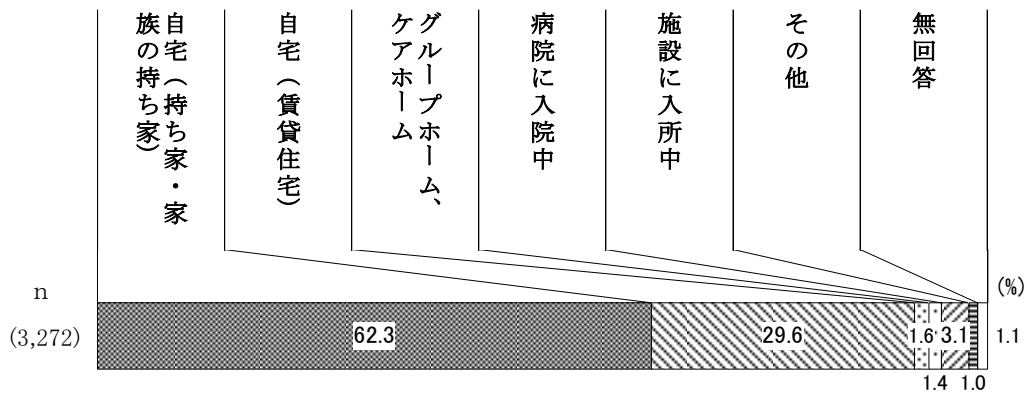


居住地区は、「吉祥寺北町」(11.0%)、「境」(10.6%)、「境南町」(9.7%)が1割前後となっている。

(3) 生活場所

問4 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

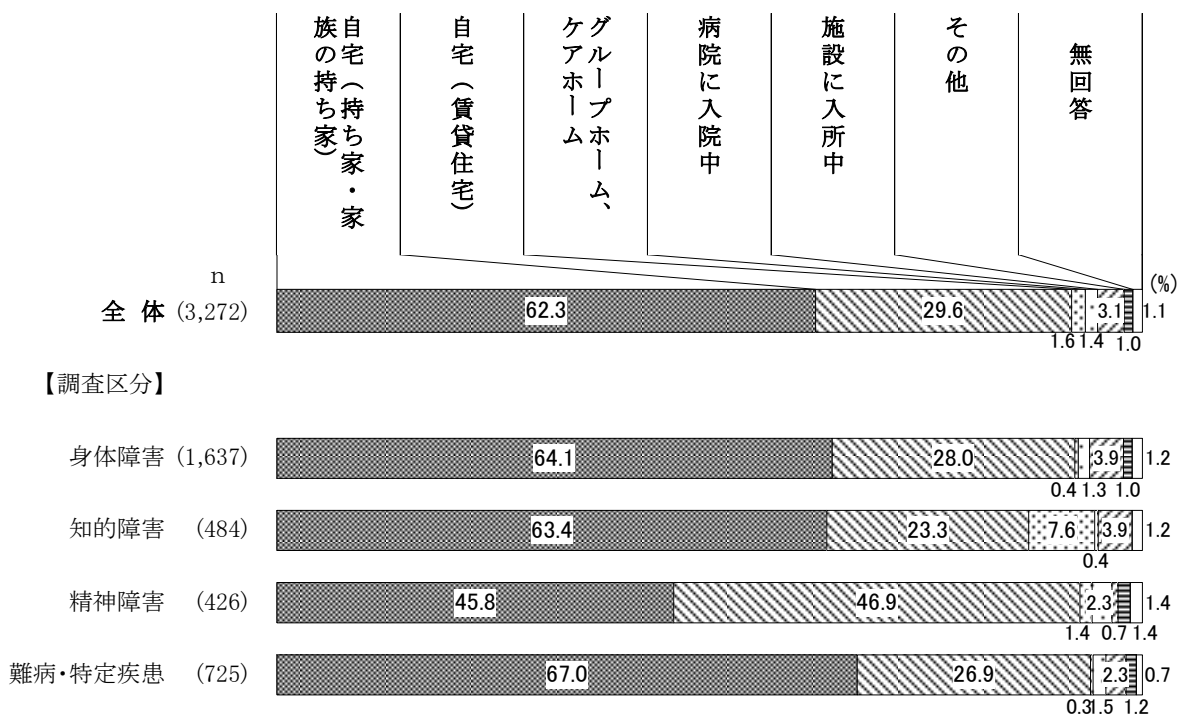
※週末だけご自宅に戻られている方などは、週のうち一番長く居る場所をお答えください。



現在の生活場所は、「自宅(持ち家・家族の持ち家)」が62.3%で最も多く、これに「自宅(賃貸住宅)」が29.6%で次いでいる。

調査区別にみると、「自宅(持ち家・家族の持ち家)」は身体障害、知的障害、難病・特定疾患で6割台となっている。精神障害では「自宅(持ち家・家族の持ち家)」(45.8%)と「自宅(賃貸住宅)」(46.9%)が二分している。

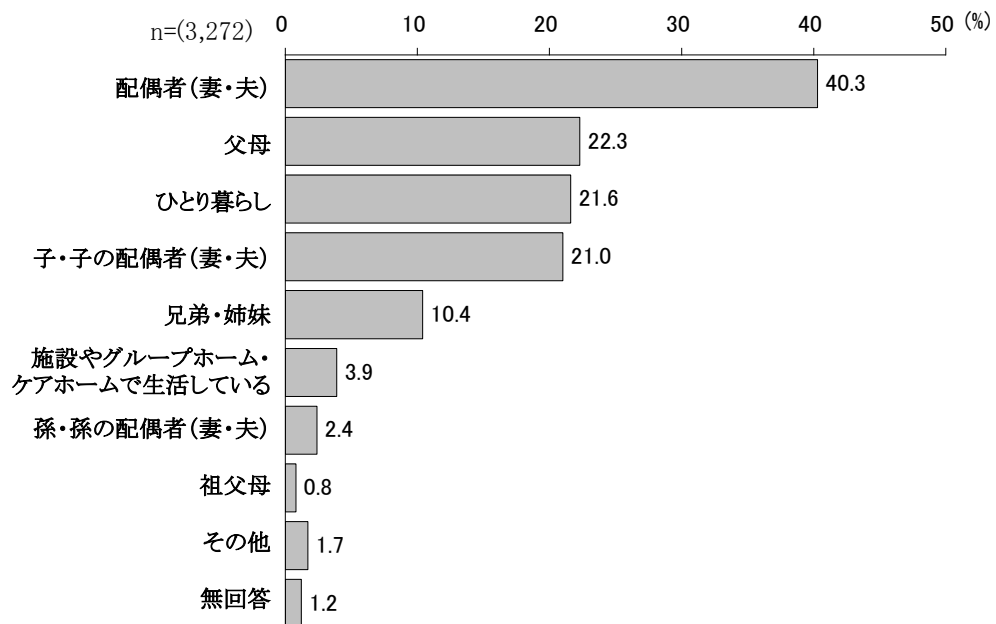
調査区分別





(4) 同居者

問5 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)

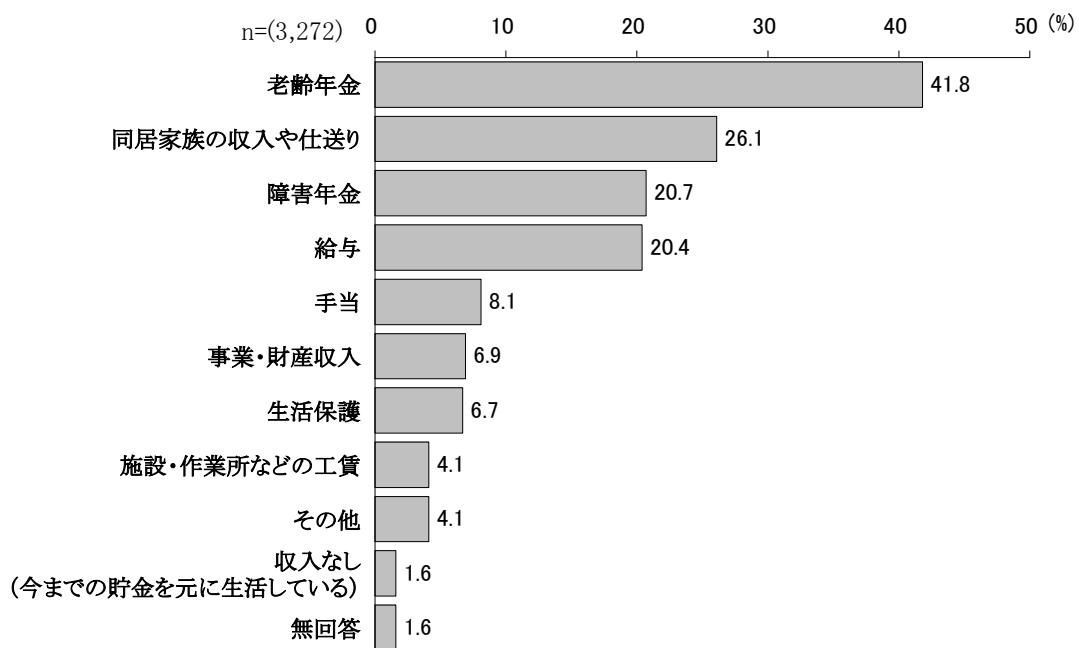


同居者は、「配偶者(妻・夫)」が40.3%で最も多く、以下、「父母」(22.3%)、「ひとり暮らし」(21.6%)、「子・子の配偶者(妻・夫)」(21.0%)と続いている。

(5) 収入源

問6 あなたが生活するためのお金(収入源)は、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

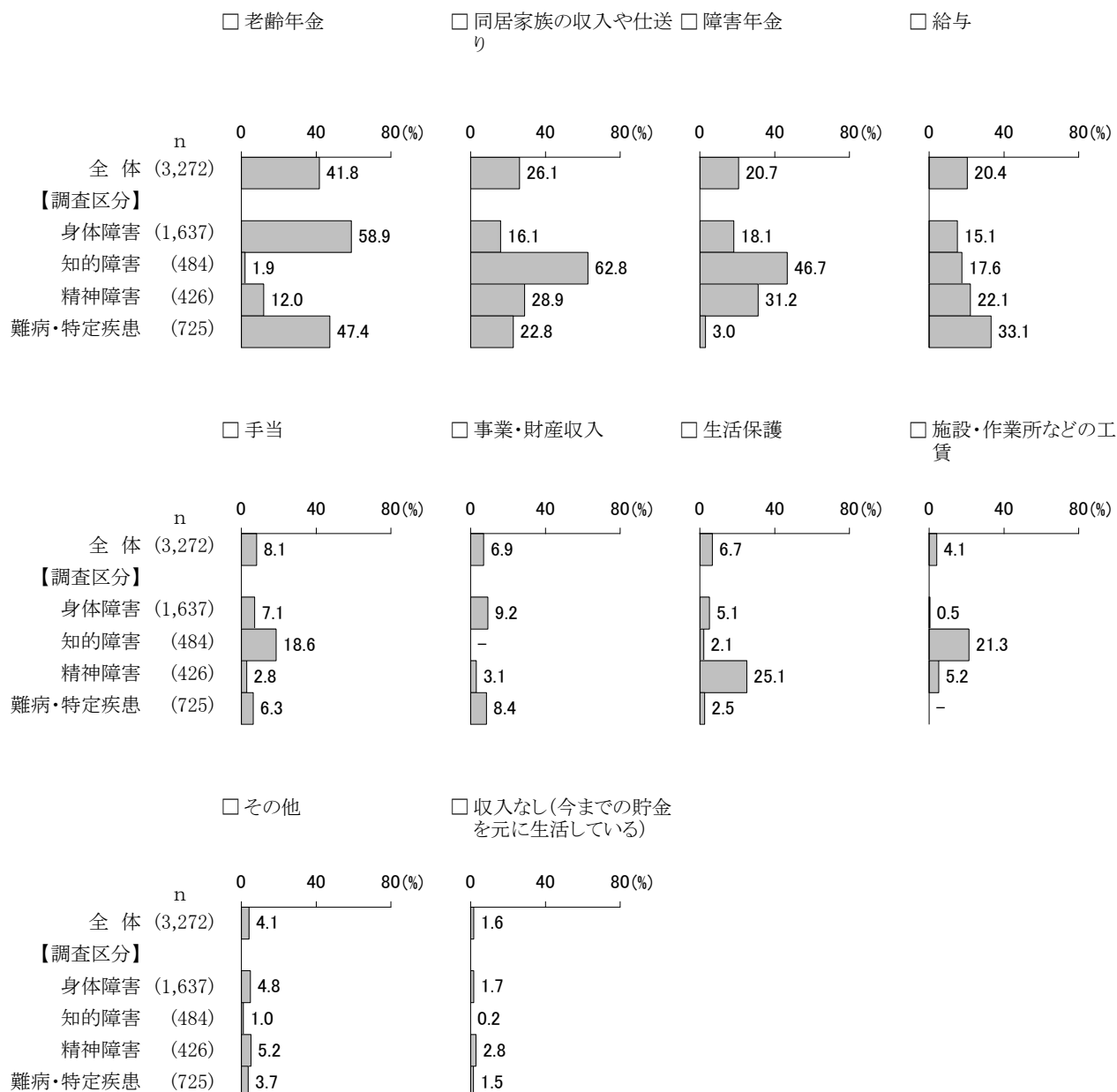


収入源は、「老齢年金」が41.8%で最も多く、以下、「同居家族の収入や仕送り」(26.1%)、「障害年

金」(20.7%)、「給与」(20.4%)が2割台となっている。

調査区別にみると、「老齢年金」は身体障害が58.9%、難病・特定疾患でも47.4%となっている。知的障害では、「同居家族の収入や仕送り」(62.8%)、「障害年金」(46.7%)が多くなっているが、「手当」や「施設・作業所などの工賃」も2割前後みられる。精神障害では、「同居家族の収入や仕送り」と「障害年金」が3割前後、「生活保護」も25.1%となっている。この他、難病・特定疾患では「給与」が33.1%と他の調査区分より多くなっている。

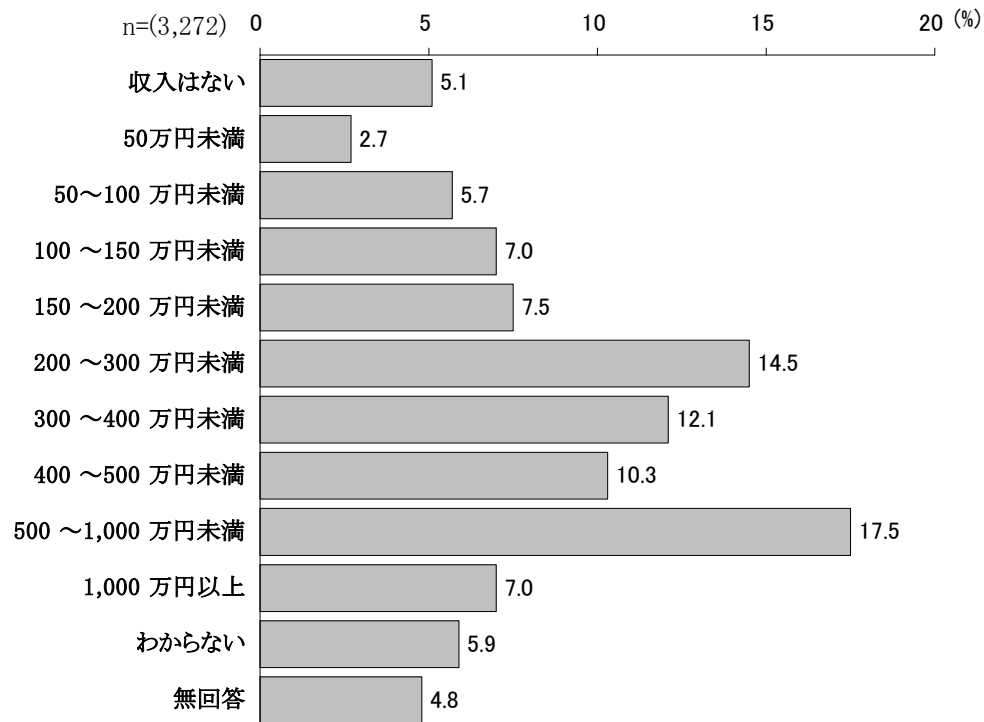
### 調査区別別



## (6) 世帯年収

問7 あなたの世帯全体の平成24年中の収入額はどのくらいでしたか。(1つに○)

※収入には福祉手当や年金を含め、世帯で同居されている方全体の収入(税金を引かれる前の金額)でお答えください。

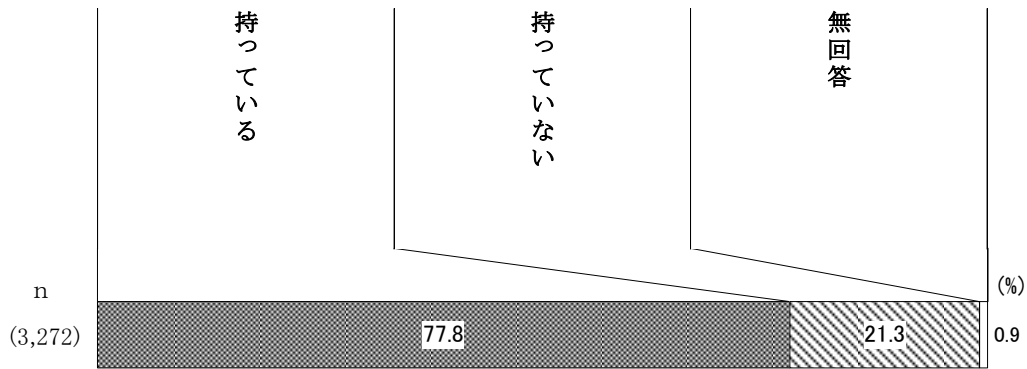


平成24年度中の世帯収入額は、「500~1,000万円未満」(17.5%)と「200~300万円未満」(14.5%)が多くなっている。以下、「300~400万円未満」(12.1%)、「400~500万円未満」(10.3%)と続いている。

### 3. 本人の状況について

#### (1) 手帳の所持状況

問8 あなたは、障害者手帳や愛の手帳をお持ちですか。(1つに○)



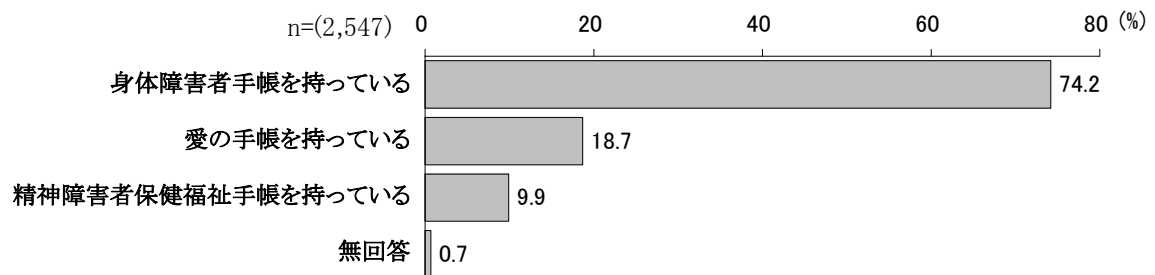
障害者手帳や愛の手帳を「持っている」は77.8%、「持っていない」は21.3%となっている。

#### (2) 手帳の種類と等級

【問8で「持っている」と回答した方に】

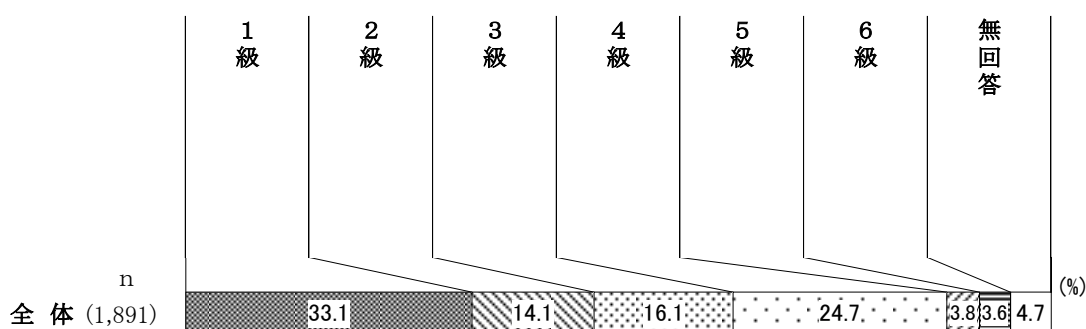
問9 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまるものすべてに○をつけて記入)

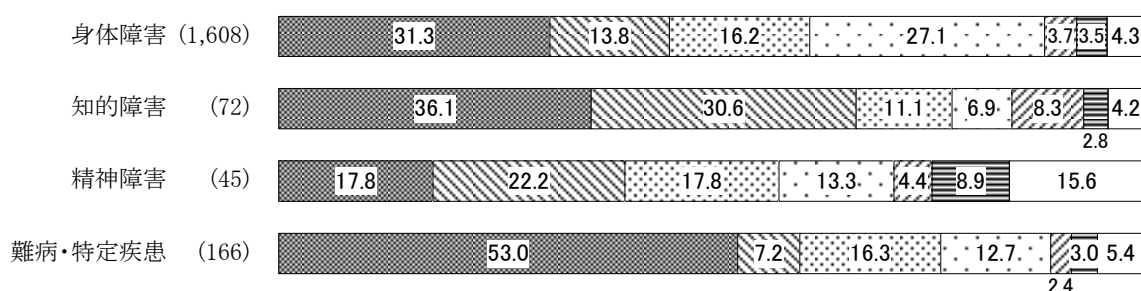


「身体障害者手帳を持っている」は74.2%、「愛の手帳を持っている」は18.7%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」は9.9%となっている。

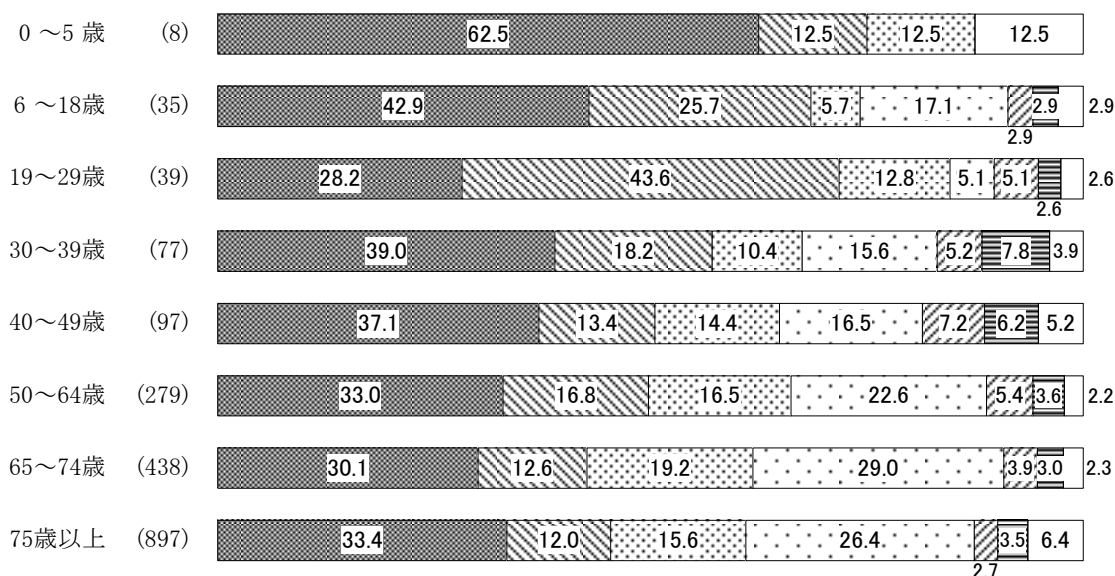
①身体障害者手帳等級



【調査区分】



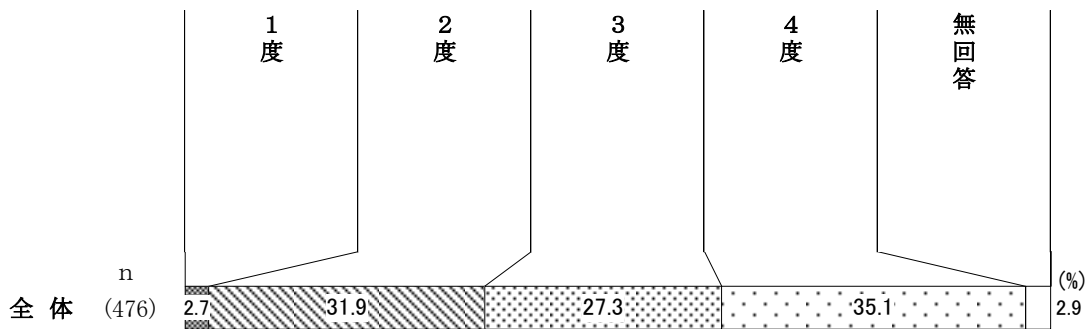
【年齢】



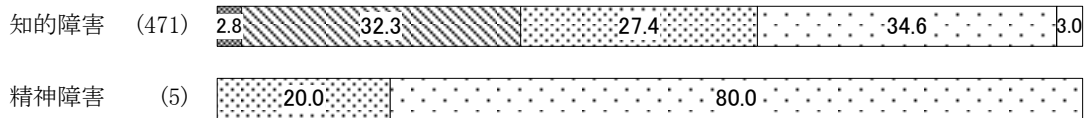
身体障害者手帳等級を調査区分別にみると、身体障害では「1級」が31.3%、「2級」が13.8%で重度が45.1%を占める。また、「3級」が16.2%と中度までが大半を占めている。知的障害では「1級」(36.1%)と「2級」(30.6%)がともに3割台、精神障害では「2級」が22.2%、難病・特定疾患では「1級」(53.0%)が半数以上となっている。

年齢別にみると、29歳以下までは重度が7割以上を占める。30歳以上は「4級」が増え、重度の占める割合は低下している。

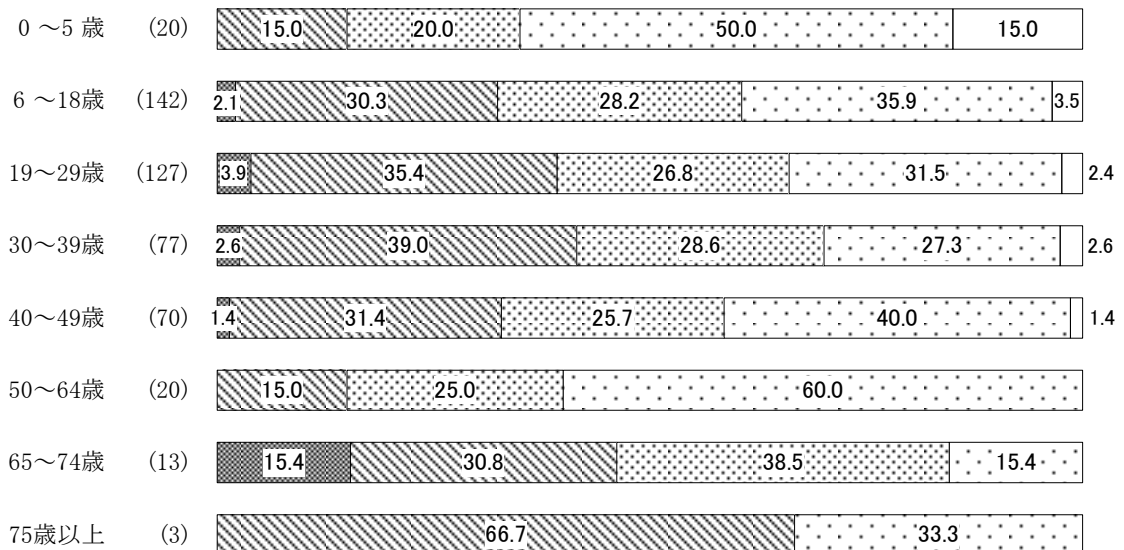
②愛の手帳等級



【調査区分】



【年齢】

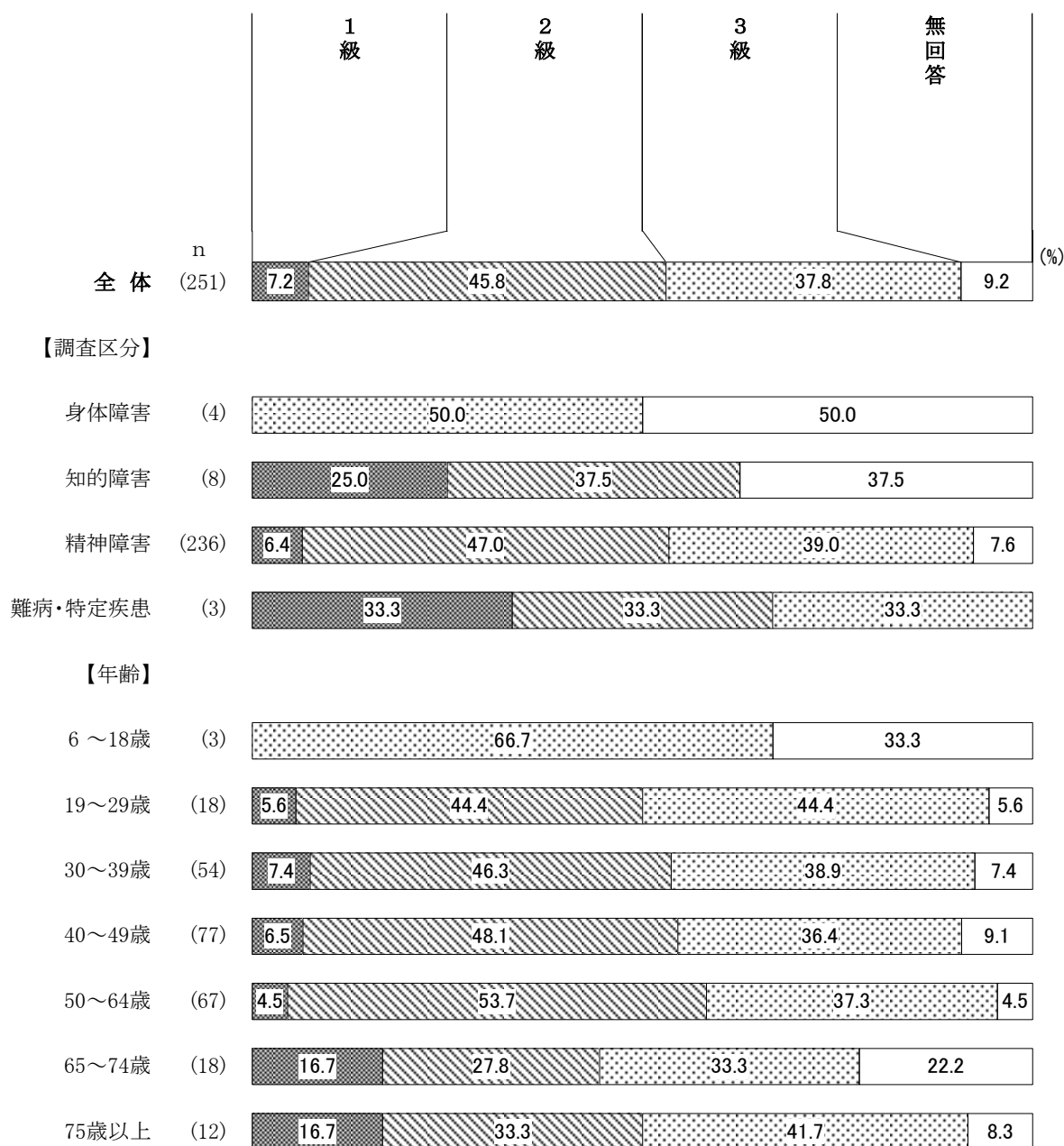


※身体障害、難病・特定疾患は回答者なし

愛の手帳等級を調査区分別にみると、知的障害で「2度」が32.3%、「3度」が27.4%、「4度」が34.6%となっている。

年齢別にみると、6歳から49歳の年齢にかけて「2度」(重度)は3割台となっている。

③精神障害者保健福祉手帳等級



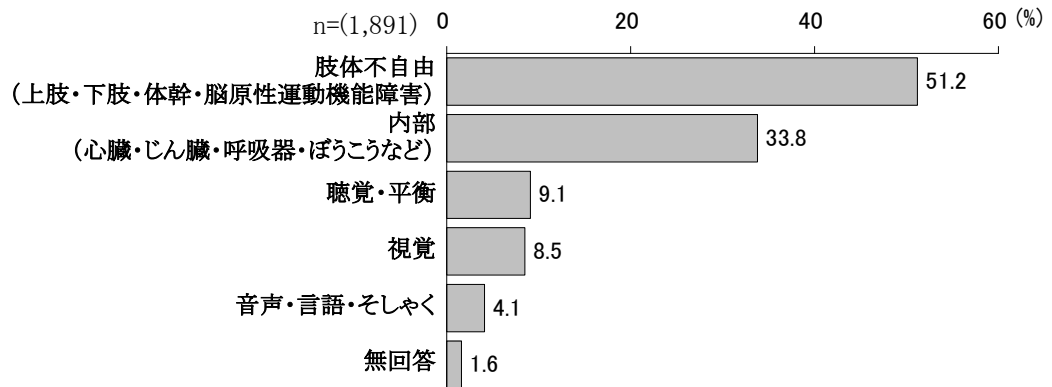
精神障害者保健福祉手帳等級を調査区分別にみると、精神障害で「2級」が47.0%を占め、「3級」が39.0%となっている。

年齢別にみると、19歳から64歳の年齢にかけて、「2級」と「3級」が多くを占めている。

(3) 身体障害の種類

【問8で「持っている」と回答した方に】

問9-1 障害の種類はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

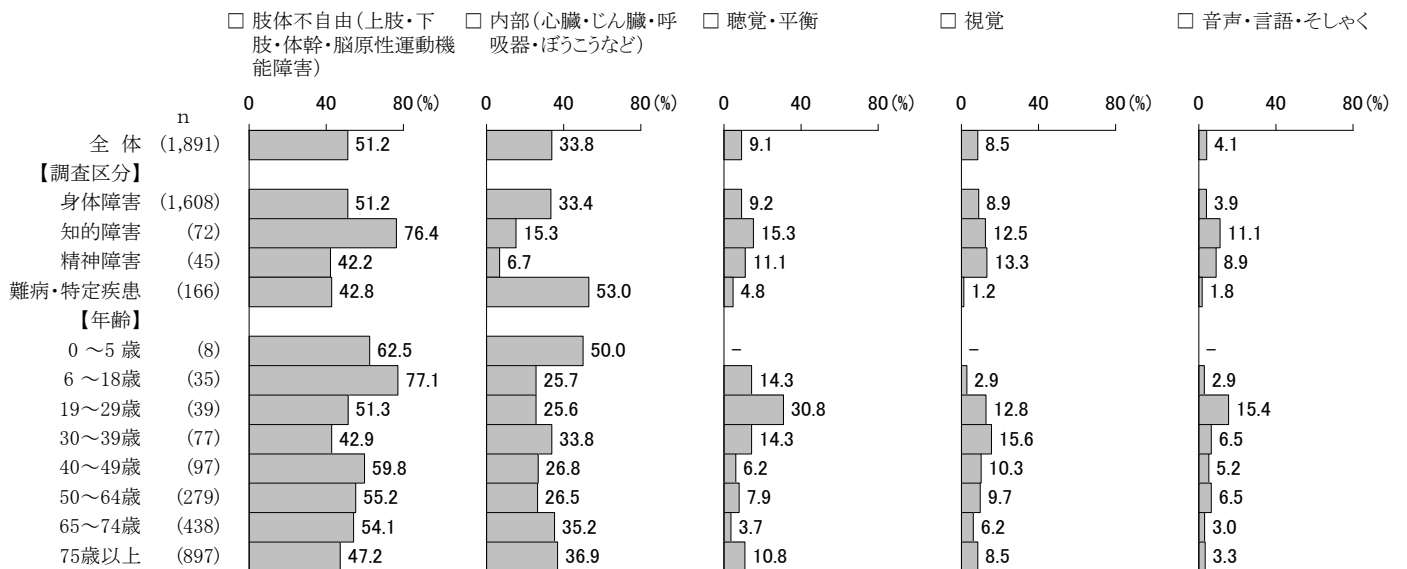


身体障害の種類は、「肢体不自由」が51.2%で最も多く、これに「内部」が33.8%で次いでいる。

調査区分別にみると、知的障害では「肢体不自由」が76.4%、難病・特定疾患では「内部」が53.0%となっている。

年齢別にみると、「肢体不自由」は40歳以降減少し、「内部」がやや増加している。

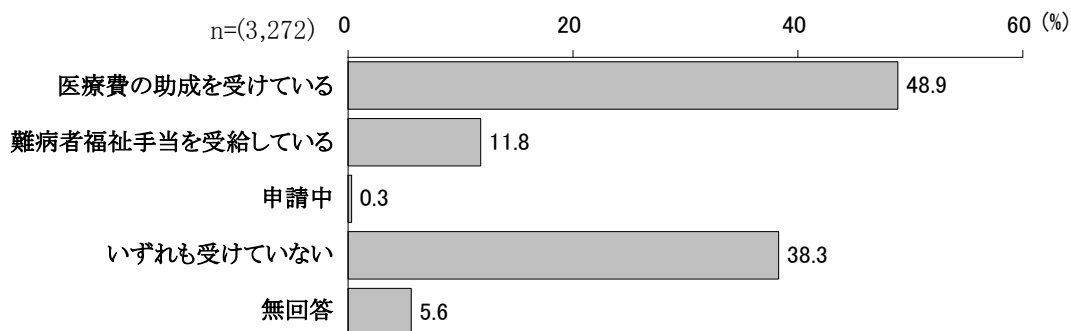
調査区分別、年齢別





(4) 医療費の助成状況

問10 あなたは、以下の医療費の助成などを受けていますか。(あてはまるものすべてに○)  
 ※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、マル都（難病、人工透析、肝炎など）、  
 小児慢性疾患医療費助成制度）が含まれます。

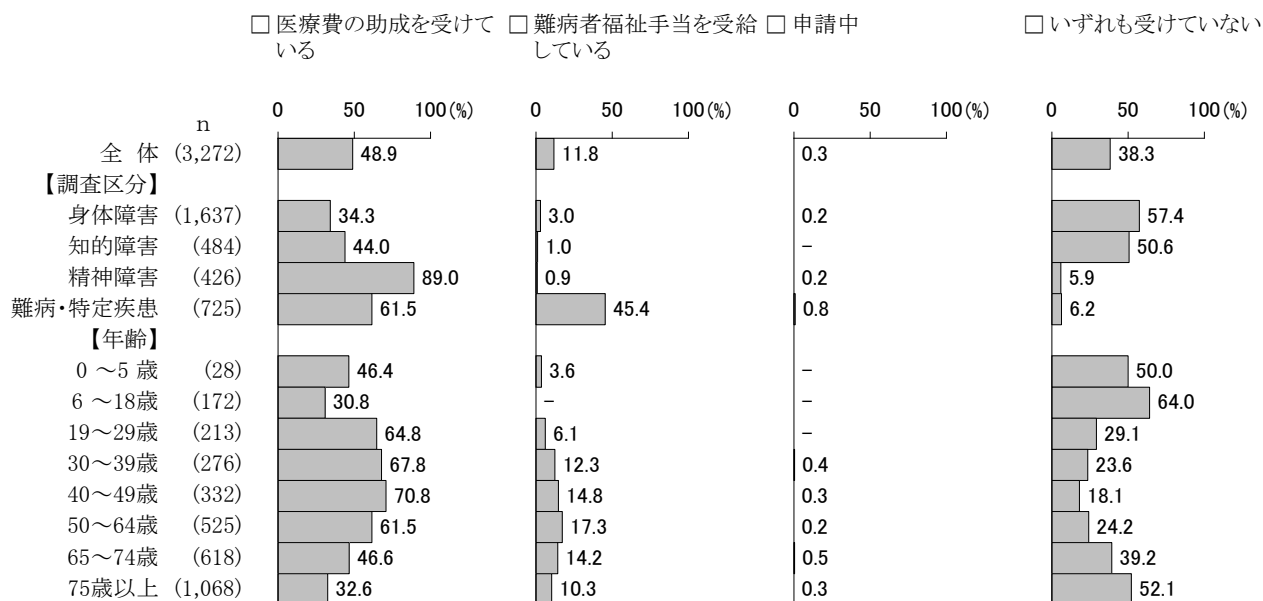


医療費の助成状況は、「医療費の助成を受けている」が48.9%と半数近くを占め、「難病者福祉手当を受給している」が11.8%となっている。また、「いずれも受けていない」は38.3%となっている。

調査区分別にみると、「医療費の助成を受けている」は精神障害が89.0%、難病・特定疾患でも61.5%となっている。「難病者福祉手当を受給している」は難病・特定疾患が45.4%となっている。「いずれも受けていない」は身体障害と知的障害で5割台となっている。

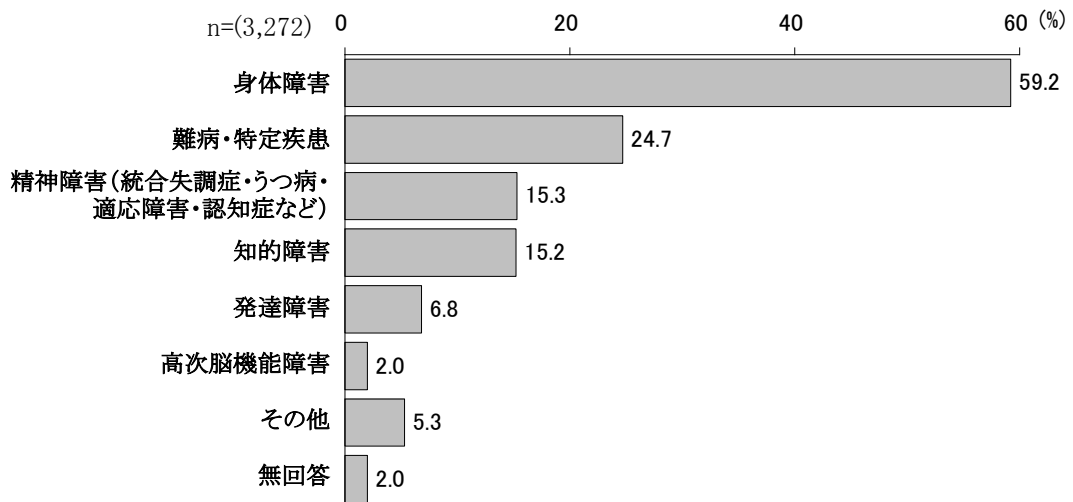
年齢別にみると、「医療費の助成を受けている」は19～64歳の年齢にかけて6割から7割台と多くなっている。「いずれも受けていない」は、6～18歳で64.0%、5歳以下と75歳以上でもそれぞれ5割以上となっている。

調査区分別、年齢別



(5) 受けている障害や疾患の診断

問11 現在、以下の障害や疾患の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

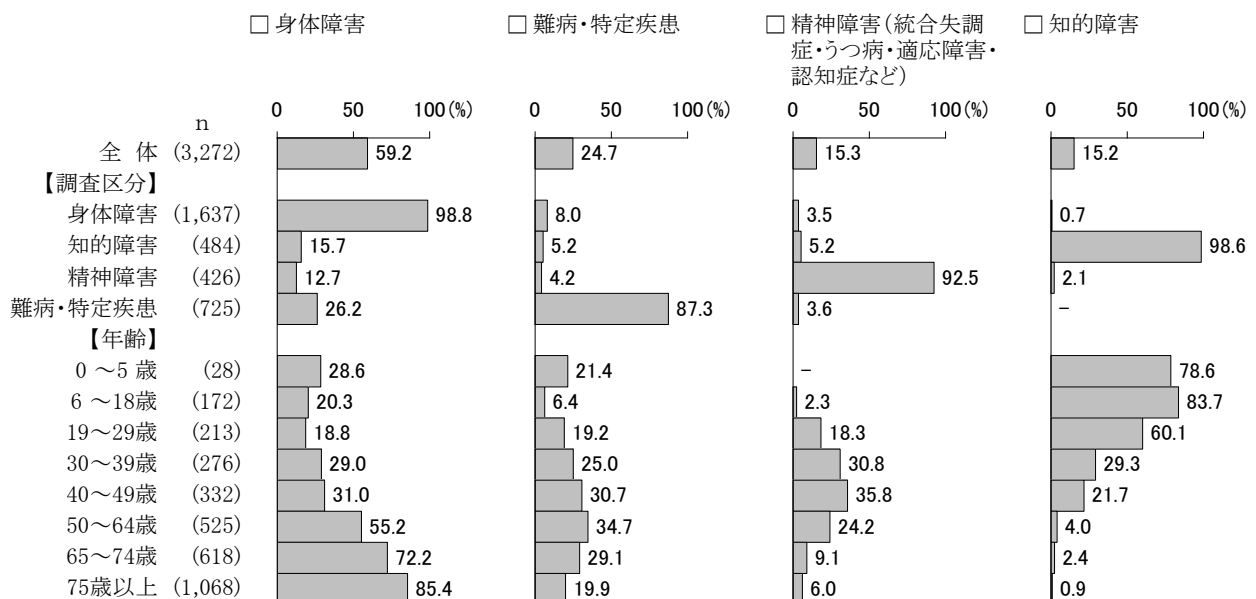


現在、障害や疾患の診断を受けているか聞いたところ、「身体障害」が59.2%で特に多く、以下、「難病・特定疾患」(24.7%)、「精神障害」(15.3%)、「知的障害」(15.2%)と続いている。

調査区分別にみると、障害や疾患の調査区分に該当するそれぞれの項目で8割から9割と特に多くなっているが、難病・特定疾患では「身体障害」が26.2%と比較的多くなっている。

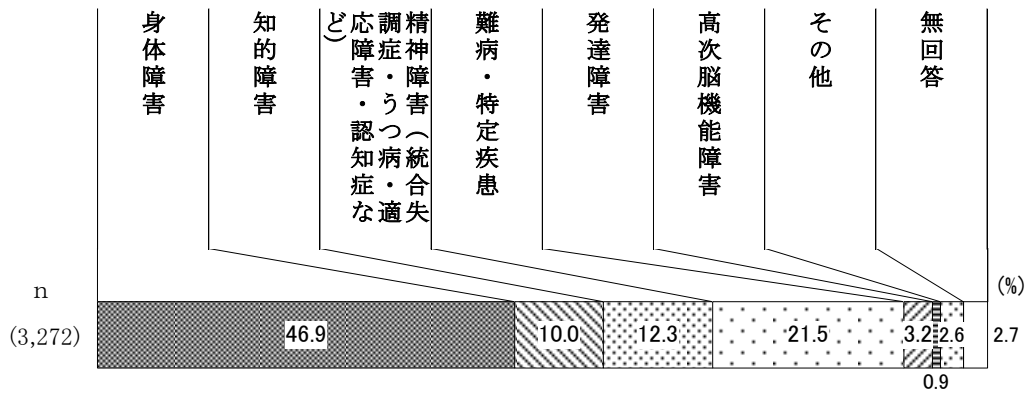
年齢別にみると、「身体障害」は50歳以上で5割を超え、75歳以上で85.4%に達している。「知的障害」は18歳以下、「精神障害」は30～49歳を中心に多く、「難病・特定疾患」は30歳から74歳と広い範囲で見られる。

調査区分別、年齢別 (上位4項目)



(6) 主な障害・疾患

問12 その中で、主な障害・疾患は何ですか。(1つに○)

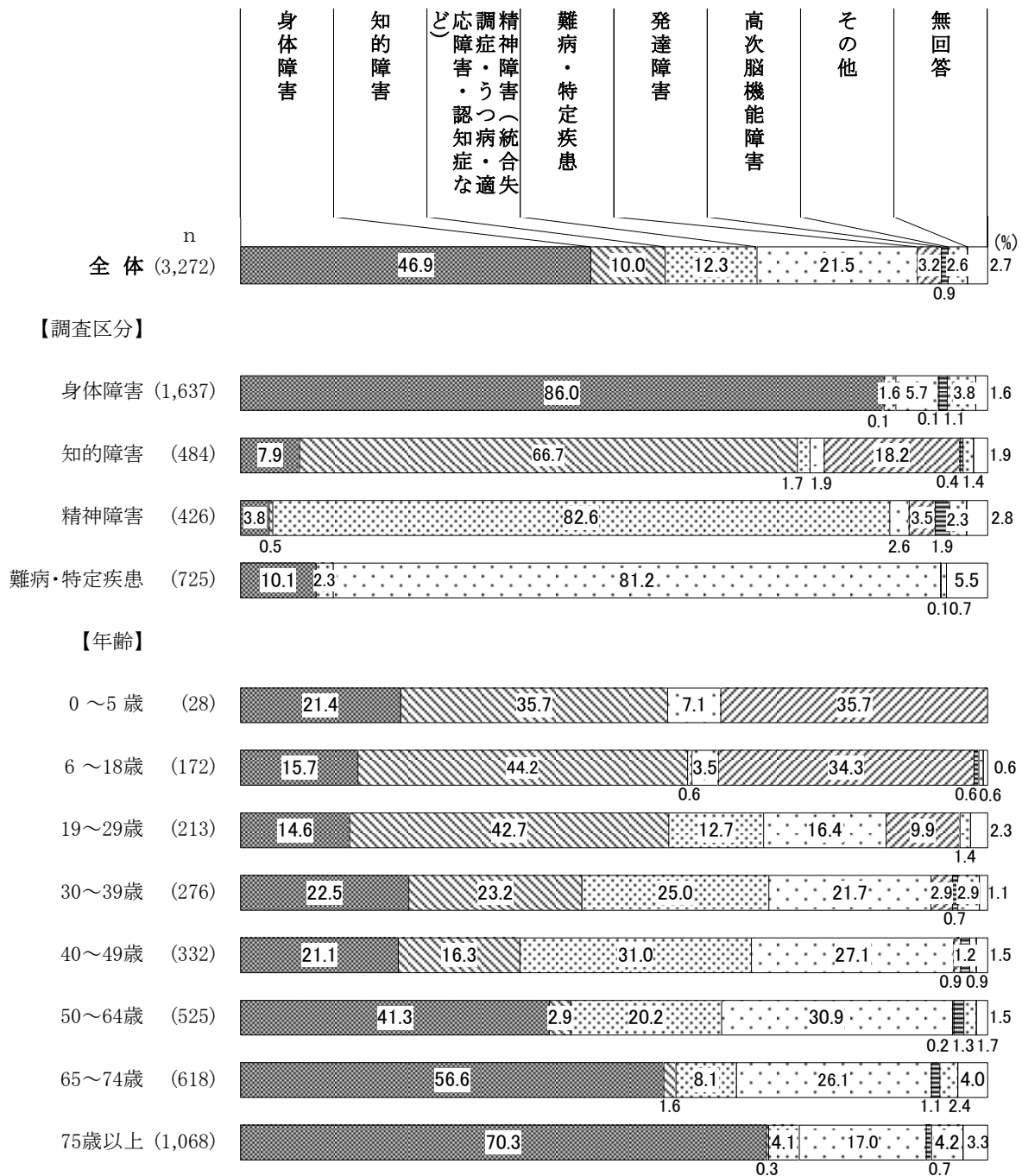


障害・疾患のうち、主なものを選んでもらったところ、「身体障害」が46.9%で最も多く、以下、「難病・特定疾患」(21.5%)、「精神障害」(12.3%)、「知的障害」(10.0%)と続いている。「発達障害」は3.2%、「高次脳機能障害」は0.9%みられる。

調査区別にみると、前問と同様に調査区分に該当するそれぞれの項目で特に多くなっている。また、知的障害では「発達障害」が18.2%と比較的多く、精神障害では「高次脳機能障害」が1.9%みられる。

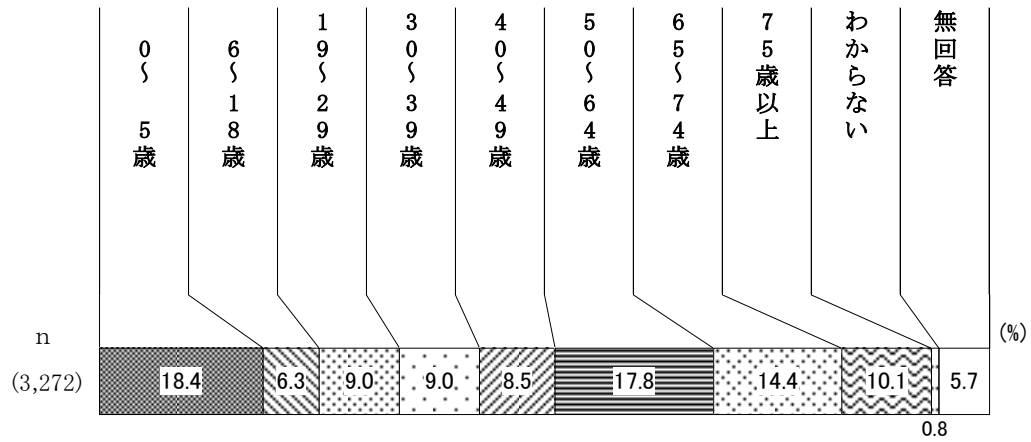
年齢別にみると、18歳以下で「発達障害」は3割台、19～29歳でも9.9%となっている。

調査区分別、年齢別



(7) 主な障害・疾患が判明した年齢

問13 主な障害・疾患がわかったのは何歳ごろでしたか。(1つに〇)

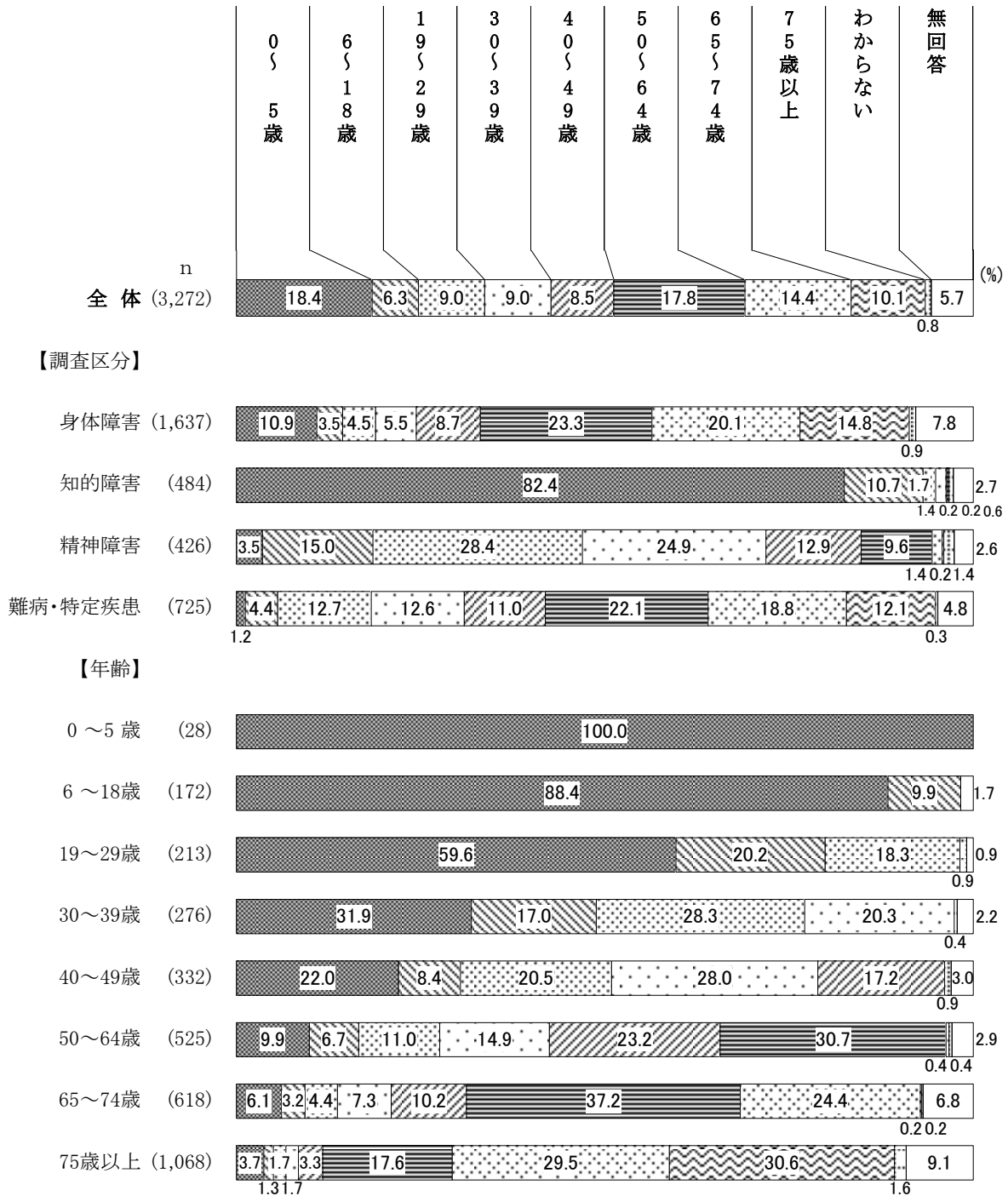


主な障害・疾患がわかった年齢は幅広く分布しているが、うち「0～5歳」が18.4%、「50～64歳」が17.8%と比較的多くなっている。

調査区分別にみると、身体障害と難病・特定疾患では「50～64歳」と「65～74歳」で2割前後、精神障害では「19～29歳」(28.4%)、「30～39歳」(24.9%)で2割台と多くなっている。知的障害では「0～5歳」が82.4%と特に多くなっている。

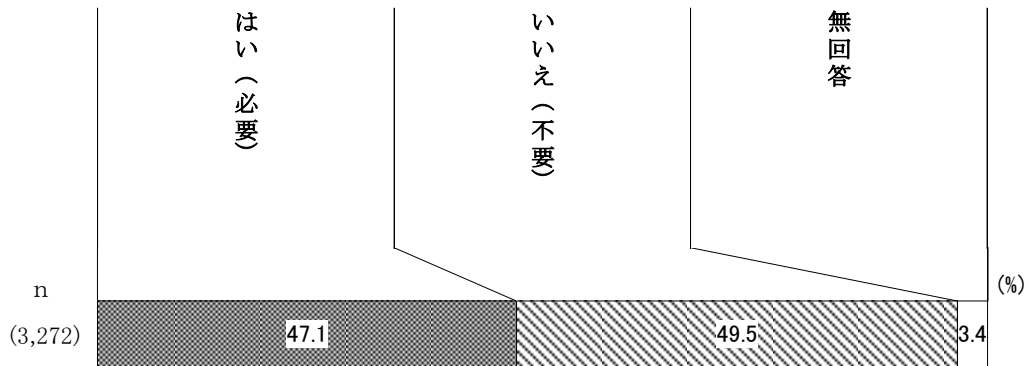
年齢別にみると、19～29歳までは「0～5歳」が多くなっている。

調査区分別、年齢別



(8) 介助や支援の必要性

問14 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)

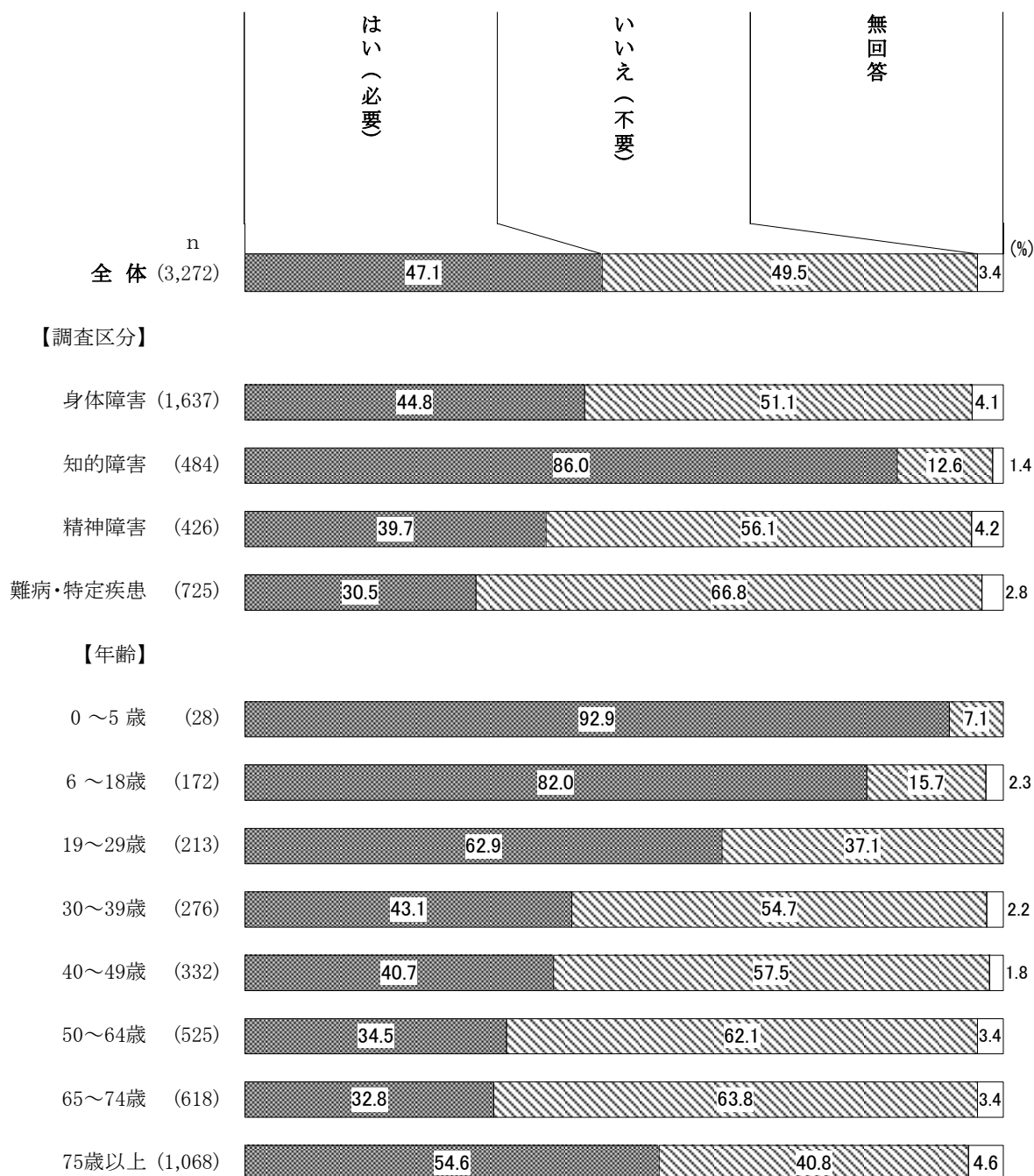


普段の生活の中で、何らかの介助や支援が「必要 (はい)」は47.1%、「不要 (いいえ)」は49.5%となっている。

調査区分別にみると、「はい（必要）」は知的障害で86.0%を占めており、唯一「いいえ（不要）」を上回っている。

年齢別にみると、「はい（必要）」は未成年を中心に29歳までで多い。30歳以上の年齢からは半数を下回るが、75歳以上になると再び54.6%と半数以上へと上昇している。

調査区分別、年齢別

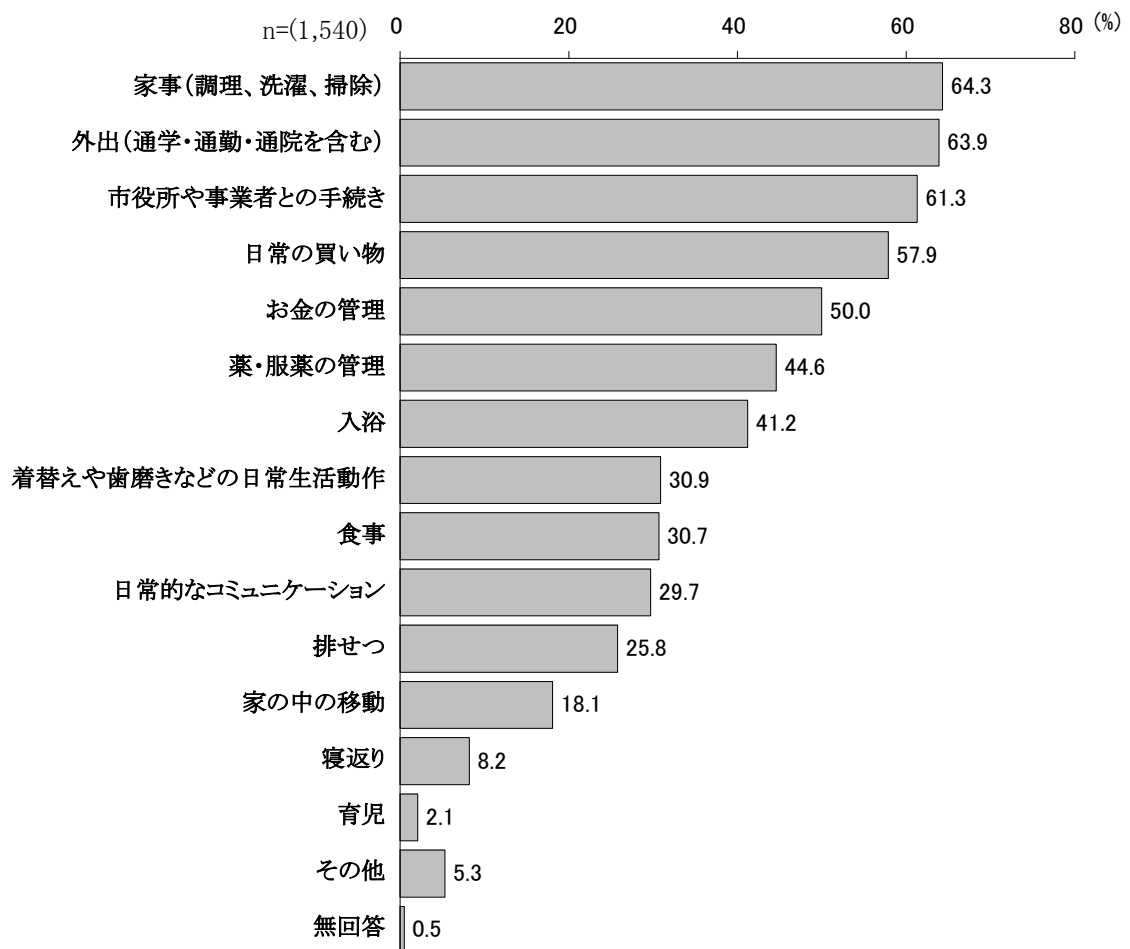




## (9) 介助や支援が必要な場面

【問14で「はい（必要）」と回答した方にお聞きます。】

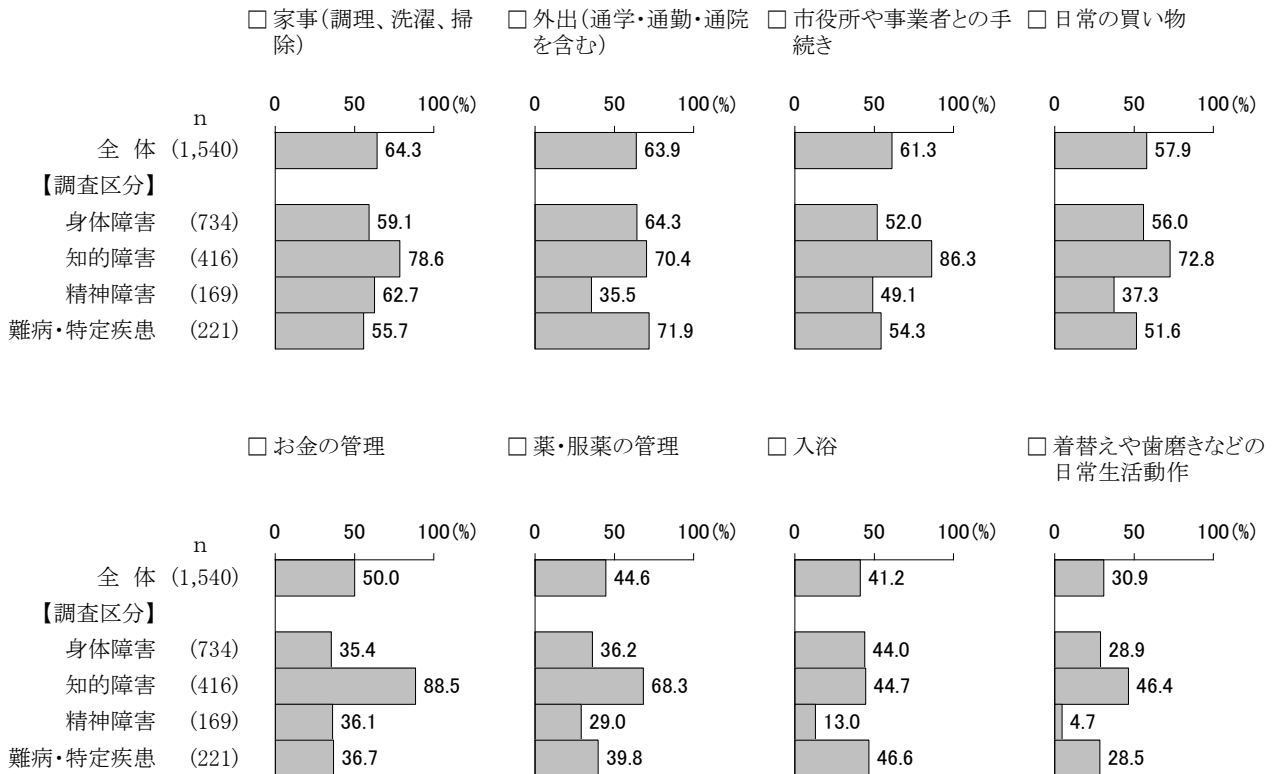
問14-1 どのような場面で介助や支援が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）



介助や支援が必要になる場面は、「家事」が64.3%で最も多いが、「外出」(63.9%)、「市役所や事業者との手続き」(61.3%)も6割台が続いている。以下、「日常の買い物」(57.9%)、「お金の管理」(50.0%)が5割台、「薬・服薬の管理」(44.6%)、「入浴」(41.2%)が4割台、「着替えや歯磨きなどの日常生活動作」(30.9%)、「食事」(30.7%)が3割台が続いている。

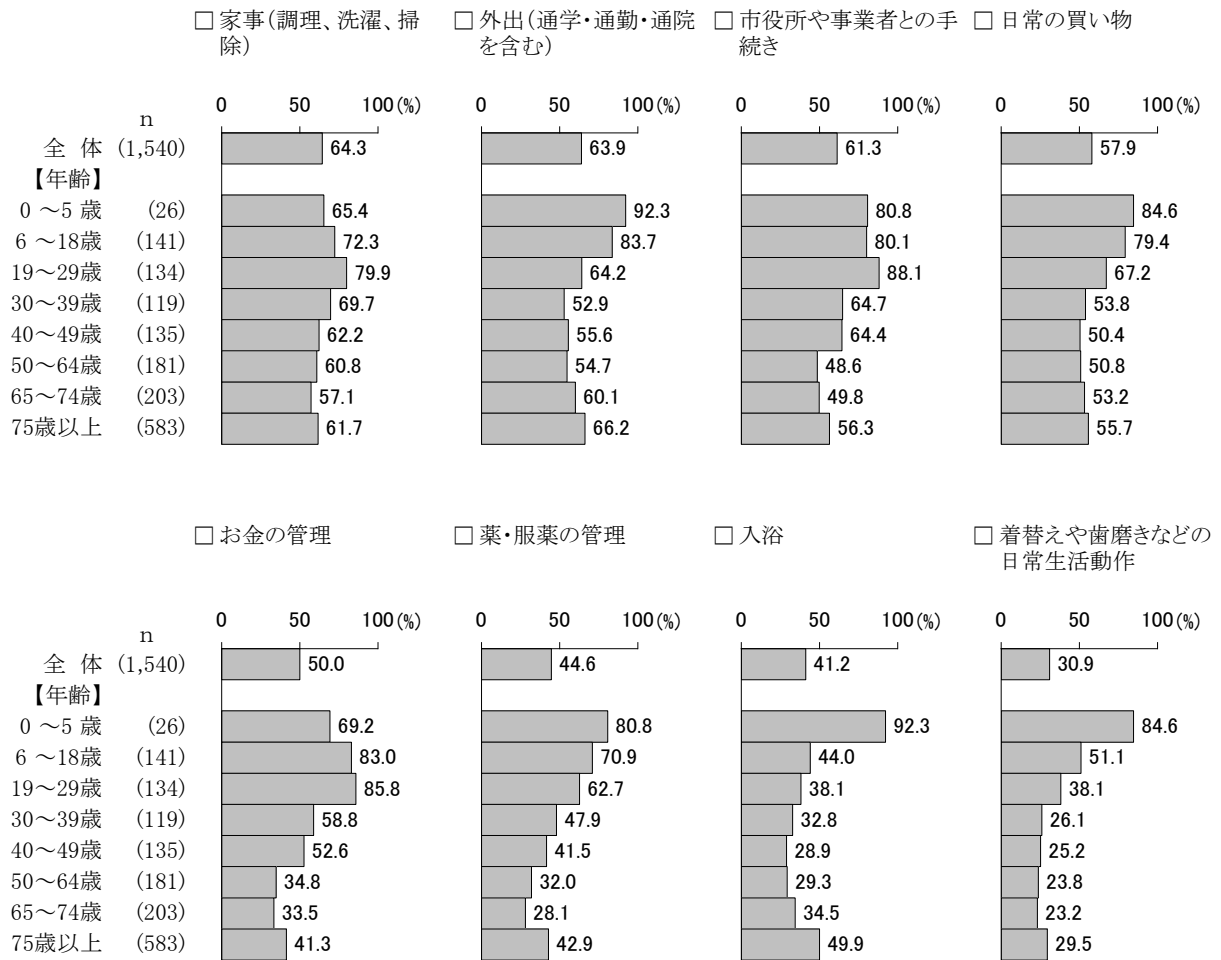
調査区分別にみると、「家事」はいずれの調査区分でも5割以上となっている。「外出」、「市役所や事業者との手続き」、「日常の買い物」の外出を伴う行動は身体障害、知的障害、難病・特定疾患で5割を超える。知的障害ではこの他、「お金の管理」、「薬・服薬の管理」も6割以上となっている。

調査区分別（上位8項目）



年齢別にみると、上位8項目は、29歳までの年齢で多くみられる傾向がある。

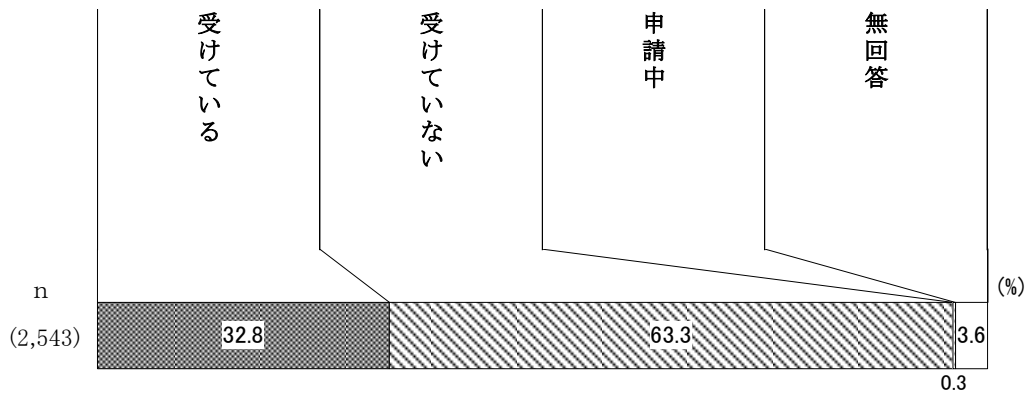
年齢別（上位8項目）



(10) 介護保険の認定状況

【(問15～問15-2は) 40歳以上の方にお聞きします。(40歳未満の方は問16へ)】

問15 現在、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)

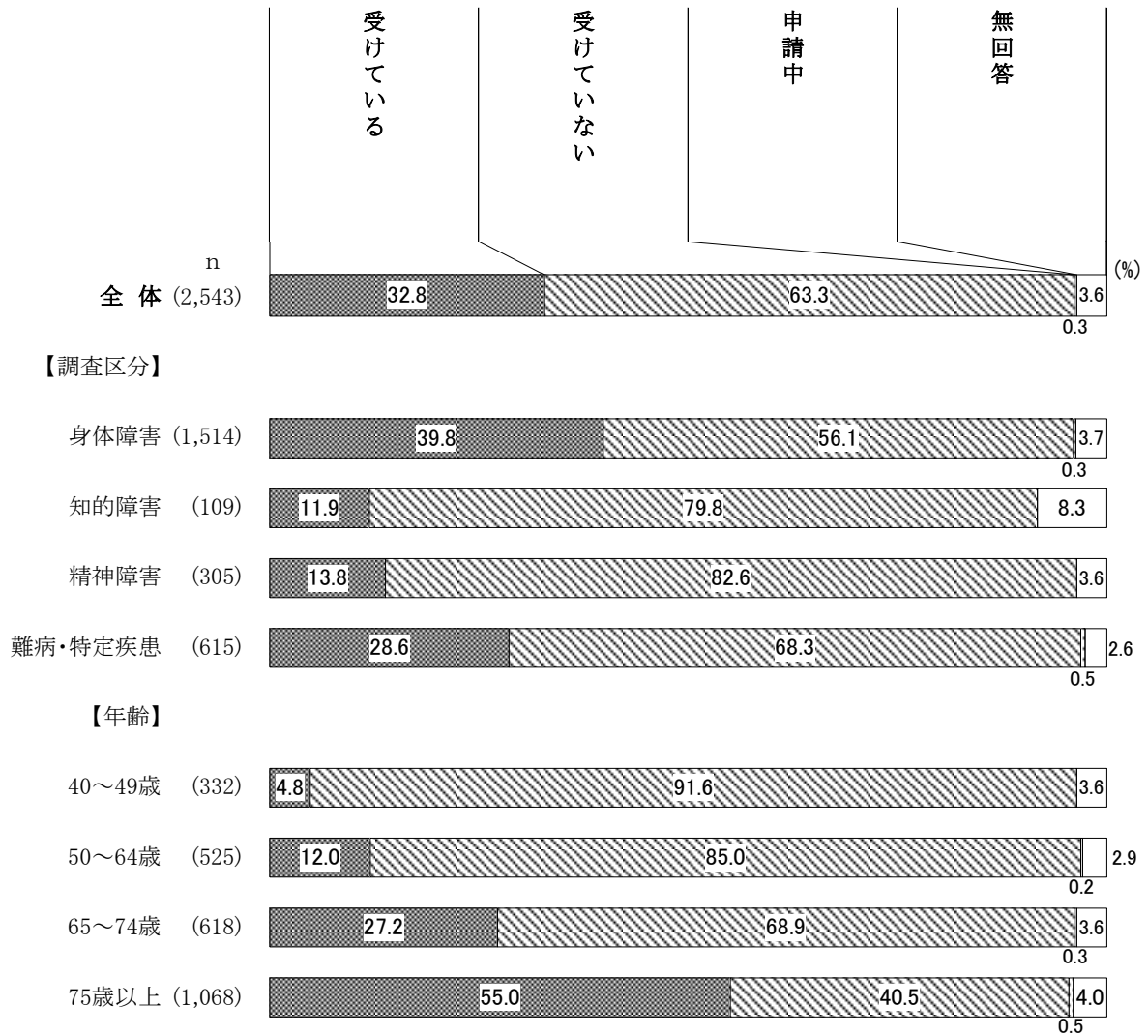


現在、介護保険の認定を「受けている」は32.8%、「受けていない」は63.3%となっている。

調査区分別にみると、「受けている」は身体障害が39.8%、難病・特定疾患が28.6%となっており、知的障害と精神障害では「受けていない」が8割前後と多くなっている。

年齢別にみると、「受けている」は65～74歳で27.2%、75歳以上で55.0%となっている。

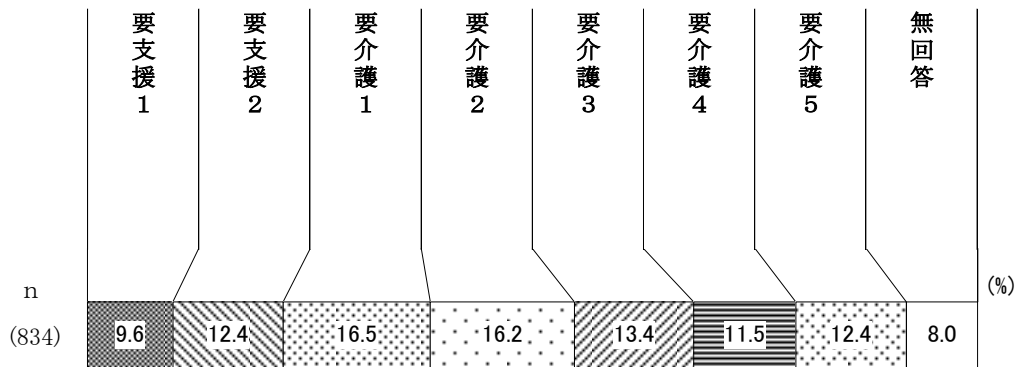
調査区分別、年齢別



(11) 要介護度

【問15で、「受けている」と回答した方にお聞きします。】

問15-1 あなたの認定内容はどれにあてはまりますか。(1つに○)

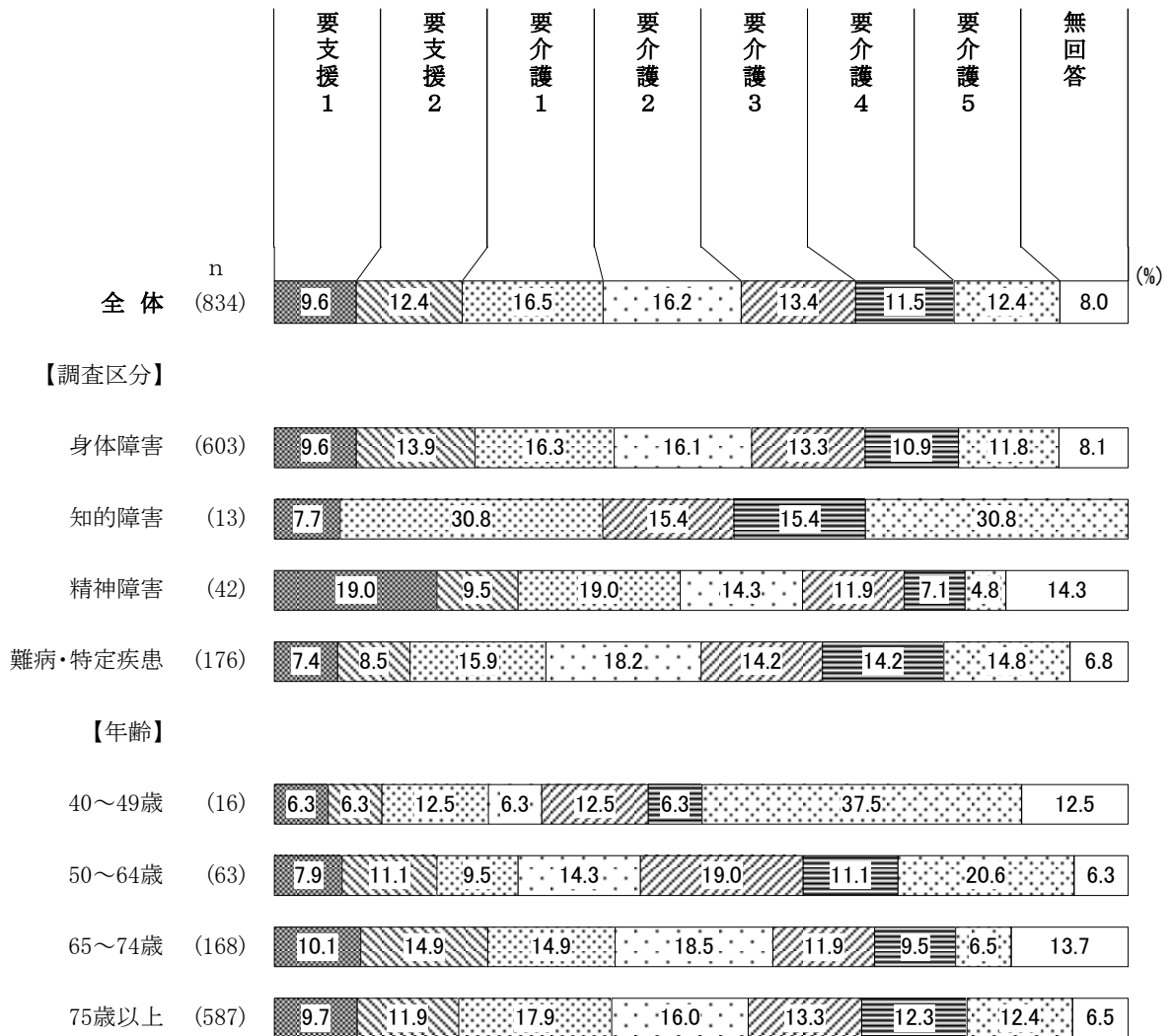


認定内容は、幅広く分布しているが、「要介護1」(16.5%)、「要介護2」(16.2%)が比較的多くなっている。

調査区分別にみると、身体障害と難病・特定疾患は全体とほぼ同様の傾向となっている。

年齢別にみると、65～74歳と75歳以上で大きな差はみられない。件数は少ないが40～49歳の若年層では「要介護5」が37.5%、50～64歳で20.6%と重度認定が比較的多い。

調査区分別、年齢別

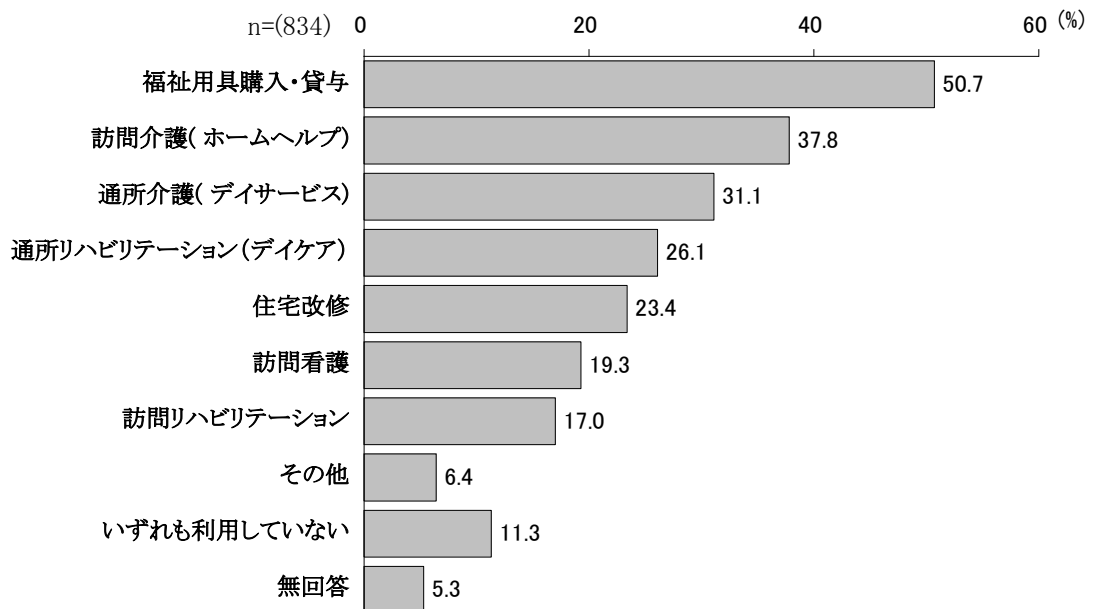


## (12) 利用中（利用経験あり）の介護サービス

【問15で、「受けている」と回答した方にお聞きします。】

問15-2 利用している、又は利用したことがある介護サービスはどれですか。

（あてはまるものすべてに○）



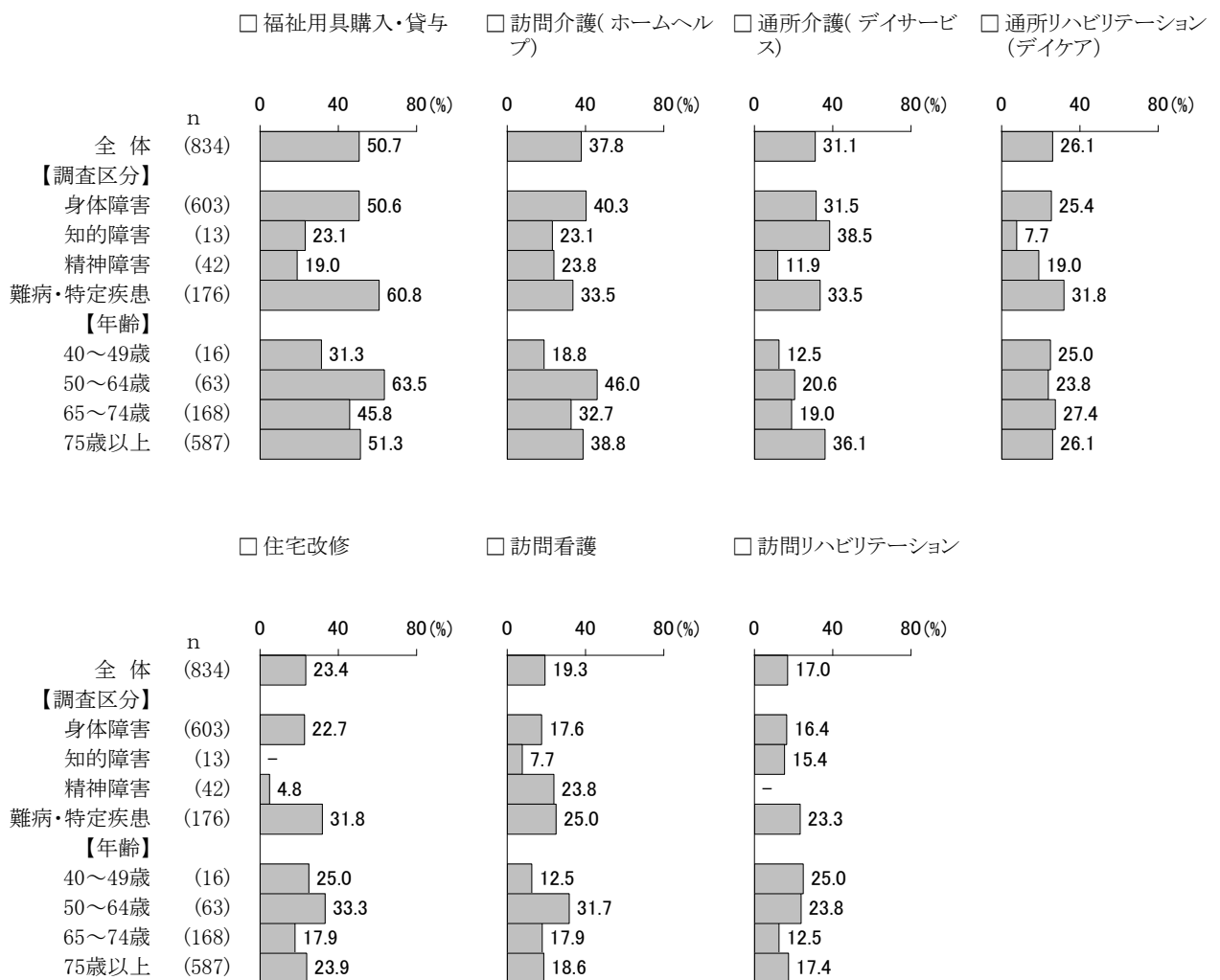
利用している（したことがある）介護サービスは、「福祉用具購入・貸与」が50.7%で最も多く、以下、「訪問介護（ホームヘルプ）」（37.8%）、「通所介護（デイサービス）」（31.1%）が3割台、「通所リハビリテーション（デイケア）」（26.1%）、「住宅改修」（23.4%）が2割台で続いている。



調査区分別にみると、「福祉用具購入・貸与」、「訪問介護（ホームヘルプ）」、「通所リハビリテーション（デイケア）」、「住宅改修」は、身体障害と難病・特定疾患で多く、特に「福祉用具購入・貸与」は難病・特定疾患で60.8%、身体障害で50.6%となっている。「通所介護（デイサービス）」は身体障害、知的障害、難病・特定疾患で、「訪問看護」は精神障害、難病・知的障害で、「訪問リハビリテーション」は難病・特定疾患で他の調査区分より多くなっている。

年齢別にみると、「福祉用具購入・貸与」、「訪問介護（ホームヘルプ）」、「住宅改修」、「訪問看護」は50～64歳で他の年齢より多い。「通所介護（デイサービス）」は75歳以上、「訪問リハビリテーション」は40～49歳、50～64歳で比較的多くなっている。

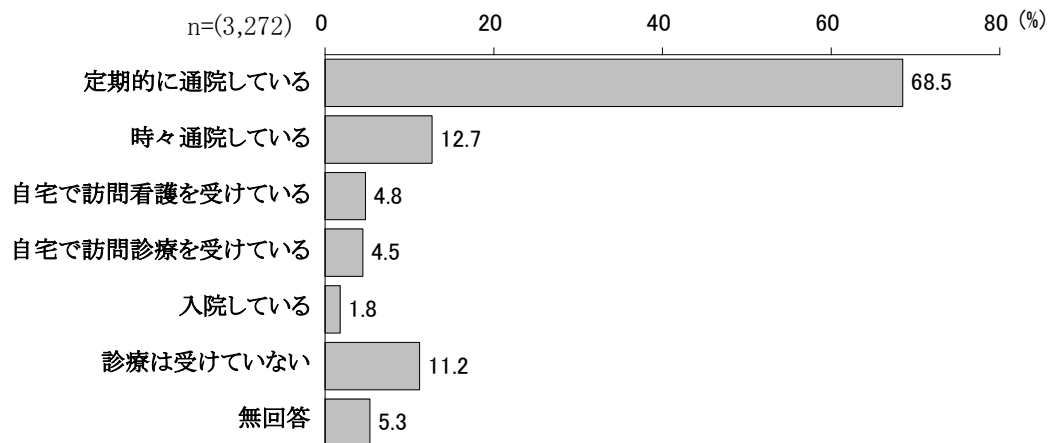
調査区分別、年齢別



## 4. 保健・医療について

## (1) 医師の診療や訪問看護の状況

問16 現在、医師の診療や訪問看護を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

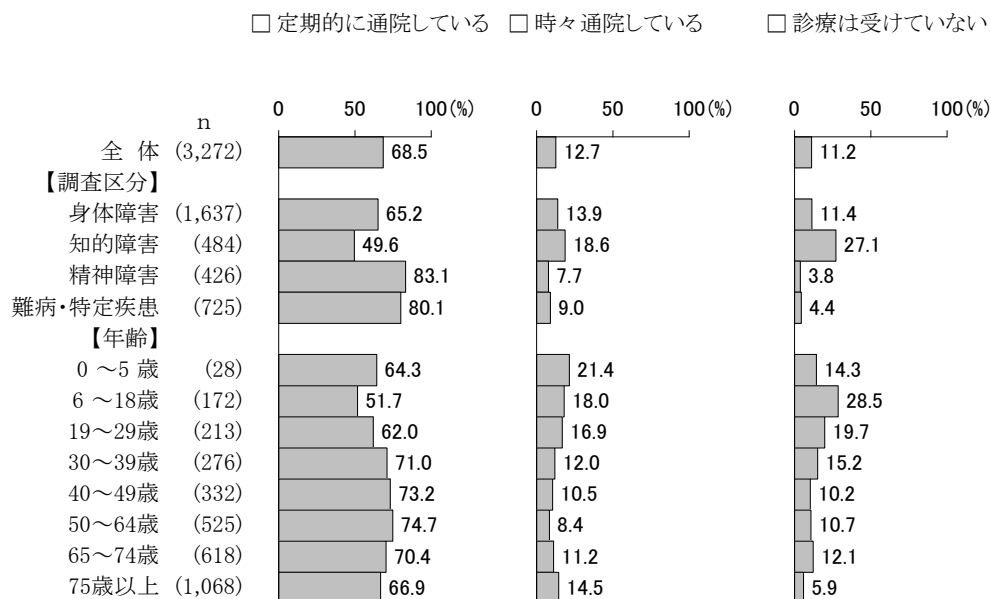


医師の診療や訪問看護を受けているか聞いたところ、「定期的に通院している」が68.5%で特に多く、これに「時々通院している」が12.7%で次いでいる。また、「診療は受けていない」は11.2%となっている。

調査区分別にみると、「定期的に通院している」は精神障害と難病・特定疾患で8割台と多くなっている。また、「診療は受けていない」は知的障害で27.1%と他の調査区分より多くなっている。

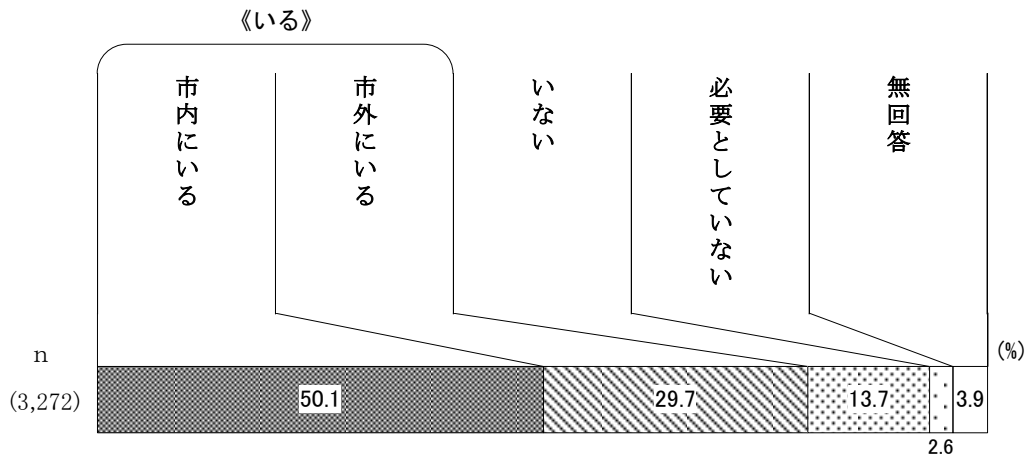
年齢別にみると、「定期的に通院している」は6～18歳を除くすべての年齢で6割以上となっており、30歳から74歳の年齢にかけては7割台となっている。「診療は受けていない」は6～18歳で28.5%と他の年齢より多くなっている。

調査区分別、年齢別（上位2項目＋「診療は受けていない」）



(2) かかりつけ医の有無

問17 あなたには、日常的に診療や相談などを受けられる医師がいますか。(1つに○)

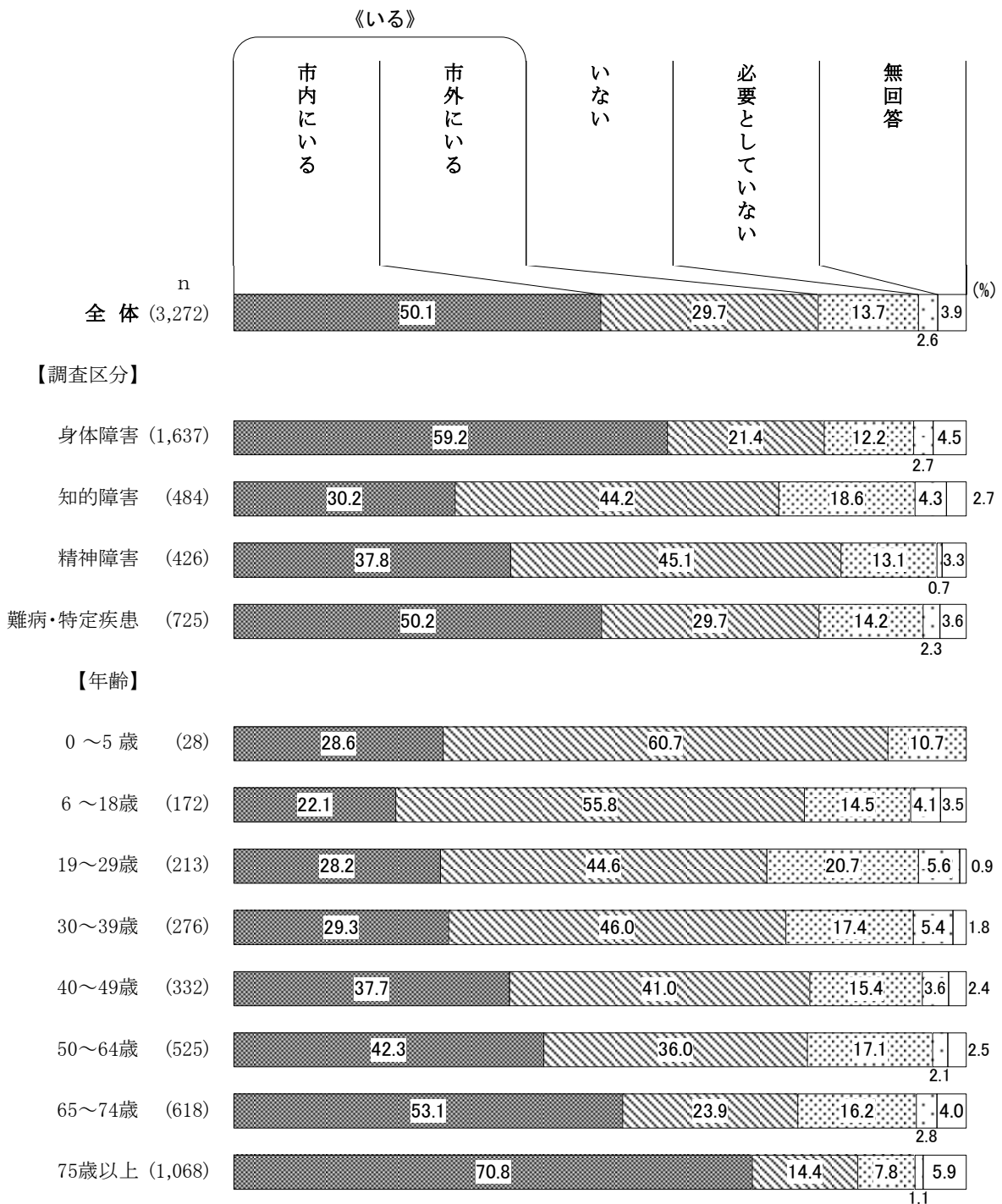


日常的に診療や相談などを受けられる医師が「市内にいる」は50.1%、「市外にいる」は29.7%で、両者をあわせた《いる》は約8割となっている。

調査区分別にみると、「市内にいる」は身体障害（59.2%）と難病・特定疾患（50.2%）で半数以上となっているが、知的障害、精神障害は3割台にとどまる。なお、「《いる》」ではいずれも7割以上となっている。

年齢別にみると、「市内にいる」は39歳までは3割未満だが、年齢が上がるとともに多くなる傾向がみられ、75歳以上で70.8%、65～74歳で53.1%となっている。「《いる》」ではいずれの年齢でも7割以上となっている。

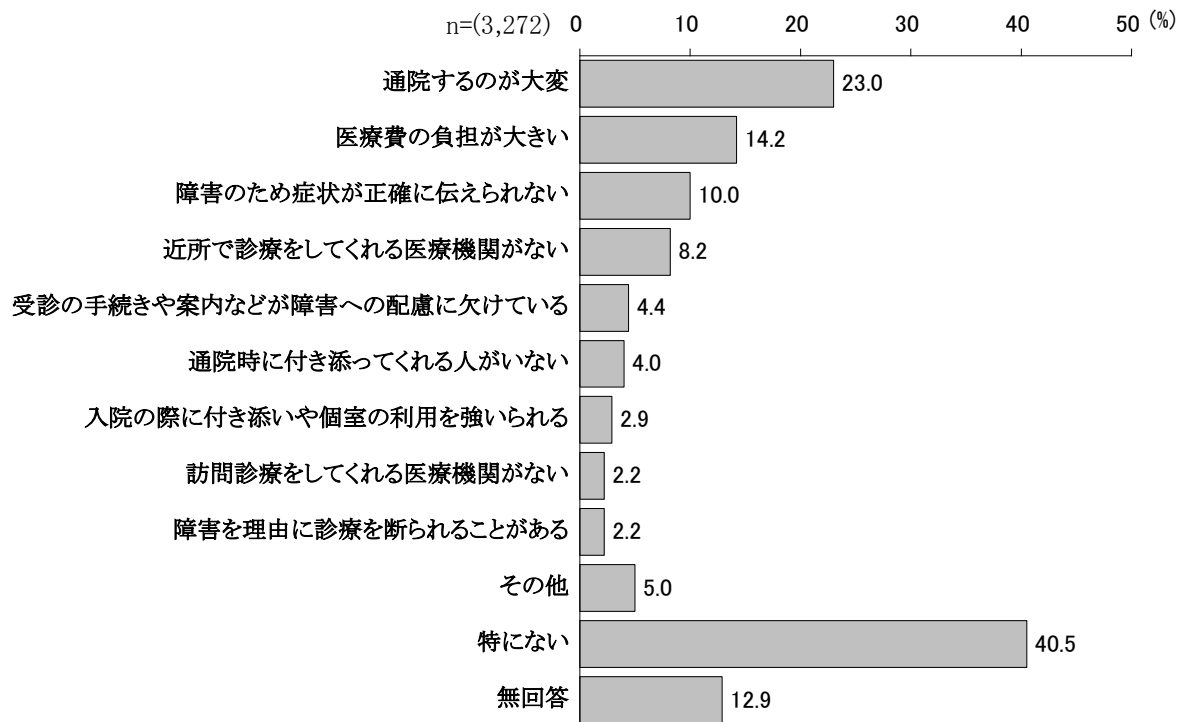
調査区分別、年齢別



## (3) 健康・医療面での困りごと

問18 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。

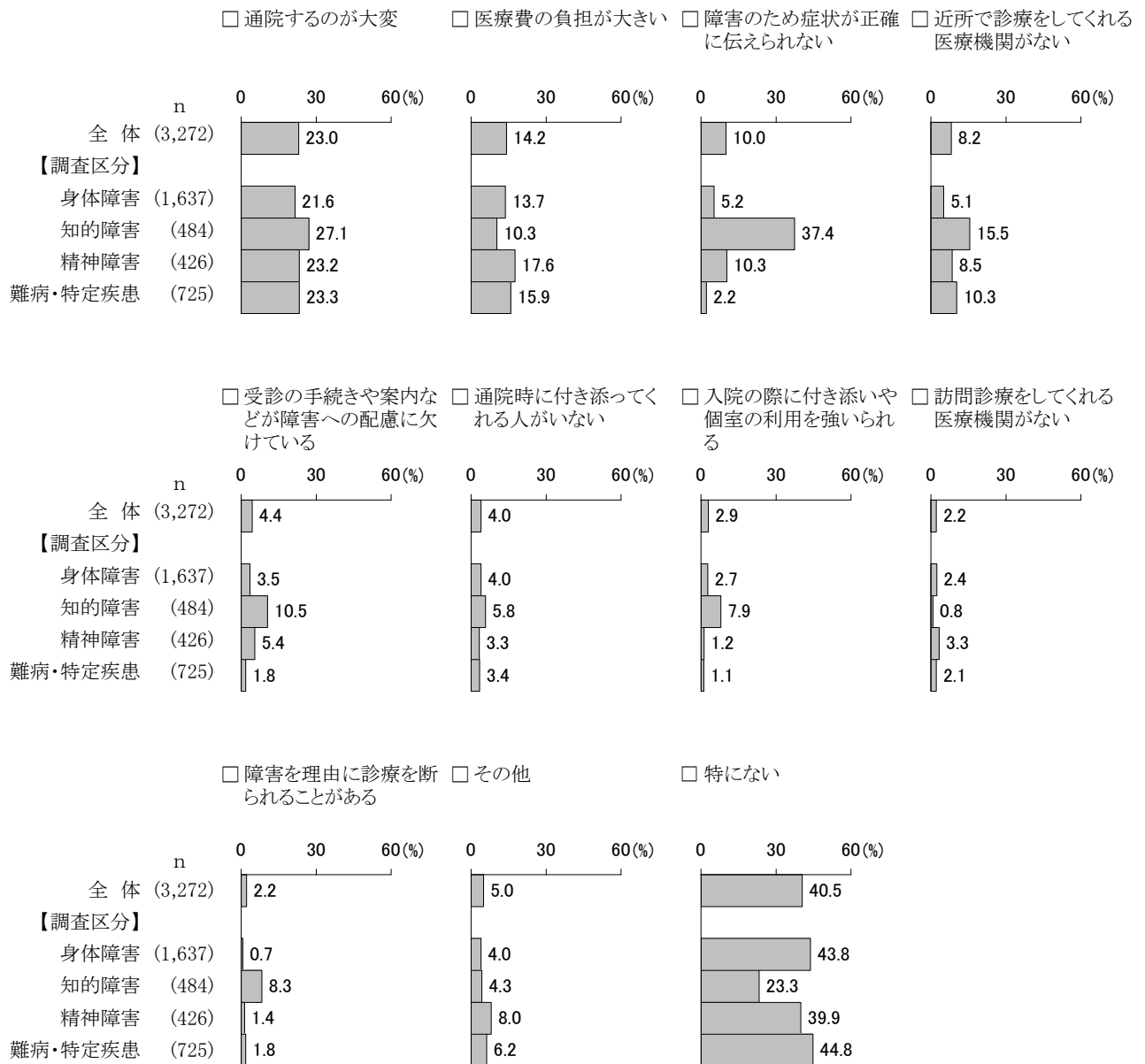
(主にあてはまるもの3つまでに○)



健康管理や医療で困ったり不便に思うことは、「特にない」が40.5%で最も多くなっている。思うことがあるものでは、「通院するのが大変」が23.0%、「医療費の負担が大きい」が14.2%、「障害のため症状が正確に伝えられない」が10.0%となっている。

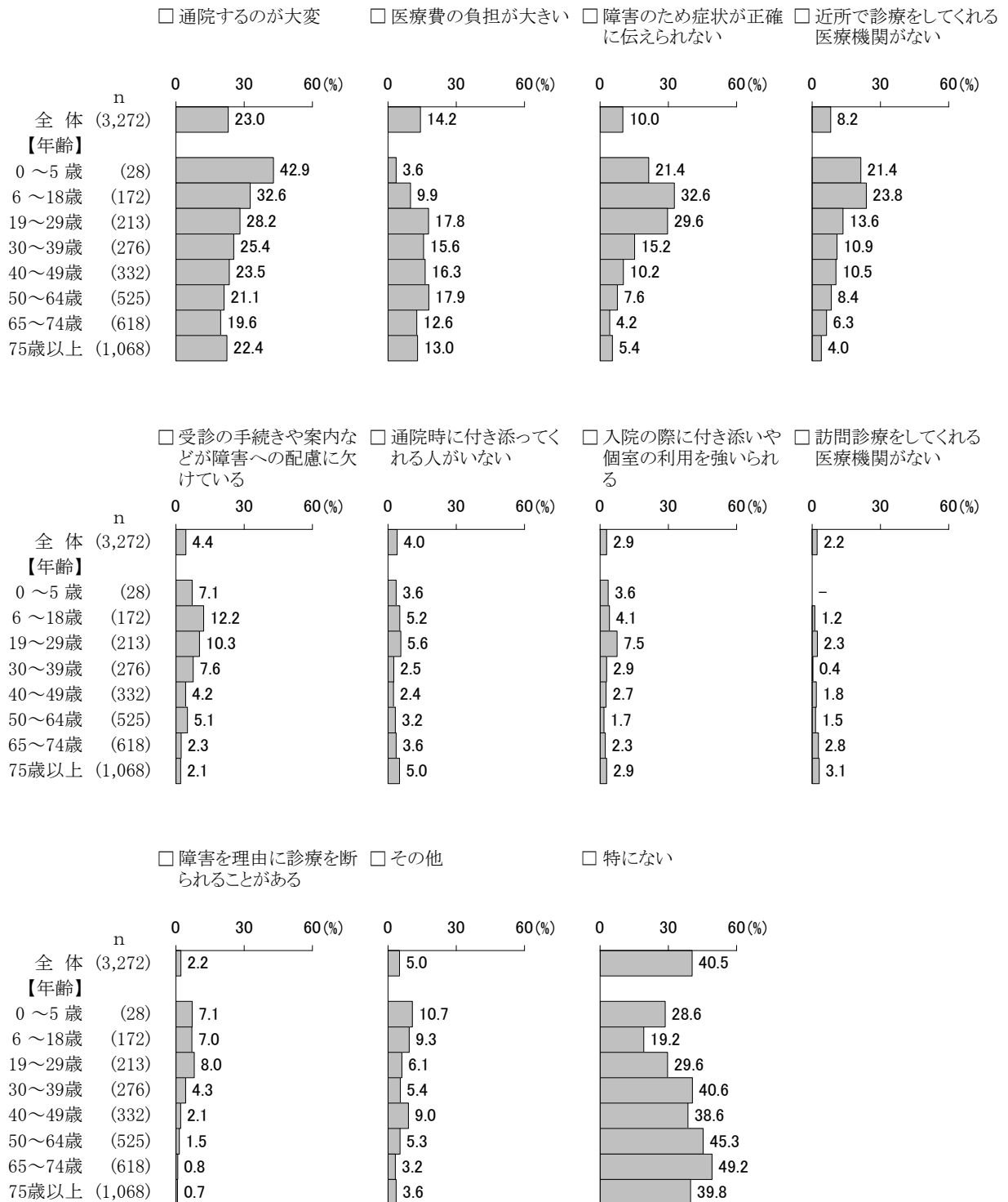
調査区分別にみると、「通院するのが大変」は調査区分にかかわらず2割台あげられている。知的障害では「障害のため症状が正確に伝えられない」、「近所で診療をしてくれる医療機関がない」、「受診の手続きや案内などが障害への配慮に欠けている」などが他の調査区分より多く、特に「障害のため症状が正確に伝えられない」では37.4%となっている。

調査区分別



年齢別にみると、「通院するのが大変」、「障害のため症状が正確に伝えられない」、「近所で診療をしてくれる医療機関がない」などでは若年層ほど多くなる傾向がみられ、特に「通院するのが大変」は0～5歳が42.9%、6～18歳が32.6%、「障害のため症状が正確に伝えられない」では6～18歳、19～29歳で3割前後と多くなっている。一方、30歳以上の年齢では「特にない」が3割から4割を占めている。

年齢別

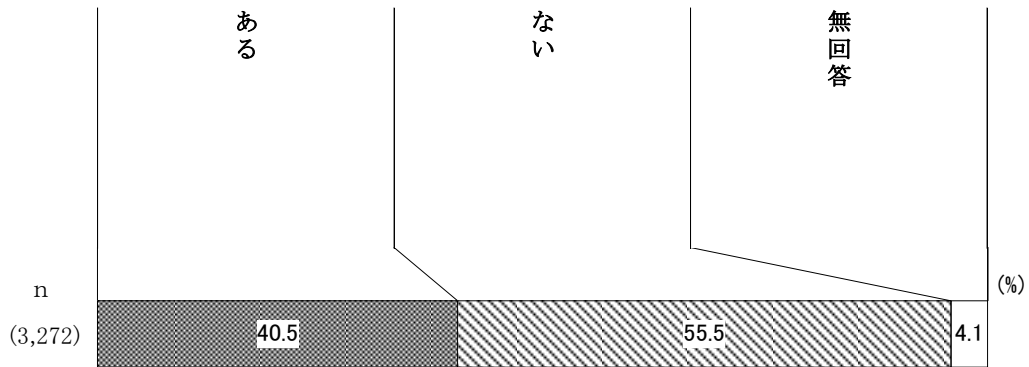




## 5. 相談や情報入手について

### (1) 日常生活で困っていること

問19 日常生活において、何か困っていることがありますか。(1つに○)

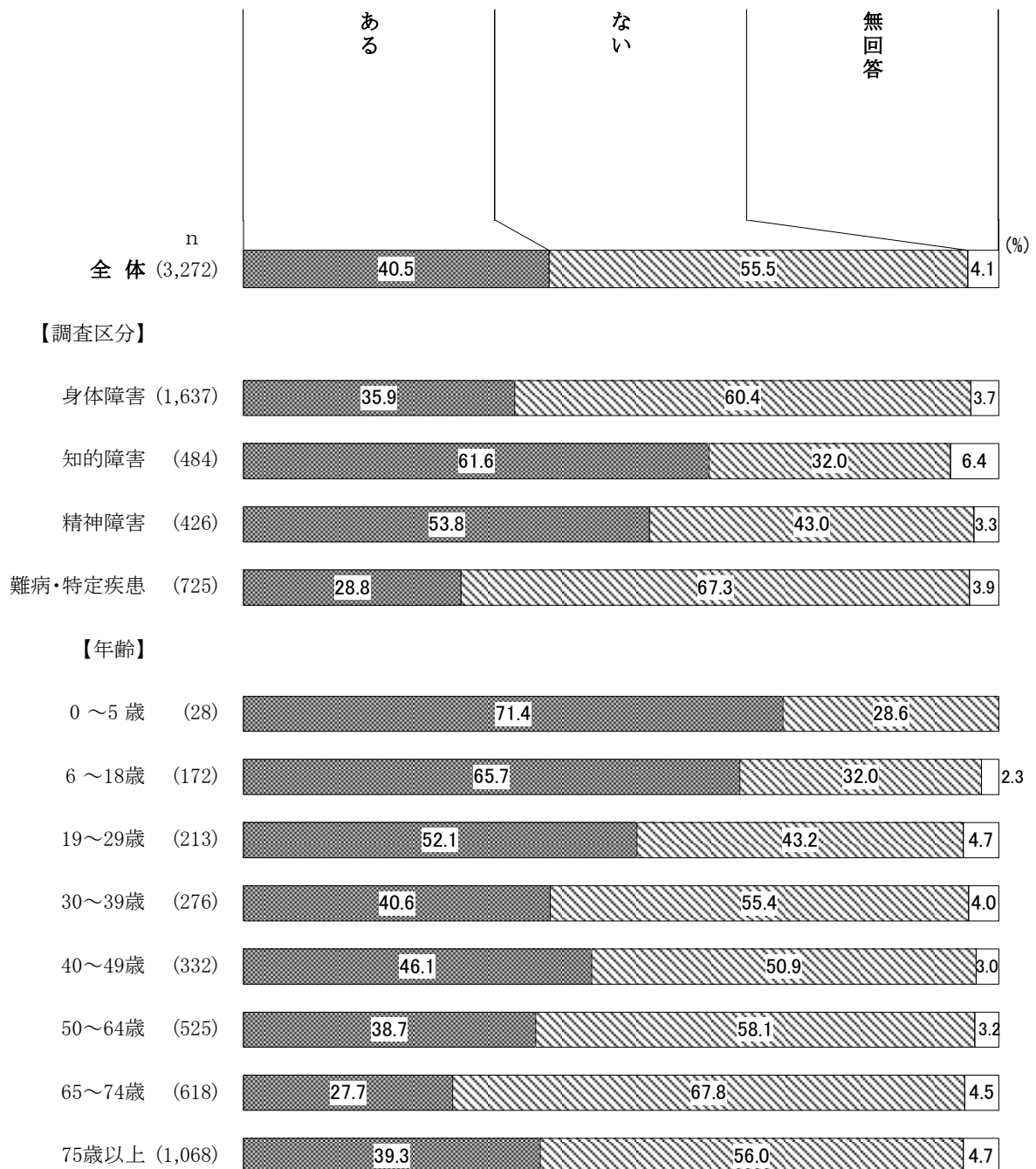


日常生活において、何か困っていることが「ある」は40.5%、「ない」は55.5%となっている。

調査区分別にみると、「ある」は知的障害で61.6%、精神障害で53.8%と多くなっている。

年齢別にみると、「ある」は0～5歳が71.4%、6～18歳が65.7%、19～29歳が52.1%と半数を超えている。30歳以上の年齢では「ない」が5割から6割を占め、「ある」を上回っている。

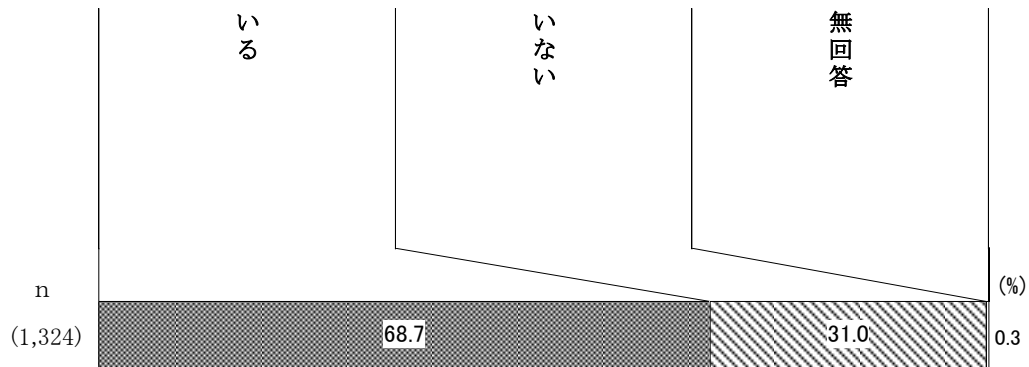
調査区分別、年齢別



(2) 相談相手の有無

【問19で「ある」と回答した方にお聞きします。】

問19-1 困っていることを相談する人はいますか。〔家族や友人を除く〕(1つに○)

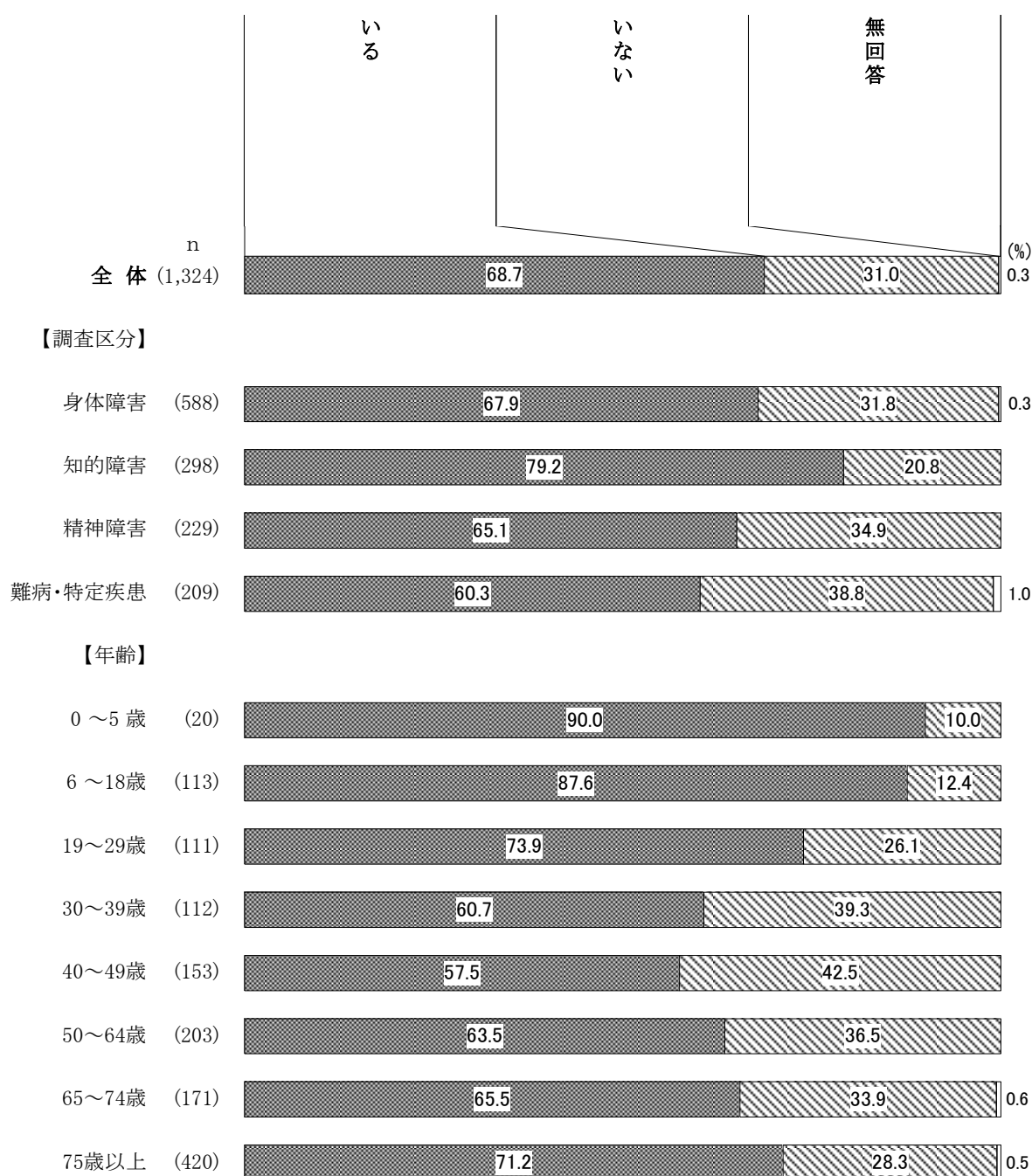


困っていることを相談する人が「いる」は68.7%、「いない」は31.0%となっている。

調査区分別にみると、「いる」はいずれも6割以上となっており、特に知的障害（79.2%）では8割近くとなっている。

年齢別にみると、「いる」は0～5歳が90.0%、6～18歳が87.6%を占めて多く、19～29歳と75歳以上でも7割台となっている。一方、30～39歳と40～49歳では6割前後と比較的少ない。

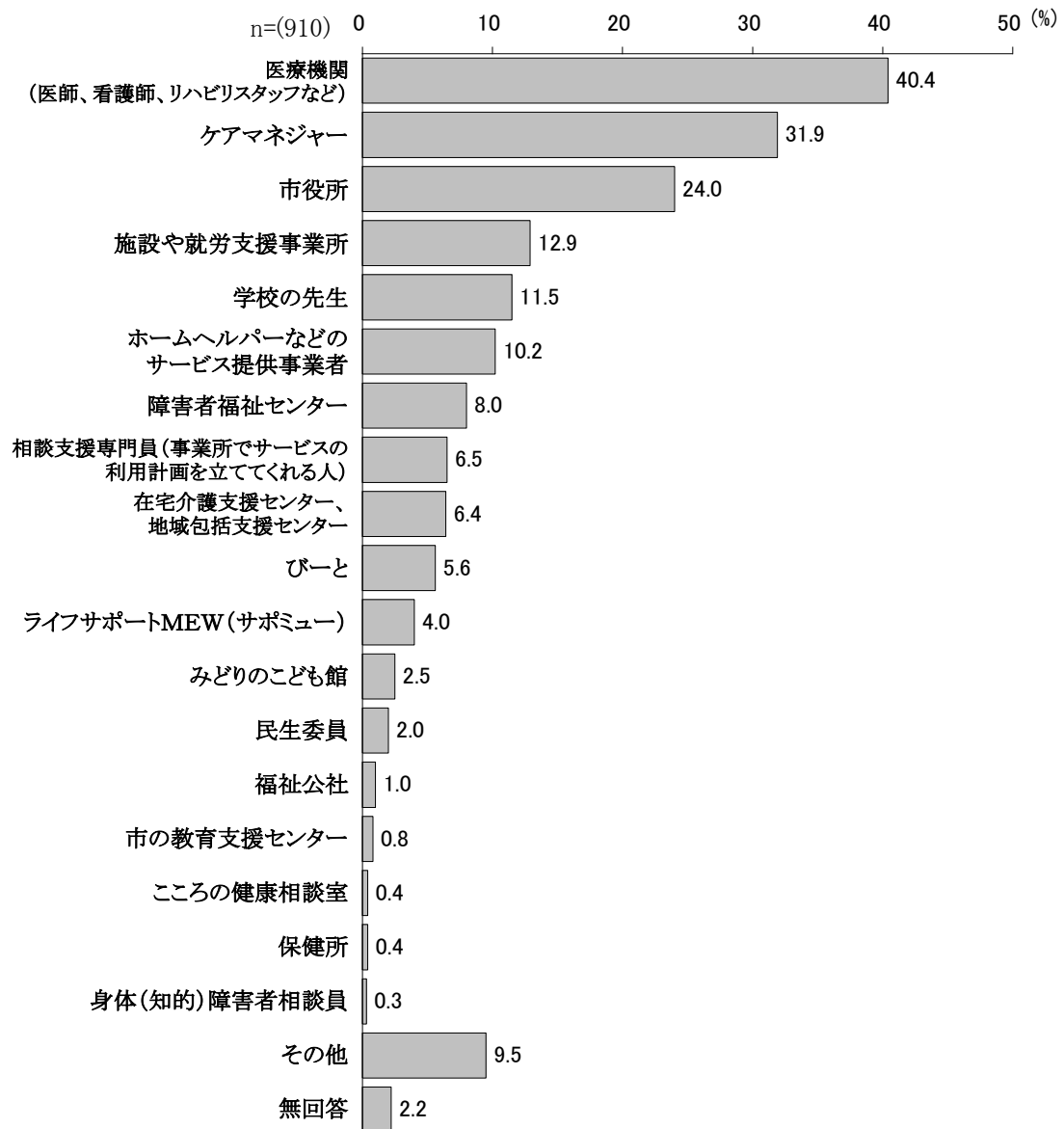
調査区分別、年齢別



## (3) 相談先

【問19-1で「いる」と回答した方にお聞きします。】

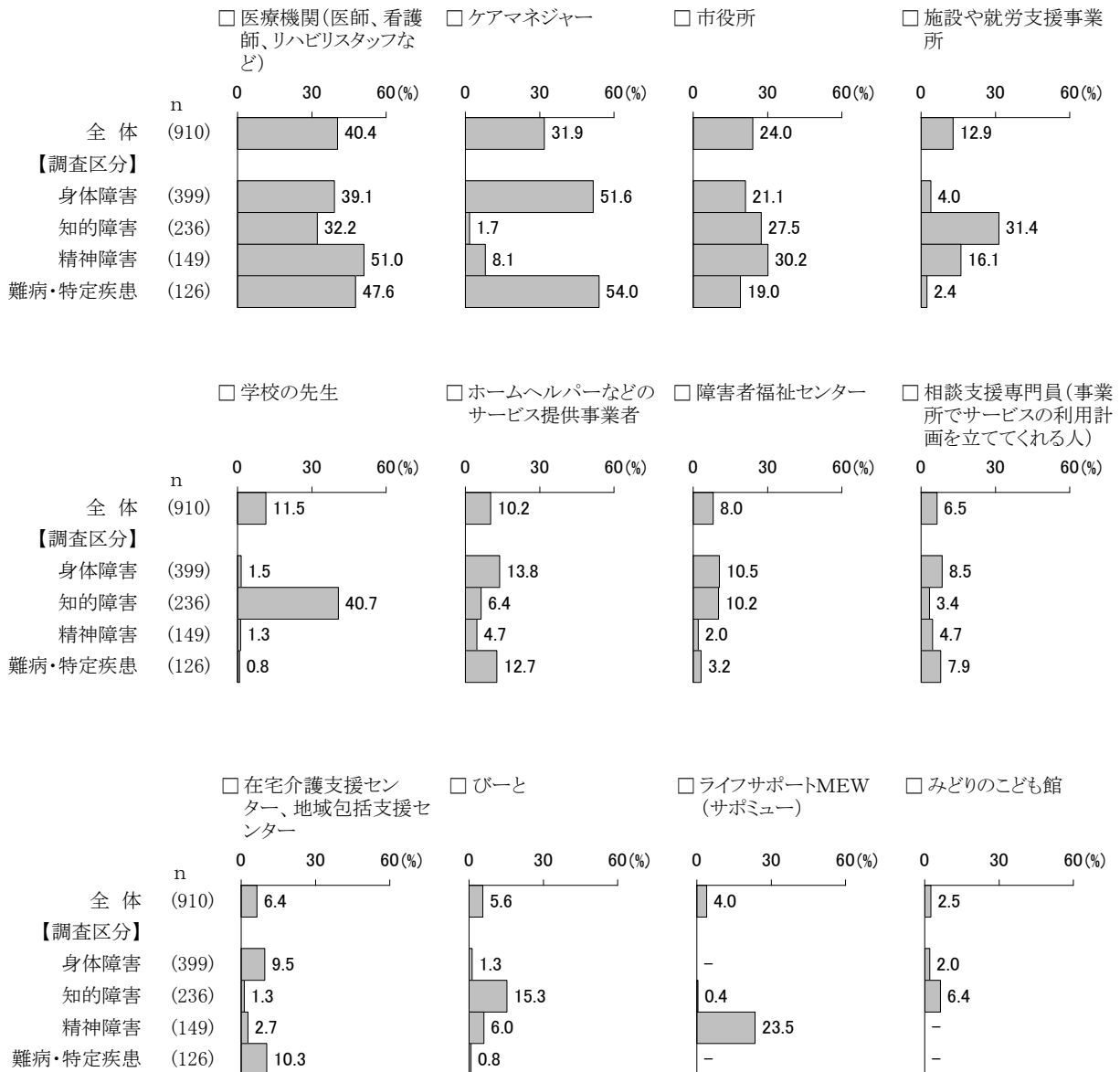
問19-2 相談相手は、次のうちどれにあたりますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)



相談相手は、「医療機関」が40.4%で最も多く、以下、「ケアマネジャー」(31.9%)、「市役所」(24.0%)、「施設や就労支援事業所」(12.9%)、「学校の先生」(11.5%)、「ホームヘルパーなどのサービス提供事業者」(10.2%)が続いている。

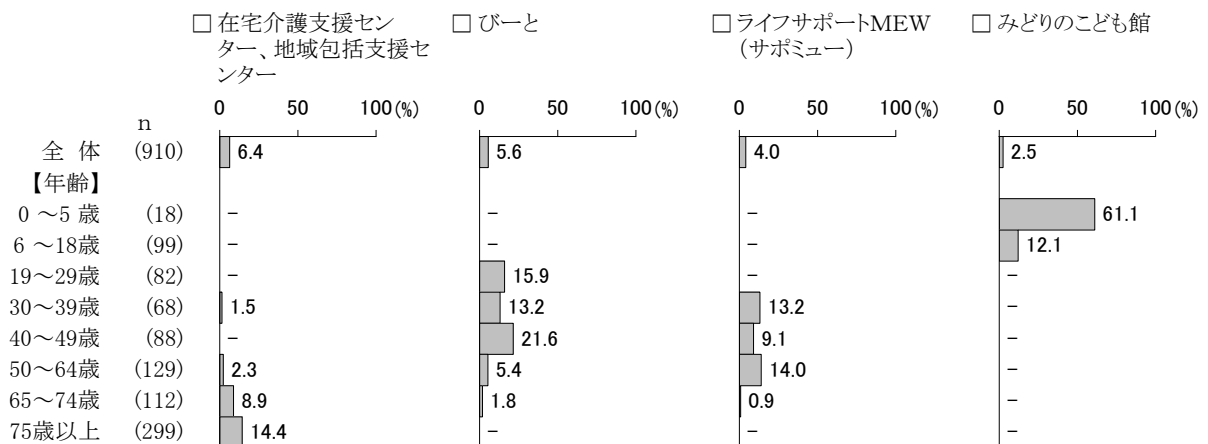
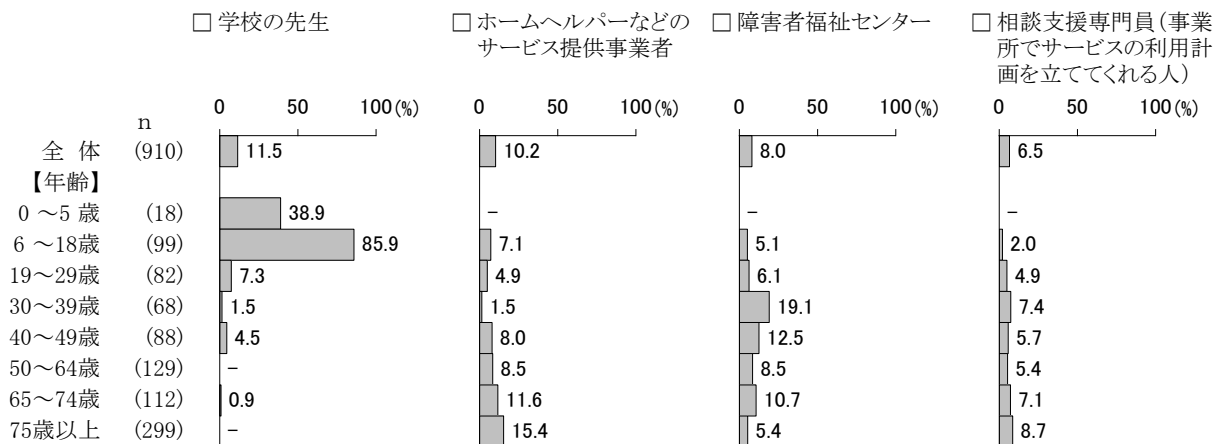
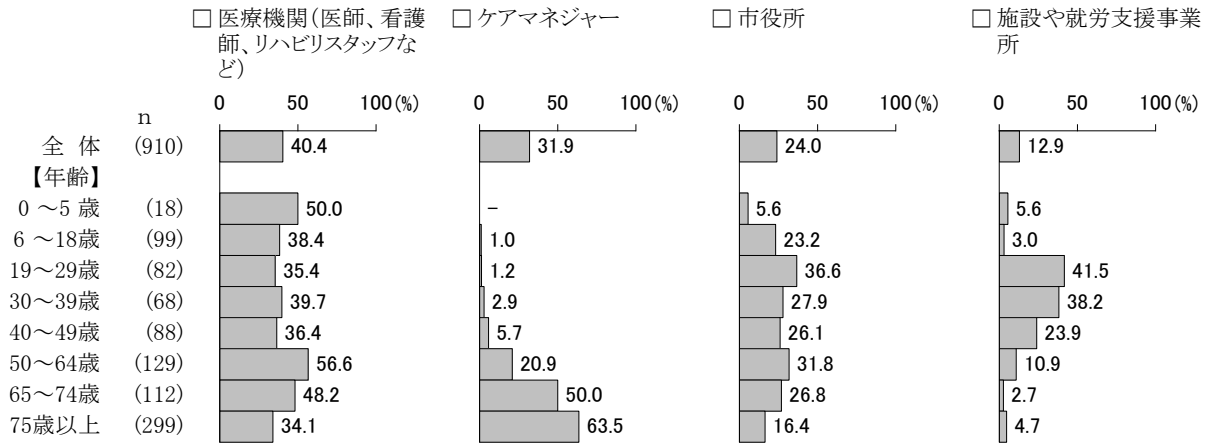
調査区分別にみると、「医療機関」は精神障害（51.0%）と難病・特定疾患（47.6%）で5割前後、「ケアマネジャー」は身体障害（51.6%）と難病・特定疾患（54.0%）で5割台と多くなっている。知的障害では「施設や就労支援事業所」（31.4%）、「学校の先生」（40.7%）とともに、「びーと」（15.3%）も他の調査区分より多くなっている。また、精神障害では「ライフサポートMEW」も23.5%と多くなっている。

調査区分別（上位12項目）



年齢別にみると、「ケアマネジャー」は75歳以上で63.5%、65～74歳でも50.0%と多くなっている。「施設や就労支援事業所」では19～29歳（41.5%）、30～39歳（38.2%）で4割前後と多いが、以降年齢が上がるとともに少なくなる。この他、6～18歳では「学校の先生」（85.9%）、0～5歳では「みどりのこども館」（61.1%）が特に多くなっている。

年齢別（上位12項目）

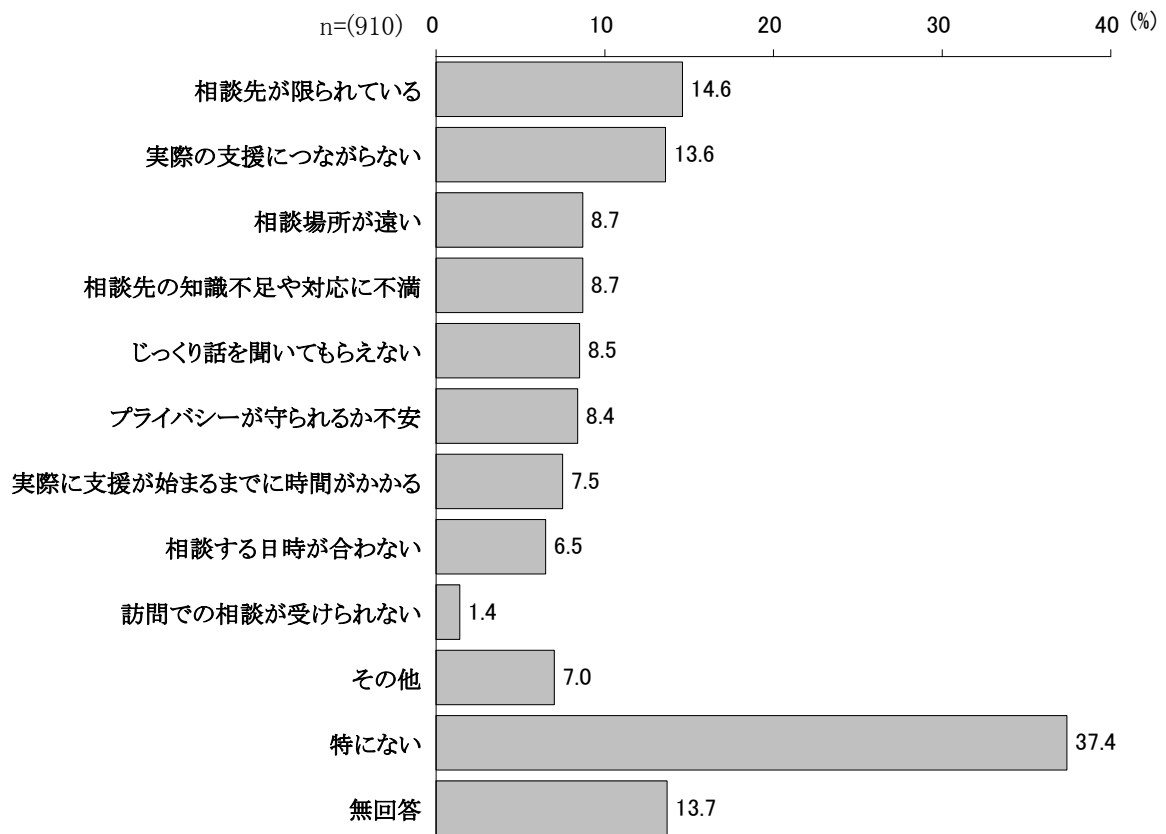


## (4) 相談する際に不便なこと

【問19-1で「いる」と回答した方にお聞きします。】

問19-3 悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることがありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

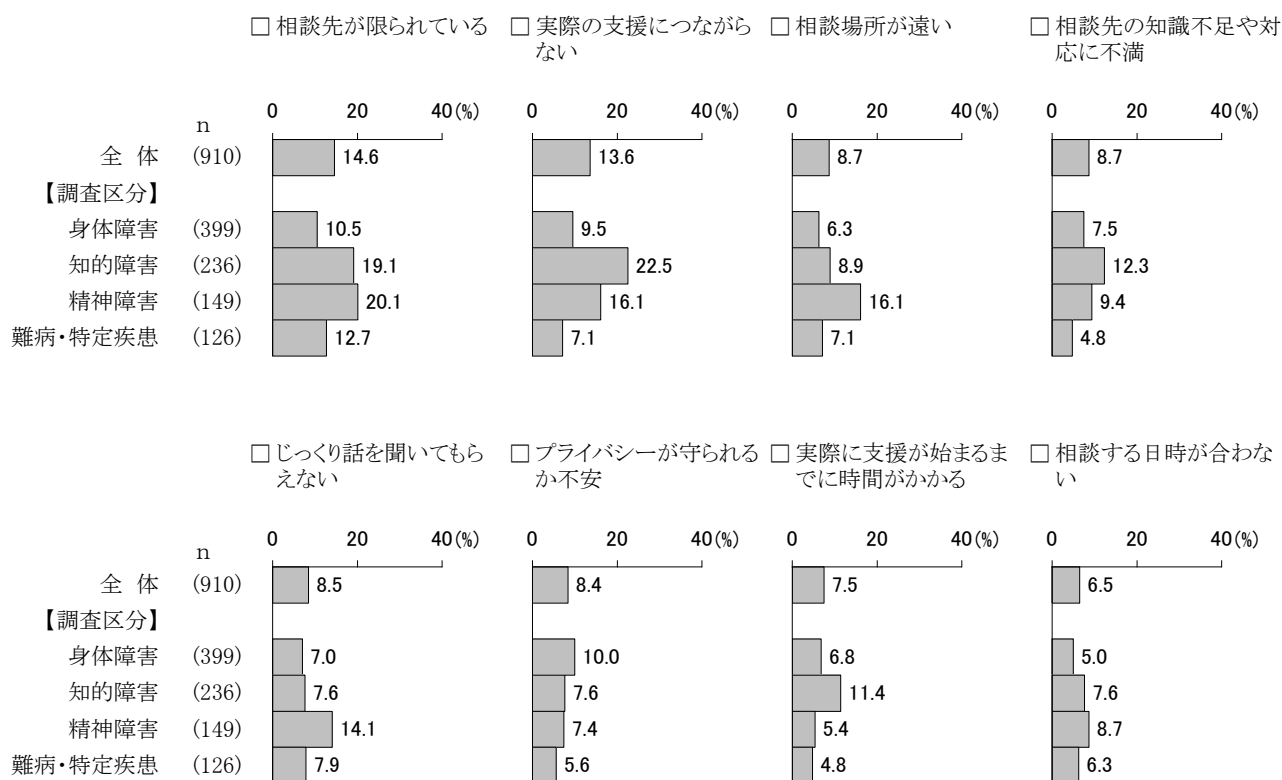


悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることは、「特にない」が37.4%で最も多くなっている。感じていることでは、「相談先が限られている」が14.6%、「実際の支援につながらない」が13.6%となっている。



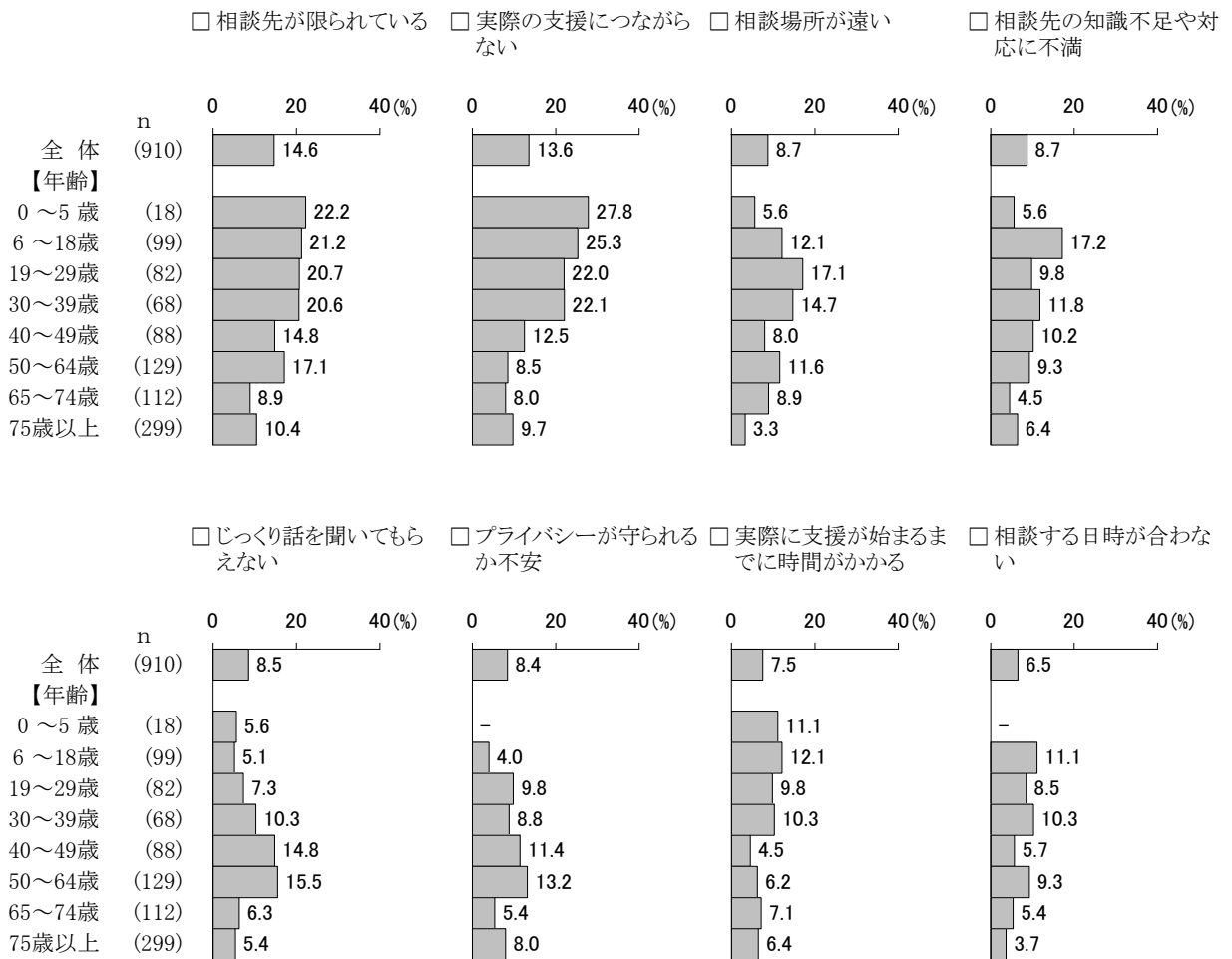
調査区分別にみると、知的障害と精神障害では「相談先が限られている」、「実際の支援につながらない」、「相談先の知識不足や対応に不満」が多くあげられている。知的障害と精神障害ではこの他、「相談場所が遠い」(16.1%)や「じっくり話を聞いてもらえない」(14.1%)が精神障害で、「実際に支援が始まるまでに時間がかかる」(11.4%)が知的障害で他の調査区分より多くなっている。

調査区分別（上位8項目）



年齢別にみると、39歳以下の年齢で「相談先が限られている」や「実際の支援につながらない」が2割台、「実際に支援が始まるまでに時間がかかる」が1割前後と他の年齢より多くなっている。また、40～49歳と50～64歳では「じっくり話を聞いてもらえない」や「プライバシーが守られるか不安」が他の年齢より多くみられる。

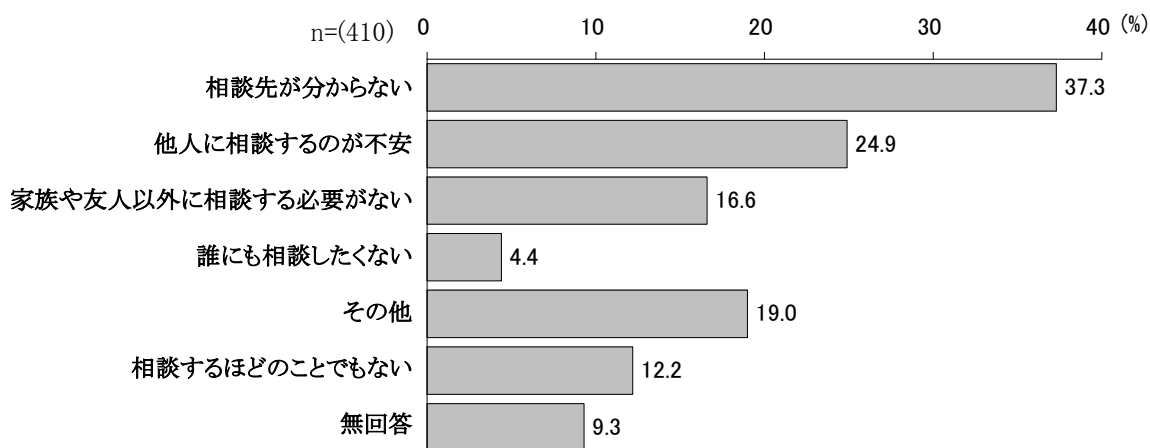
年齢別（上位8項目）



(5) 相談相手がない理由

【問19-1で「いない」と回答した方にお聞きします。】

問19-4 相談相手がない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

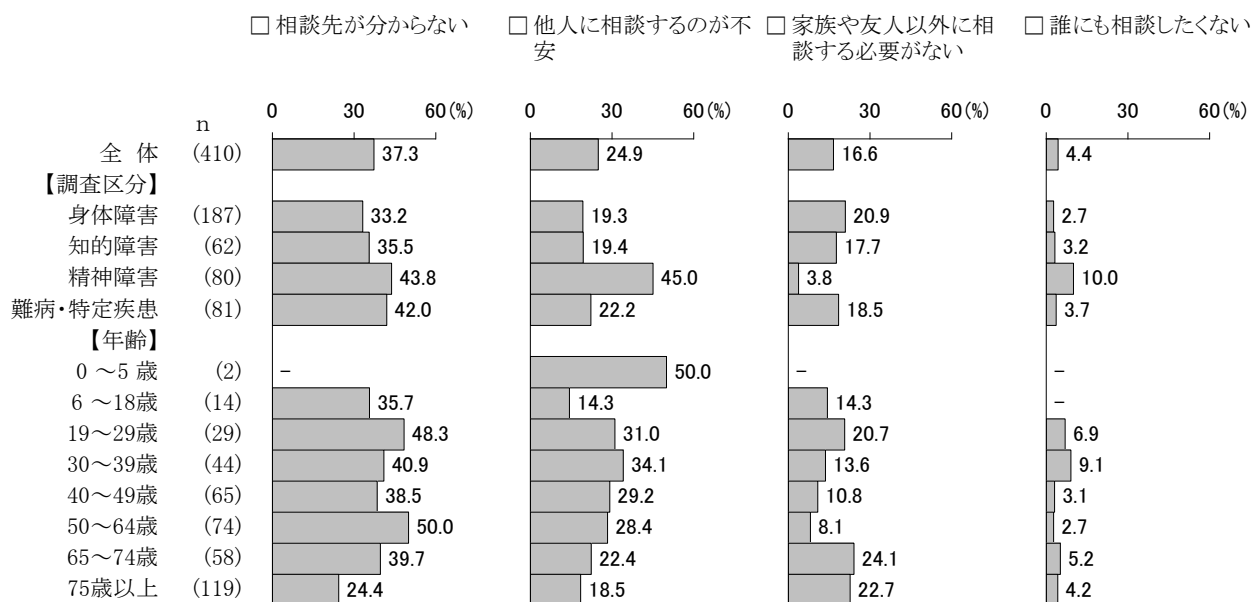


相談相手がない理由は、「相談先が分からない」が37.3%で最も多く、以下、「他人に相談するのが不安」(24.9%)、「家族や友人以外に相談する必要がある」(16.6%)が続いている。

調査区別にみると、「相談先が分からない」は精神障害(43.8%)と難病・特定疾患(42.0%)で4割台となっている。精神障害では「他人に相談するのが不安」が45.0%と特に多くなっている。

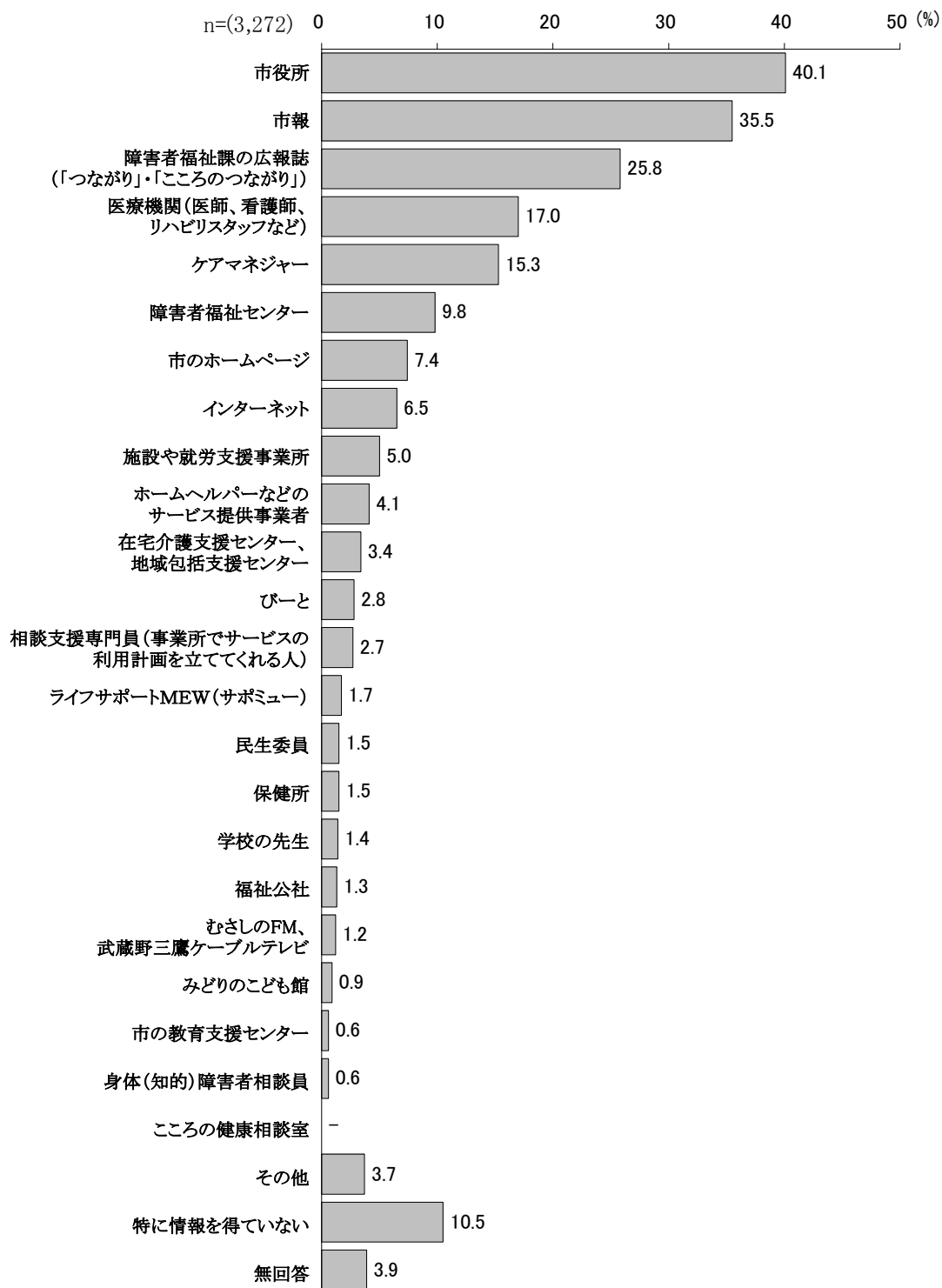
年齢別にみると、「相談先が分からない」は19~29歳と50~64歳で5割前後と多くなっている。「他人に相談するのが不安」は19~64歳の年齢にかけて3割前後となっている。「家族や友人以外に相談する必要がある」は19~29歳と65歳以上で2割台となっている。

調査区分別、年齢別(上位4項目)



## (6) 市の生活支援に関するサービスの情報入手源

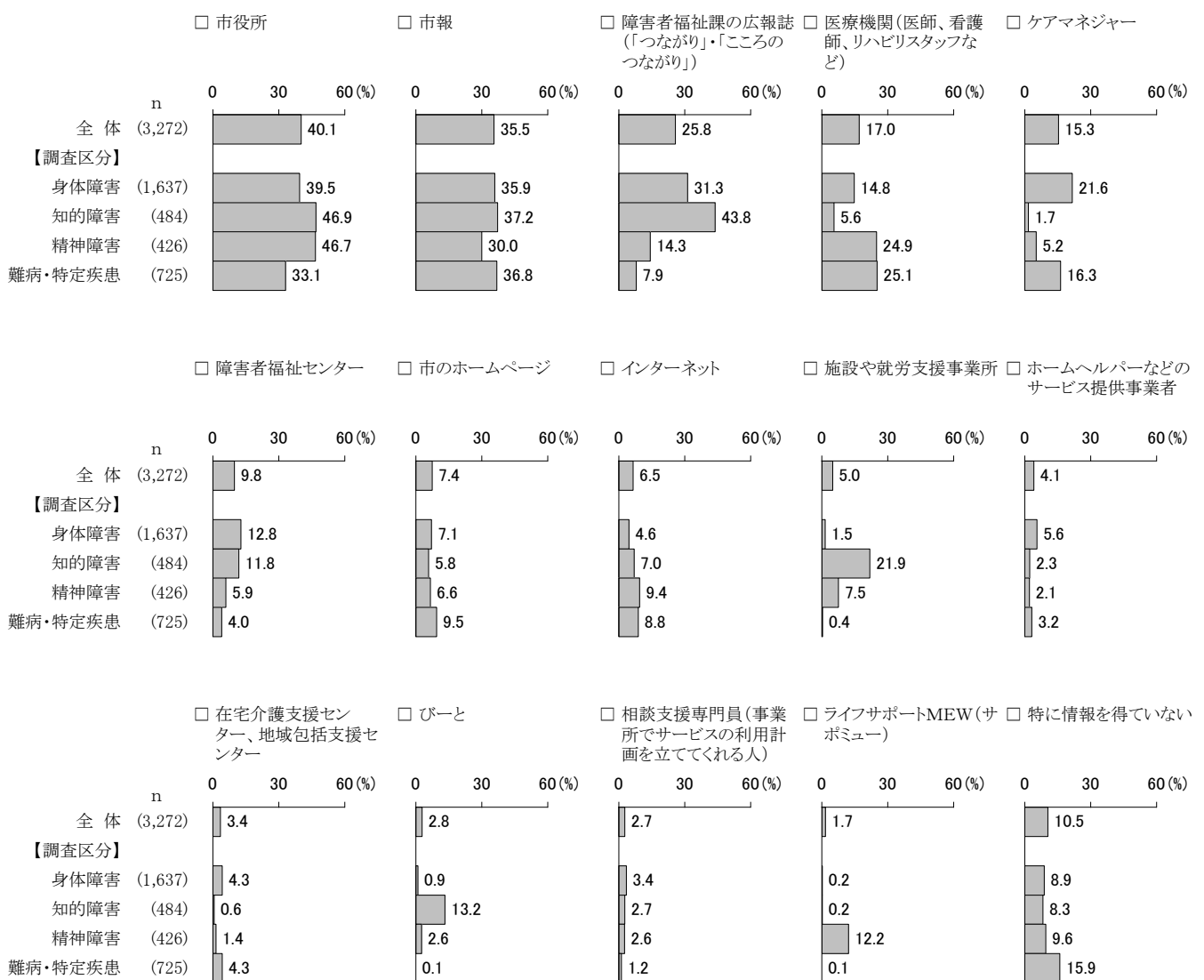
問20 市の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)



市の生活支援に関するサービスの情報の入手先は、「市役所」が40.1%で最も多く、「市報」(35.5%)、「障害者福祉課の広報誌」(25.8%)、「医療機関」(17.0%)、「ケアマネジャー」(15.3%)が続いている。

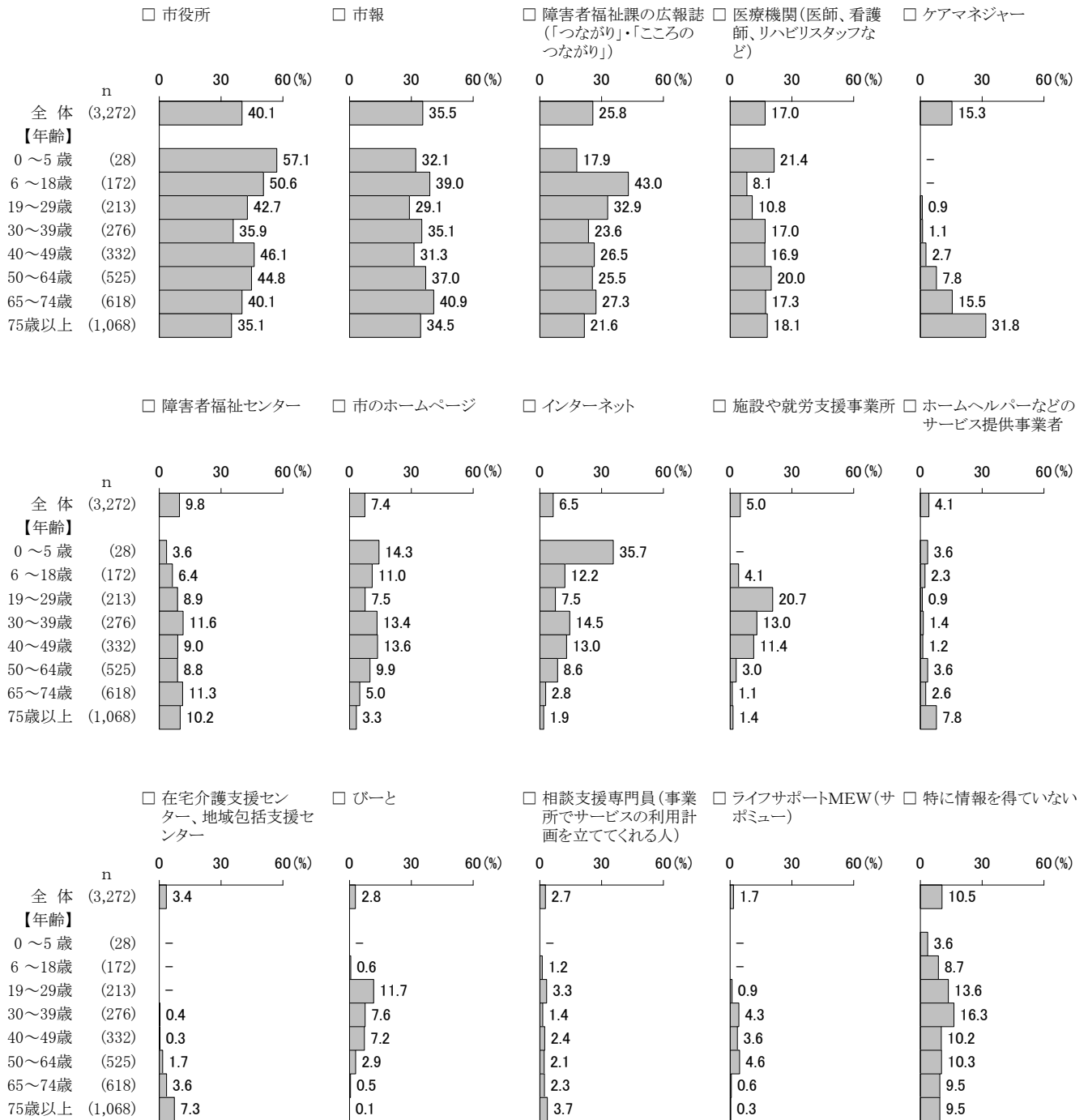
調査区分別にみると、「市役所」や「市報」はいずれの調査区分でも3割以上となっており、「市役所」は知的障害と精神障害で4割台となっている。ただし、難病・特定疾患では33.1%と他の調査区分と比べて少ない。「障害者福祉課の広報誌」は知的障害で43.8%と多く、身体障害でも31.3%となっているが、精神障害（14.3%）や難病・特定疾患（7.9%）では少ない。一方、「医療機関」は精神障害と難病・特定疾患で25%前後だが、身体障害や知的障害では少なくなっている。この他、「ケアマネジャー」は身体障害（21.6%）で、「施設や就労支援事業所」は知的障害（21.9%）で、「ライフサポートMEW（サポミュー）」は精神障害（12.2%）で他の調査区分より多くなっている。なお、「特に情報を得ていない」は難病・特定疾患で他の調査区分より多くなっている。

調査区分別（上位14項目＋「特に情報を得ていない」）



年齢別にみると、「市役所」は多くの年齢で4割以上となっているが、30～39歳と75歳以上では3割台と少ない。「市報」は6～18歳と65～74歳で4割前後、「障害者福祉課の広報誌」は6～18歳で43.0%、19～29歳で32.9%、「インターネット」は0～5歳が35.7%と他の年齢より多くなっている。また、「ケアマネジャー」は75歳以上で31.8%と多く、「施設や就労支援事業所」や「びーと」は19～29歳で最も多くなっている。また、「特に情報を得ていない」は19～29歳と30～39歳で他の年齢よりやや多くなっている。

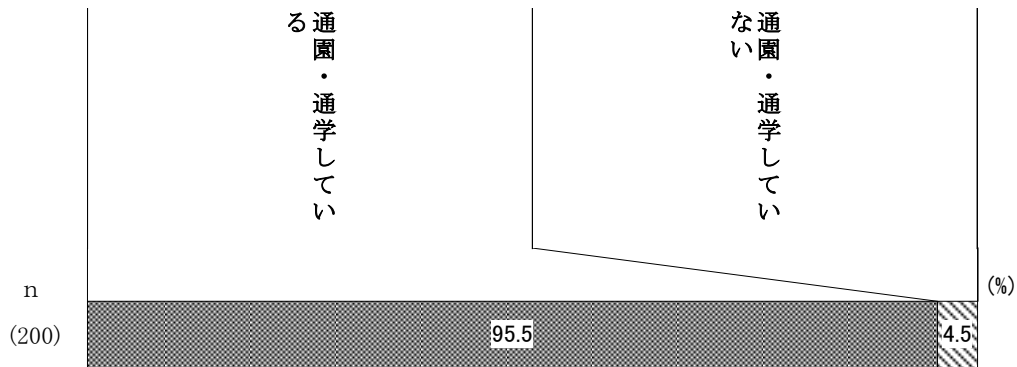
年齢別（上位14項目＋「特に情報を得ていない」）



## 6. 通園・通学について

### (1) 通園・通学状況

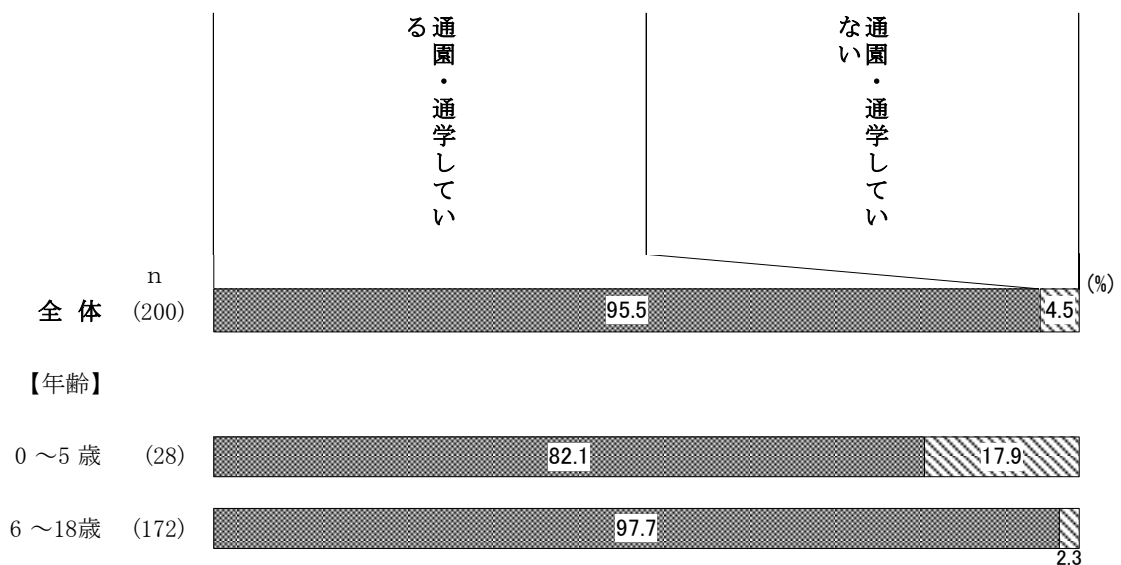
問21 あなたは現在、保育園や幼稚園、学校へ通園・通学をしていますか。(1つに○)



18歳以下の対象では、現在、保育園や幼稚園、学校へ「通園・通学している」は95.5%となっている。

年齢別にみると、「通園・通学している」は6～18歳では97.7%を占めている。

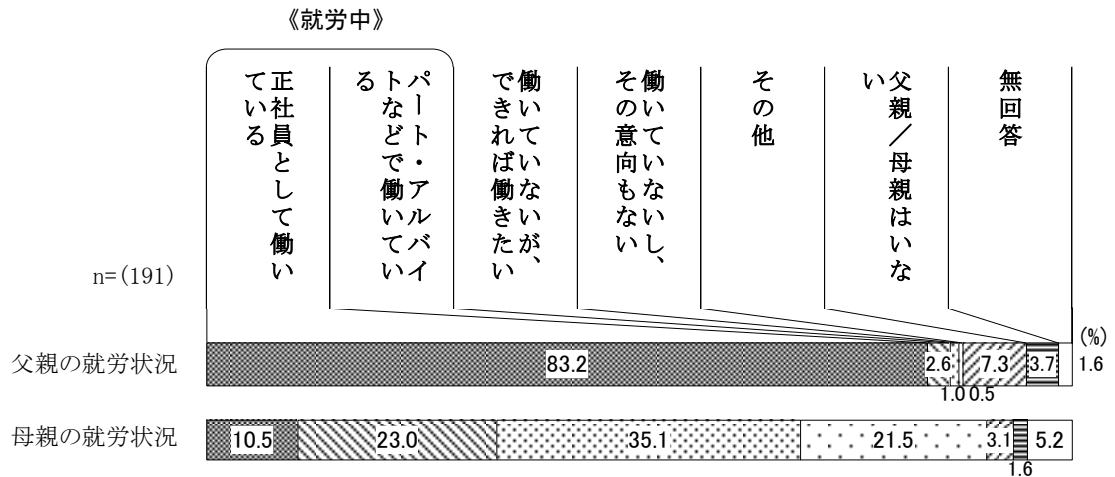
#### 年齢別



(2) 父親、母親の就労状況

【問21で「通園・通学をしている」と回答した方に】

問22 あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)



父親の就労状況は「正社員として働いている」が83.2%を占めて多く、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた《就労中》は85.8%となっている。

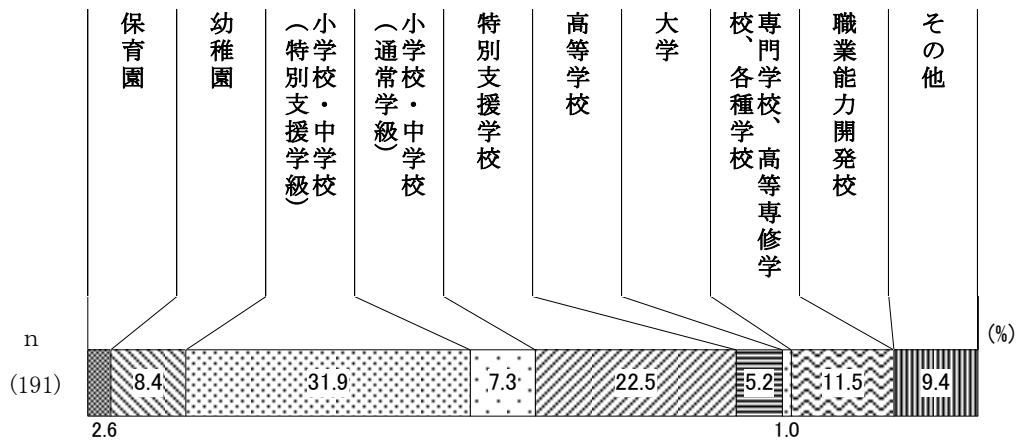
母親の就労状況は「正社員として働いている」は10.5%、「パート・アルバイトなどで働いている」(23.0%)をあわせた《就労中》は33.5%となっている。「働いていないが、できれば働きたい」は35.1%と《就労中》と同程度となっている。「働いていないし、その意向もない」は21.5%となっている。



(3) 通園・通学先

【問21で「通園・通学をしている」と回答した方に】

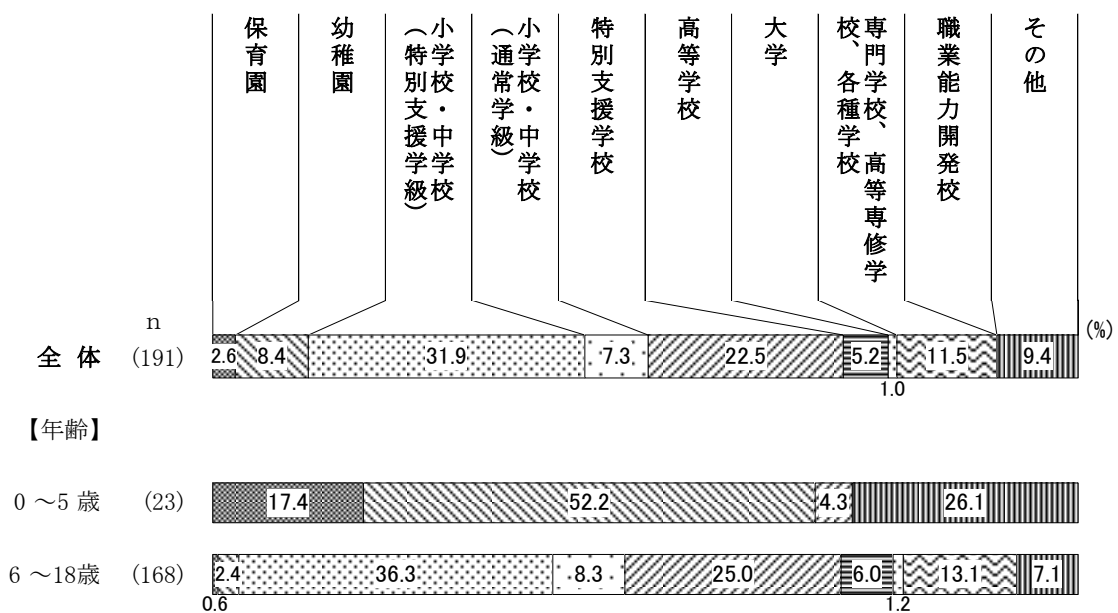
問23 通園・通学しているところはどこですか。(1つに○)



通園・通学先は「小学校・中学校 (特別支援学級)」が31.9%で最も多く、以下、「特別支援学校」(22.5%)、「専門学校、高等専修学校、各種学校」(11.5%)と続いている。

年齢別にみると、0～5歳は「幼稚園」が52.2%と多く、6～18歳は「小学校・中学校 (特別支援学級)」が36.3%、「特別支援学校」が25.0%となっている。

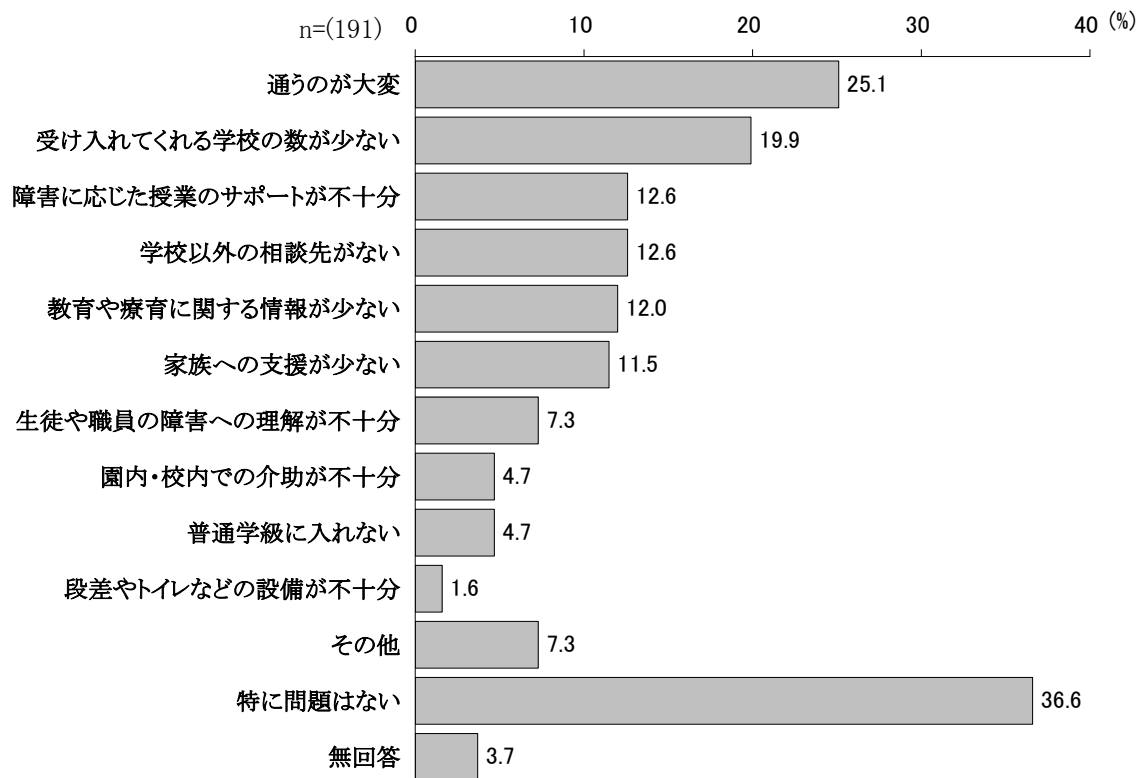
年齢別



## (4) 通園・通学する上で困っていること

【問21で「通園・通学をしている」と回答した方に】

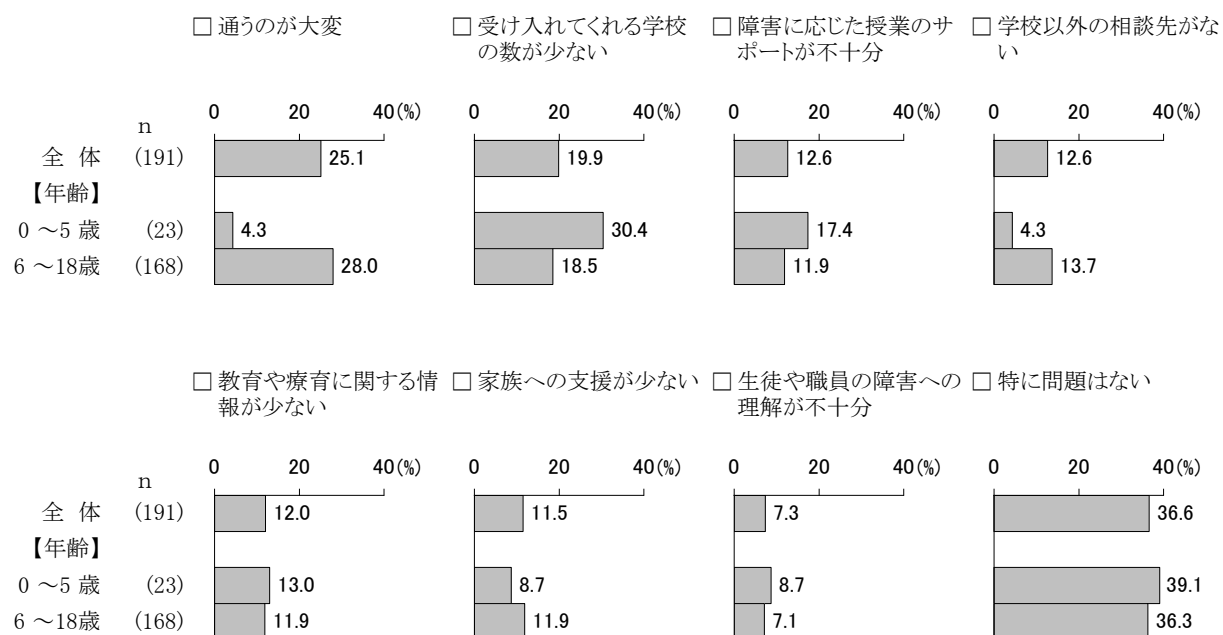
問24 通園・通学する上で困っていることはありますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)



通園・通学する上で困っていることは、「特に問題はない」が36.6%で最も多くなっている。実際に困っていることでは、「通うのが大変」が25.1%、「受け入れてくれる学校の数が少ない」が19.9%、「障害に応じた授業のサポートが不十分」、「学校以外の相談先がない」がともに12.6%となっている。

年齢別にみると、0～5歳では「受け入れてくれる学校の数が少ない」が30.4%、6～18歳では「通うのが大変」が28.0%となっている。また、「特に問題はない」はいずれの年齢でも3割台と比較的多くなっている。

年齢別（上位7項目＋「特に問題はない」）



(5) 放課後や休日のサービス利用状況

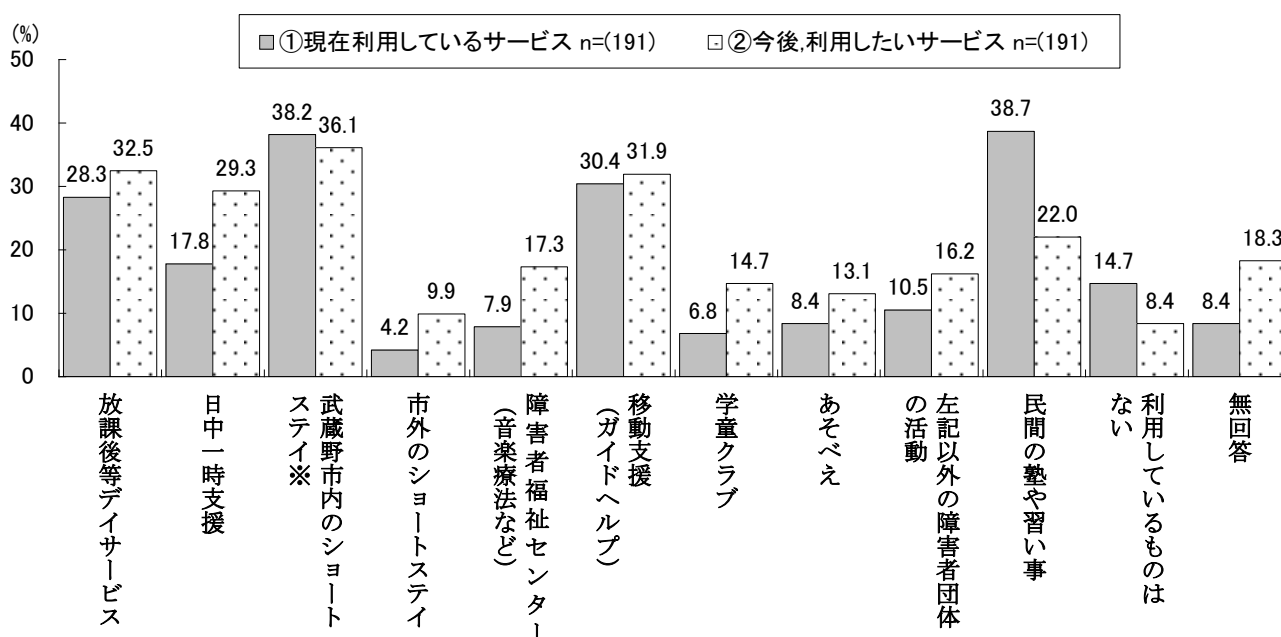
【問21で「通園・通学をしている」と回答した方に】

問25 放課後や休みの日、以下のサービスを利用していますか。

①現在の利用状況、②今後の利用意向、③希望する利用回数をお答えください。

(①、②はあてはまるものすべて、③は②の「放課後等デイサービス」または「日中一時支援」に○をつけた方)

①現在利用しているサービス／②今後、利用したいサービス



※武蔵野市内のショートステイ：桜はうす・今泉、井の頭はうす、なごみの家

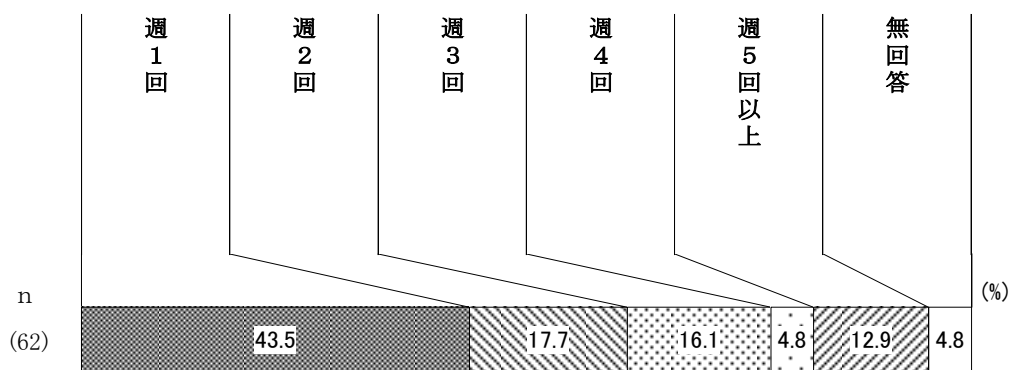
①現在利用しているサービスは、「民間の塾や習い事」が38.7%で最も多く、「武蔵野市内のショートステイ」(38.2%)がこれと並んでいる。以下、「移動支援(ガイドヘルプ)」(30.4%)、「放課後等デイサービス」(28.3%)、「日中一時支援」(17.8%)と続いている。また、「利用しているものはない」は14.7%となっている。

②今後、利用したいサービスは、「武蔵野市内のショートステイ」が36.1%で最も多く、以下、「放課後等デイサービス」(32.5%)、「移動支援(ガイドヘルプ)」(31.9%)、「日中一時支援」(29.3%)、「民間の塾や習い事」(22.0%)が続いている。

現在利用しているサービスと今後、利用したいサービスを比較すると、現在よりも今後の希望が伸びているサービスとしては、「日中一時支援」(11.5ポイント増)、「障害者福祉センター(音楽療法など)」(9.4ポイント増)、「学童クラブ」(7.9ポイント増)などが目立っている。「民間の塾や習い事」は現在よりも希望が16.7%減少している。

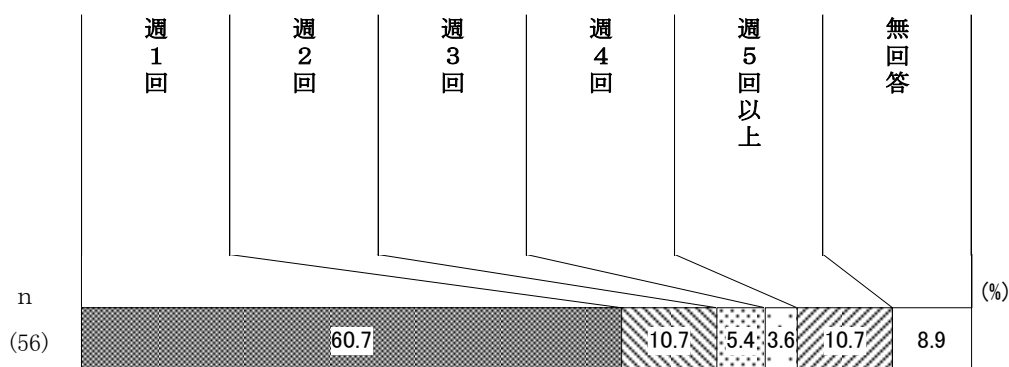
③希望する利用希望回数

(1) 放課後等デイサービス



放課後等デイサービスを希望する利用回数は、「週1回」が43.5%で最も多くなっている。週2回以上は合計51.5%となり、週当たりの希望平均利用回数は2.2回となっている。

(2) 日中一時支援

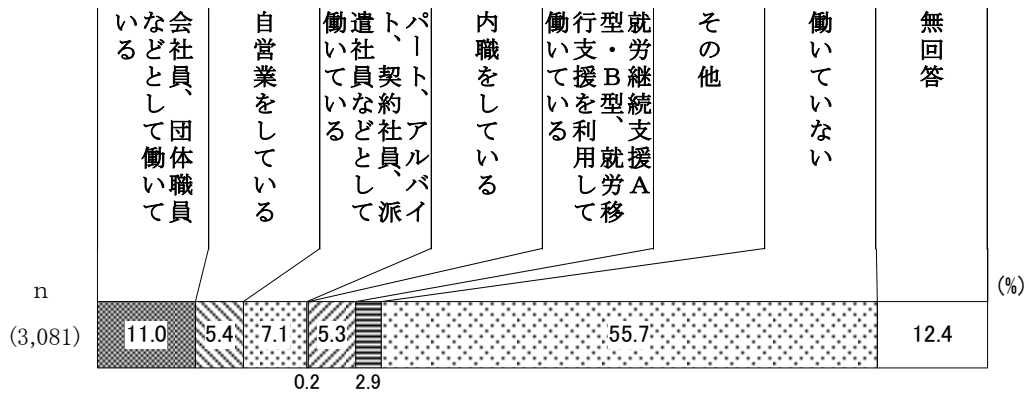


日中一時支援を希望する利用回数は、「週1回」が60.7%で最も多くなっている。週2回以上の合計は30.4%となり、週当たりの希望利用平均回数は1.9回となっている。

## 7. 就労について

### (1) 就労状況

問26 あなたは、現在、どのように働いていますか。(1つに○)

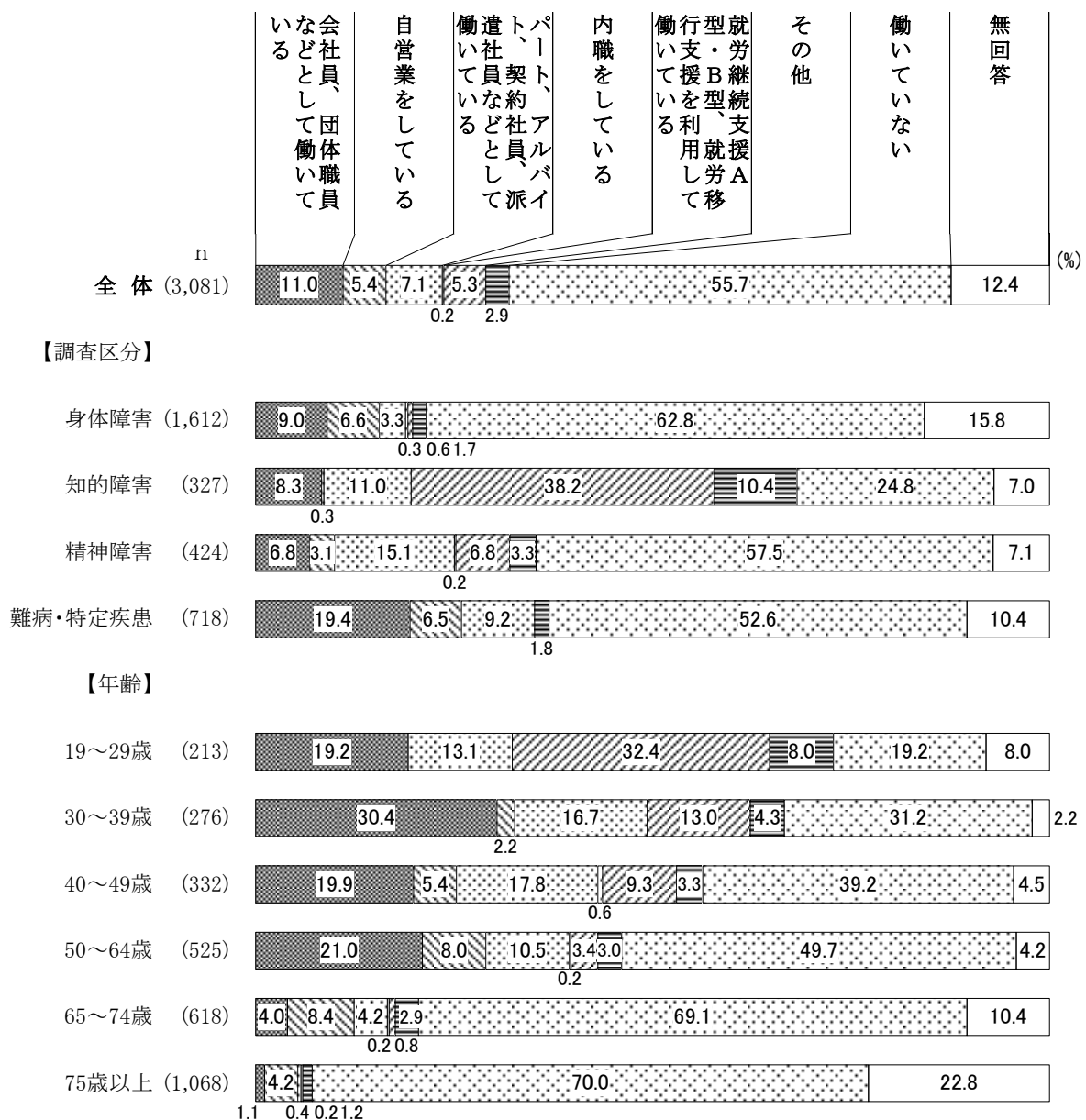


現在通園・通学していない人に、現在の就労状況を聞いたところ、全体では「働いていない」が55.7%で最も多く、「会社員、団体職員などとして働いている」が11.0%となっている。

調査区分別にみると、「働いていない」は身体障害が62.8%で、精神障害（57.5%）と難病・特定疾患（52.6%）で5割台となっている。「会社員、団体職員などとして働いている」は難病・特定疾患で19.4%、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」は知的障害（11.0%）と精神障害（15.1%）で1割台と他の調査区分より多くなっている。また、知的障害では「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用して働いている」が38.2%と多くなっている。

年齢別にみると、19歳から49歳の年齢にかけては就労している人の方が多い。65歳以上は「働いていない」が多数となる。就労の形態としては、19～29歳は「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用して働いている」が、30～39歳は「会社員、団体職員などとして働いている」が多い。

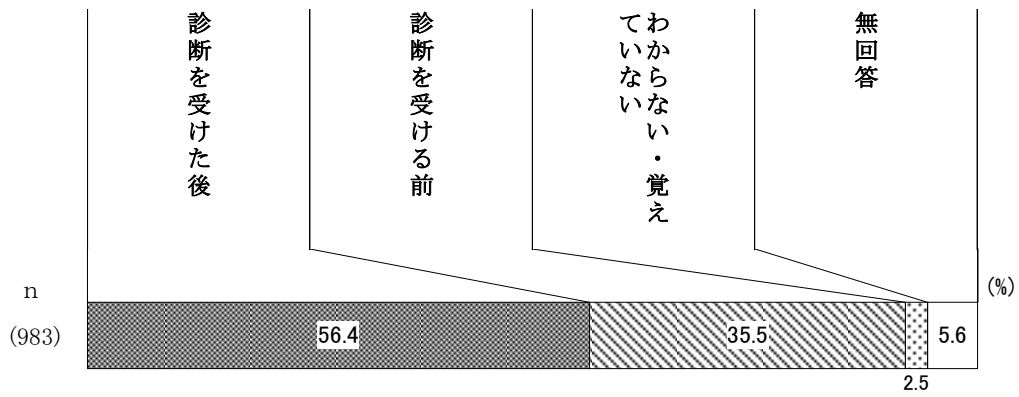
調査区分別、年齢別



(2) 現在の職場への就職時期

【問26で「働いていない」以外を回答した方にお聞きします。】

問27 現在の職場に就職したのは、疾患や障害の診断を受ける後でしたか。(1つに○)



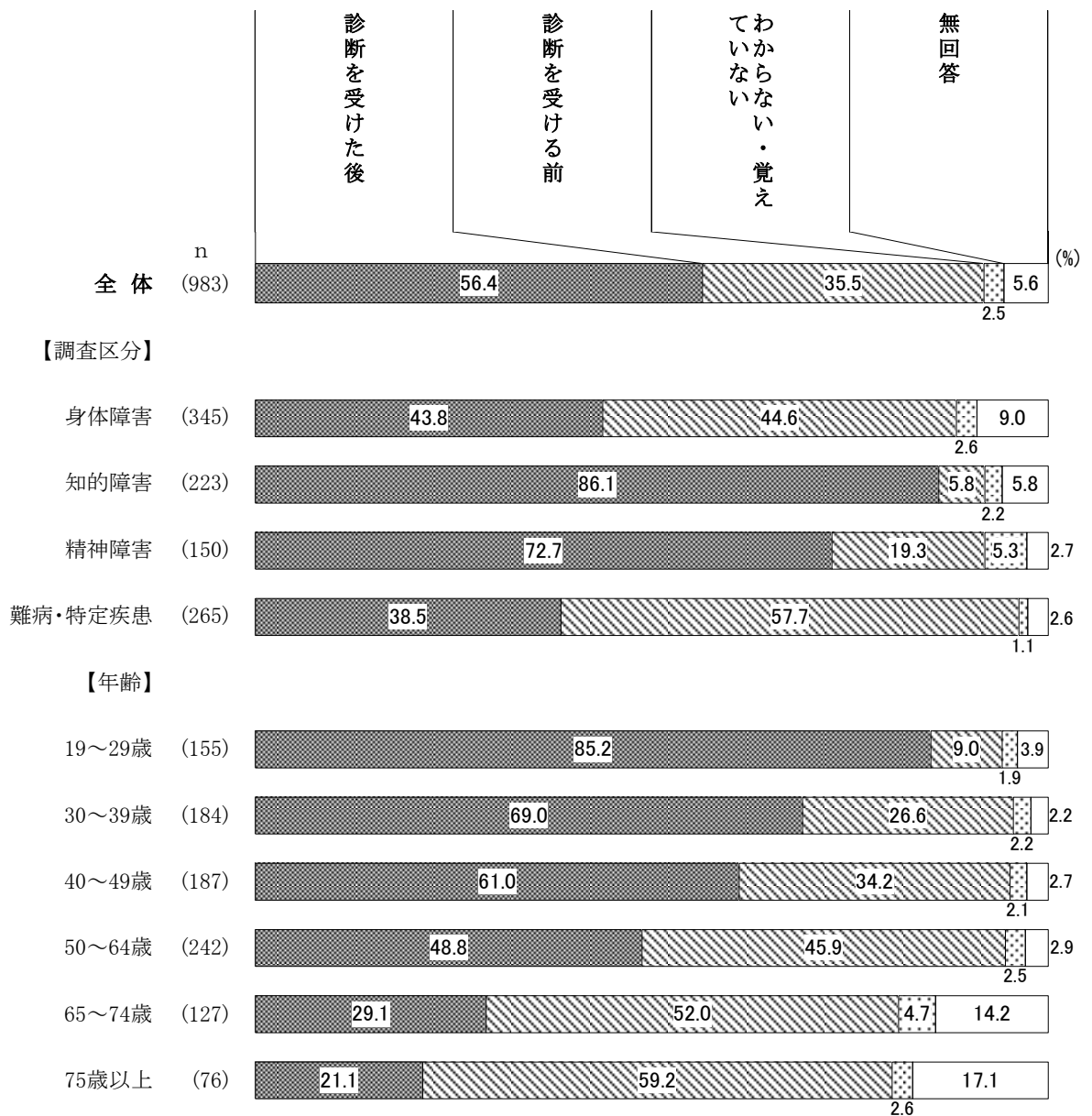
現在の職場に就職したのは、疾患や障害の「診断を受けた後」が56.4%、「診断を受ける前」が35.5%となっている。



調査区分別にみると、「診断を受けた後」は知的障害が86.1%を占めて多く、精神障害でも72.7%となっている。一方、「診断を受ける前」は難病・特定疾患が57.7%と多く、身体障害でも44.6%となっている。

年齢別にみると、「診断を受けた後」は19～29歳で85.2%と多く、40～49歳まで6割以上となっているが、50歳以上の年齢では半数以下となっている。

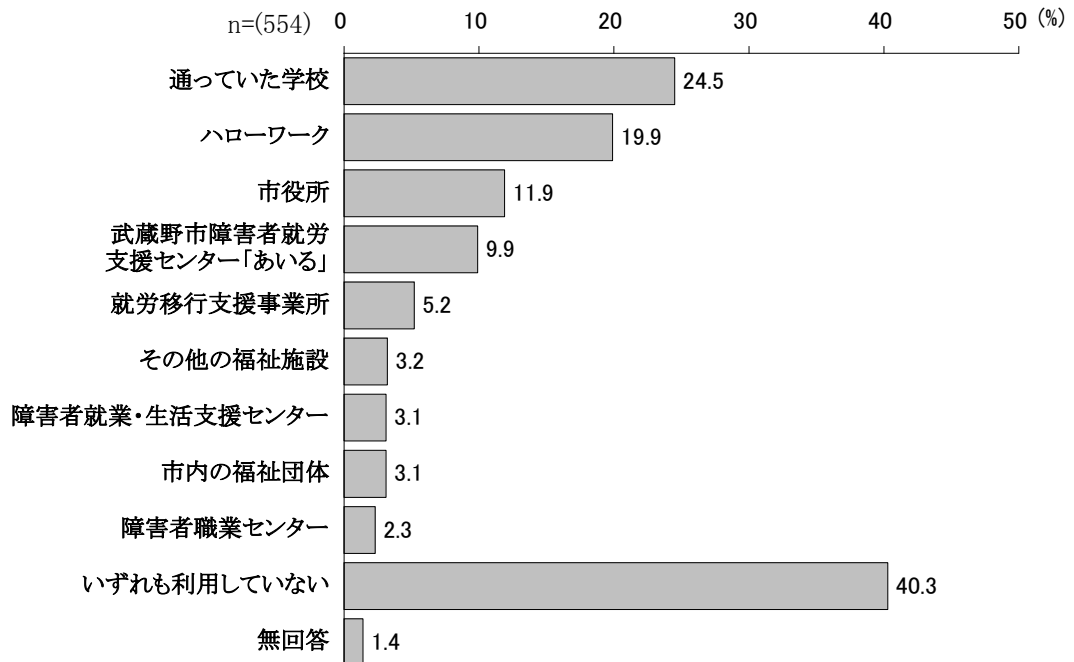
調査区分別、年齢別



(3) 就職の際に利用した機関

【問27で「診断を受けた後」と回答した方にお聞きします。】

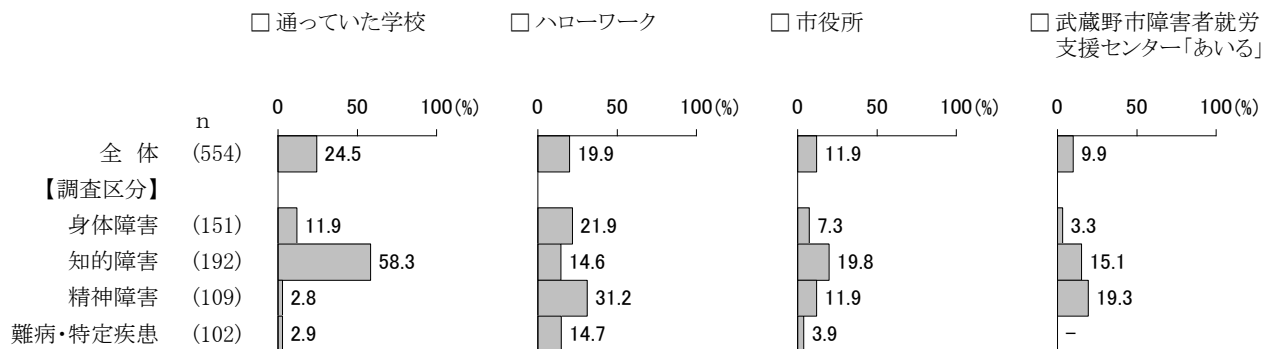
問27-1 就職する際に以下の機関を利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)



就職する際に利用した機関は、「いずれも利用していない」が40.3%で最も多くなっている。利用したものでは、「通っていた学校」が24.5%、「ハローワーク」が19.9%、「市役所」が11.9%、「武蔵野市障害者就労支援センター『あいる』」が9.9%となっている。

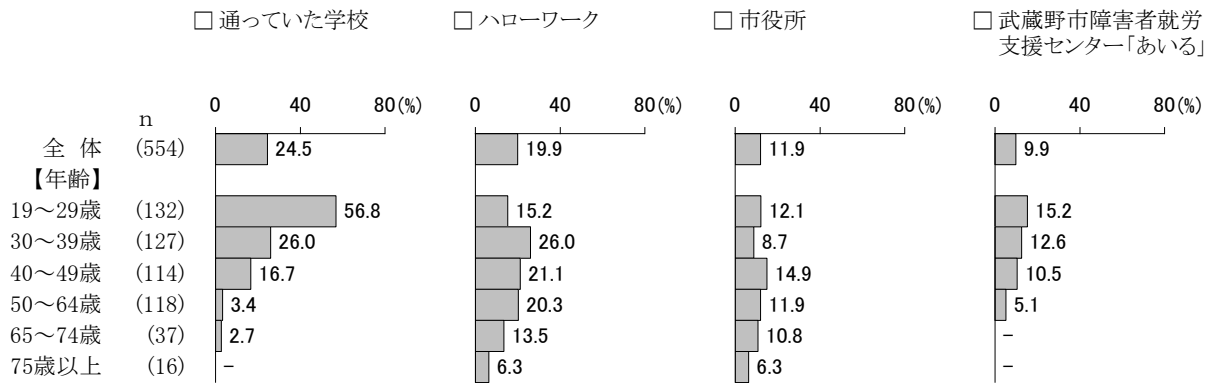
調査区分別にみると、「通っていた学校」は知的障害が58.3%と特に多く、「ハローワーク」は精神障害で31.2%、「武蔵野市障害者就労支援センター『あいる』」は知的障害と精神障害で1割台と他の調査区分より多くなっている。

調査区分別 (上位4項目)



年齢別にみると、29歳までは「通っていた学校」が半数以上となっているが、30～39歳では2割台に下がっている。「ハローワーク」は30～64歳の年齢にかけて2割台となっている。

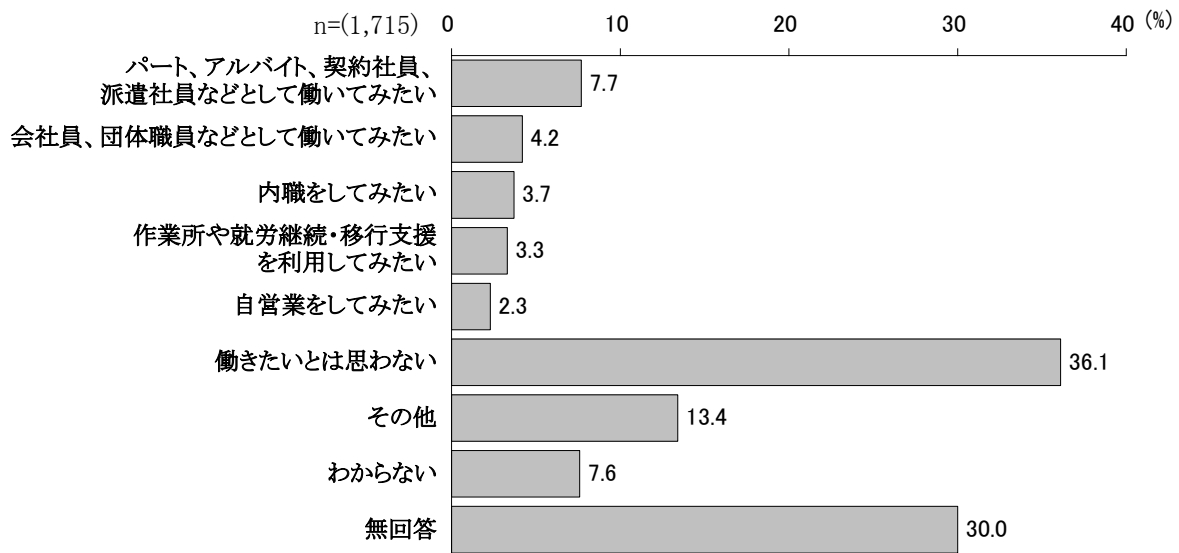
年齢別（上位4項目）



## (4) 今後の就労意向

【問26で「働いていない」と回答した方にお聞きします。】

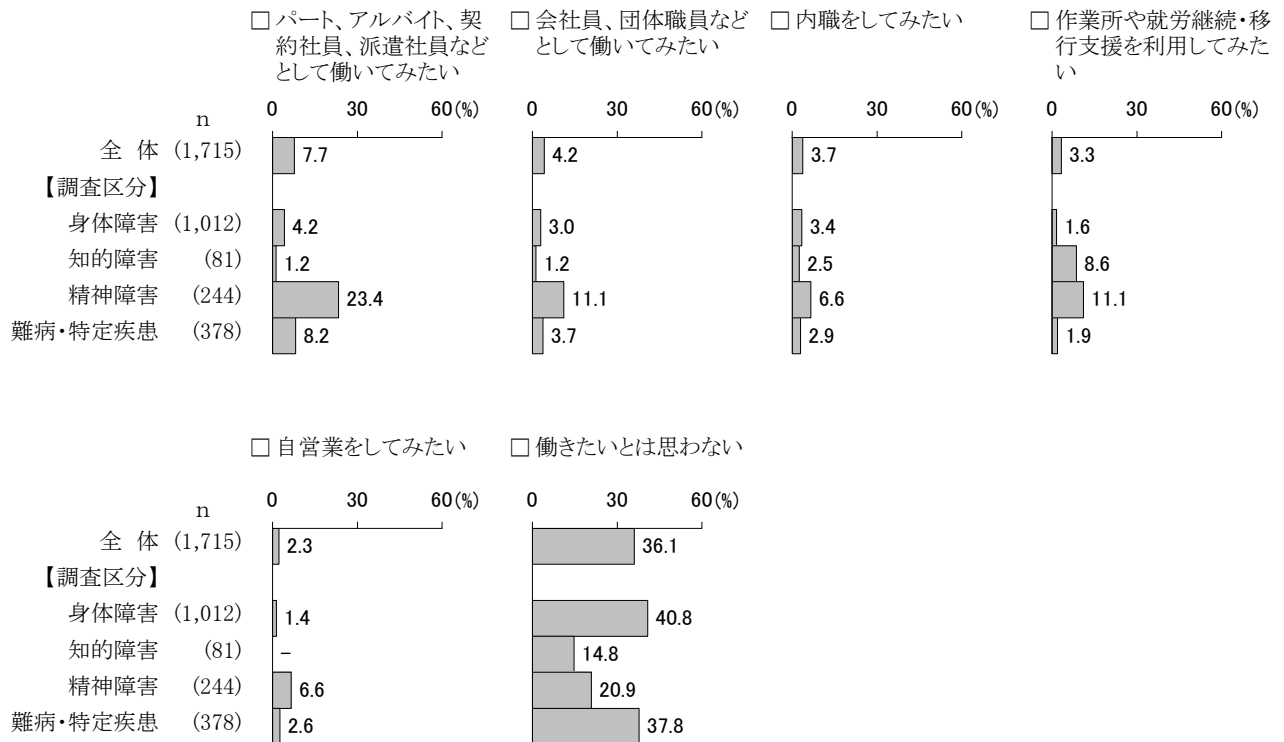
問28 あなたは今後、どこかで働いてみたいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)



今後の就労意向としては、「働きたいとは思わない」が36.1%で特に多くなっている。働きたいという意向のものでは、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」が7.7%で最も多くなっている。

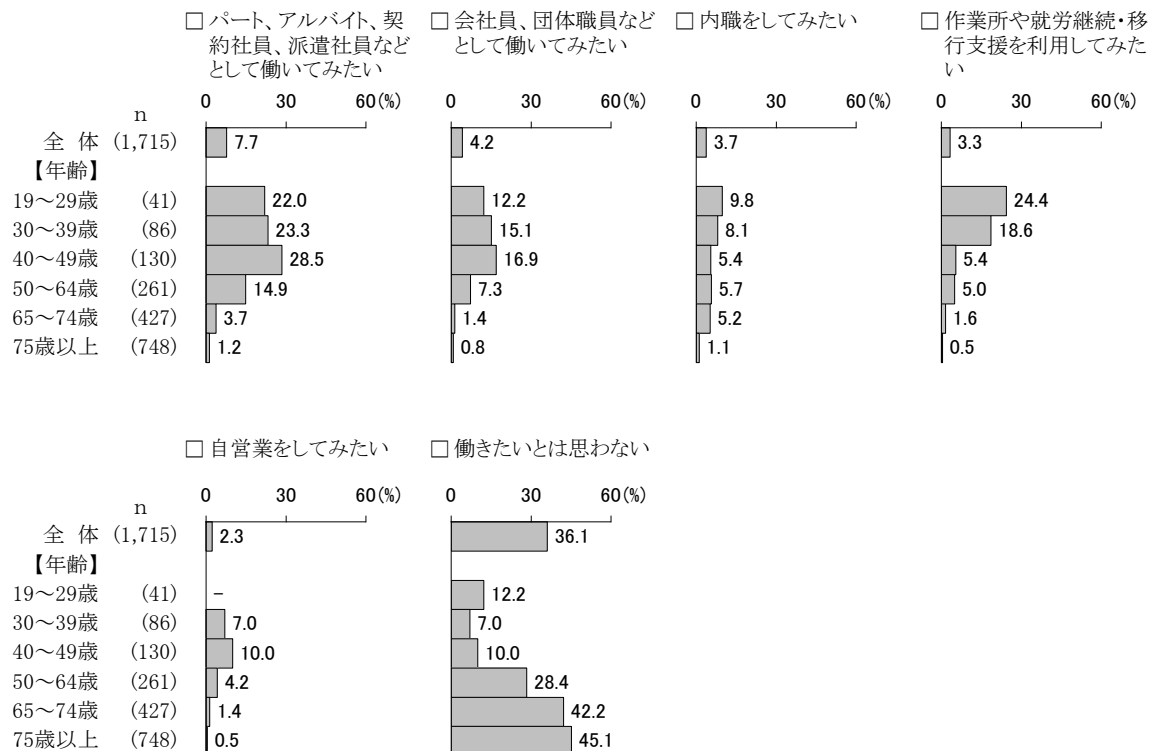
調査区分別にみると、精神障害では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」(23.4%)、「会社員、団体職員などとして働いてみたい」(11.1%)が他の調査区分より多くなっている。また、知的障害と精神障害では「作業所や就労継続・移行支援を利用してみたい」が1割前後あげられている。「働きたいとは思わない」は身体障害(40.8%)と難病・特定疾患(37.8%)で4割前後と多くなっている。

調査区分別



年齢別にみると、19～49歳の年齢にかけて「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」は2割台、「会社員、団体職員などとして働いてみたい」が1割台となっている。「作業所や就労継続・移行支援を利用してみたい」は19～29歳で24.4%、30～39歳で18.6%と多い。「働きたいとは思わない」は65歳以上で4割台と多い。

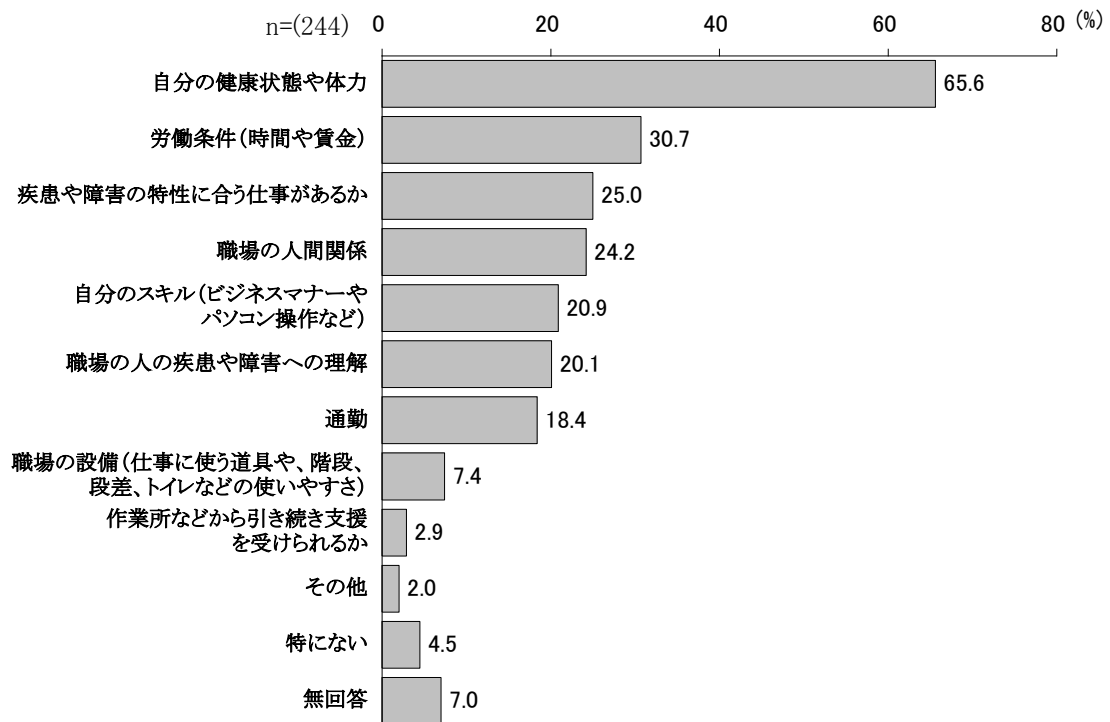
年齢別



## (5) 就労の際に心配なこと

【問28で「会社員、団体職員などとして働いてみたい」、「自営業をしてみたい」、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」、「内職をしてみたい」、「作業所や就労継続・移行支援を利用してみたい」と回答した方にお聞きします。】

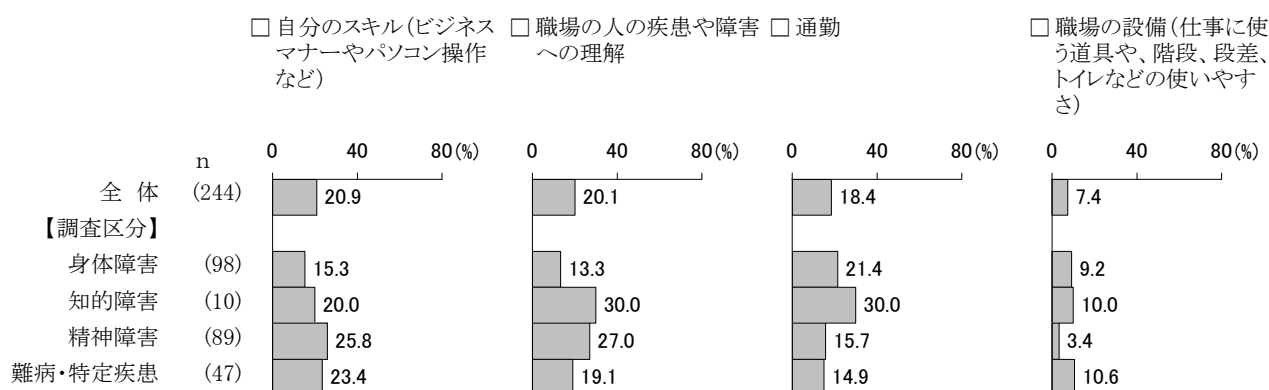
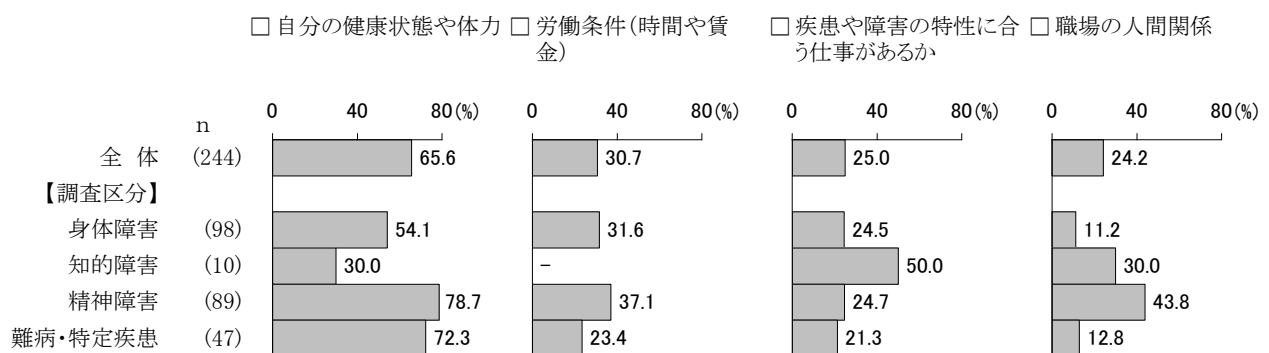
問28-1 働くにあたって、特に心配なことはありますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)



働くにあたって、特に心配なことは、「自分の健康状態や体力」が65.6%で特に多く、以下、「労働条件」(30.7%)、「疾患や障害の特性に合う仕事があるか」(25.0%)、「職場の人間関係」(24.2%)、「自分のスキル」(20.9%)などが続いている。

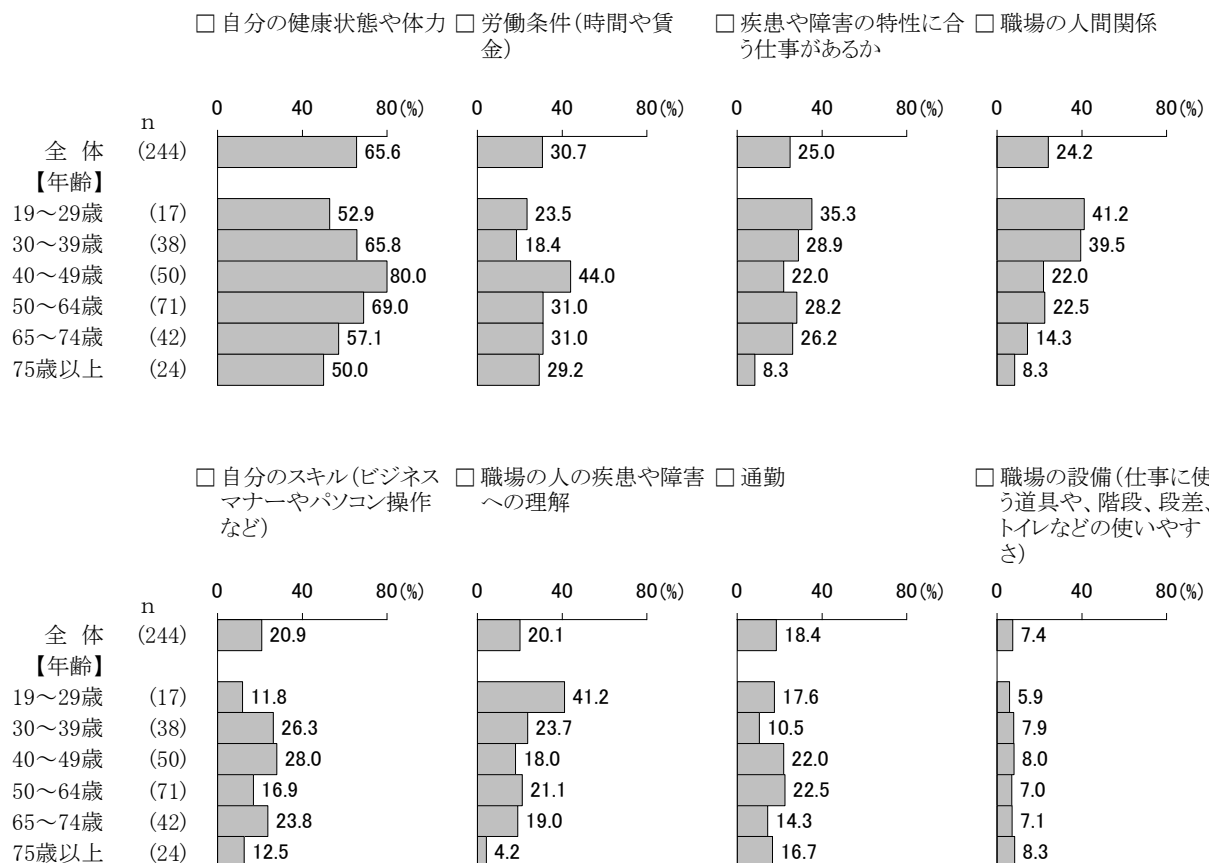
調査区分別にみると、「自分の健康状態や体力」は精神障害（78.7%）と難病・特定疾患（72.3%）で7割台と特に多く、身体障害でも54.1%となっている。「疾患や障害の特性に合う仕事があるか」は知的障害で50.0%と特に多く、「職場の人間関係」は精神障害で43.8%、知的障害でも30.0%と多くなっている。

調査区分別（上位8項目）



年齢別にみると、「自分の健康状態や体力」は年齢に関わらず多いが、特に40～49歳で80.0%と多くなっている。また、この年齢は「労働条件」(44.0%)も多くあげられている。19～29歳と30～39歳の若年層からは「疾患や障害の特性に合う仕事があるか」、「職場の人間関係」、「職場の人の疾患や障害への理解」が他の年齢より多くなっている。

### 年齢別（上位8項目）

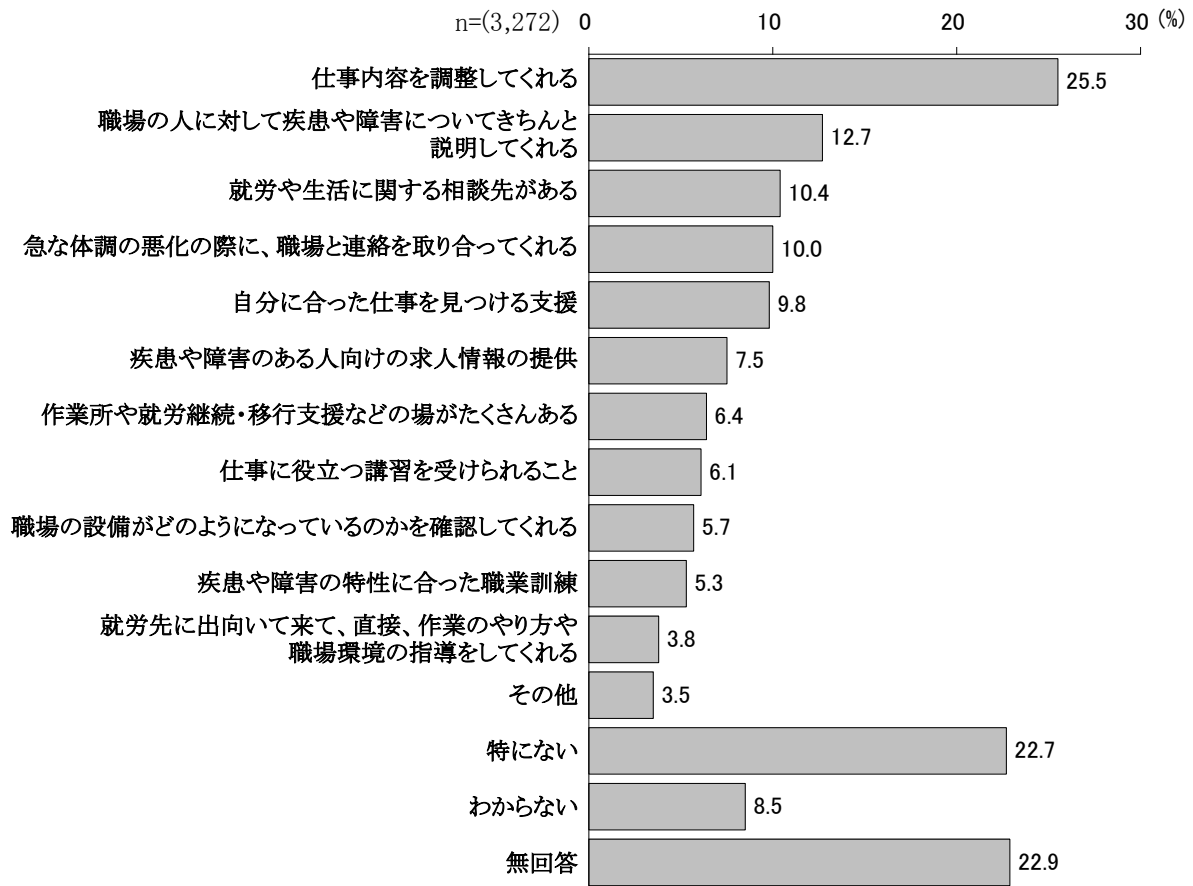




## (6) 必要な就労支援

問29 あなたが働く際、特にどのような支援があったらよいと思いますか。

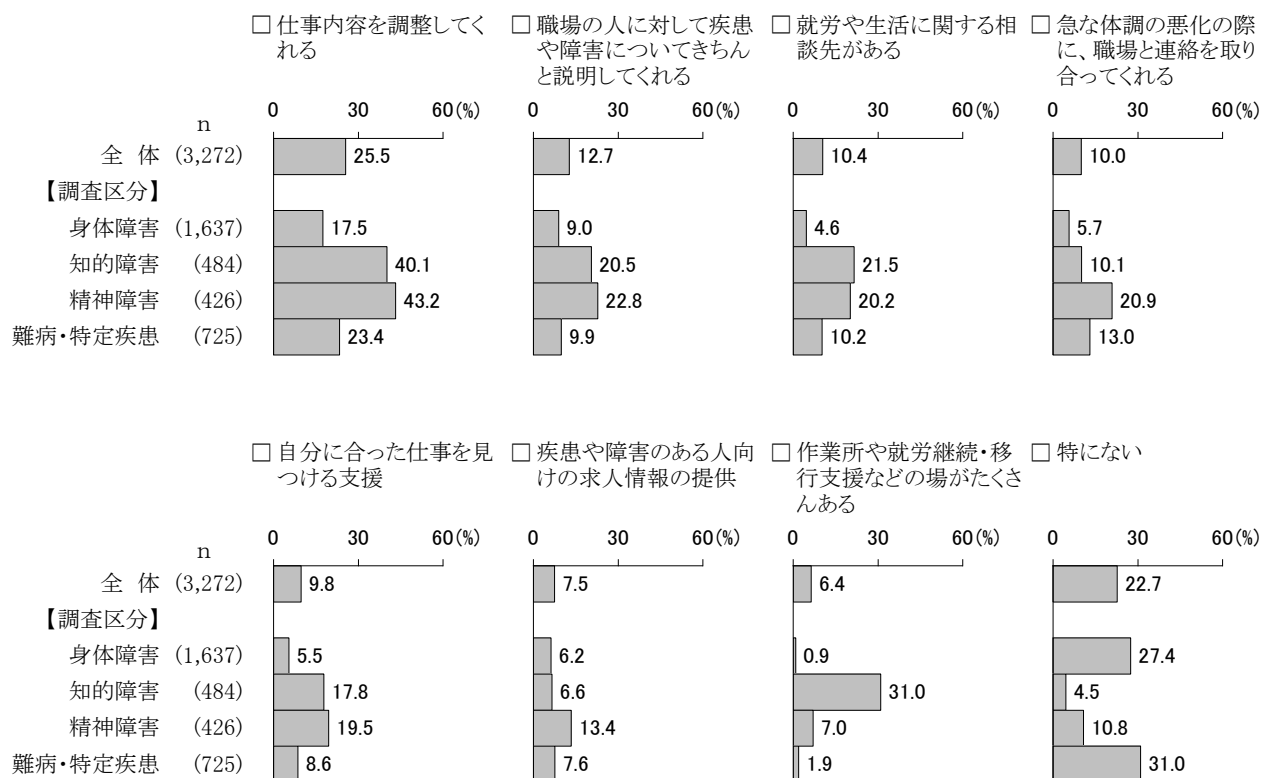
(主にあてはまるもの3つまでに○)



働く際にどのような支援があったらよいと思うか聞いたところ、「仕事内容を調整してくれる」が25.5%で最も多い。以下、「職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる」(12.7%)、「就労や生活に関する相談先がある」(10.4%)、「急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる」(10.0%)、「自分に合った仕事を見つける支援」(9.8%)が1割前後で続いている。また、「特にない」が22.7%となっている。

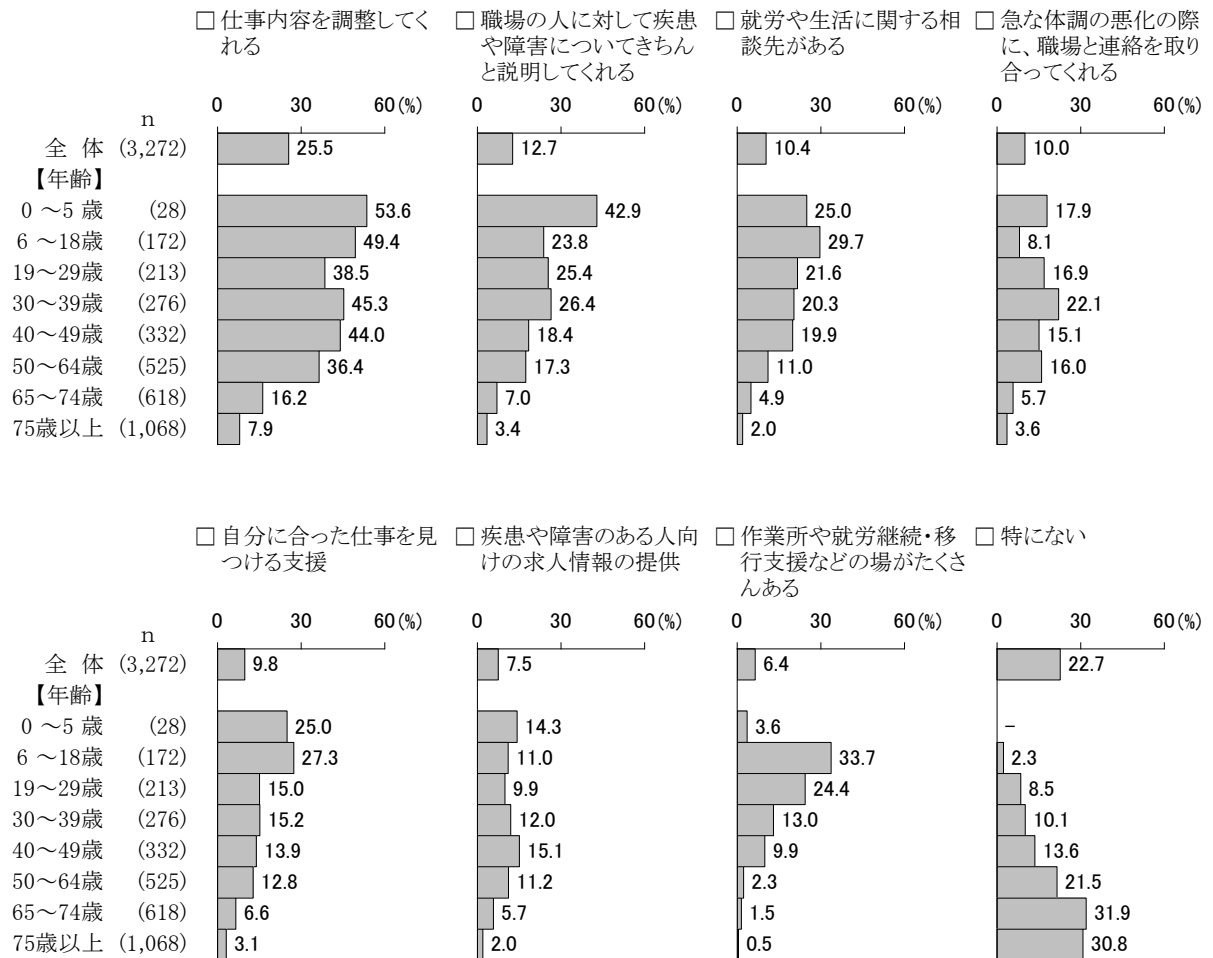
調査区別にみると、知的障害と精神障害では「仕事内容を調整してくれる」が4割台、「職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる」、「就労や生活に関する相談先がある」、「自分に合った仕事を見つける支援」が2割前後で他の調査区分より多くなっている。また、「急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる」は精神障害で20.9%、「作業所や就労継続・移行支援などの場がたくさんある」は知的障害で31.0%と多くなっている。なお、「特にない」は身体障害と難病・特定疾患で3割前後と多くなっている。

調査区分別（上位7項目+「特にない」）



年齢別にみると、「仕事内容を調整してくれる」、「職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる」、「就労や生活に関する相談先がある」、「自分に合った仕事を見つける支援」、「作業所や就労継続・移行支援などの場がたくさんある」などは年齢が上がるとともに少なくなる傾向があるが、「特にない」は年齢が上がるとともに多くなっている。

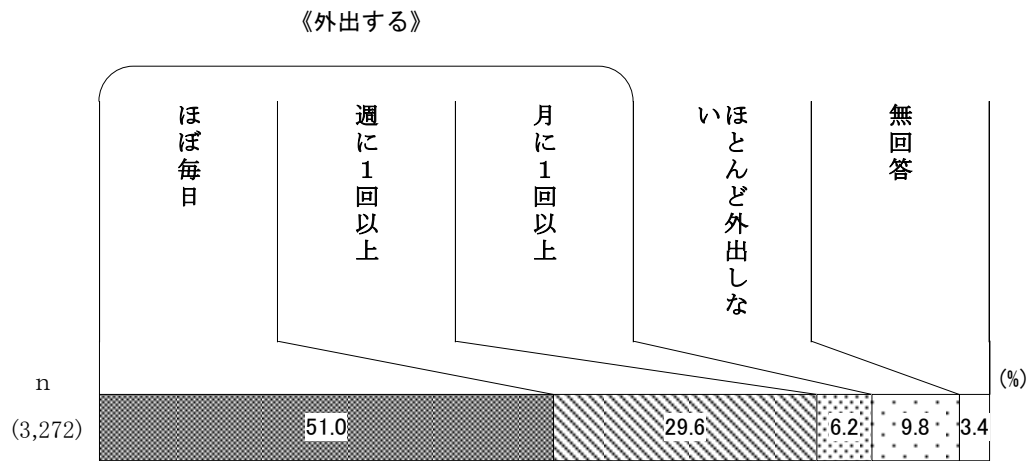
年齢別（上位7項目+「特にない」）



## 8. 外出の状況について

### (1) 外出頻度

問30 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)

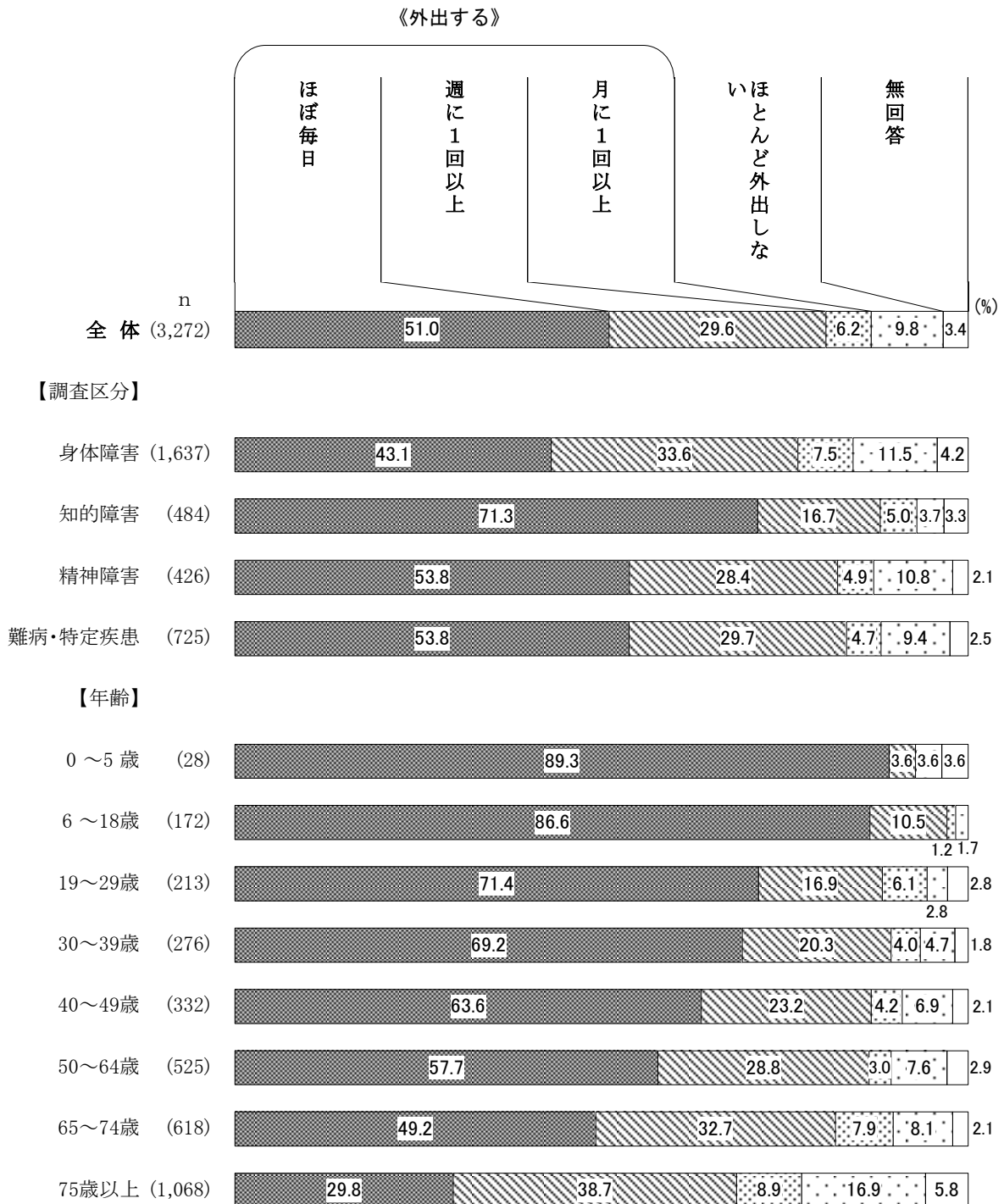


普段の外出頻度をみると、「ほぼ毎日」が51.0%、「週に1回以上」が29.6%、「月に1回以上」が6.2%となっており、月1回以上《外出する》人は86.8%となっている。

調査区分別にみると、《外出する》はいずれも8割以上と多く、「ほぼ毎日」は知的障害が71.3%と多い。

年齢別にみると、《外出する》は49歳以下の年齢では9割台、50歳から74歳の年齢にかけてもほぼ9割となっている。「ほぼ毎日」は18歳以下の年齢で8割台、19～29歳と30～39歳で7割前後と多いが、年齢が上がるとともに少なくなる。

調査区分別、年齢別

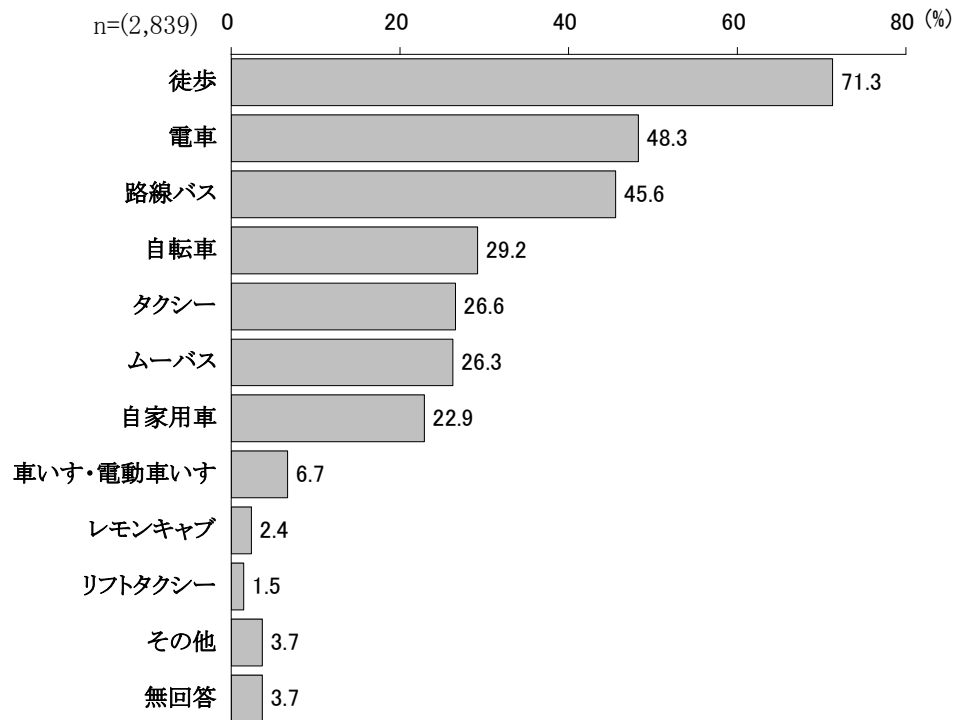


## (2) 外出の際の移動手段

【問30で「ほぼ毎日」、「週に1回以上」、「月に1回以上」と回答した方にお聞きします。】

問30-1 外出する時に利用する移動手段は次のうちどれですか。

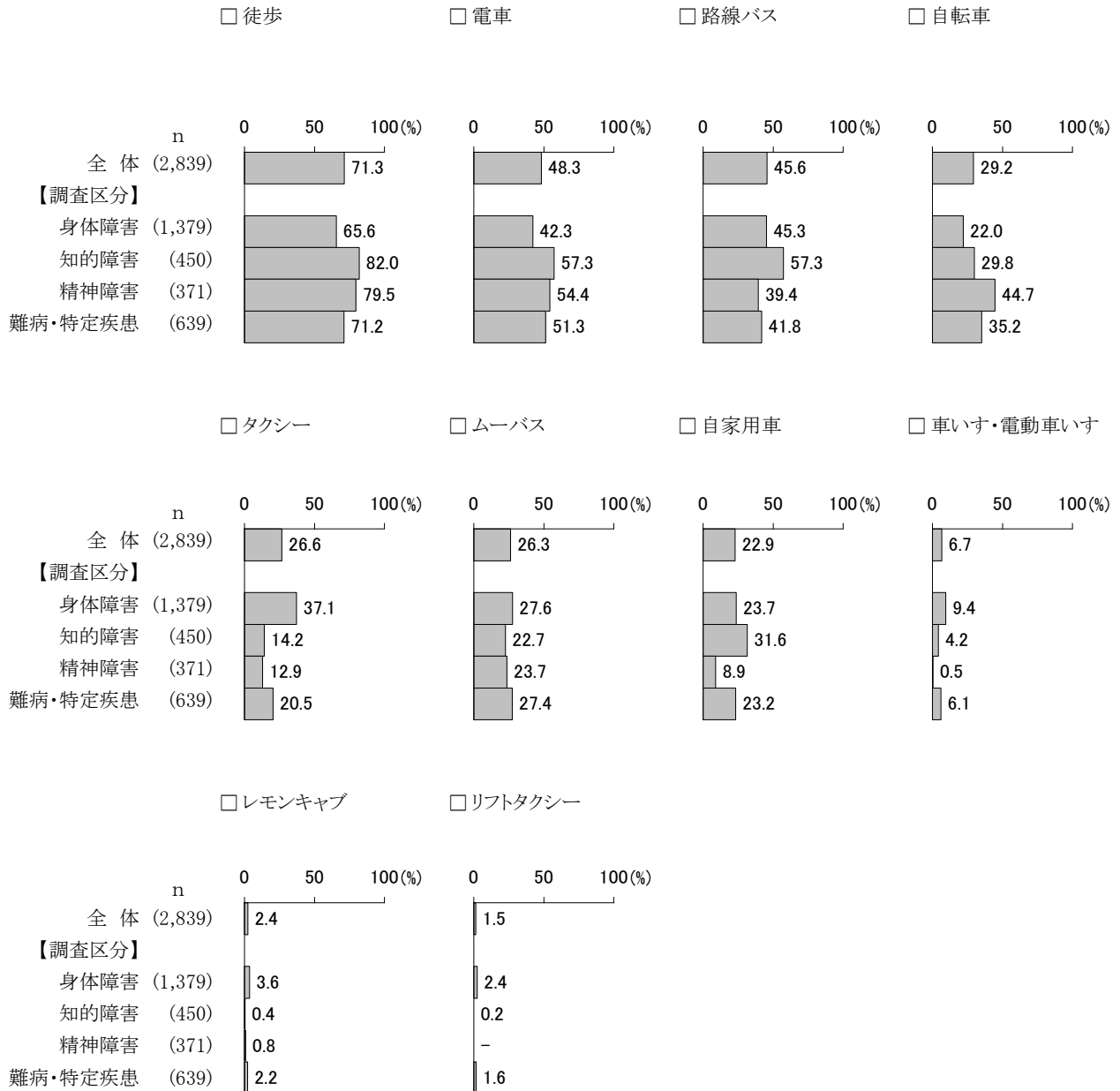
(あてはまるものすべてに○)



外出する時に利用する移動手段は、「徒歩」が71.3%で最も多く、以下、「電車」(48.3%)、「路線バス」(45.6%)が4割台、「自転車」(29.2%)、「タクシー」(26.6%)、「ムーバス」(26.3%)、「自家用車」(22.9%)が2割台で続いている。

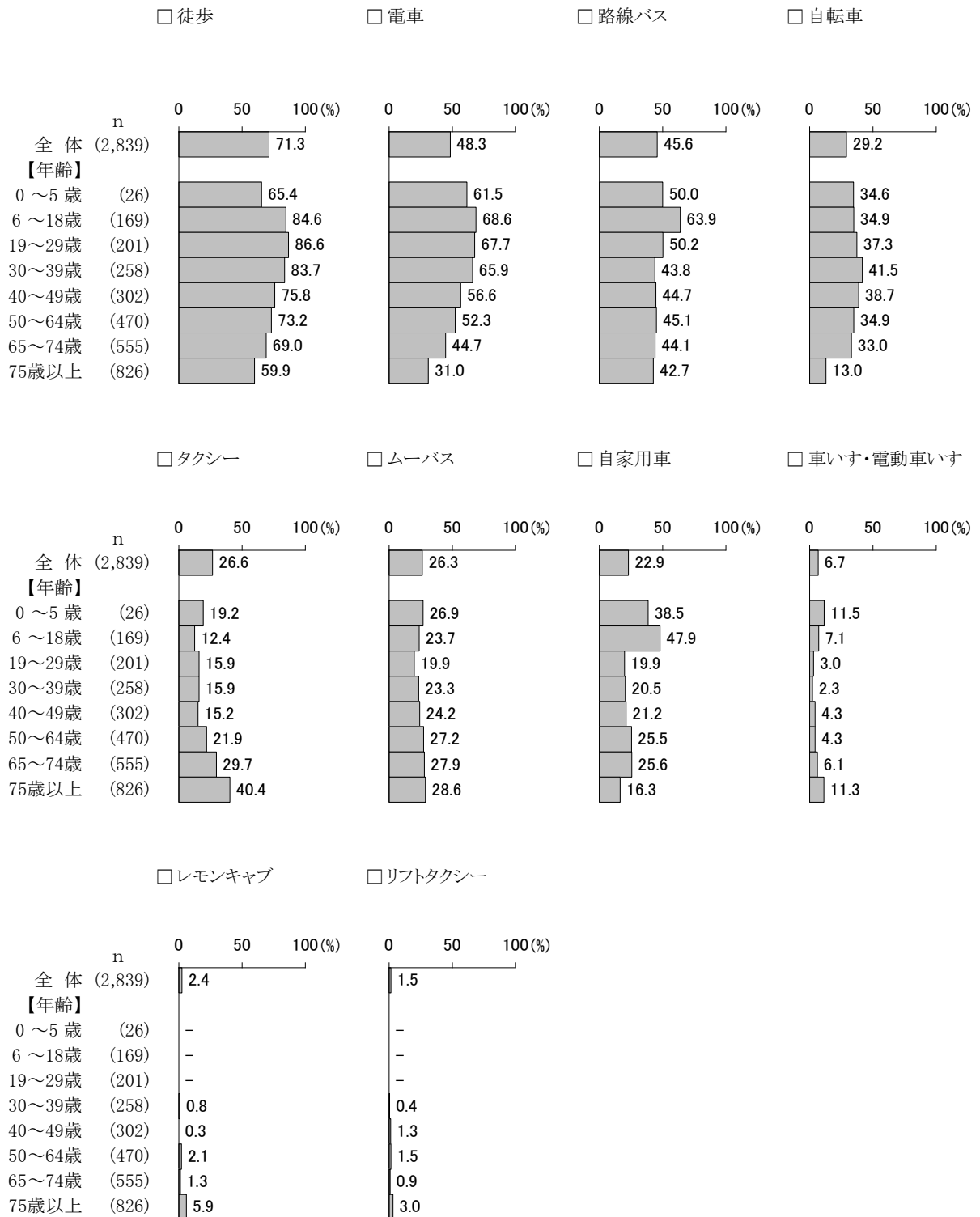
調査区分別にみると、いずれの調査区分でも「徒歩」や「電車」、「路線バス」の公共交通機関が中心である。精神障害では「自転車」が44.7%、身体障害では「タクシー」が37.1%と他の調査区分より多くなっている。

調査区分別



年齢別にみると、「徒歩」と「電車」は39歳までで多くなっているが、以降、年齢が上がるとともに少なくなる。「路線バス」や「自転車」、「ムーブス」は幅広い年齢で利用されている。65歳以上の年齢では「タクシー」が他の年齢より多くなっている。

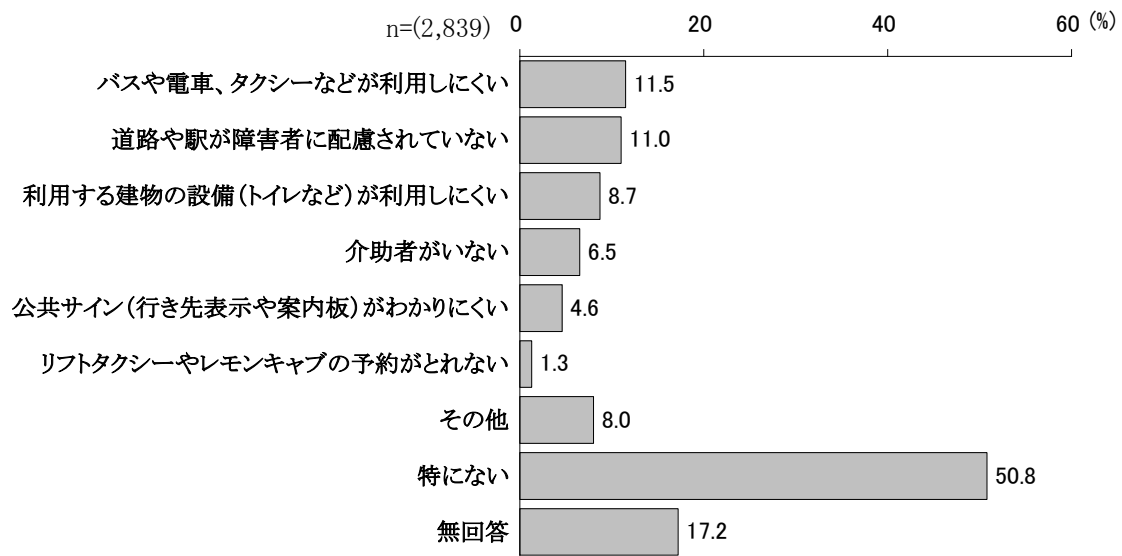
年齢別





## (3) 外出時に困ること

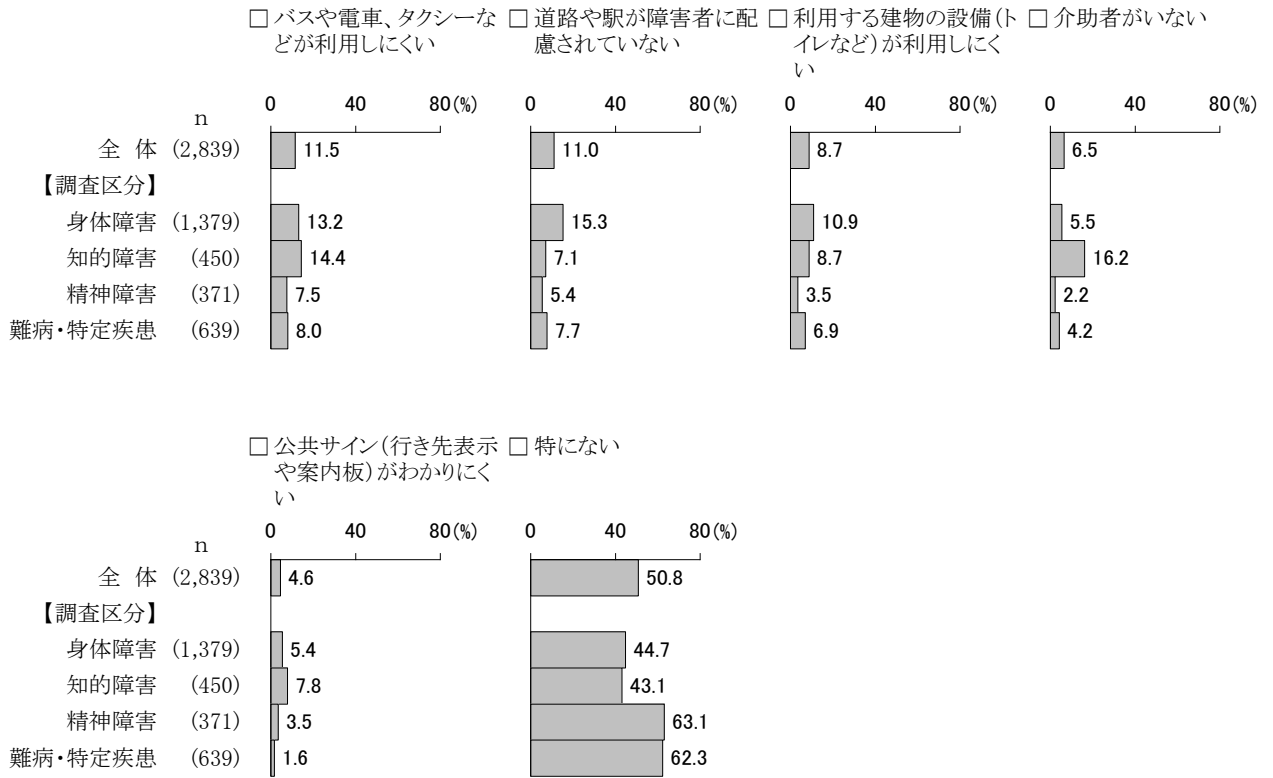
【問30で「ほぼ毎日」、「週に1回以上」、「月に1回以上」と回答した方にお聞きします。】  
 問30-2 あなたが外出時に困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



外出時に困ることは、「特にない」が50.8%と最も多くなっている。困ることでは、「バスや電車、タクシーなどが利用しにくい」が11.5%、「道路や駅が障害者に配慮されていない」が11.0%となっている。

調査区別にみると、身体障害では「道路や駅が障害者に配慮されていない」(15.3%)、知的障害では「介助者がいない」(16.2%)が他の調査区分より多くなっている。また、「特にない」は精神障害と難病・特定疾患で6割台となっている。

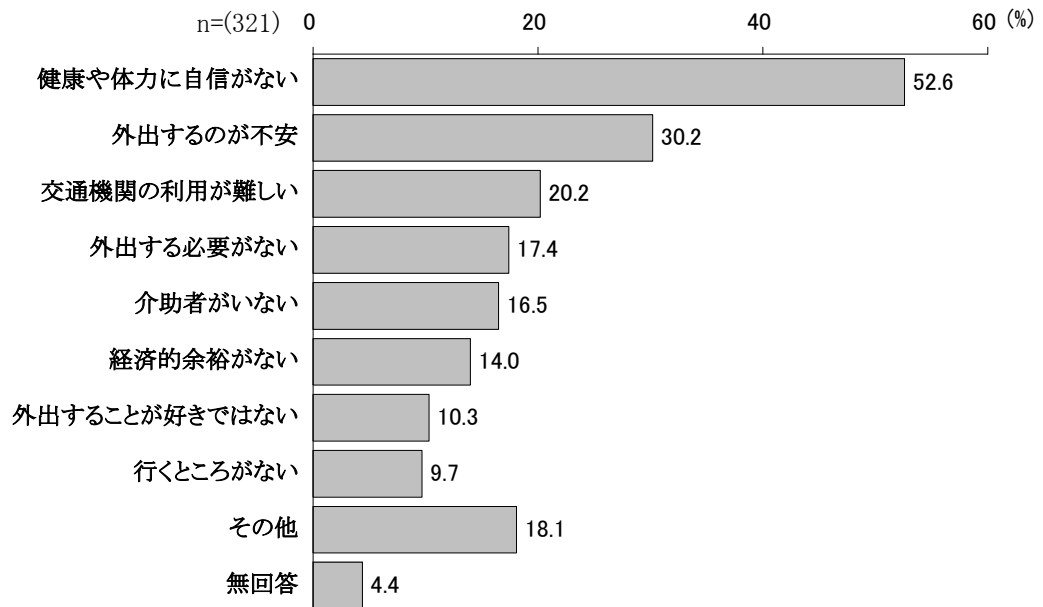
調査区分別（上位5項目+「特にない」）



## (4) 外出しない理由

【問30で「ほとんど外出しない」と回答した方にお聞きします。】

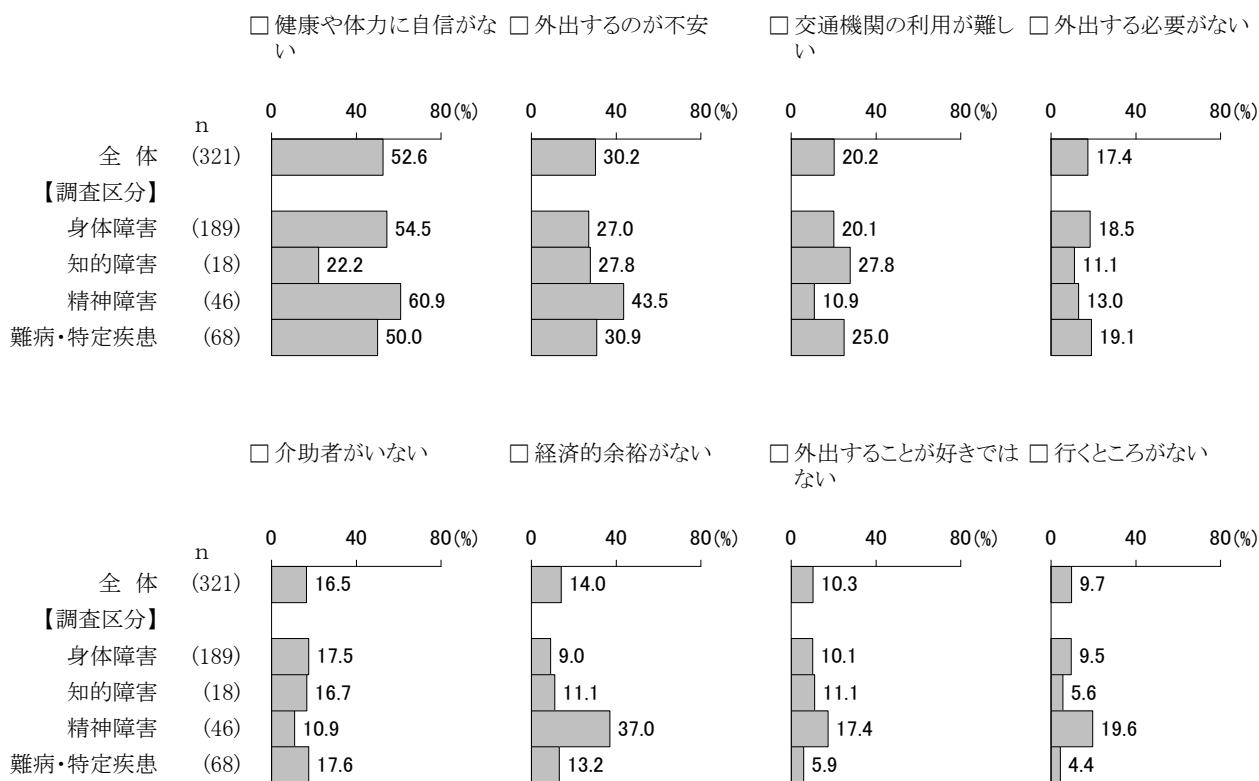
問30-3 あなたが外出しない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)



外出しない理由は、「健康や体力に自信がない」が52.6%で特に多く、以下、「外出するのが不安」(30.2%)、「交通機関の利用が難しい」(20.2%)、「外出する必要がある」(17.4%)、「介助者がいない」(16.5%)などが続いている。

調査区分別にみると、「健康や体力に自信がない」は精神障害で60.9%、身体障害と難病・特定疾患では5割台となっている。精神障害では「外出するのが不安」(43.5%)、「経済的余裕がない」(37.0%)、「行くところがない」(19.6%)が他の調査区分より多くなっている。

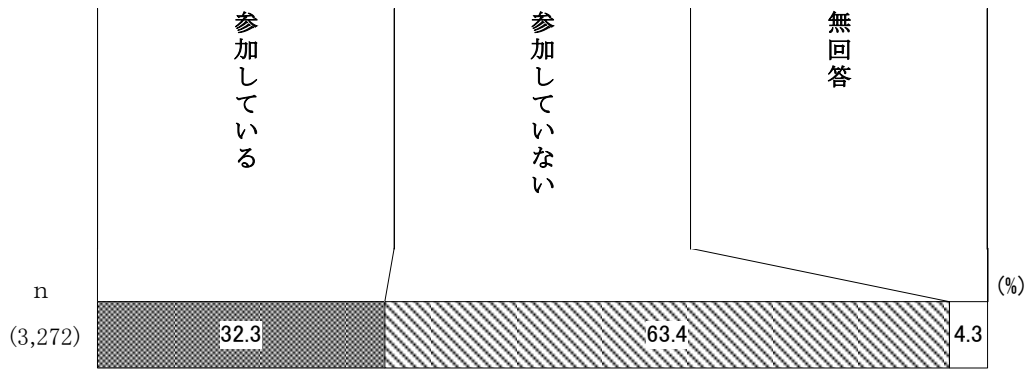
調査区分別（上位8項目）



## 9. 趣味の活動や地域の活動について

### (1) 趣味などの活動への参加状況

問31 あなたは現在、趣味などの活動に参加していますか。(1つに○)

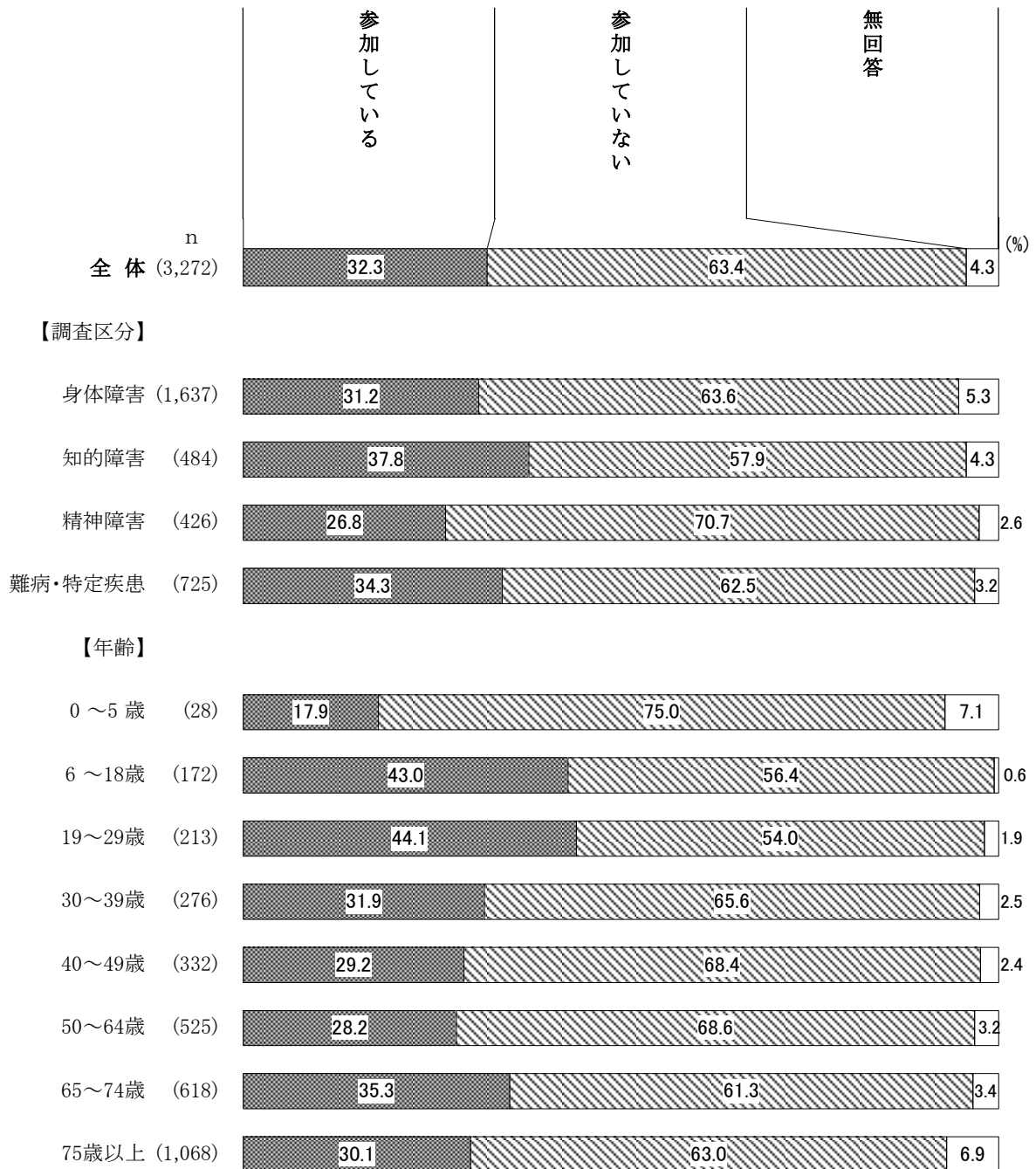


現在、趣味などの活動に「参加している」は32.3%、「参加していない」は63.4%となっている。

調査区分別にみると、「参加している」は精神障害で26.8%とやや少ない。

年齢別にみると、「参加している」は6～18歳と19～29歳で4割台と比較的多くなっている。

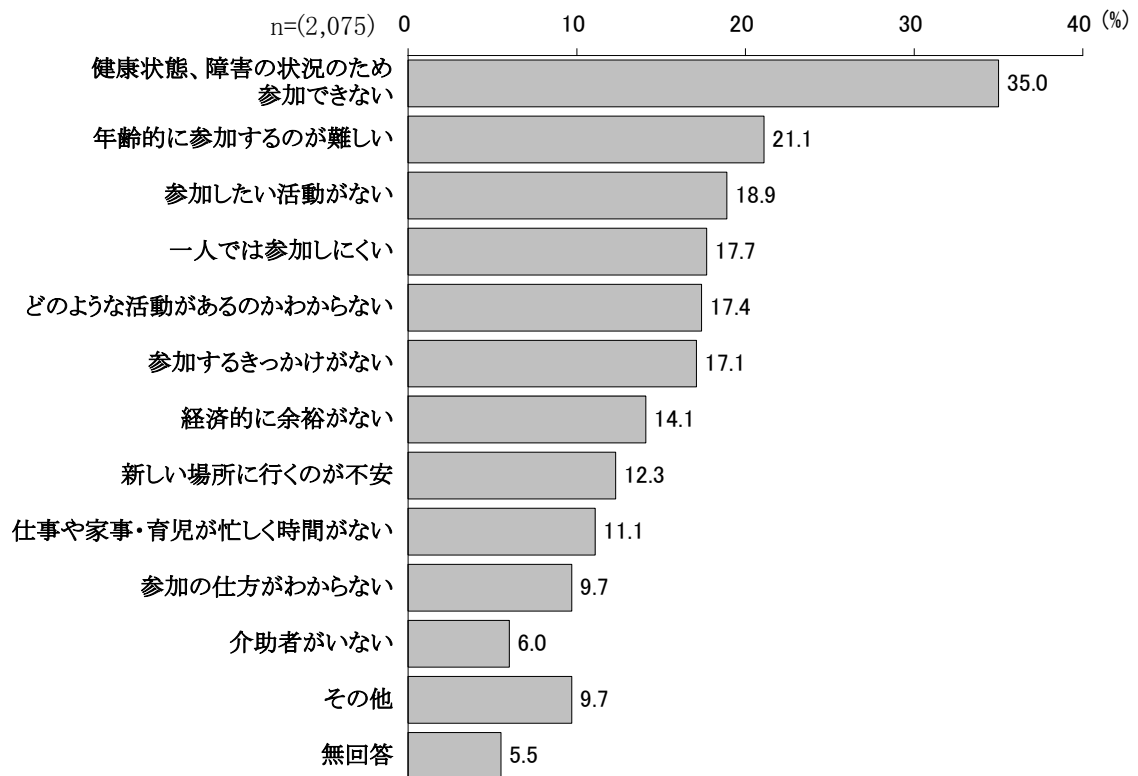
調査区分別、年齢別



## (2) 参加していない理由

【問31で「参加していない」と回答した方にお聞きします。】

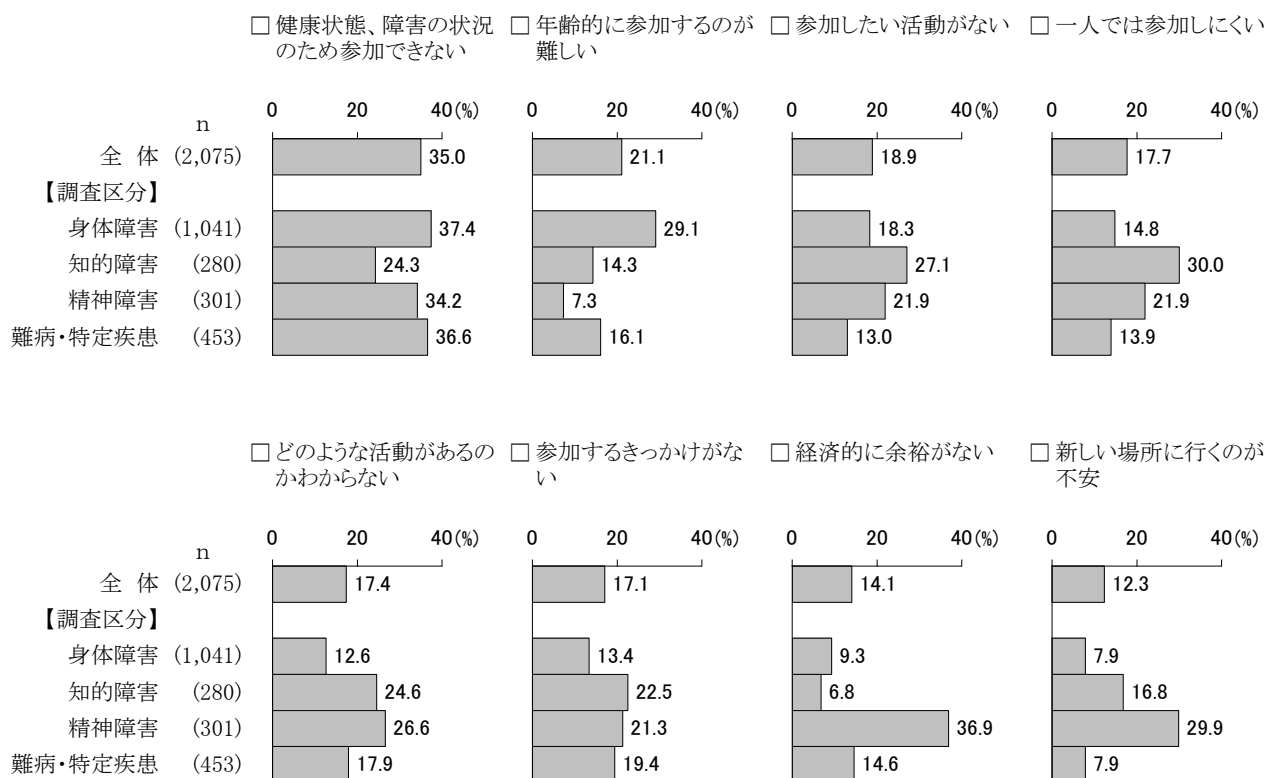
問31-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



参加していない理由は、「健康状態、障害の状況のため参加できない」が35.0%で最も多い。以下、「年齢的に参加するのが難しい」(21.1%)、「参加したい活動がない」(18.9%)、「一人では参加しにくい」(17.7%)、「どのような活動があるのかわからない」(17.4%)、「参加するきっかけがない」(17.1%)が2割前後で続いている。

調査区別にみると、「健康状態、障害の状況のため参加できない」は知的障害以外で3割台となっている。身体障害では「年齢的に参加するのが難しい」が、知的障害では「参加したい活動がない」、「一人では参加しにくい」が、精神障害では「経済的に余裕がない」、「新しい場所に行くのが不安」が他の調査区分より多くなっている。

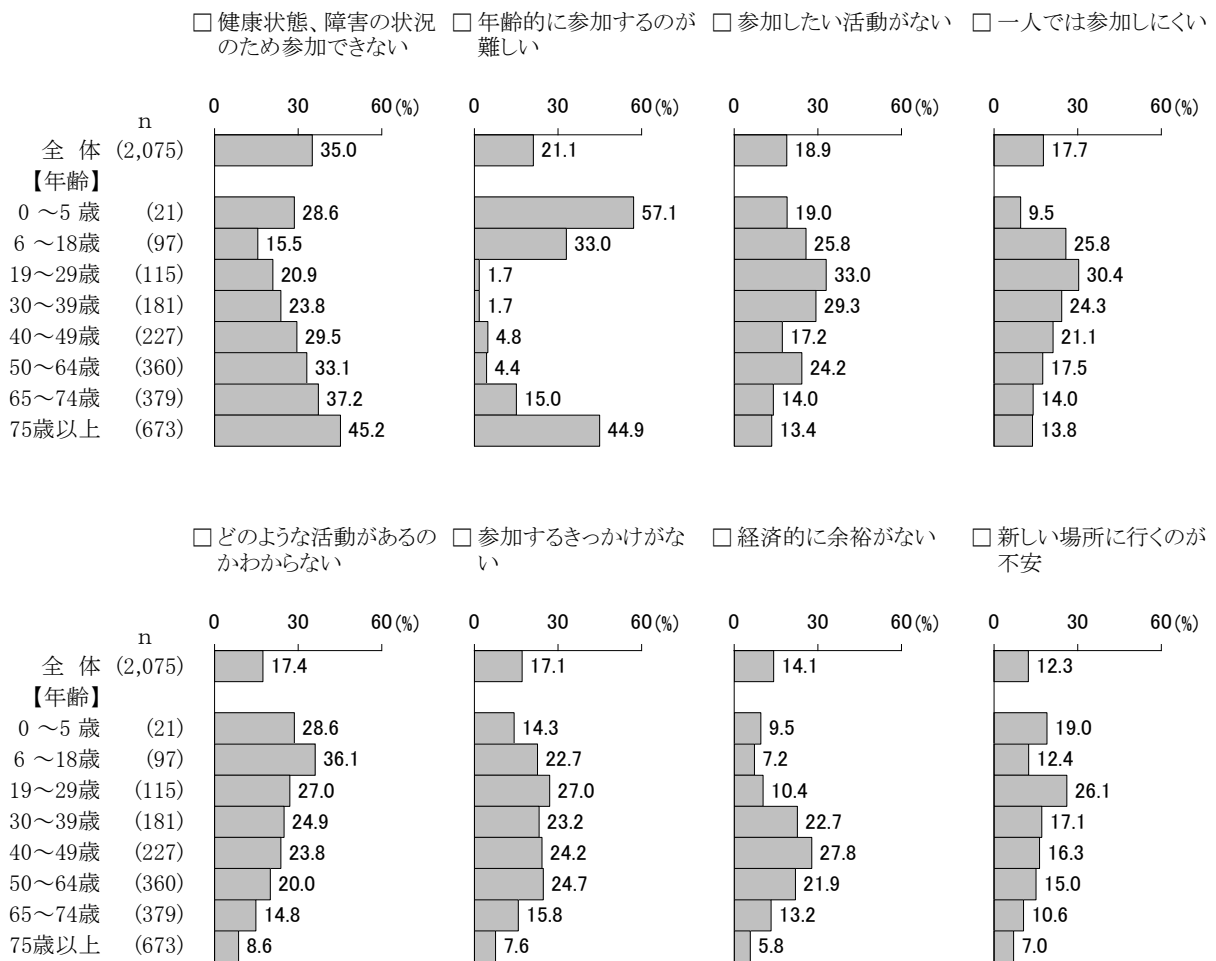
調査区分別（上位8項目）





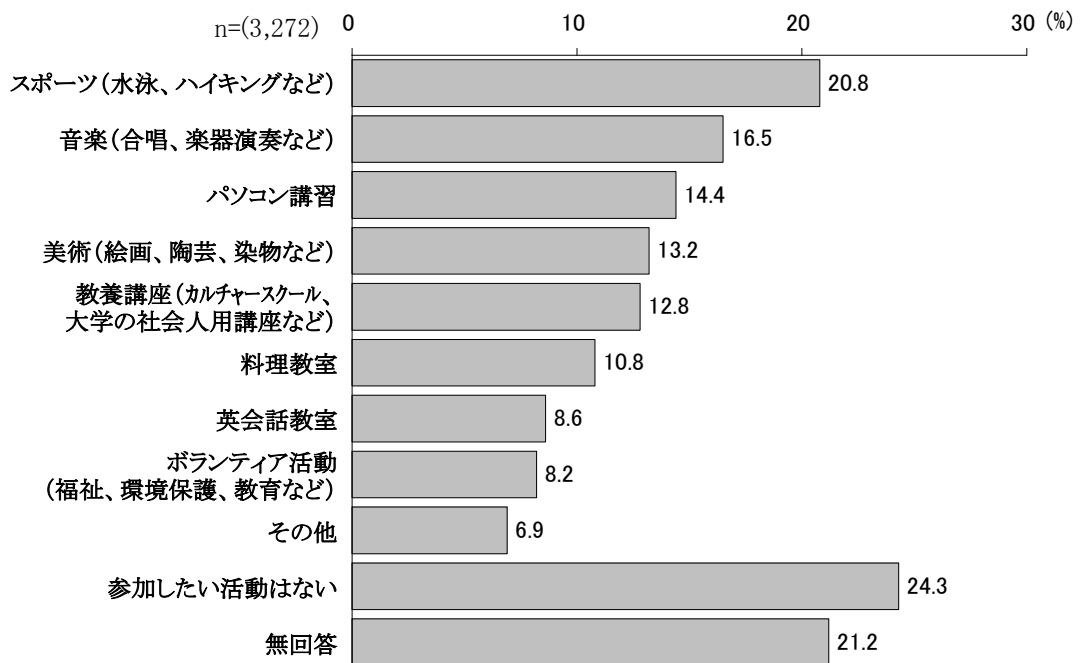
年齢別にみると、「健康状態、障害の状況のため参加できない」は年齢が上がるとともに多くなる傾向があり、50～64歳と65～74歳で3割台、75歳以上では45.2%となっている。「年齢的に参加するのが難しい」は0～5歳（57.1%）と75歳以上（44.9%）で特に多くなっている。19～29歳を中心に39歳までは「参加したい活動がない」や「一人では参加しにくい」が2割から3割、また、「どのような活動があるのかわからない」、「参加するきっかけがない」は64歳まで概ね2割以上あげられている。なお、30～64歳の年齢にかけては「経済的に余裕がない」が2割台となっている。

年齢別（上位8項目）



## (3) 参加したい活動（参加中も含む）

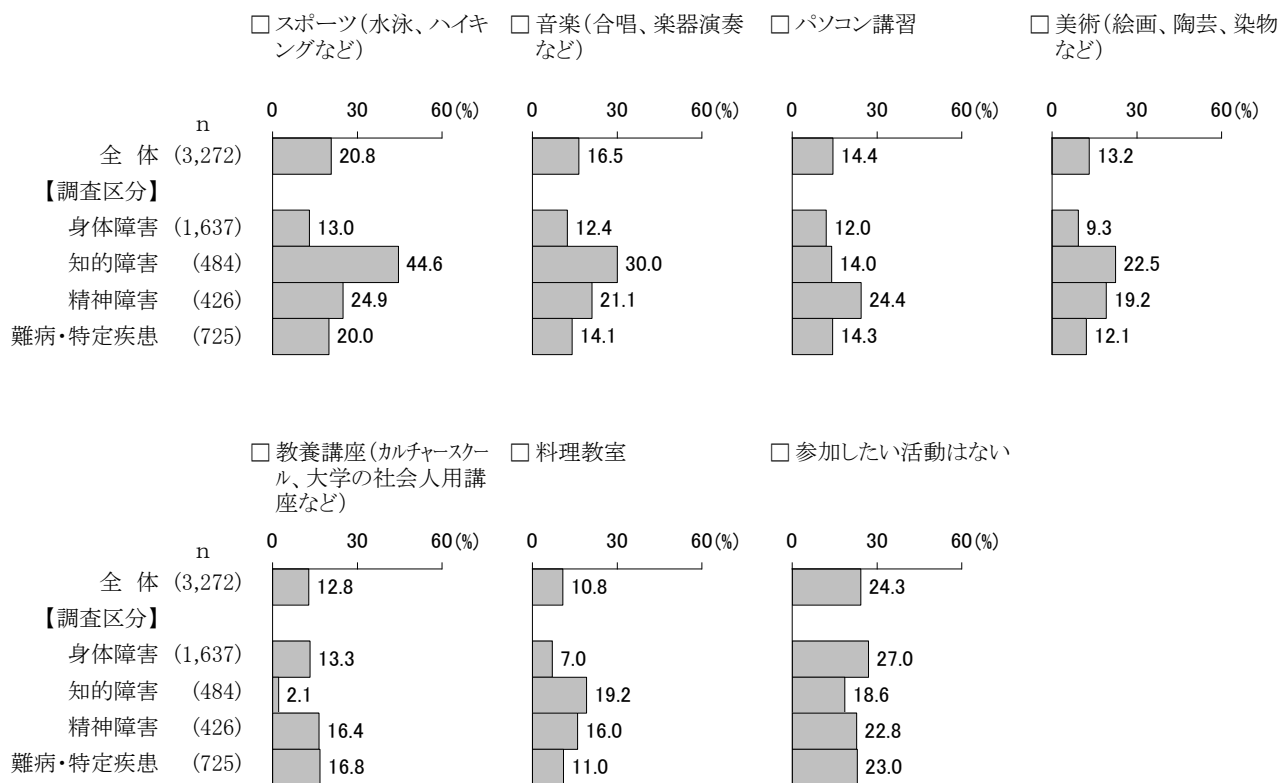
問32 市内では以下のような活動が催されています。あなたが参加したい活動（現在参加している活動も含む）はありますか。（あてはまるものすべてに○）



参加したい活動（現在参加中も含む）を聞いたところ、「参加したい活動はない」が24.3%で最も多くなっている。参加したいものでは、「スポーツ」が20.8%で最も多く、以下、「音楽」（16.5%）、「パソコン講習」（14.4%）、「美術」（13.2%）、「教養講座」（12.8%）、「料理教室」（10.8%）が1割台で続いている。

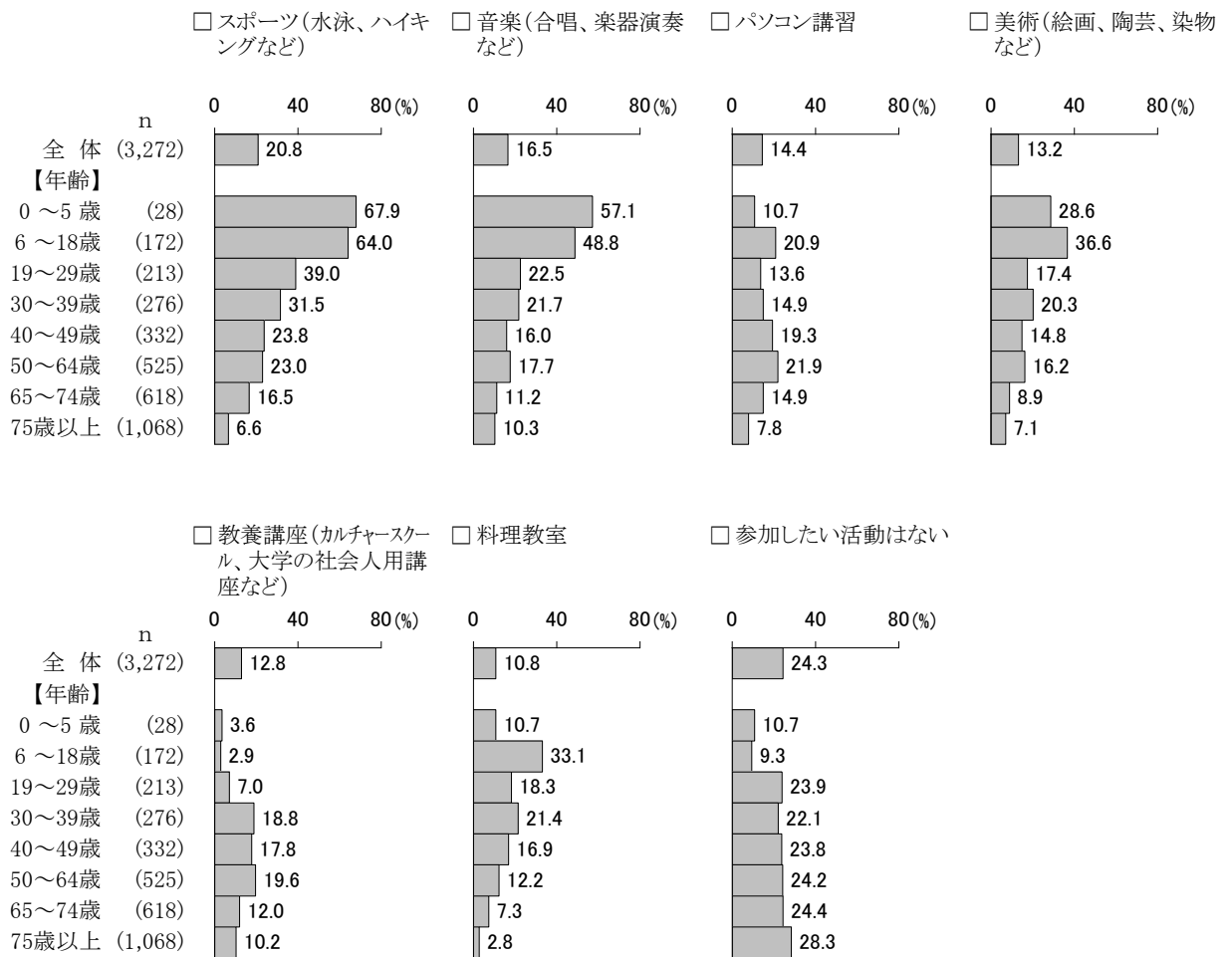
調査区別にみると、知的障害では「スポーツ」が44.6%と特に多く、「音楽」が30.0%、「美術」も22.5%となっている。精神障害では「パソコン講習」(24.4%)をあげるものが多い。

調査区別（上位6項目＋「参加したい活動はない」）



年齢別にみると、18歳以下では「スポーツ」や「音楽」、あるいは「美術」が多くあげられており、特に「スポーツ」では6割以上となっている。30歳から64歳の年齢では分散しているが、「教養講座」は2割弱とこの年齢で比較的多い。「パソコン講習」は6～18歳で20.9%、40～49歳と50～64歳でも2割前後となっている。「料理教室」は6～18歳で33.1%と他の年齢より多くなっている。

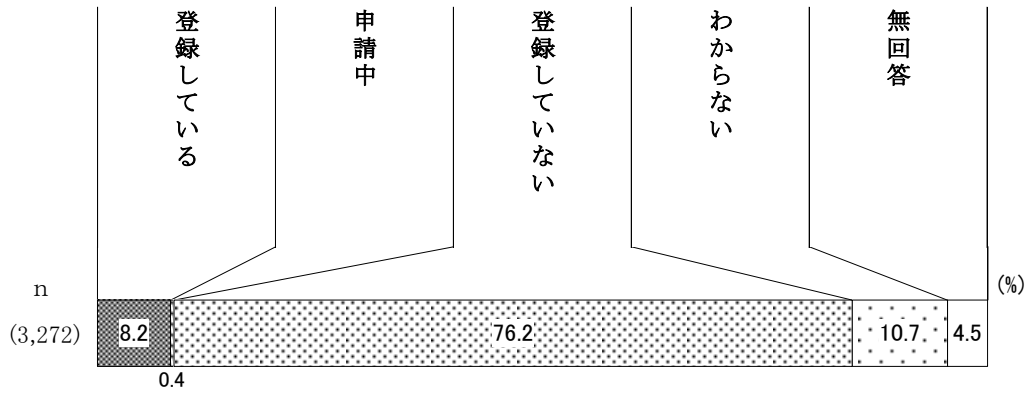
年齢別（上位6項目＋「参加したい活動はない」）



## 10. 災害時の対応について

### (1) 災害時要援護者支援対策事業への登録状況

問33 市の災害時要援護者支援対策事業に登録していますか。(1つに○)

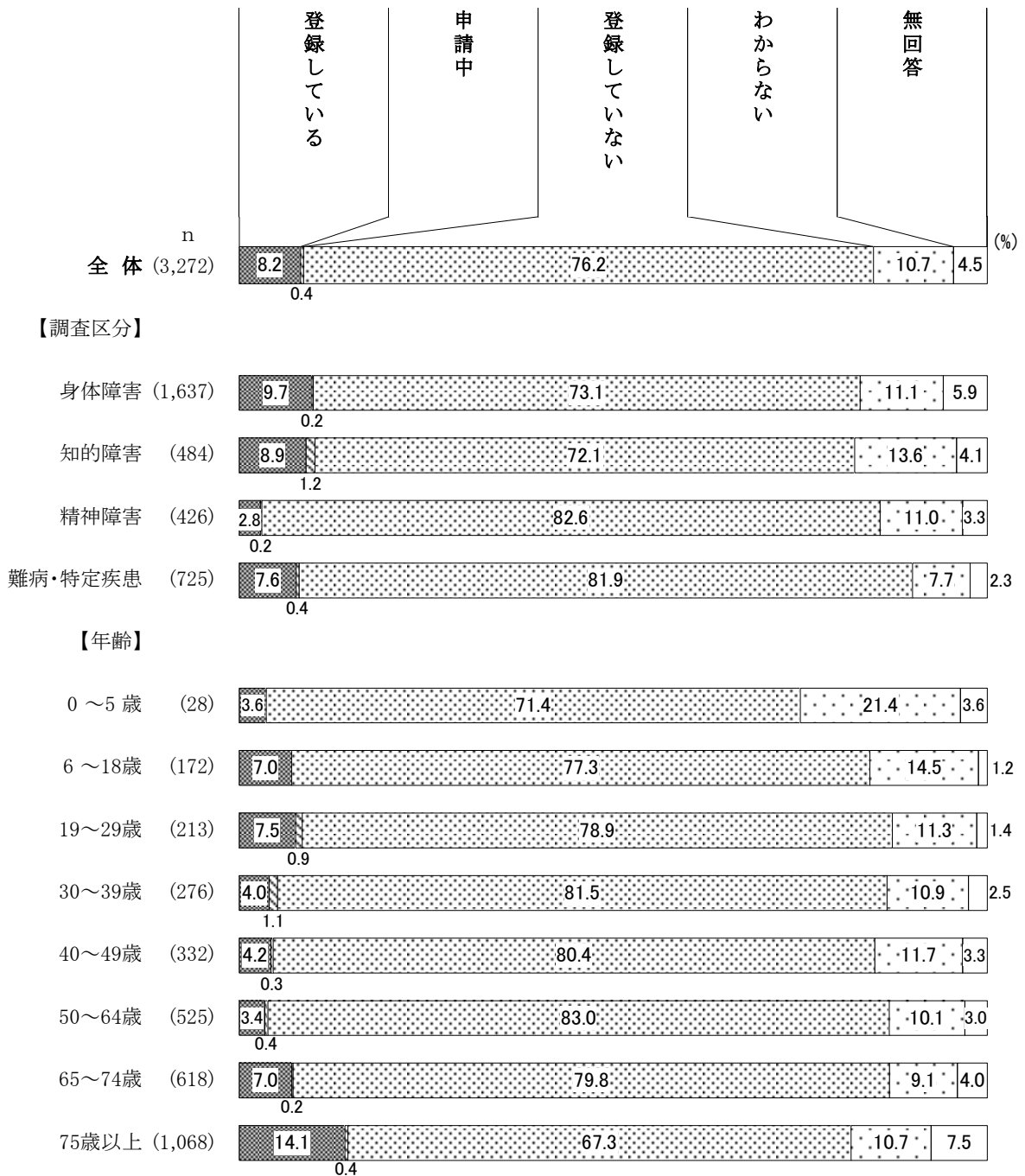


市の災害時要援護者支援対策事業に「登録している」は8.2%、「申請中」は0.4%にとどまり、「登録していない」が76.2%を占めている。

調査区分別にみると、「登録している」はいずれも1割未満となっている。

年齢別にみると、「登録している」は75歳以上で14.1%と年齢を通じて唯一1割台を超えている。

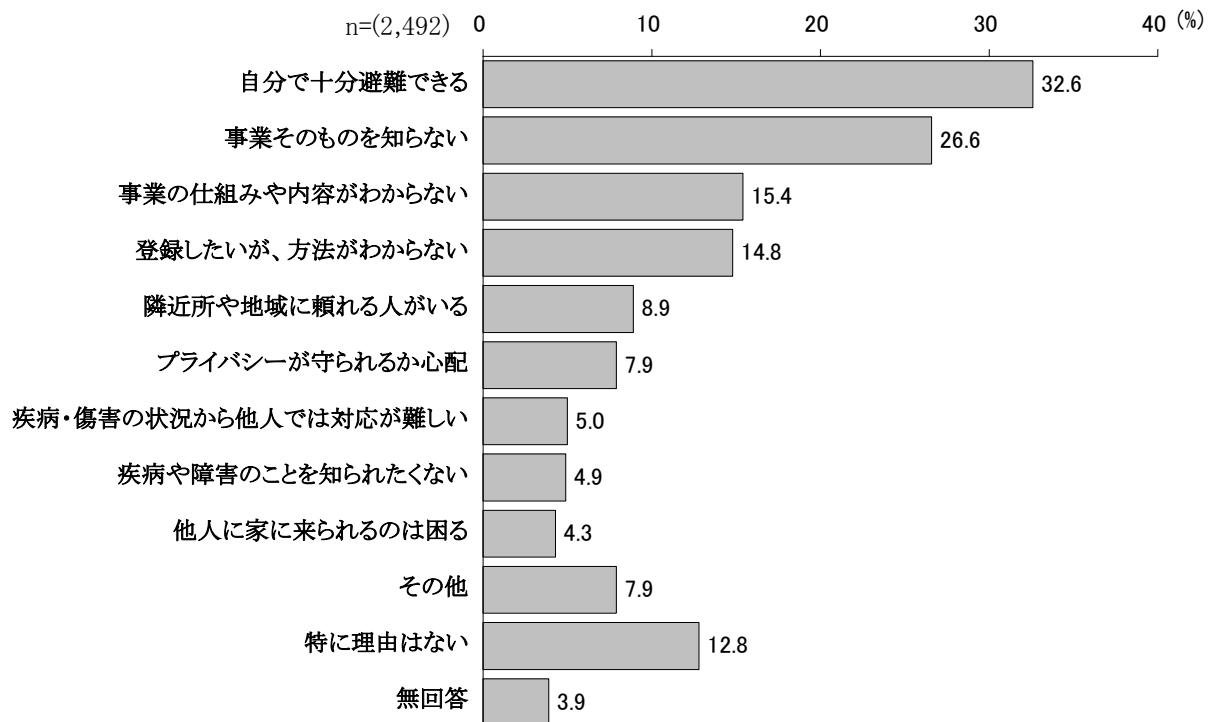
調査区分別、年齢別



## (2) 登録していない理由

【問33で「登録していない」と回答した方にお聞きします。】

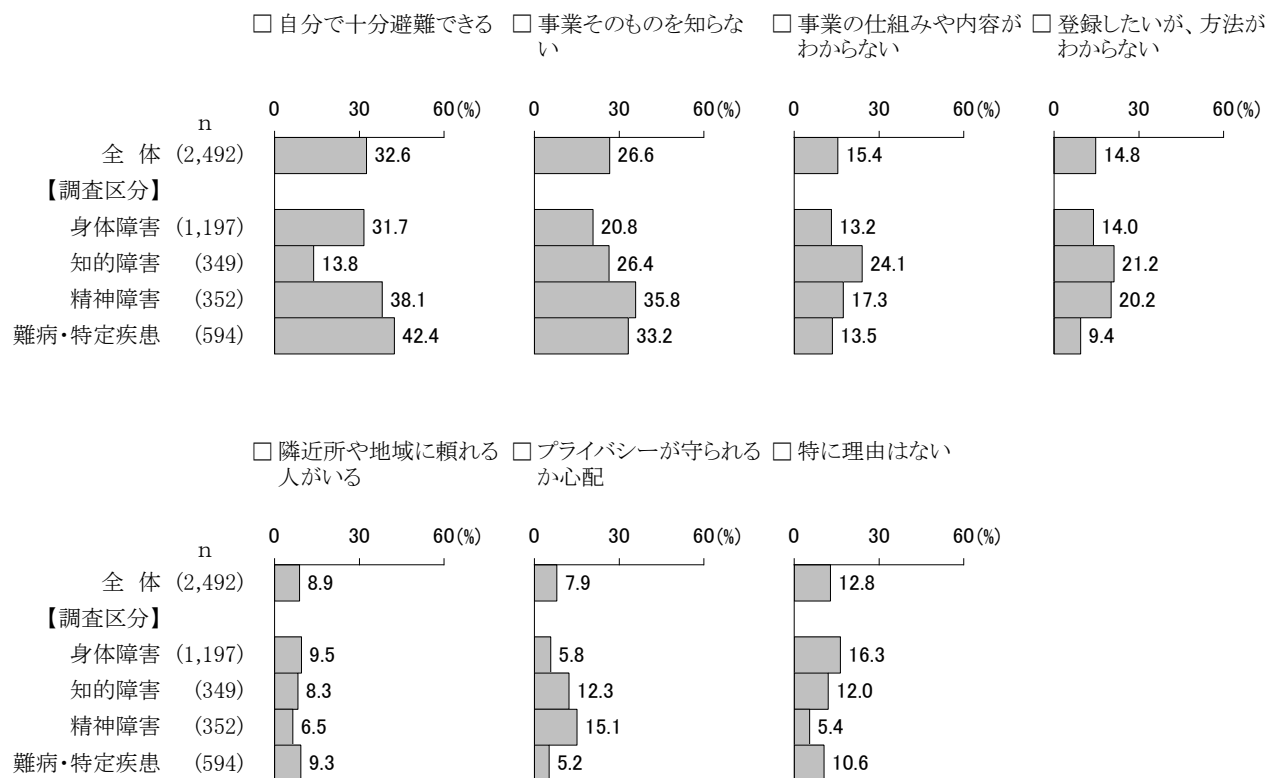
問33-1 登録していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



登録していない理由は「自分ですべて避難できる」が32.6%で最も多いが、「事業そのものを知らない」が26.6%、「事業の仕組みや内容がわからない」が15.4%、「登録したいが、方法がわからない」が14.8%と続いており、知らない・わからないという項目も上位にあげられている。また、「特に理由はない」も12.8%と比較的多くなっている。

調査区分別にみると、身体障害、精神障害、難病・特定疾患では「自分で十分避難できる」が最も多い理由となっているが、精神障害、難病・特定疾患では「事業そのものを知らない」も3割台となっている。「事業の仕組みや内容がわからない」は知的障害で24.1%、「登録したいが、方法がわからない」は知的障害、精神障害で2割台となっている。「プライバシーが守られるか心配」は知的障害と精神障害で1割台となっている。

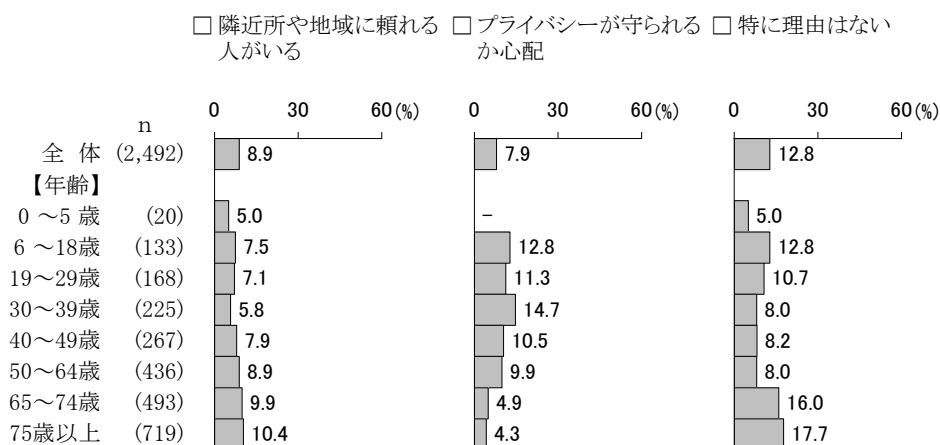
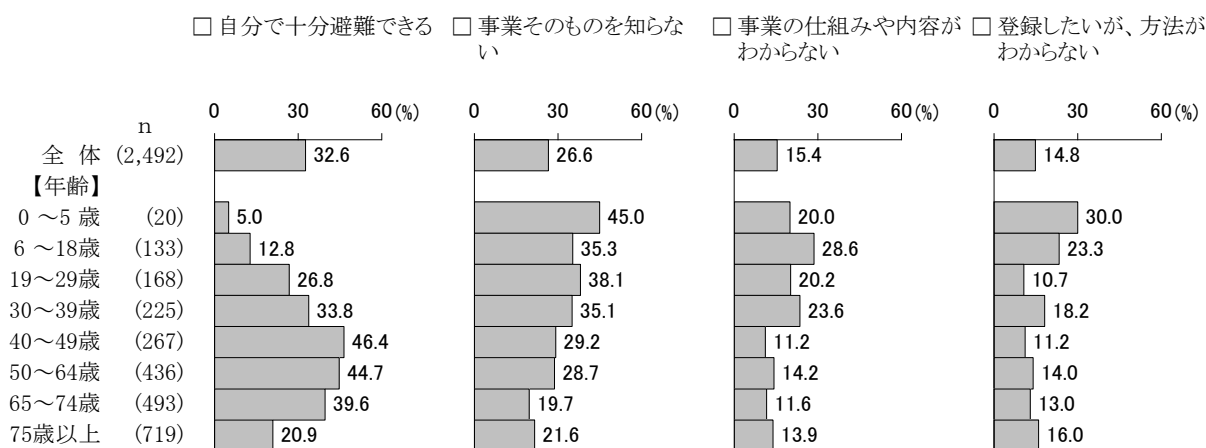
調査区分別（上位6項目+「特に理由はない」）





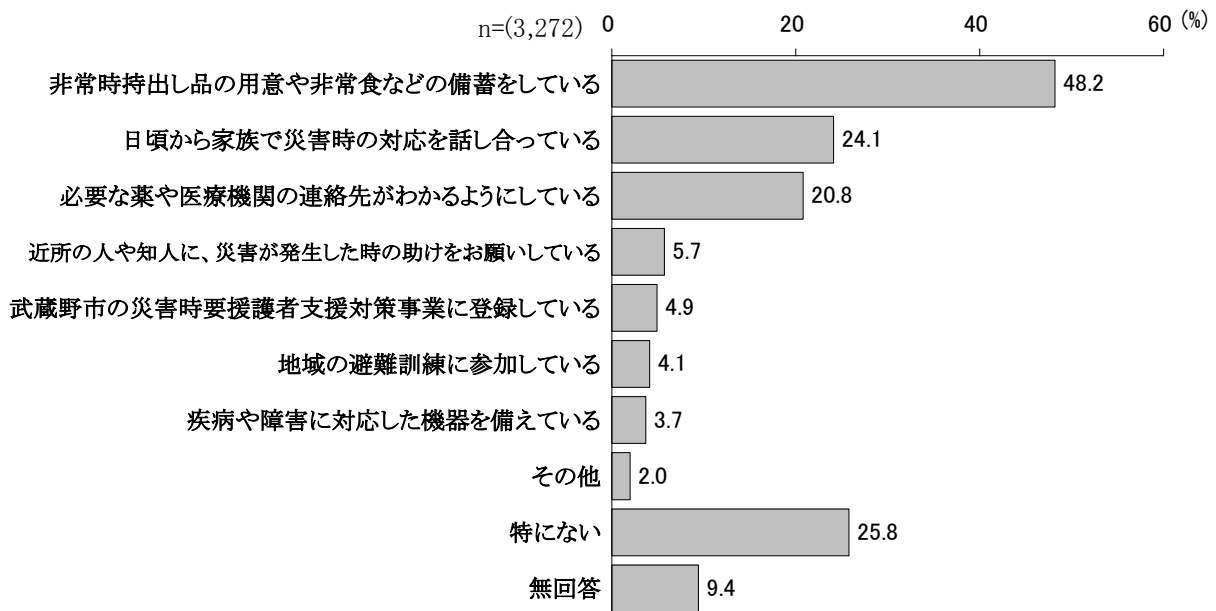
年齢別にみると、「自分で十分避難できる」は40～49歳（46.4%）、50～64歳（44.7%）で4割台、30～39歳と65～74歳でも3割台となっている。「事業そのものを知らない」は0～5歳で45.0%となるなど、39歳以下の年齢では最も多い理由となっている。また、「事業の仕組みや内容がわからない」、「登録したいが、方法がわからない」もこの年齢を中心に多い。

年齢別（上位6項目+「特に理由はない」）



(3) 自宅での災害への備え

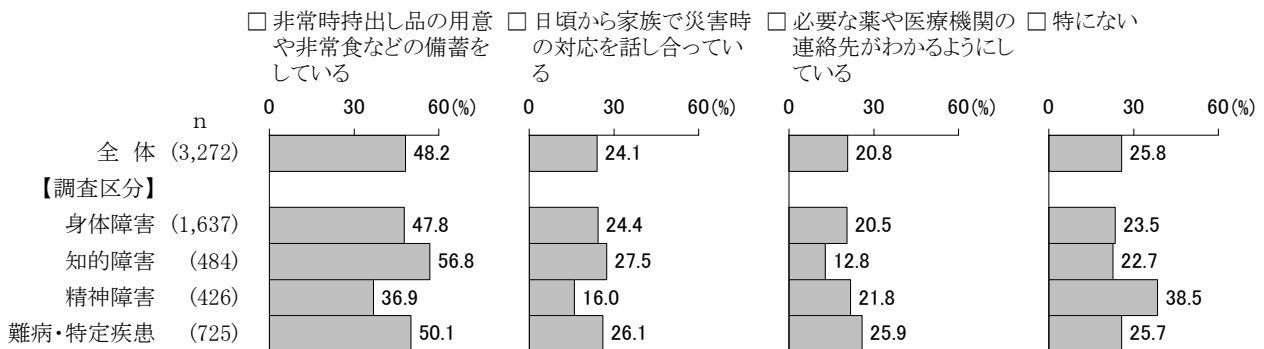
問34 大地震などの災害に備えて、ご自宅でのどのような準備をしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)



大地震などの災害に備えて、自宅で準備していることは「非常時持出し品の用意や非常食などの備蓄をしている」が48.2%で最も多く、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が24.1%、「必要な薬や医療機関の連絡先がわかるようにしている」が20.8%となっている。また、「特にない」も25.8%となっている。

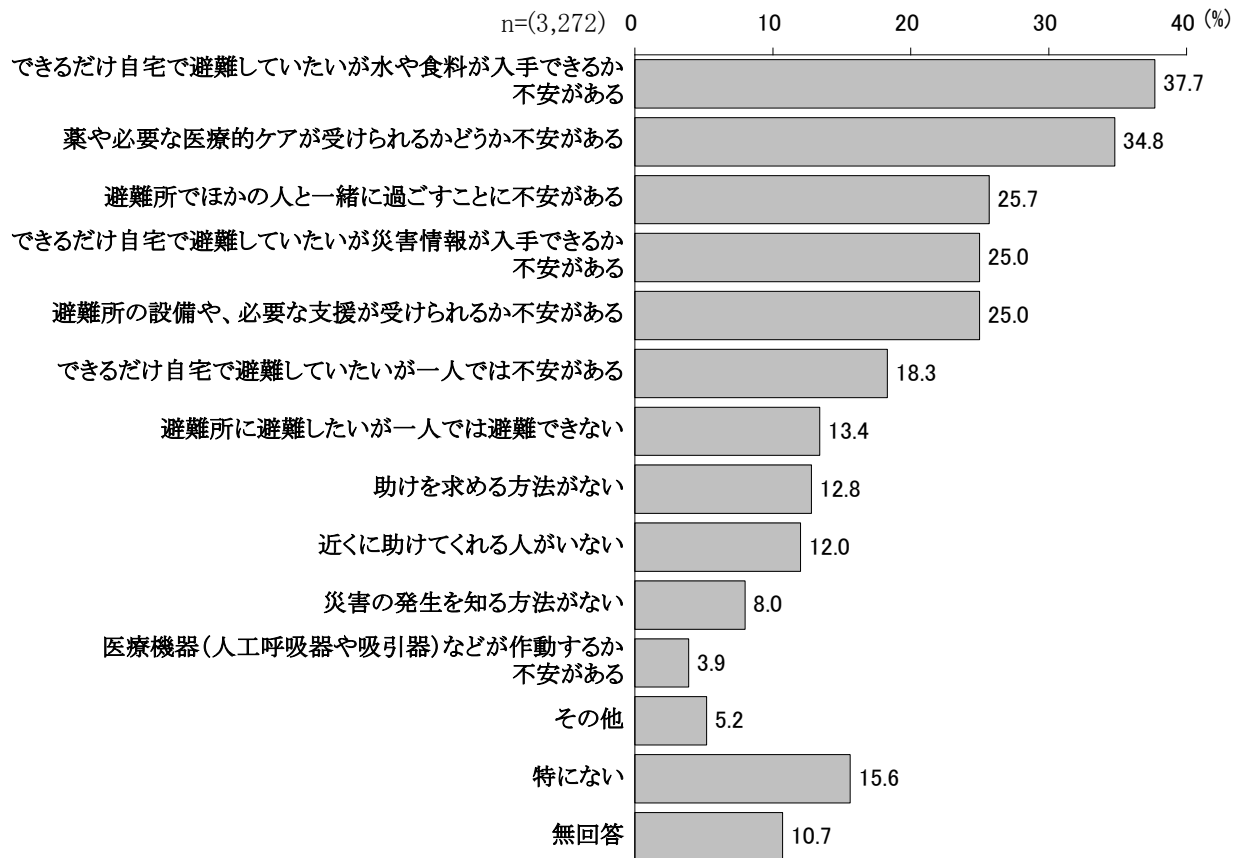
調査区分別にみると、「非常時持出し品の用意や非常食などの備蓄をしている」は知的障害(56.8%)と難病・特定疾患(50.1%)で5割台となっている。また、「特にない」は精神障害で38.5%と他の調査区分より多くなっている。

調査区分別 (上位3項目+「特にない」)



## (4) 災害時の不安

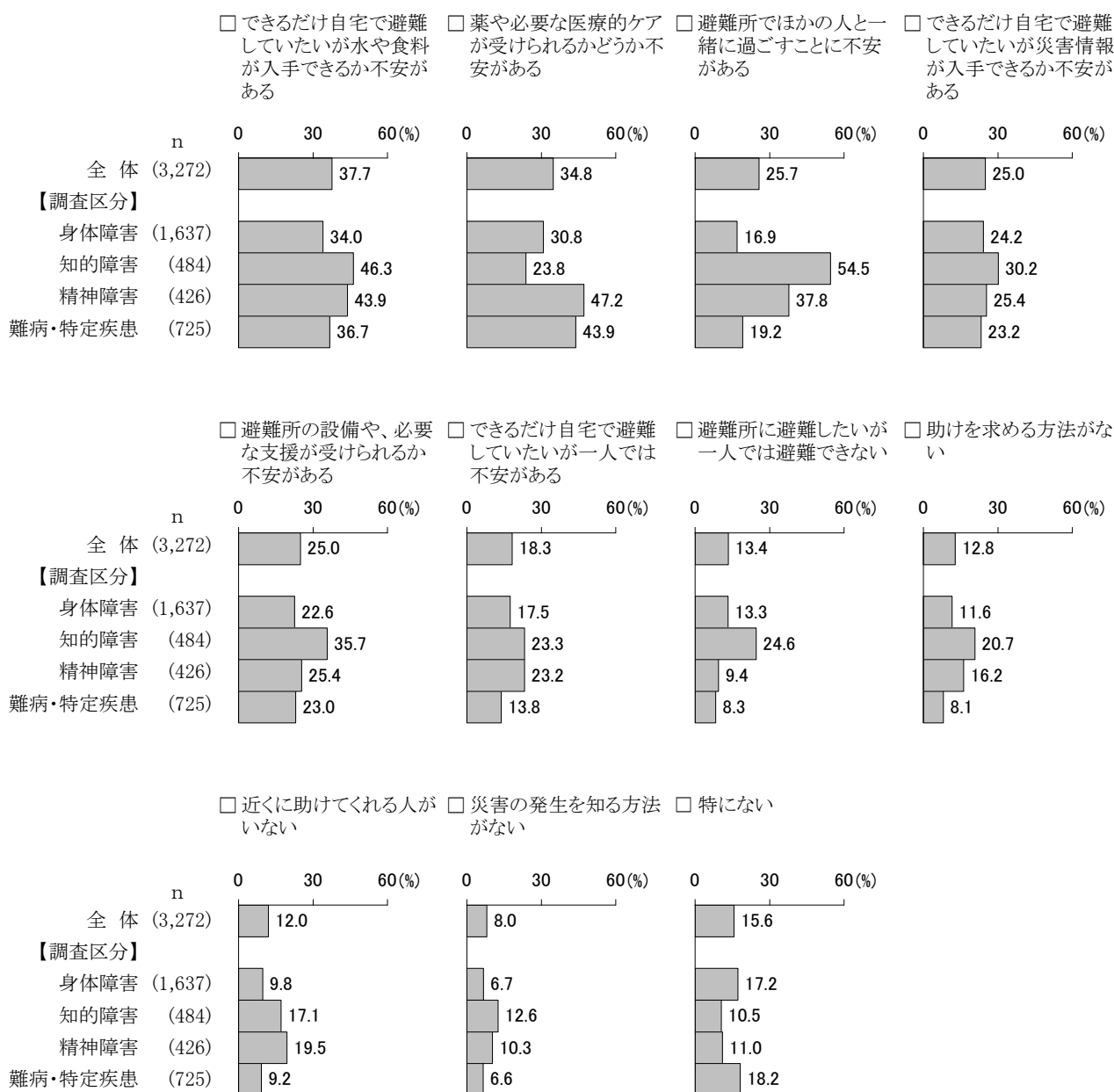
問35 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)



大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことは「できるだけ自宅で避難したいが水や食料が入手できるか不安がある」が37.7%で最も多く、これに「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」が34.8%が続いている。以下、「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」(25.7%)、「できるだけ自宅で避難したいが災害情報が入手できるか不安がある」、「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある」(ともに25.0%)が2割台となっている。なお、「できるだけ自宅で避難したいが一人では不安がある」、「避難所に避難したいが一人では避難できない」の一人での避難を案ずるものや、「助けを求める方法がない」、「近くに助けてくれる人がいない」、「災害の発生を知る方法がない」も1割前後となっている。

調査区分別にみると、「できるだけ自宅で避難していただきたいが水や食料が入手できるか不安がある」は知的障害（46.3%）と精神障害（43.9%）では4割台と特に多くなっている。「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」は精神障害（47.2%）と難病・特定疾患（43.9%）でそれぞれ4割台と多くなっている。「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」は知的障害で54.5%と特に多く、精神障害でも37.8%となっている。知的障害では、この他にも「できるだけ自宅で避難していただきたいが災害情報が入手できるか不安がある」、「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある」、「避難所に避難したいが一人では避難できない」、「助けを求める方法がない」と多岐にわたる不安がより強く示されている。

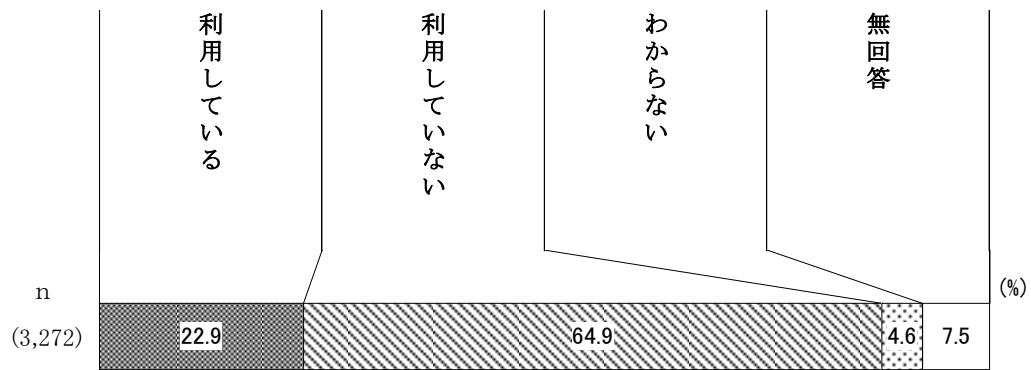
調査区分別（上位10項目＋「特にない」）



## 11. サービスの利用等について

### (1) 障害福祉サービスの利用状況

問36 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(1つに○)

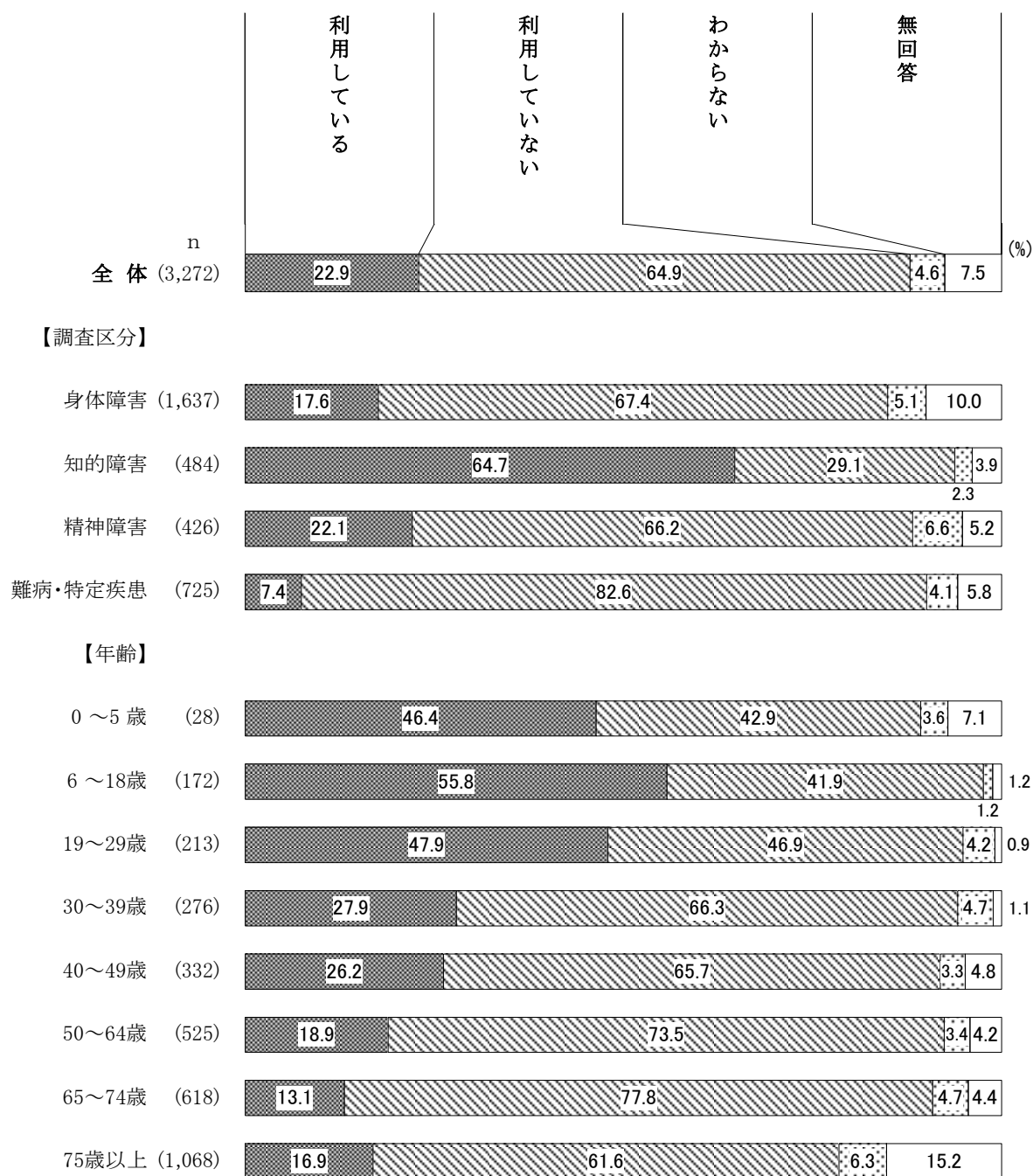


現在、障害福祉サービスを「利用している」は22.9%、「利用していない」は64.9%となっている。

調査区分別にみると、「利用している」は知的障害で64.7%と特に多い。一方、「利用していない」は難病・特定疾患では82.6%を占め、身体障害（67.4%）と精神障害（66.2%）で6割台となっている。

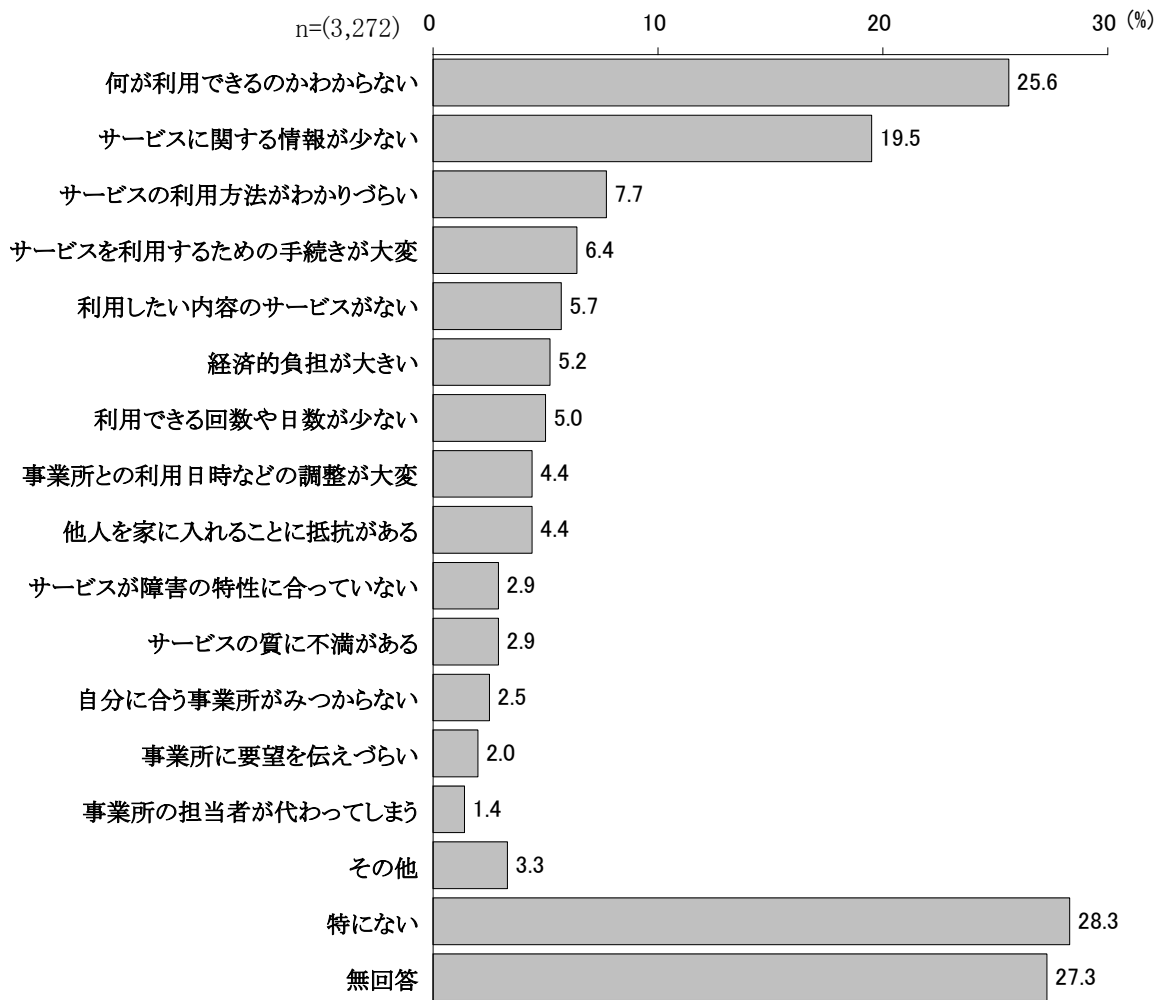
年齢別にみると、「利用している」は29歳まで4割以上と多く、特に6～18歳では55.8%と年齢を通じて唯一半数以上となっている。

調査区分別、年齢別



## (2) 障害福祉サービスを利用する際の不便

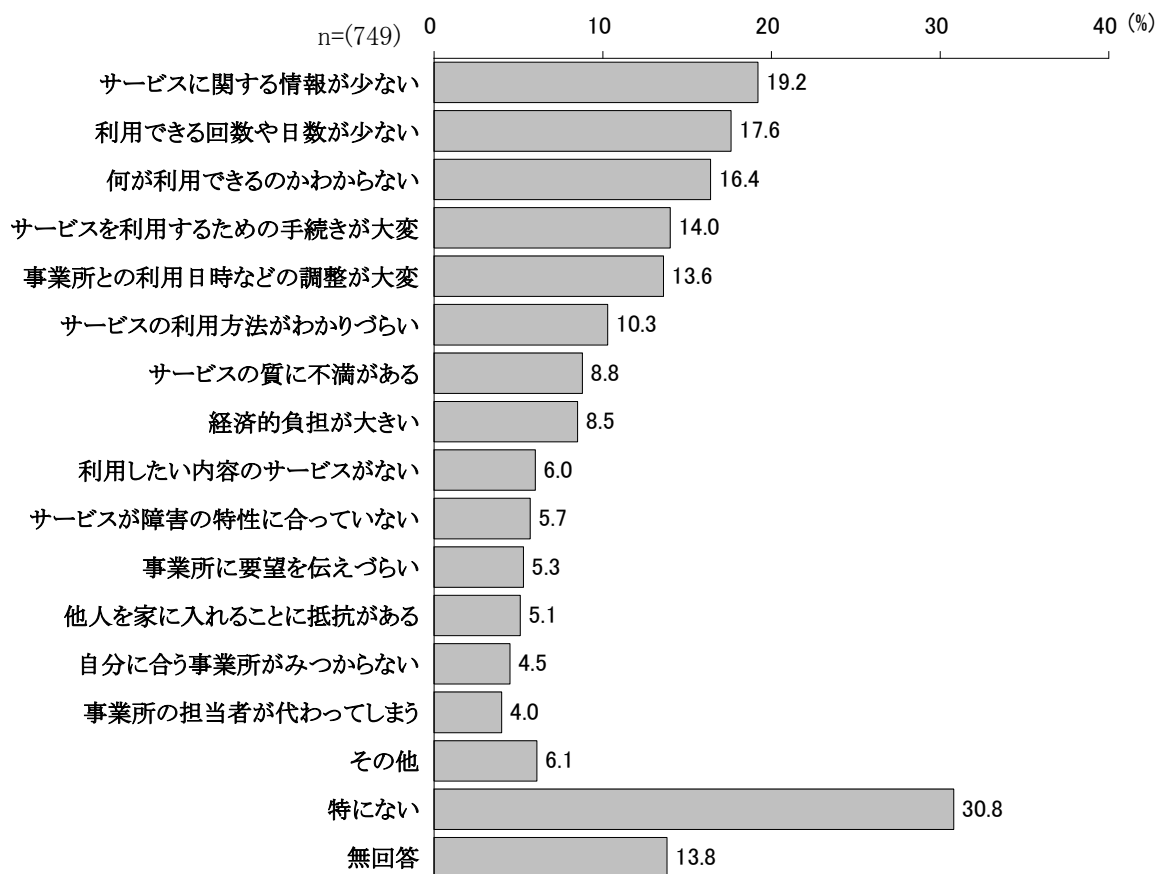
問37 障害福祉サービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思  
うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)



障害福祉サービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「特にない」が28.3%で最も多い。困ったり、不便だと思うことでは、「何が利用できるのかわからない」が25.6%で最も多く、これに「サービスに関する情報が少ない」が19.5%が続いている。

参考までに障害福祉サービス利用者に絞ってみたのが以下の図である。サービス利用者であっても困ったり、不便に思うことでは、「特にない」が30.8%で最も多い。具体的な内容では、「サービスに関する情報が少ない」が19.2%で最も多く、以下、「利用できる回数や日数が少ない」(17.6%)、「何が利用できるのかわからない」(16.4%)、「サービスを利用するための手続きが大変」(14.0%)、「事業所との利用日時などの調整が大変」(13.6%)、「サービスの利用方法がわかりづらい」(10.3%)が1割台で続いている。

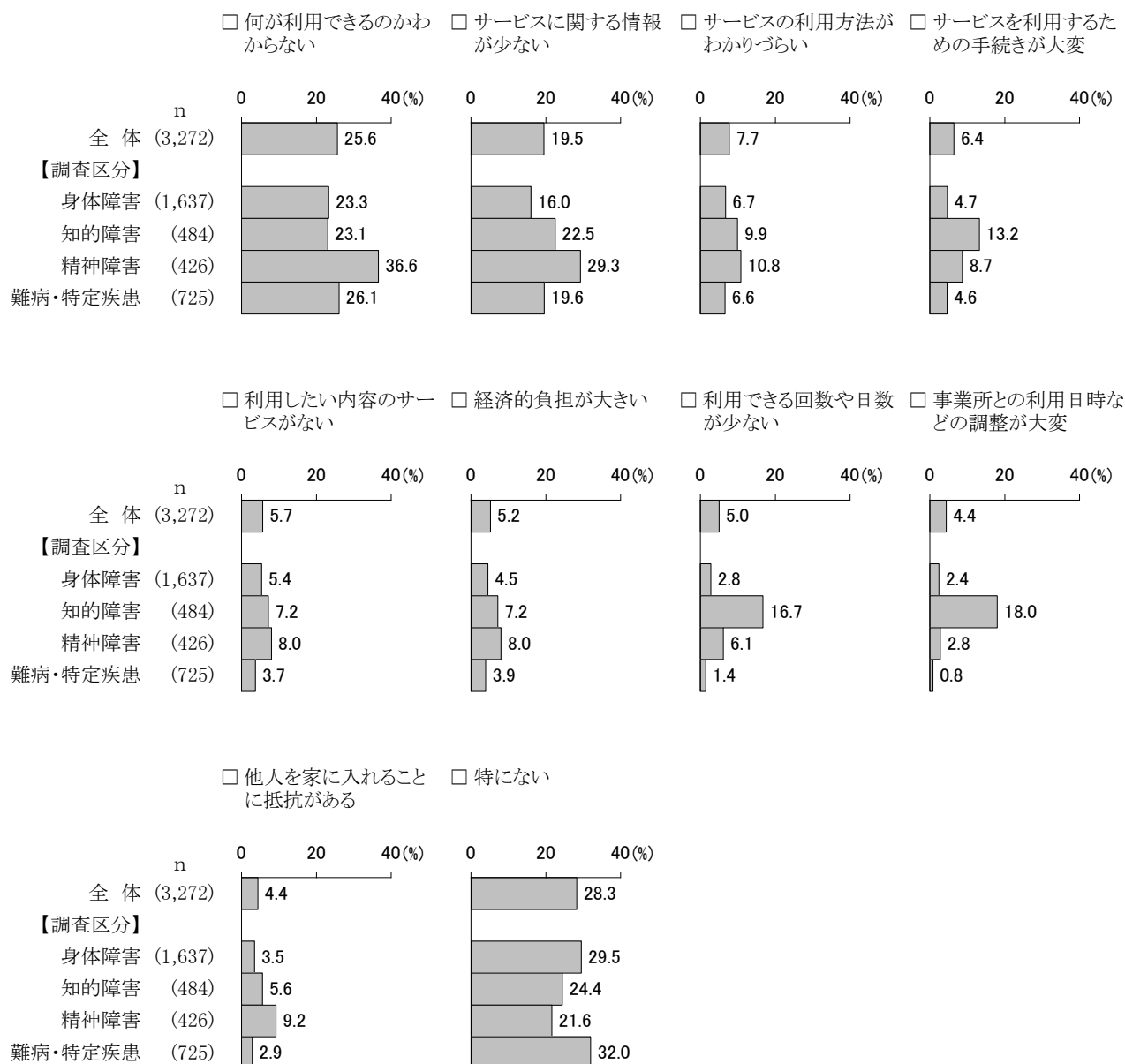
参考 障害福祉サービス利用者のみ





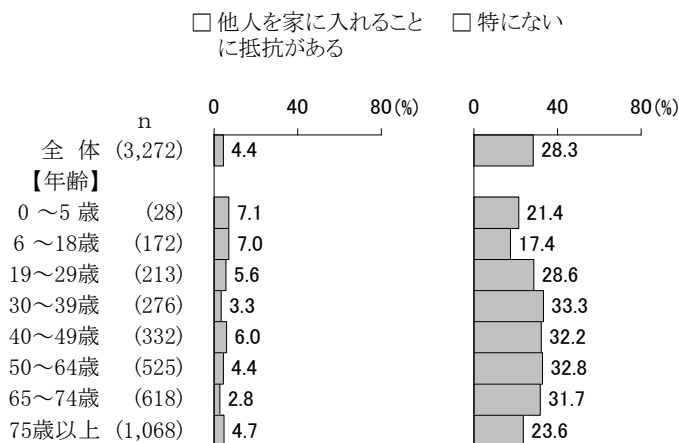
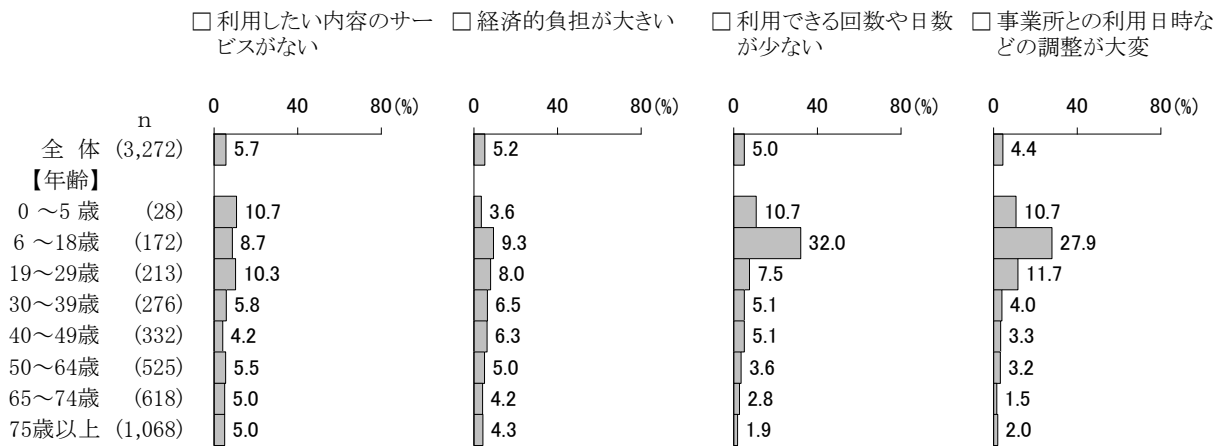
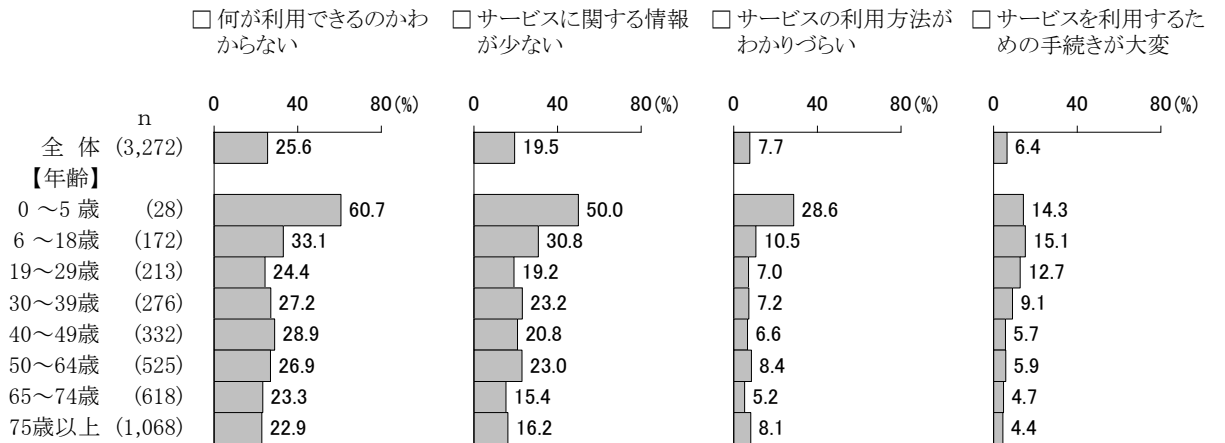
調査区分別にみると、いずれの調査区分でも「何が利用できるのかわからない」と「サービスに関する情報が少ない」が多い。特に精神障害では「何が利用できるのかわからない」(36.6%)、「サービスに関する情報が少ない」(29.3%)などが顕著に多くなっている。知的障害では「サービスを利用するための手続きが大変」(13.2%)、「利用できる回数や日数が少ない」(16.7%)、「事業所との利用日時などの調整が大変」(18.0%)などは1割台ながら他の調査区分より多くなっている。

調査区分別 (上位9項目+「特にない」)



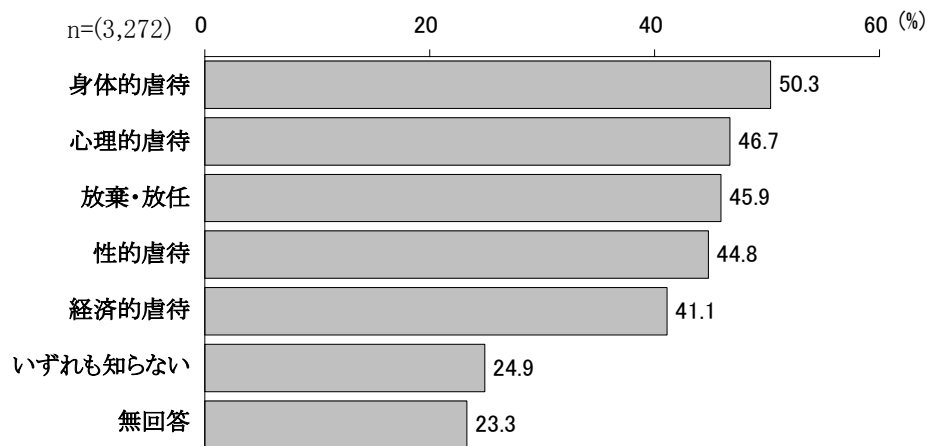
年齢別にみると、0～5歳では「何が利用できるのかわからない」(60.7%)、「サービスに関する情報が少ない」(50.0%)、「サービスの利用方法がわかりづらい」(28.6%)、6～18歳では「利用できる回数や日数が少ない」(32.0%)、「事業所との利用日時などの調整が大変」(27.9%)が他の年齢より多くなっている。

年齢別（上位9項目＋「特にない」）



## (3) 障害者虐待に該当する事項の認知

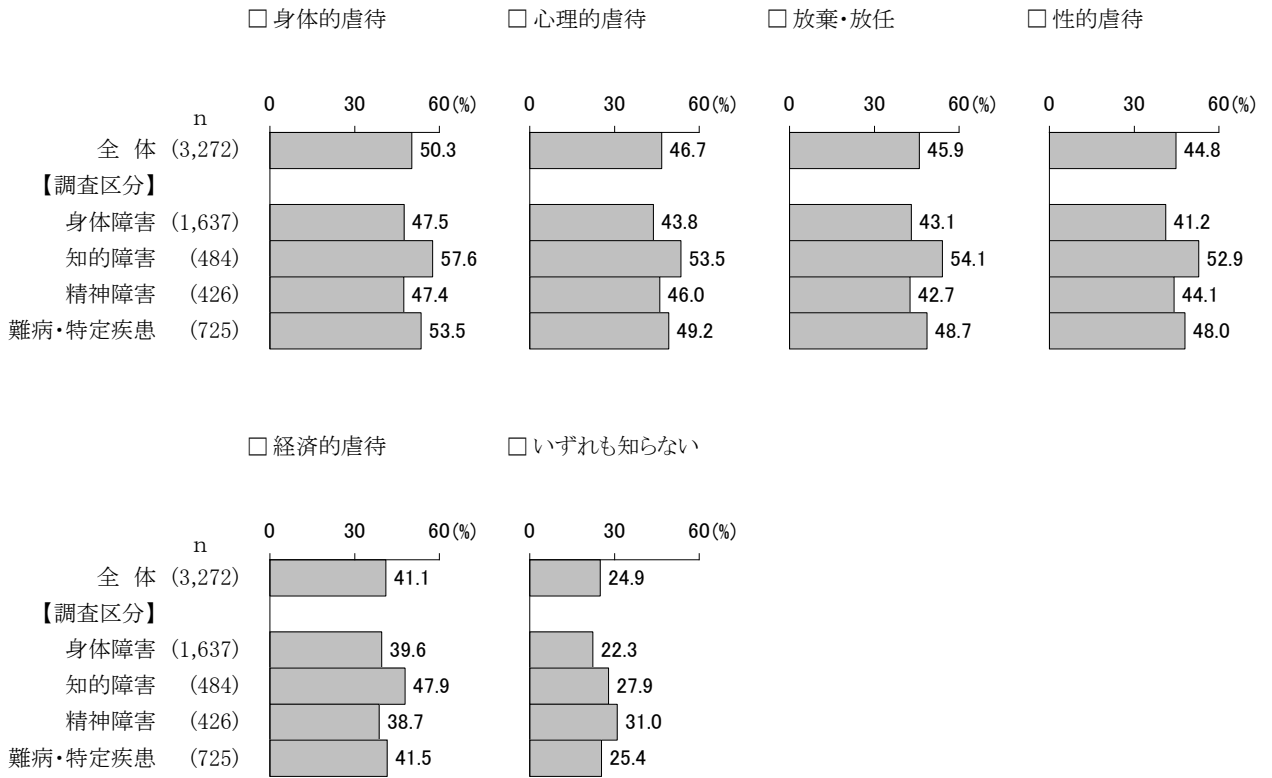
問38 障害者虐待防止法（平成24年10月1日施行）は、養護者、障害者福祉施設従事者等、使用者（事業主など）による障害者への虐待を防止し、虐待によって障害者の権利や尊厳がおびやかされることを防ぐ法律です。下記の事項が障害者虐待に該当することを知っていますか。（知っているものすべてに○）



上記の項目で障害者虐待に該当することを知っているものは、「身体的虐待」が50.3%で最も多く、以下、「心理的虐待」(46.7%)、「放棄・放任」(45.9%)、「性的虐待」(44.8%)、「経済的虐待」(41.1%)が4割台で続いている。「いずれも知らない」は24.9%となっている。

調査区別にみると、知的障害では「身体的虐待」(57.6%)をはじめ比較的認知が高い。

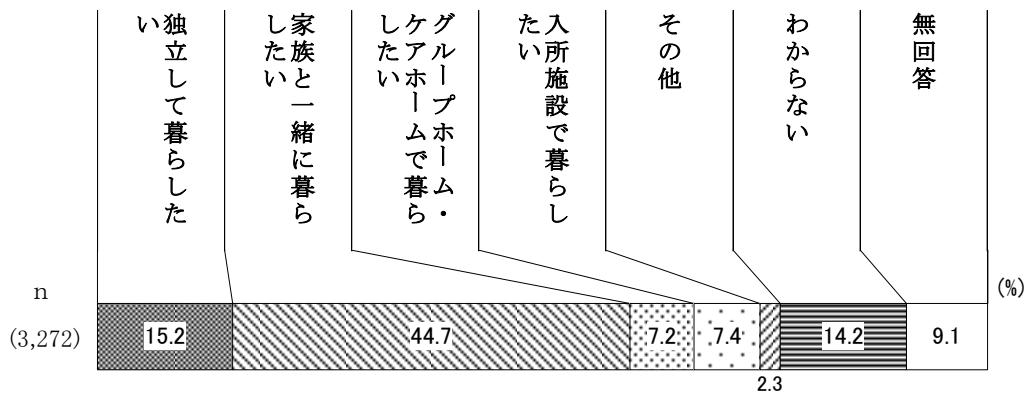
調査区分別



## 12. 今後のことについて

### (1) 将来の暮らし方

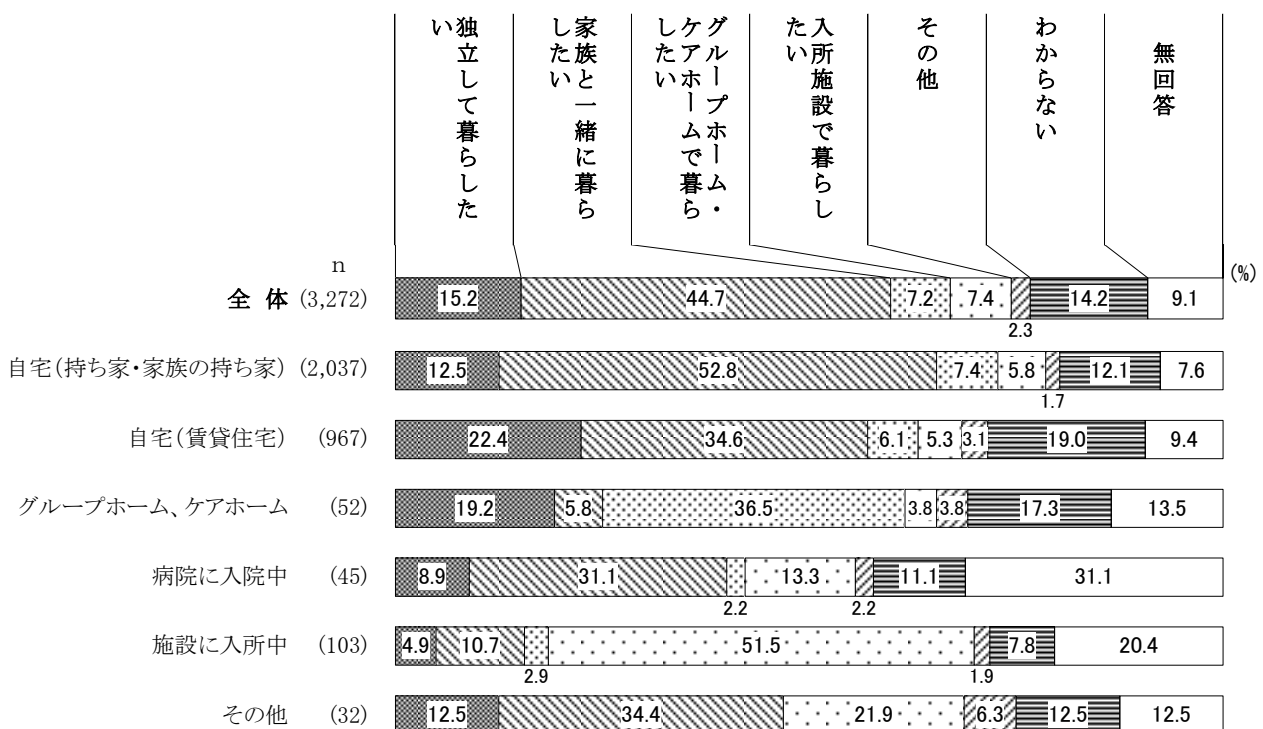
問39 あなたは、将来どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)



将来どのように暮らしたいと考えているかでは、「家族と一緒に暮らしたい」が44.7%で特に多く、「独立して暮らしたい」が15.2%となっている。また、「わからない」も14.2%と比較的多くなっている。

現在の生活場所別（問4参照）にみると、“自宅（持ち家・家族の持ち家）”では「家族と一緒に暮らしたい」が52.8%と半数を超えている。“グループホーム、ケアホーム”では引き続き「グループホーム・ケアホームで暮らしたい」が36.5%、“施設に入所中”でも引き続き「入所施設で暮らしたい」が51.5%と多くなっている。また、“病院に入院中”では「家族と一緒に暮らしたい」が31.1%と多くなっている。

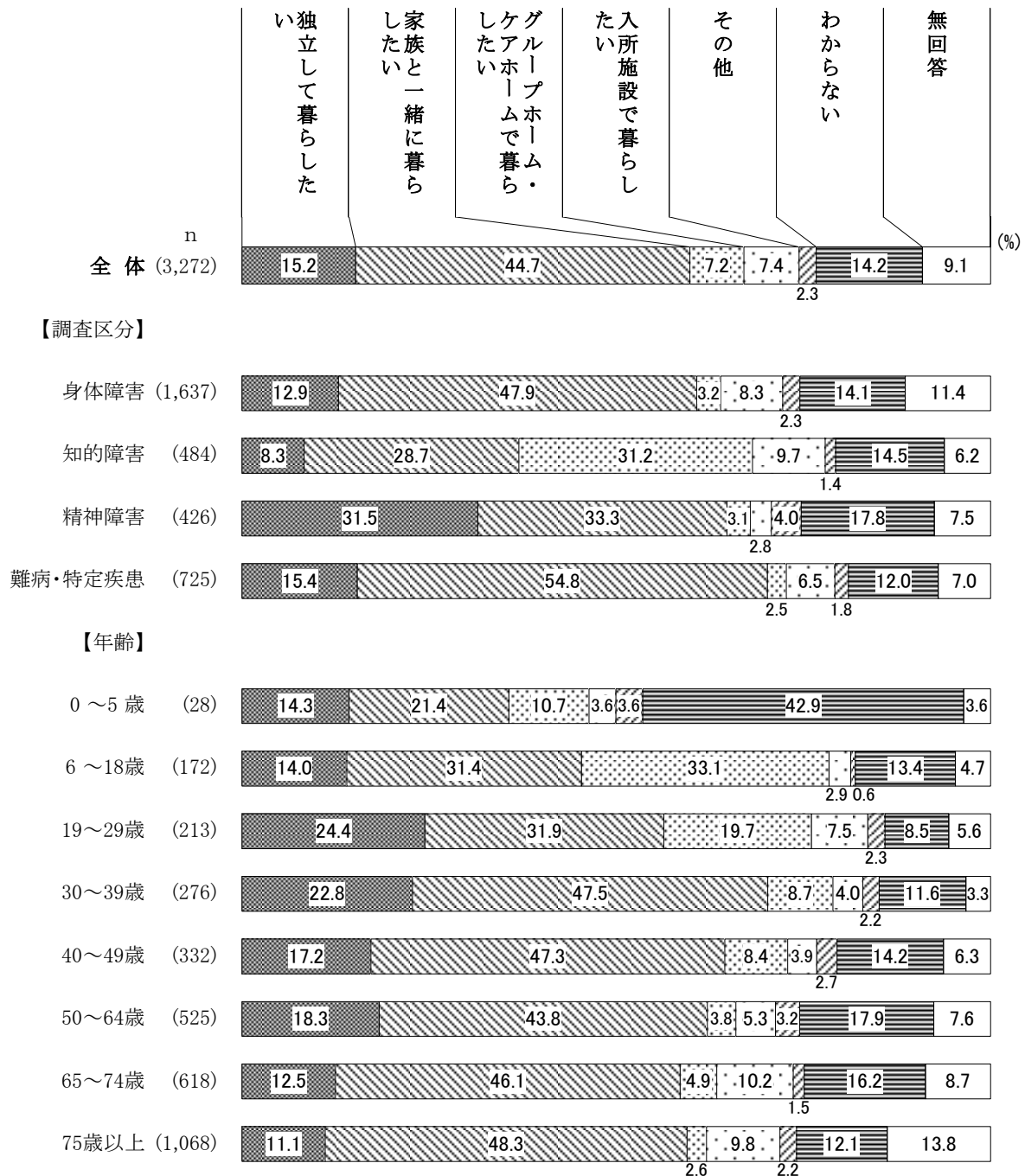
#### (現在の)生活場所別



調査区分別にみると「家族と一緒に暮らしたい」は難病・特定疾患で54.8%、身体障害で47.9%となっている。知的障害では「グループホーム・ケアホームで暮らしたい」が31.2%、精神障害では「独立して暮らしたい」が31.5%と比較的多くなっている。

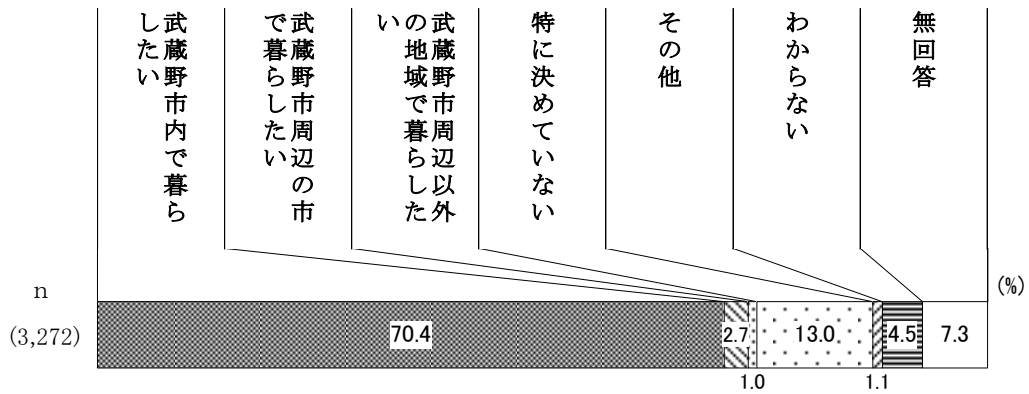
年齢別にみると、6～18歳では「グループホーム・ケアホームで暮らしたい」が33.1%、19～29歳でも19.7%と比較的多い。

調査区分別、年齢別



(2) 暮らしたい場所

問40 どこで暮らしたいですか。(1つに〇)

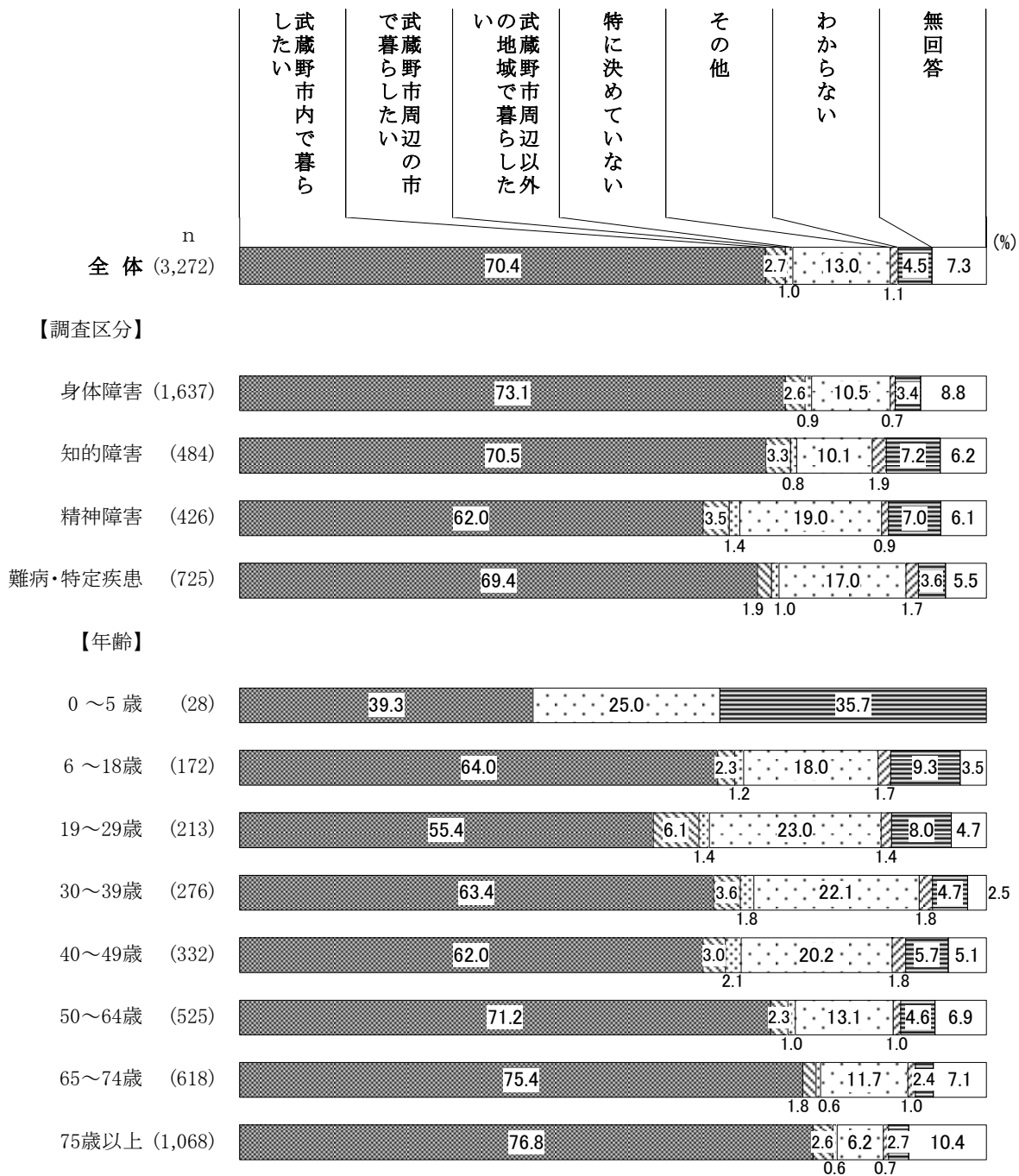


どこで暮らしたいかでは、「武蔵野市内で暮らしたい」が70.4%を占めて多く、「武蔵野市周辺の市で暮らしたい」(2.7%)や「武蔵野市周辺以外の地域で暮らしたい」(1.0%)といった武蔵野市以外で暮らしたいと決めている人はわずかとなっている。

調査区分別にみると、いずれの調査区分でも「武蔵野市内で暮らしたい」が多く、身体障害（73.1%）と知的障害（70.5%）では7割台を占めている。

年齢別にみると、いずれの年齢でも「武蔵野市内で暮らしたい」が多く、50歳以上の年齢では7割台を占めている。49歳までは「特に決めていない」が比較的多い。

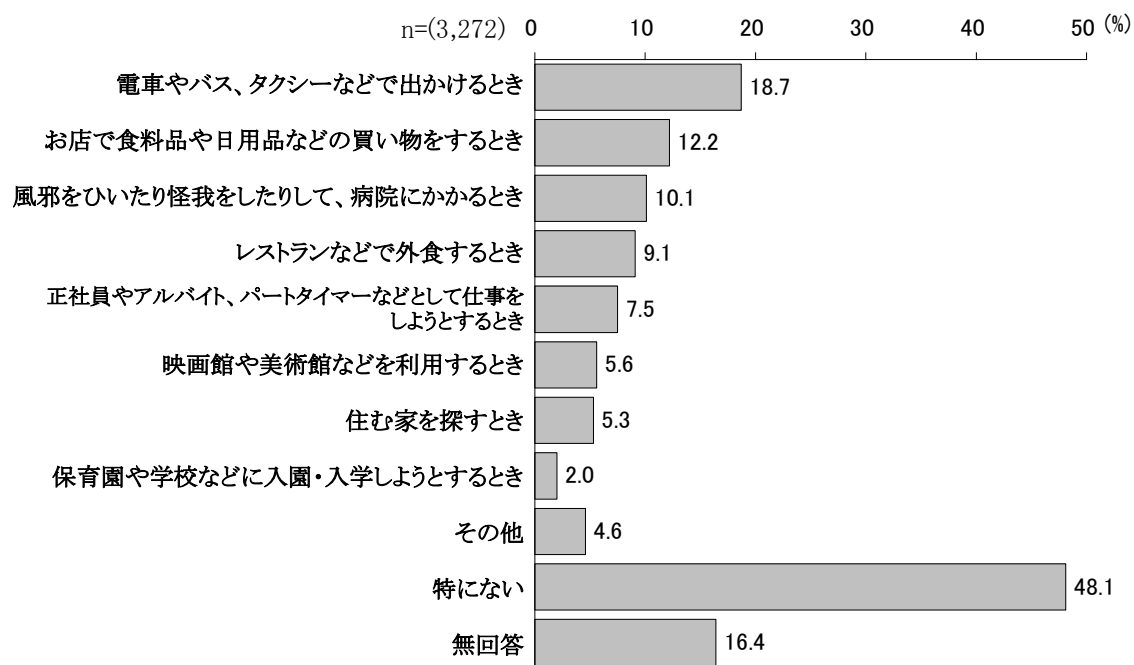
調査区分別、年齢別





## (3) 周囲の障害理解が足りないと感じる場面

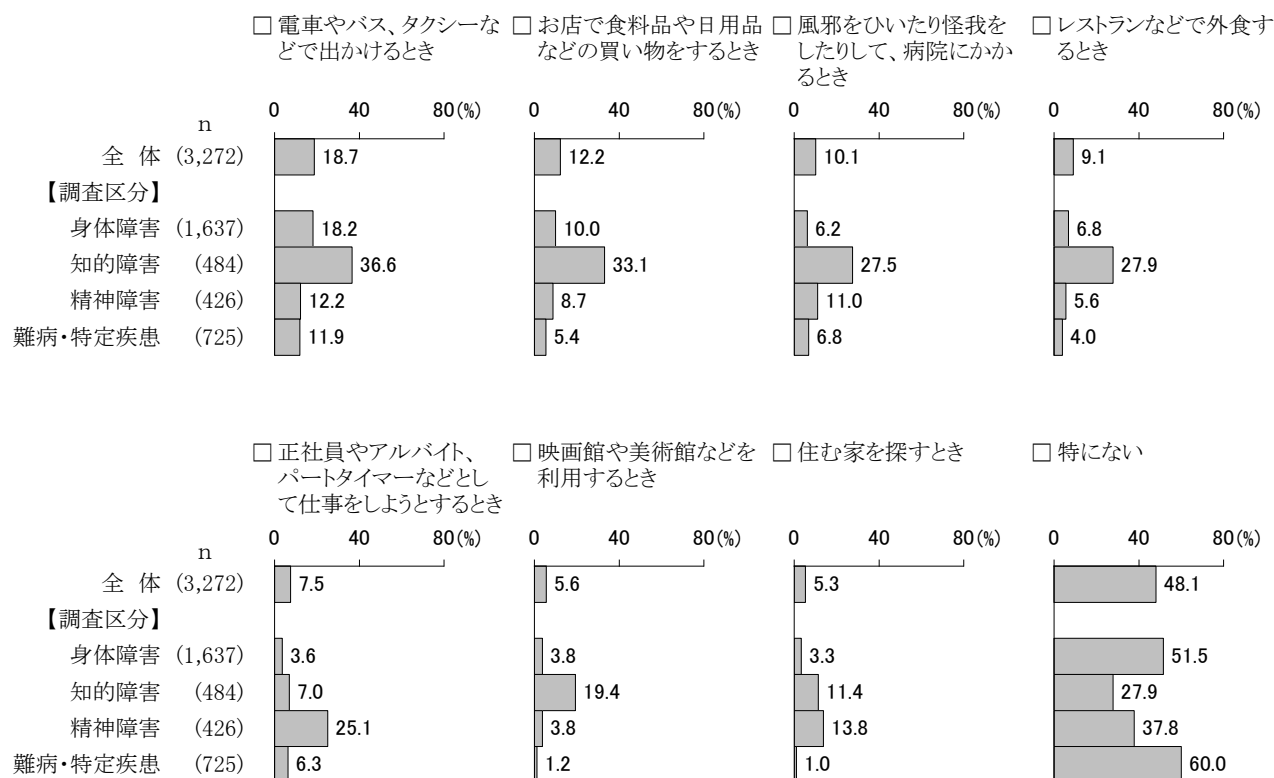
問41 あなたは、周りの方々に、あなたの障害について理解されていないと感じることがありますか。(あてはまるものすべてに○)



周りの方々に、障害について理解されていないと感じることを聞いたところ、「特にない」が48.1%で最も多くなっている。感じていることでは、「電車やバス、タクシーなどで出かけるとき」が18.7%で最も多く、「お店で食料品や日用品などの買い物をするとき」が12.2%、「風邪をひいたり怪我をしたりして、病院にかかるとき」が10.1%となっている。

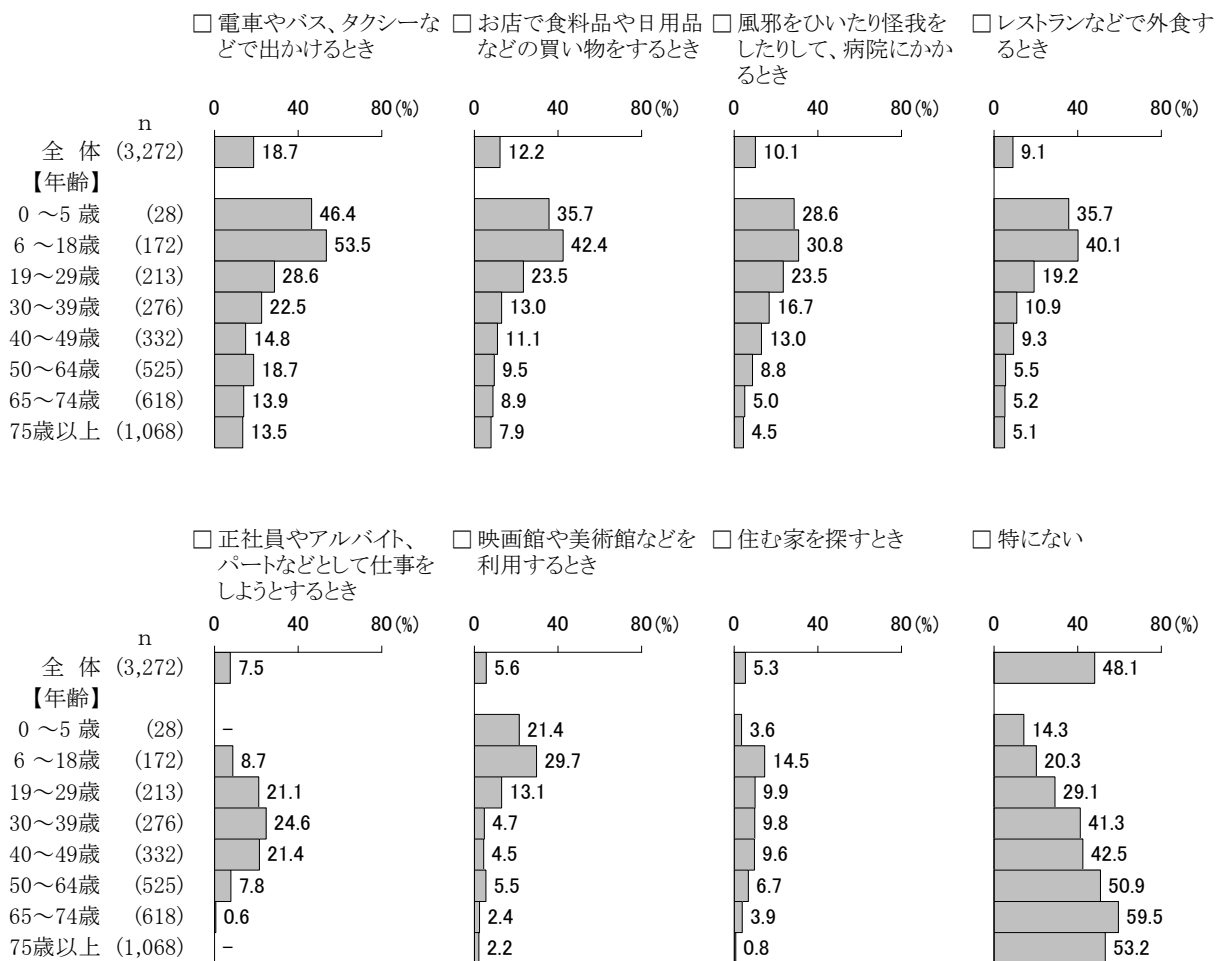
調査区分にみると、知的障害では、他の調査区分と比べて理解されていないと感じる項目が多く、特に「電車やバス、タクシーなどで出かけるとき」(36.6%)、「お店で食料品や日用品などの買い物をするとき」(33.1%)、「風邪をひいたり怪我をしたりして、病院にかかるとき」(27.5%)、「レストランなどで外食するとき」(27.9%)、「映画館や美術館などを利用するとき」(19.4%)などがあげられている。精神障害では「正社員やアルバイト、パートタイマーなどとして仕事をしようとするとき」が25.1%と多くなっている。また、「特にない」は、身体障害(51.5%)と難病・特定疾患(60.0%)が多くなっている。

調査区分別(上位7項目+「特にない」)



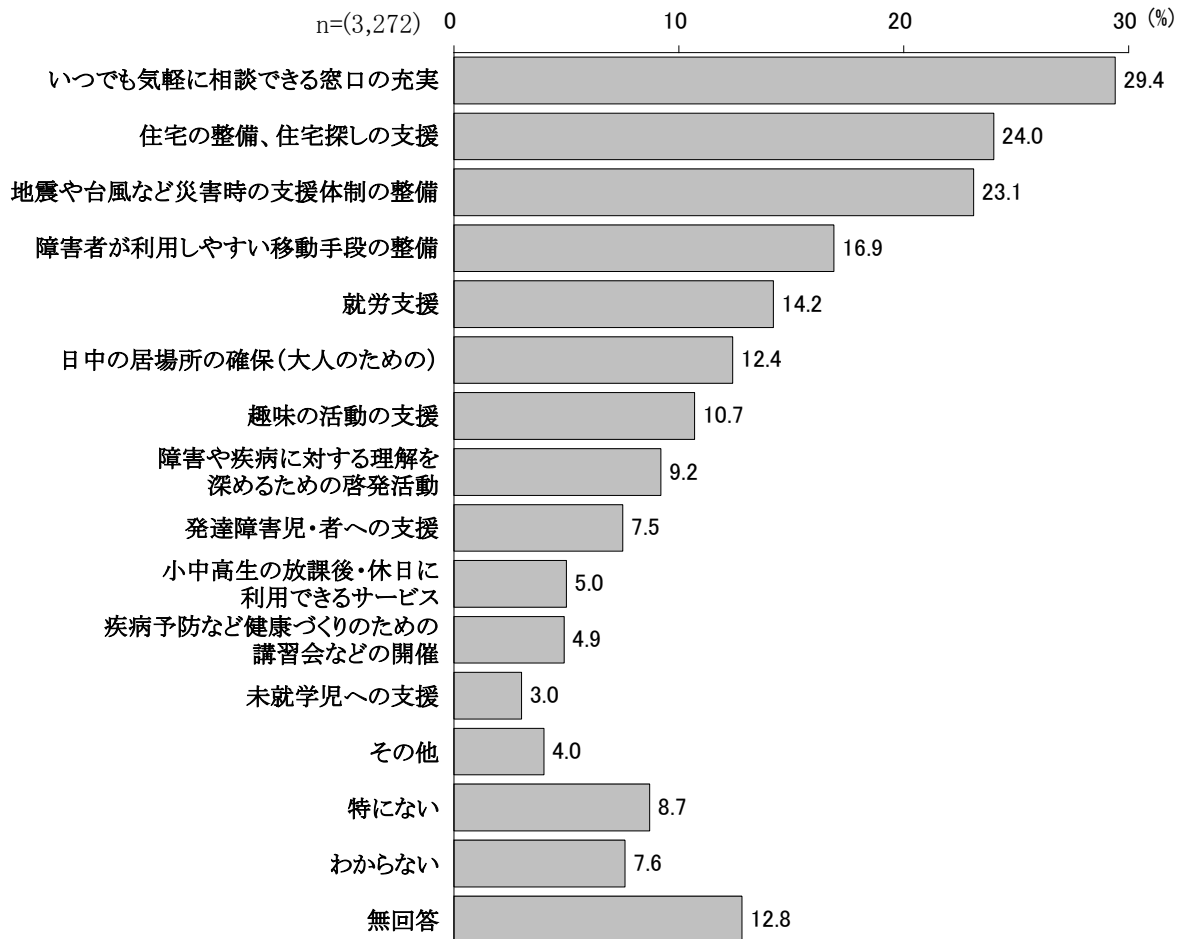
年齢別にみると、0～5歳と6～18歳では「電車やバス、タクシーなどで出かけるとき」、「お店で食料品や日用品などの買い物をするとき」、「風邪をひいたり怪我をしたりして、病院にかかるとき」、「レストランなどで外食するとき」、「映画館や美術館などを利用するとき」などで他の年齢より多くなっている。「正社員やアルバイト、パートなどとして仕事をしようとするとき」は19歳から49歳の年齢にかけて2割台あげられている。なお、「特にない」は年齢が上がるとともに多くなる傾向がみられ、50歳以上では5割台となっている。

年齢別（上位7項目＋「特にない」）



## (4) 充実すべき障害者福祉施策

問42 今後、武蔵野市の障害者福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまで○)



市の障害者福祉はどのようなことを充実させていけばよいか聞いたところ、「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」が29.4%で最も多く、以下、「住宅の整備、住宅探しの支援」(24.0%)、「地震や台風など災害時の支援体制の整備」(23.1%)が2割台、「障害者が利用しやすい移動手段の整備」(16.9%)、「就労支援」(14.2%)、「日中の居場所の確保(大人のための)」(12.4%)、「趣味の活動の支援」(10.7%)が1割台で続いている。

調査区別に上位5位をみると、「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」、「住宅の整備、住宅探しの支援」、「地震や台風など災害時の支援体制の整備」は調査区分に関わらず上位にあげられ、共通した施策要望となっている。また、身体障害と難病・特定疾患では「障害者が利用しやすい移動手段の整備」、知的障害と精神障害では「日中の居場所の確保(大人のための)」も上位にあげられている。一方で、知的障害の「住宅の整備、住宅探しの支援」は同じ上位でも要望の強さに大きな違いも生じている。この他、「趣味の活動の支援」が身体障害で、「発達障害児・者への支援」が知的障害で、「就労支援」が精神障害と難病・特定疾患で上位にあげられている。

年齢別にみると、「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」、「住宅の整備、住宅探しの支援」、「地震や台風など災害時の支援体制の整備」は多くの年齢であげられている。また、「就労支援」も64歳以下の年齢で上位にあげられている。18歳以下の年齢では、「発達障害児・者への支援」、「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス」、「未就学児への支援」が上位となり、6～18歳と19～29歳では「住宅の整備、住宅探し支援」が、30歳以上の年齢では「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」が第1位となるなど、年齢による違いもみられる。

調査区分別、年齢別（上位5位表）

（%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 n=3,272	相談窓口の充実 29.4	住宅の整備、住宅探し支援 24.0	災害時支援体制整備 23.1	移動手段の整備 16.9	就労支援 14.2
身体障害 n=1,637	相談窓口の充実 27.0	災害時支援体制整備 23.8	移動手段の整備 22.8	住宅の整備、住宅探し支援 17.6	趣味の活動支援 9.8
知的障害 n=484	住宅の整備、住宅探し支援 50.8	災害時支援体制整備 24.0	日中の居場所確保 23.1	発達障害児・者支援／相談窓口の充実 21.5	
精神障害 n=426	相談窓口の充実 39.2	就労支援 27.2	住宅の整備、住宅探し支援 25.4	日中の居場所確保 19.2	災害時支援体制整備 16.2
難病・特定疾患 n=725	相談窓口の充実 34.5	災害時支援体制整備 25.2	住宅の整備、住宅探し支援 19.7	移動手段の整備 16.0	就労支援 14.2
0～5歳 n=28	発達障害児・者支援 64.3	未就学児支援 57.1	小中高生のサービス 50.0	就労支援 25.0	啓発活動 17.9
6～18歳 n=172	住宅の整備、住宅探し支援 51.2	小中高生のサービス 46.5	発達障害児・者支援 33.7	就労支援 32.0	日中の居場所確保 20.3
19～29歳 n=213	住宅の整備、住宅探し支援 43.2	災害時支援体制整備 26.3	相談窓口の充実 25.8	就労支援 23.9	発達障害児・者支援 17.8
30～39歳 n=276	相談窓口の充実 34.4	就労支援 30.8	住宅の整備、住宅探し支援 27.5	災害時支援体制整備 23.9	日中の居場所確保 18.5
40～49歳 n=332	相談窓口の充実 31.3	就労支援 26.5	住宅の整備、住宅探し支援 26.2	災害時支援体制整備 17.8	日中の居場所確保／啓発活動 14.5
50～64歳 n=525	相談窓口の充実 34.9	住宅の整備、住宅探し支援 28.8	災害時支援体制整備 23.0	就労支援 20.4	移動手段の整備 17.5
65～74歳 n=618	相談窓口の充実 30.1	災害時支援体制整備 22.7	住宅の整備、住宅探し支援 22.0	移動手段の整備 18.9	趣味の活動支援 13.9
75歳以上 n=1,068	相談窓口の充実 27.9	災害時支援体制整備 25.8	移動手段の整備 21.3	住宅の整備、住宅探し支援 13.3	日中の居場所確保 8.3

※表記の都合上、選択肢は簡略して表示している。

## (5) 意見・要望（自由記述）

問43 武蔵野市の障害者福祉にご意見・ご要望がございましたらお書きください。

（公開してもよい／公開しないでほしい）

市の障害者福祉に対して意見・要望を自由に記述していただいたところ、合計680件の記述があった。その内容をカテゴリー分けし、「公開してもよい」と回答のあったもののうちから、代表的、あるいは印象的な意見をいくつか掲載させていただいた。なお、1人が2つ以上の分類にわたる内容を記述、また同カテゴリーでも内容が異なる場合もあるため、合計件数は延べ件数となる。

## 外出・移動

91件

- ・市内の道路や信号、駅、バス停などをもっと障害者（車イス使用）目線で、使用しやすい環境にしてほしいです。
- ・公共のバスを利用時、毎回障害者手帳を提示したくありません。運転手の方だけでなく他の方にも見られてしまうこととなります。金額の免除は有り難いことですが、これには抵抗があるため、バスではまだ一度も手帳を利用したことはありません。市だけでのことに限りませんが、もう少しどうにかならないことかと私自身考えております。
- ・レモンキャブの運用面で時間と曜日についてももう少し幅をもってもらいたい。外出時の自由度とこもりきりの状態から抜け出せるから。
- ・毎年お願いしていることですが、福祉タクシー利用券を初乗運賃額ではなく、金額の券にさせていただきたい。年に一回都内の兄に会いに行く時にしか、タクシーは使いませんので、2万近くかかっても券を一枚使えるだけです。500、100、10円などの券にいただけるととても助かります。御一考ください。
- ・駅周辺の障害者専用駐輪場の確保や、どこでも止められる障害者専用シールの発行
- ・私は下肢に障害があるので、5mm位の段差でも引っ掛かりころびそうになる。歩道は平坦なところが少ないので、いつも危険を感じる。又、歩道上を自転車が多いので歩く事は命がけです。中学生、高校生の自転車マナーは総じて良いが、大学生、社会人、大人は最悪の自転車運転です。自転車運転に関して歩いている人の中には、障害者も居るという事を啓発して欲しい。
- ・駅のエレベーターやエスカレーターの位置をはっきりわかるように提示してほしい。
- ・車椅子利用者にとってちょっとした段差が多く、車道と歩道の距離が近いので危険を感じる。吉祥寺駅前のアーケードは店舗がせまく、バリアフリーとは言えないお店が多い。
- ・ムーバスを市役所、体育館まで行くようにしてほしい。吉祥寺から市役所に行くバスの本数を増やしてほしい。
- ・道路の所々にベンチを設けてほしい。

**福祉全般****76 件**

- ・ 障害者に対する支援は考えられる全てが必要です。武蔵野市の福祉がもっと充実するよう願っています。
- ・ 障害者福祉とは何ですか。詳しく説明して頂きたいです。ひとくりにまとめられるとよくわかりません。障害者にとって何が必要なのかもわからないので。
- ・ 武蔵野市の障害者福祉は手厚いと思う。これからも障害者の立場に立った施策を望みます。
- ・ 武蔵野市は大変福祉が行き届いていて、他市の人からうらやましがられるくらいである。このような方向が市政の方針として続いてほしいと願っている。
- ・ 障害者と言っても人それぞれ差があるので、その人に合った支援が十分に受けられるようにしてほしい。
- ・ 例え障害があったとしても、自分が周りに必要とされていると感じることが生きていく上で、とても大切な事だと考えます。支援（物理的）も大切ですが、人として自立し、精神的にも満たされる生活が出来る環境があれば、きっと障害者の方も素晴らしい毎日を過ごす事が出来るのではと思います。
- ・ 子育て世代ばかり得しているようです。
- ・ 障害児・者本人と家族が安心して暮らせるような行政であってほしい。就労支援やくらしなど。
- ・ 高齢者福祉に関しては、武蔵野市は全国的に上位ランクですが障害者福祉は一步遅れていると思います。もちろん田舎などと比べれば 10 点満点ですが、障害者福祉に関してもっと細かな配慮があることが本当の意味でのバリアフリー。そして最終的には、「ノーマライゼーション」が現実的に実行されている武蔵野市として、日本中の模範となって行ってほしいです。ムーブスも武蔵野市が手本となり、今では広い地域で実用されています。この事は武蔵野市民として誇りに思います。「ノーマライゼーション」の手本、武蔵野市として努力をお願いします。
- ・ 障害者にとって生活し易い、住み易い街づくりに一段のご配慮、ご努力を願いたい（ハード面、ソフト面ともに）。

**感謝****58 件**

- ・ 福祉には感謝しています。障害者にならなければわからない事がたくさんありましたが、仕事も途中でやめ、うつ症状になり大変でしたが、どうにか生活できています。福祉はありがたい。
- ・ 市の障害者福祉は他市に比べて大変進んでおり、感謝しています。市長他以下のレベルが高く、安心して暮らせます。益々の発展を祈ります。
- ・ 偶然武蔵野市に引っ越してこなかったら、もう死んでいたと思います（夫も）。ゆくゆくは元気になって恩返ししたいです。市役所に足を向けて眠れません。多謝。
- ・ 武蔵野市は自分が知るかぎり「福祉にとっても手厚い市」だと感じております。通院のための助成をしていただき、都内の病院へ定期的に通う身としては本当にありがたく思っております。ありがとうございます。
- ・ 生まれも育ちも武蔵野市ですが、先進的な福祉のあり方を実現している。市行政に 1 人の市民として誇りを感じています。今までの支援に対する感謝と、この先より良いすぐれた福祉のあり方の

モデルであり続けてほしいと思います。

- ・今年八月に引っ越して参りましたが、武蔵野市の特定疾患患者への支援が充実しており、助かっています。今後も金銭的援助に留まらず、相談窓口の充実や周囲の理解を進める為の活動を宜しく願いたい。

## 住居・生活環境・家族

60件

- ・現在民間の古いアパートに住んでいるので、立ち退きになった場合、次の住宅が見つかるかいつも不安に思っています。都営住宅に申し込んでいますが、なかなか当選にはいたりません。
- ・本人は現在、特別養護老人ホームに入所している。特養は生活の場である、という理念であるので、睡眠、食事、トイレ、入浴等に不足はないが、趣味や楽しみの活動（風船バレーやペットボトルボーリング等）のプログラムは月に数回で、その他の日はイスに座ってテレビを見るだけである。せめて1月おきで良いのでデイサービスで行っているような「遊び」で頭を使う事が出来たら、もっと充実した時間を過ごせるのではと思う。
- ・障害者が優先的に入居できる都営住宅のようなものを整備してほしい。障害があっても生活できる環境（ある程度の広さ、エレベーターの設備）や通勤しやすい利便性を考えると、家賃が高い物件にどうしてもなってしまう経済的な負担が非常に大きい。
- ・時々で良いから家に帰りたいがアパートが2階なので、階段が一人の付添では上がれない。杖をついてやっと平面が歩ける程度なのです。家庭生活がしたいと夫婦で希望していますが、もう一人見守ってくれる人が欲しいです。
- ・グループホーム、ケアホームの絶対的な不足を解消して欲しいです。また、老後（本人）はどうなるのか不安です。市内に入所施設が無いので、グループホーム、ケアホームに高齢の為にいられなくなった時、どこへ行けばよいのか…。
- ・賃貸住宅での隣人とのトラブル…聴覚過敏であったり神経質であったりという症状に対しての、一般の人との折り合いのつけ方等あるとうれしいです。特に市内での喫煙等、（歩きタバコ）は外出したくない要因の一つであります。喫煙者の主張もわかります。嫌煙者にとっては辛くもあり、喫煙者も同様であるとは思いますが。

## 相談・情報

48件

- ・相談できる場所、人がよくわからないし使える支援がわからないので、わかるようにしてほしい。
- ・各市政センターに障害福祉関係の窓口があるともっと気軽に相談、手続きが出来て便利かと思えます。また、もっと積極的な情報提供があると、サービスを知る、利用するきっかけになると思えます。今回のような郵送などでこんなサービスがありますと教えていただけるとありがたいです。
- ・情報がインターネット中心になってきているが、私は現在インターネットを使用していないので、色々な情報を入手することが困難になってきているので、市報は充実した物にしてほしい。
- ・まもなく支援・介助を受けなくては困る年齢でありながら、認識不足だと思いました。広報活動を広めていただきたい。
- ・相談するのに市役所まで行くのが大変なので、家に来てくれたら良いと思う。



**サービス・施設の利用****47 件**

- ・ヘルパーさんが仕事に慣れると、「サービスの平準化」といって交代させられてしまいます。障害者にとっては生活上どうしても手を借りなければならない人で身体的欠陥について理解してもらうには、かなりの精神的負担があるのですが、それを効率優先で頻繁にリセットされるのはとても辛いです。
- ・年を重ね、歩くことも徐々に困難になって参り、お買物が大変でお買物難民に多くの方々になりつつあると思います。代わってお買物をして下さるサービスを是非お願い申し上げます。
- ・通院やショートステイ等市外に月に1～3回と行っています。いつも思いますが、もっと近くだったら、市内の病院で出来たらと思います。タクシーをお願いしてヘルパーさんをお願いしてと、年々大変になって来ています。
- ・介護支援センターの人々と話をした際、個々人の能力や性格に大きな格差を感じた。大事な部門なのだからいい加減に適当な仕事をする人物を置かないでほしい。

**職員・窓口・市役所****47 件**

- ・自宅から市役所が遠いので、武蔵境の派出所でも障害者福祉課に関する業務を行ってほしい。
- ・私は引越して来たばかりで、何も分からないので色々な手続があり、何度か障害福祉課に行きましたが、本当に丁寧に説明して下さいとどなたも、とても感じが良く有難く思いました。これからもお世話になると思いますが、よろしくお願い致します。
- ・障害者本人が窓口相談に行っているのに、用件が足りず少々お待ち下さいが多すぎる。きちんと福祉の事を学んでほしいと願う。
- ・福祉課の担当の方の思いやりのある応対に大変ありがたい気持ちになりました。私は思いかけず難病になり、なかなか人にも説明できにくい状況でした。はじめて社会的に理解される場所があると感じましたし、そんな担当者の方に出会えてうれしかったです。だから病気を治して武蔵野市に役立つ私でいようと願っております。
- ・本人（高齢で市内に一人暮らし）は郵便物の管理もままならず、大切な書類を捨てたり失くしたりするので、市役所のお世話になっている課へあちこち郵便物を市外の私の方へ送って下さるようお願いしていますが、なぜか徹底されておらず父の家へ送られてきます。ゴミ対策課、市民課、福祉課等、そのたびに申請しているのですが、なぜ1回の願い出ですべての宛て先が統一できないのか、また後日父のもとに郵便物が届くのか不思議でなりません。このアンケートももちろん父の家に届き、捨てられそうになっていました。

**就労****38 件**

- ・市の施設（市役所、保健センター、コミセンなど）で障害者の働ける場所を作って頂きたい。
- ・発達障害のボーダーの子供を持つ親は思春期が遅く来ることもあり、15～18歳の精神的サポートを本当に必要としています。本人の社会参加も含め、安心して社会に出られるステップの場所が必要と思います。
- ・定期的な企業への職場訪問を実施してくださり、雇用側、職場内と家庭との橋渡しの役割を担って

いただいています。家族も働いているため、職場での様子等直接見聞きできないため、助かっています。又、企業側も何かあった際には相談できる「あいる」があることは心強いとお話をいただいています。いつもありがとうございます。

- ・精神的な病を抱え、前職を解雇されてから3年経ちました。しかし病状が思わしくなく、働きたくても働けない状態が続いています。何とか働く手立てはないかとインターネット等で調べてみると、「障害者手帳を取得すれば、障害者向けの求人があり、それで就業すれば病気を公表した上で、その状態に応じて働ける」ということを知りました。そこで主治医に相談した所「確かにあなたは今も病気の状態にあるが、手帳を取得するには症状が若干軽く申請することはできない」という返答でした。では“手帳を取得できない精神状態”の私は今後どのように仕事を探せばいいのでしょうか。このような状態に置かれた私のような市民に対し、「職を得て定着して働いていける支援」を強くお願いしたいと思います。

## アンケート

34 件

- ・障害者福祉についてアンケート調査のフィードバックを、広報誌を活用して実施して欲しい。多くの障害者がそれぞれの設問にどのように回答しているのかも興味深い。障害者の高齢化問題についての考え方について、アドバイスをご教示頂きたい。
- ・アンケートありがとうございます。障害の内容で大きく意見が違ふと思うのです。知的、身体的、精神的位は内容を区別してもよいと思うので、アンケートをひとつくりにしないでほしいとも感じます。難しいでしょうか。
- ・記入しづらい。全員該当するものは一ヶ所にまとめて欲しい。
- ・いくらふりがなをしてくださっても、知的障害者にはアンケートの内容を理解することができません。説明してあげるのにも限度があります。

## 保健・医療

28 件

- ・何が障害者となるのか不明確。医師もこちらから調べて申し出ないと認定の話すらしてくれないのが現状。医療従事者への教育不足を感じる。知らないと損をする福祉が多いのが現実生活と、今では割り切るしかないと悲観的な日々です。
- ・医療費の負担が大きい。免除をお願いしたい。
- ・精神障害で通院しています。自立支援をしていただいているので、診療代、薬代は1割負担なので助かりますが、「カウンセリング代」の負担が大きく年間20万円です。カウンセリング自体については先生にも不満もなく、良く相談にもものっていただいているのですが…。年間20万円のカウンセリング代は…。これって当たり前か。
- ・風邪をひき、近くの病院に行きましたが、予約の方優先なので2時間半待ちました。自閉症の為、イライラしたり大きな声を出しまわりの人目を気にしながらやっと薬をいただいてきました。手帳を提出し、優先して（せめて1時間以内などの）処置をしていただけるよう、病院にお願いしていただけないでしょうか。

## 障害者理解・啓発

27 件

- ・ノーマライゼーションの施策、政策をもっと積極的に推進してほしい。

- ・デパートや映画館などトイレが使用しづらい（便器の高さ、ボタンの位置など使いづらいものが多い）。もう少し考えて欲しい。
- ・バスや電車の中で若い人が老人や障害者に席をゆずる啓蒙運動をもっと拡げてほしい。
- ・重い方はひと目見て分かってもらえるが、外見から分からない病の場合は理解していただけないのが辛い。

## 現在の状況／今後のこと

現在 今後  
24件／9件

### ○現在の状況

- ・私は 68 歳まで杖をついて働いていましたので、今は家族にバランスの良い食事作りを心がけています。そして心豊かに暮らすことができればと思います。
- ・社会保障費合わせて4人家族で 300～400 万未満の収入です。ぎりぎりの生活費です。光熱水費の節約の日々です。
- ・74 歳ですけど娘夫婦孫たちと楽しく過ごしております。元気でプールにも行って友達と楽しく食事をしたりしています。武蔵野市はとてもいい町です。

### ○今後のこと

- ・私は障害といってもかるいので、あまり不自由は感じていません。しかし、心臓の為塩分を控える必要上、外食の時不便です。汁物などは薄くして貰いますが、すでに工場で味付けすみのも多く、食べるものに限りがあります。重度の障害のある方はいろいろと大変だと思います。
- ・この町が2人とも好きなので、長くなるべく住めれば良いと思っています。
- ・現在は自分の障害は自分でコントロールして、健常の人とほぼ同じ生活が出来ているが、これから老いの問題が避けられないので心配です。障害者の老人対策をどのようにして下さるのか知りたいです。頑張れるだけ頑張りますが。

## 通園・通学・親なきあとの不安

22 件

- ・現在市内でも発達障害児が急増しているが、それに対する対応が西東京市などの他市、他の地域に比べ遅れをとっている。市内の特別支援学級も未だに知的障害のみの固定学級2クラスだけなので、知的障害のない高機能自閉症やLDの子ども達の受け入れ先がないため、どんどん知的障害の学級に入ってきている現状である。本来通常の学級でサポートをしていくべきだと思うのだが、先生達の特別支援教育に対する知識不足のため、支援が必要な子どもを学校から排除している。港区の学習支援などの優れたシステムを導入してはいかがだろうか。
- ・障害児の学童保育を中学、高校まで作ってほしい。母子家庭で仕事をしています。子どもが中学へあがったら放課後どうなってしまうか不安です。1人で留守番はできないでしょうし、毎日ヘルパーさんなどをお願いすることも現在の制度ではムリです。宜しくお願いします。
- ・普通級にいる発達障害児の支援を本気で取り組んで下さい。次から次へ支援級、支援学級へ送りこむのではなく、普通級で支援員（障害の特性をよく知った人）のサポートさえあれば大丈夫な子どもも多くいます。武蔵野市にケアホームを増やす為に市民に広く借家の募集などして下さい。障害児・者の介護で追い詰められた母親のケアをお願いします。
- ・知的障害を伴う自閉症者。親が健康でいる間はあまり不安はないが、親が高齢になり健康でなくなると、1人っ子でもあり非常に不安。親亡き後のための施設をぜひお願いします。

**活動・交流****19 件**

- ・視覚障害者用のパソコン、英会話教室、ボウリング等の施設があります（市内）が、83 才になってからの障害ですので点字はできません。運動不足になりますので、障害者用の運動が欲しいです。
- ・市の広報誌などよく読むのですが、全体的な活動が見えてきません。多少の会費を払っても映画会、音楽会、皆で集って市報を読む会、読書会など、知ることが出来たらと思います。いろいろな勉強会活動を武蔵野市がやっていない筈がないと思いつつ、情報に触れることが出来ないのは私の怠慢のせいでしょうか。
- ・いつでも集えたり、それなりの趣味活動ができたり、相談や読み書きなんでもお願いできる場所がほしいと思います。
- ・当事者同士の支え合いも大事なので、気の合った仲間を作れるコミュニティが多ければ良いと思います。障害を持った高齢者を救い上げられる地域作り。

**手当て・助成・年金****15 件**

- ・補聴器を使っていますが、その助成額があまりに少ないと思います。数万円の補聴器は単なる拡声器で補聴器とは言えないものなのに、それが基準になっているような気がします。もう少し障害者側に立った助成をお願いします。
- ・一人で生活できるほどの経済支援（実際の賃金との差額支援）
- ・厚労省の報告では助成金の見直しが検討されていますが、これまでの対応に逆行するようなことにならないように要望します。

**高齢者施策・介護保険****12 件**

- ・老人と中年を一緒にとりあつかわないで、個別に対応して欲しいと思います（高齢者と障害者がひとくくりになっている気がします）。
- ・介護保険、要支援の適用が問題になっているようです。まだ先の話のようですが市の対策が心配です。
- ・病院に車椅子でヘルパーと行く時、待ち時間やタクシー等で移動中も介護保険がきくようにお願いします。

**災害時の対応****9 件**

- ・聴覚障害の主に困る事は、情報が瞬時に入らないことです。なので、地震や台風等災害時の支援体制がどのようになっているのか（すすめていくのか）事前に情報が欲しいです。（把握したい）
- ・災害時には自宅に留まれない場合、福祉避難所へなるべくスムーズに行けるような方法を考えて頂きたいです。

**申請、更新手続き****7 件**

- ・仕事が日中のため、平日に市役所へ行くのであれば休みをもらわないとならない為、月に1日でも良いので、手続きが全て行えるような役所の体制づくりをして欲しいです（障害の窓口はもちろんですが…）。
- ・支援を受けようとする場合、手続きが難しい。障害年金の手続きが難しい。

**その他****9 件**

- ・コミセン、市民会館等の常備図書の充実を要望します。
- ・私も病気をかくさないし、相手の方も急に態度を変えたりしない。スーパーでも買った物をレジの方が袋に入れる所まで運んで下さり、私は必ず御礼を云う。

### 13. 介助・支援者について

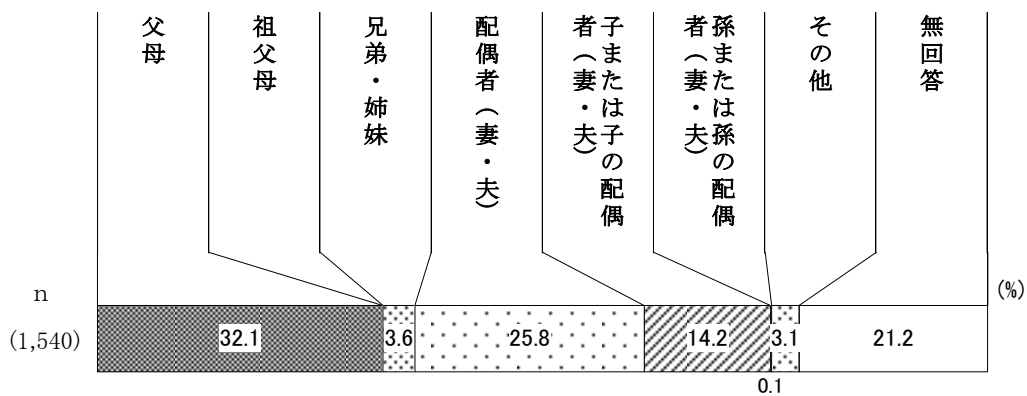
以下の設問からは宛名の本人を主に介助・支援している方に聞いた。

※本人が未成年の場合は保護者に回答を依頼した。

#### (1) 介助・支援者の状況

問44 ご本人を主に介助・支援されている方の続柄・年齢・健康状態などについてお聞きします。(それぞれ1つに○)

##### ①続柄（ご本人からみた関係）

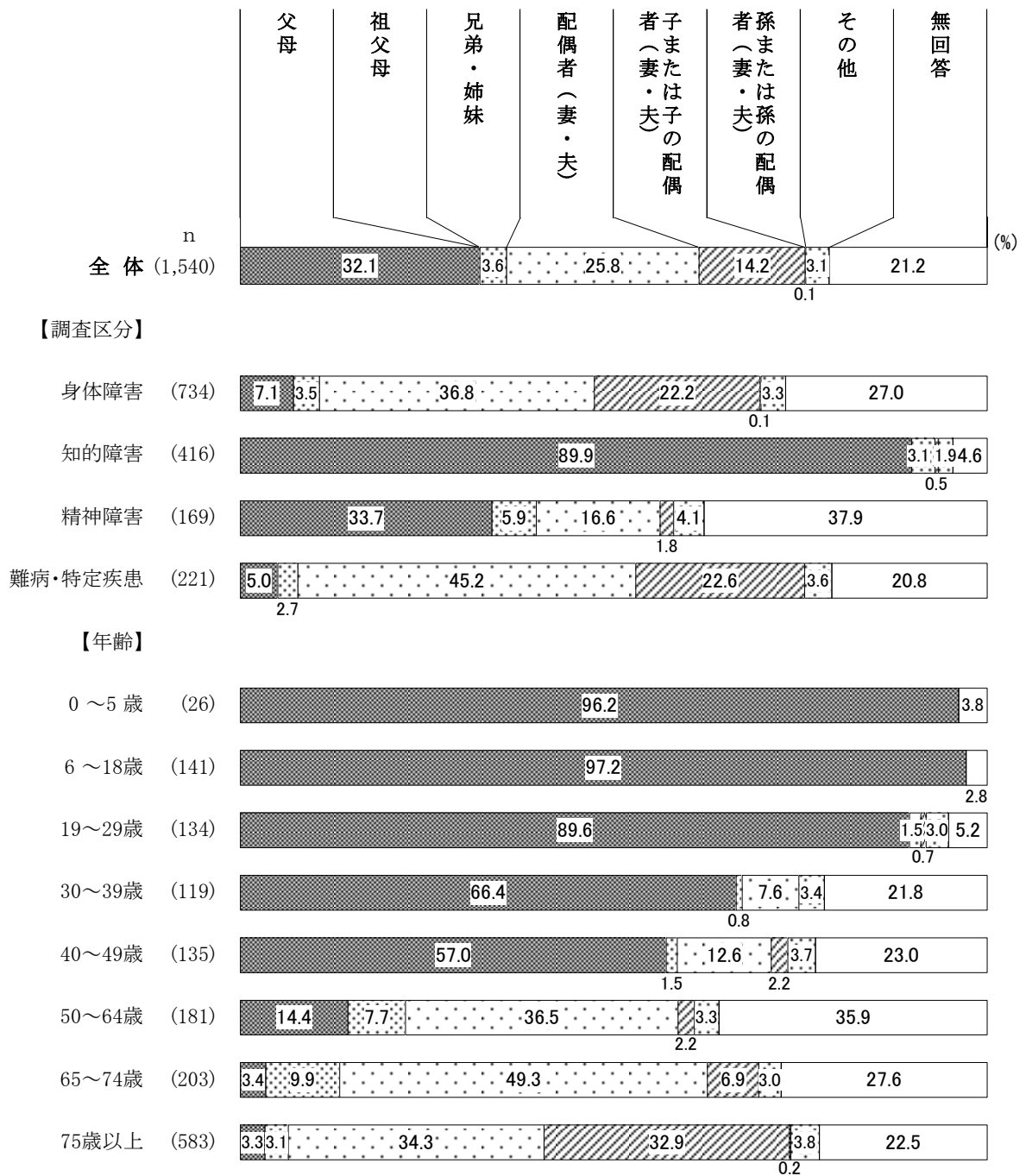


介助・支援者の続柄は、「父母」が32.1%、「配偶者(妻・夫)」が25.8%、「子または子の配偶者(妻・夫)」が14.2%となっている。

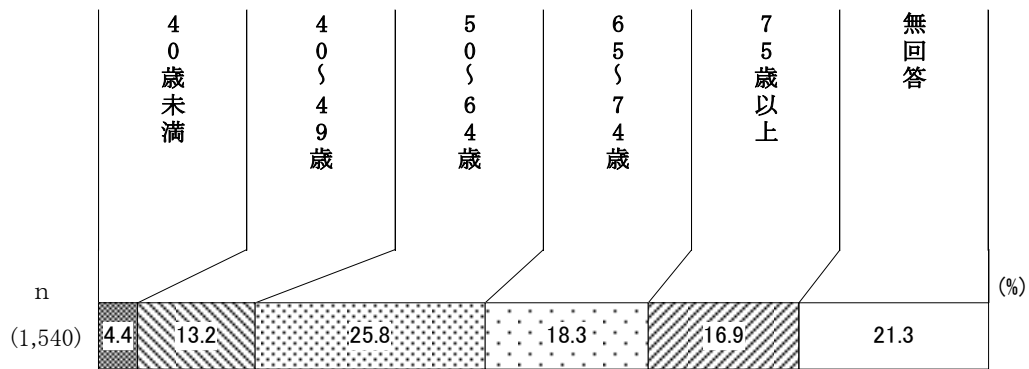
調査区分別にみると、「父母」は知的障害（89.9%）で約9割を占めており、精神障害で33.7%となっている。「配偶者（妻・夫）」と「子または子の配偶者（妻・夫）」では身体障害や難病・特定疾患で多くなっている。

年齢別にみると、「父母」は29歳以下の年齢で8割以上だが、年齢が上がるとともに少なくなる。「配偶者（妻・夫）」は50歳以上の年齢で3割以上となっており、65～74歳（49.3%）で半数近くとなっている。また、「子または子の配偶者（妻・夫）」は75歳以上で32.9%と他の年齢より多くなっている。

調査区分別、年齢別 ①続柄



②年齢

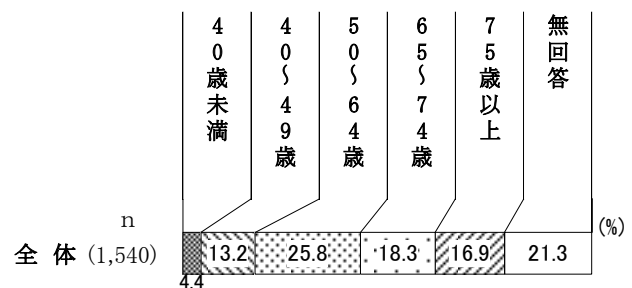


介助・支援者の年齢は、「50～64歳」が25.8%で最も多い。また、65歳以上が占める割合は35.2%となっている。

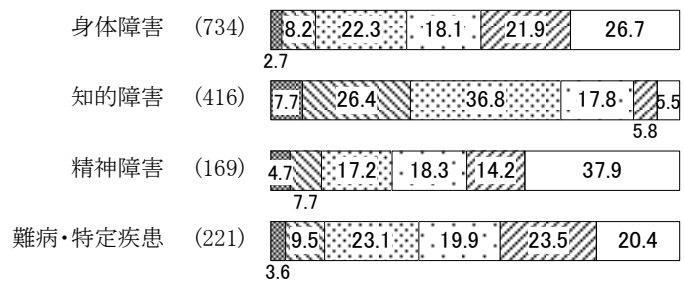
調査区分別、年齢別 ②年齢

調査区分別にみると、知的障害では「50～64歳」が36.8%となり、比較的若い層が多い。65歳以上の占める割合は、難病・特定疾患（43.4%）と身体障害（40.0%）が4割台、精神障害が32.5%、知的障害が23.6%となっている。

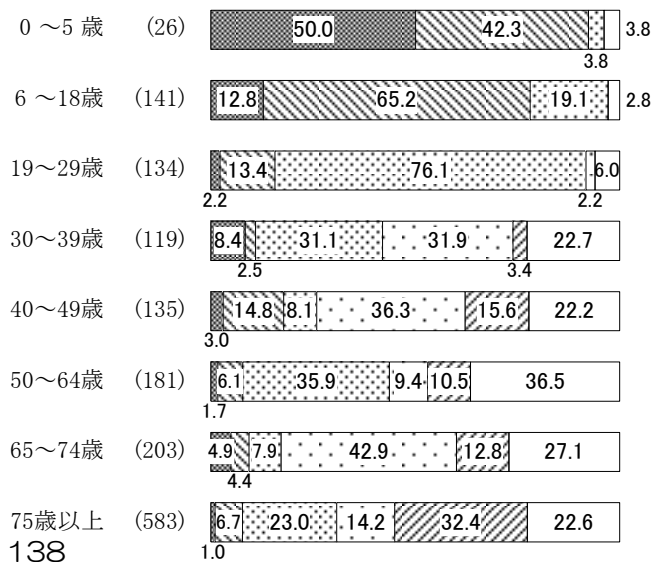
年齢別にみると、対象者の配偶者や親・子に該当するであろう年齢層が多くなっており、65～74歳では《65歳以上》（「65～74歳」と「75歳以上」の合計）が55.7%、「75歳以上」では75歳以上が32.4%と最も多く、配偶者の高齢化に伴う老々介護等の様子がみられる。



【調査区分】

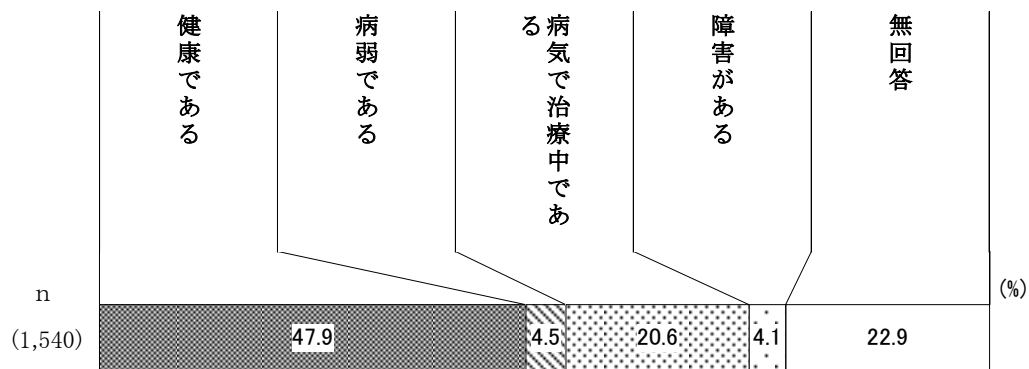


【年齢】



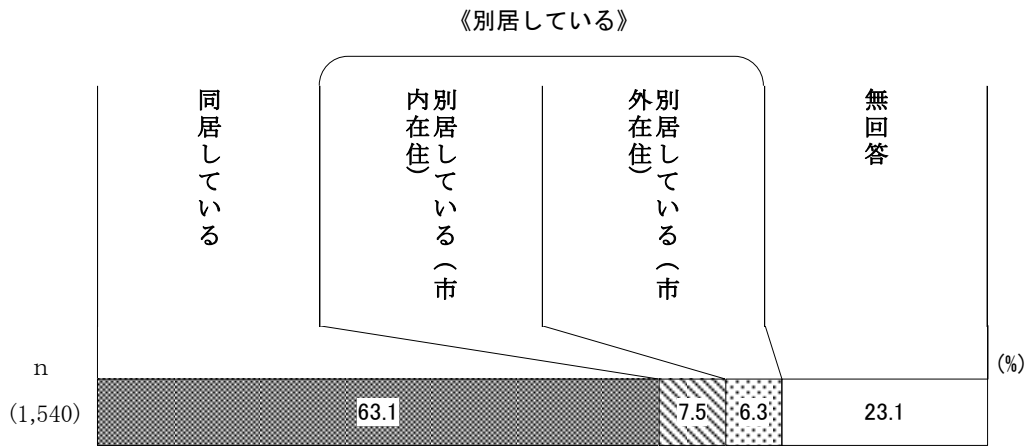


## ③健康状態



介助・支援者の健康状態は、「健康である」が47.9%、「病弱である」が4.5%となっている。また、「病気で治療中である」は20.6%、「障害がある」は4.1%となっており、病気や障害を持ちながら介助・支援している割合は24.7%となっている。

④同・別居の状況

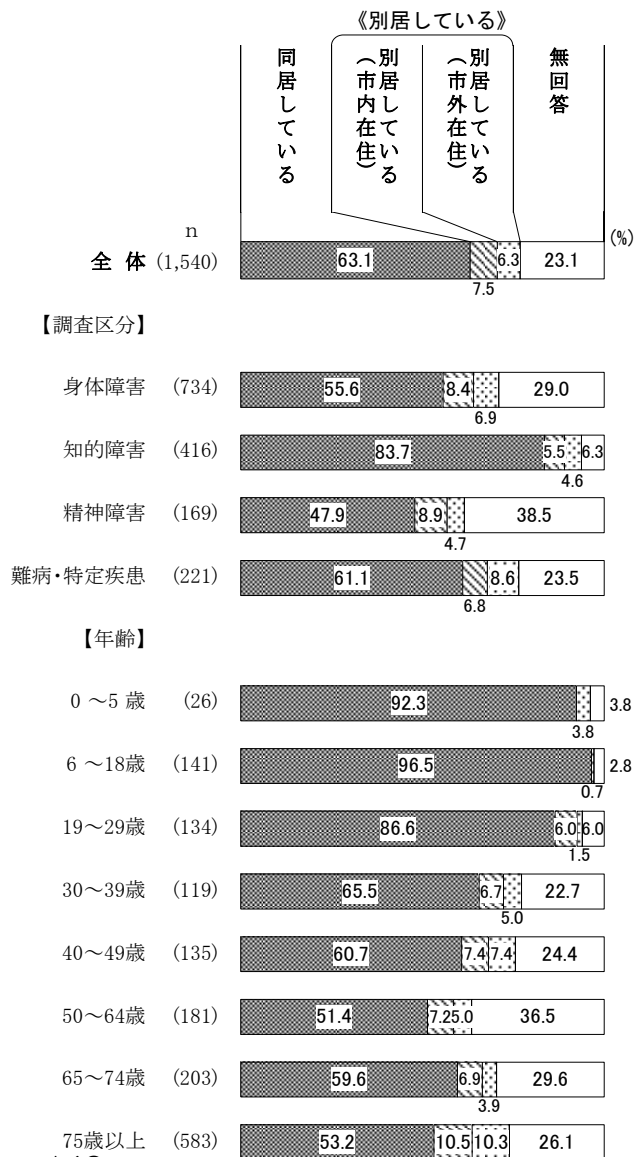


介助・支援者の同・別居の状況は、「同居している」が63.1%となっている。「別居している（市内在住）」（7.5%）と「別居している（市外在住）」（6.3%）をあわせた《別居している》人の割合は13.8%となっている。

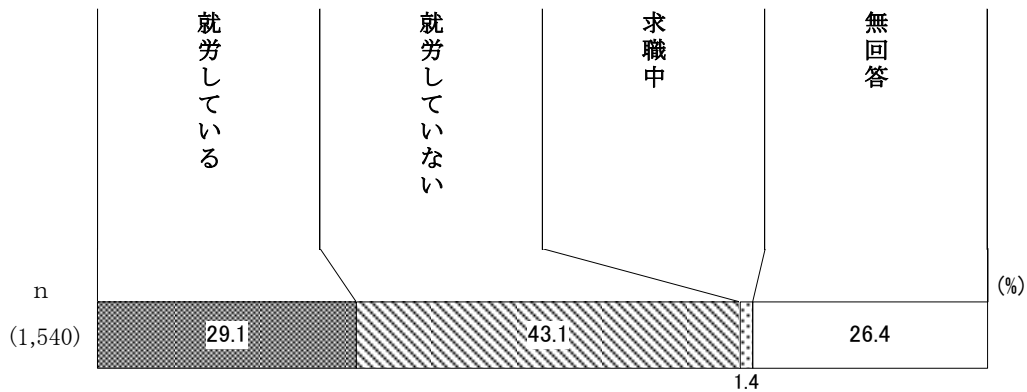
調査区分別、年齢別 ④同・別居の状況

調査区分別にみると、「同居している」は知的障害が83.7%と多く、難病・特定疾患が61.1%、身体障害が55.6%となっている。《別居している》はいずれの調査区分でも1割台となっている。

年齢別にみると、「同居している」は18歳以下で9割台を占め、19～29歳でも86.6%と多くなっている。《別居している》は75歳以上で20.8%と他の年齢より多くなっている。



⑤就労状況

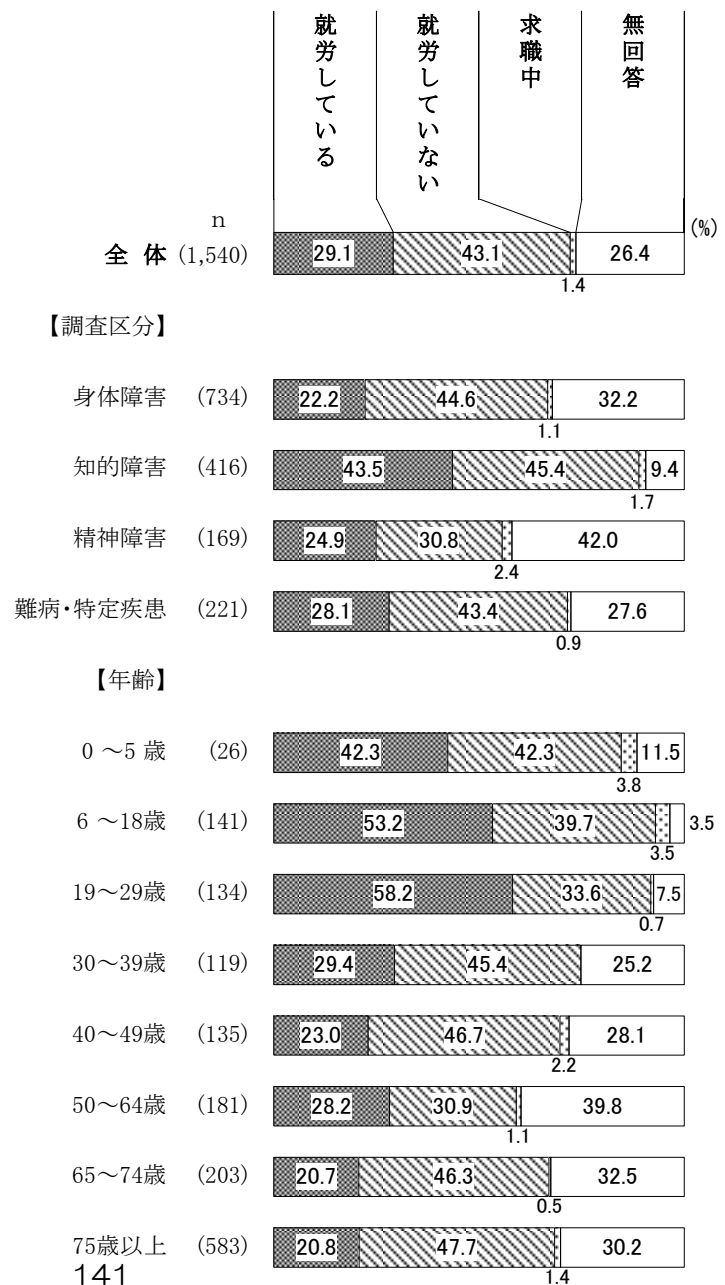


介助・支援者の就労状況は、「就労している」が29.1%、「就労していない」が43.1%となっている。

調査区分別、年齢別 ⑤就労状況

調査区分別にみると、「就労している」は知的障害が43.5%で他の調査区分より多くなっている。

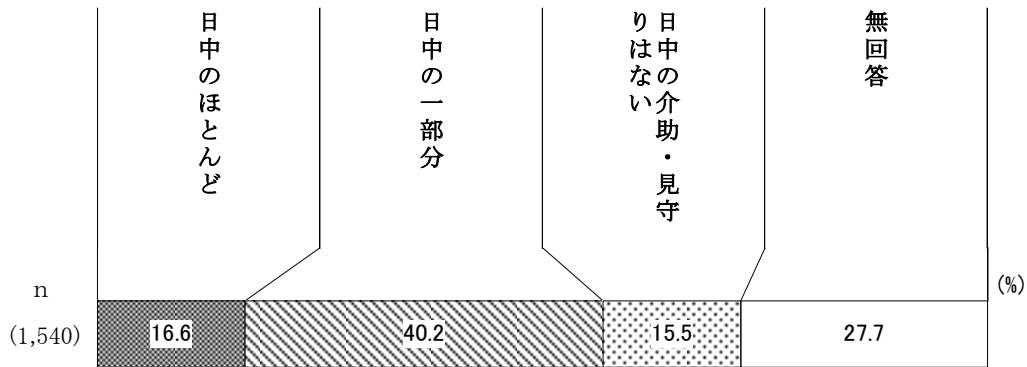
年齢別にみると、「就労している」は6～18歳と19～29歳で5割台、0～5歳で42.3%となっているが30歳以上の年齢では2割台となっている。



(2) 介助・支援に費やす時間

問45 介助・支援に費やす時間はどのくらいですか。(それぞれ1つに〇)

①日中の介助・支援時間

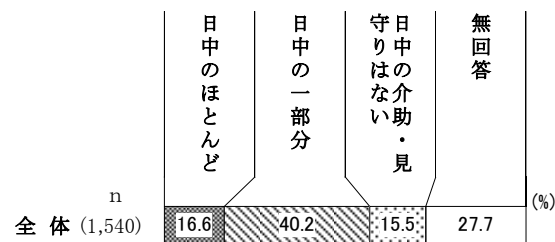


介助・支援者が介助・支援に費やす日中の時間は、「日中のほとんど」が16.6%、「日中の一部分」が40.2%となっている。一方、「日中の介助・見守りはない」は15.5%となっている。

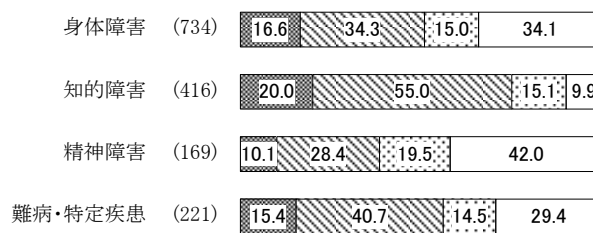
調査区分別、年齢別 ①日中の介助・支援時間

調査区分別にみると、知的障害は「日中の一部分」が55.0%、難病・特定疾患でも40.7%となっている。

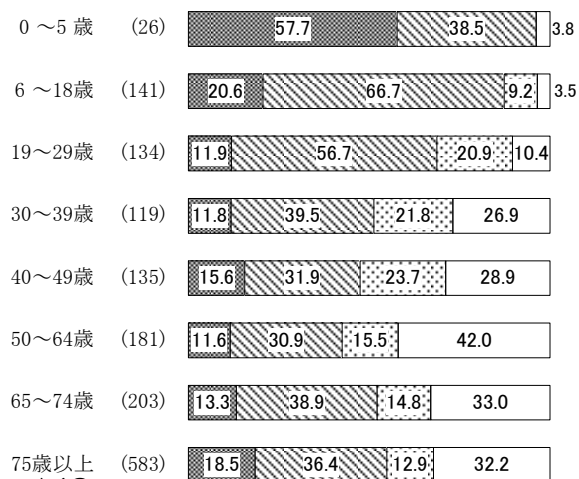
年齢別にみると、「日中のほとんど」は0～5歳が57.7%と多く、6～18歳と75歳以上で2割前後となっている。「日中の一部分」は6～18歳が66.7%、19～29歳が56.7%と他の年齢より多くなっている。



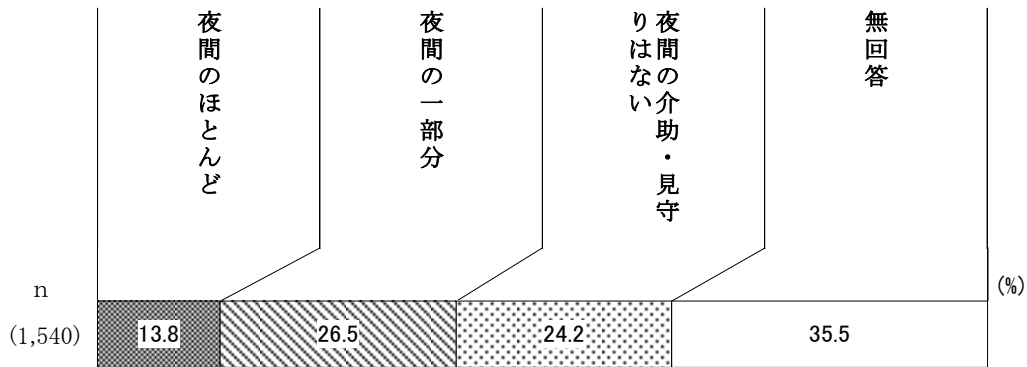
【調査区分】



【年齢】



②夜間の介助・支援時間

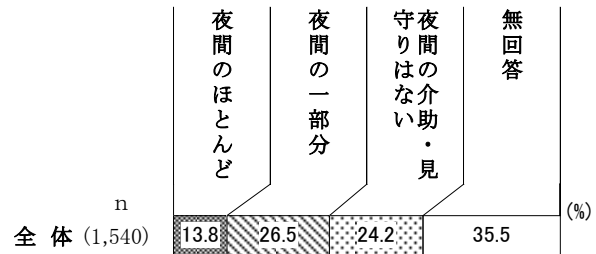


介助・支援者が介助・支援に費やす夜間の時間は、「夜間のほとんど」が13.8%、「夜間の一部分」が26.5%となっている。一方、「夜間の介助・見守りはない」は24.2%となっている。

調査区分別、年齢別 ②夜間の介助・支援時間

調査区分別にみると、知的障害は「夜間のほとんど」が25.0%、「夜間の一部分」が37.0%と多くなっている。

年齢別にみると、29歳までは5割以上が夜間何らかの介助をしている。30歳以上の年齢でも3割程度は何らかの介助を行っている。



【調査区分】

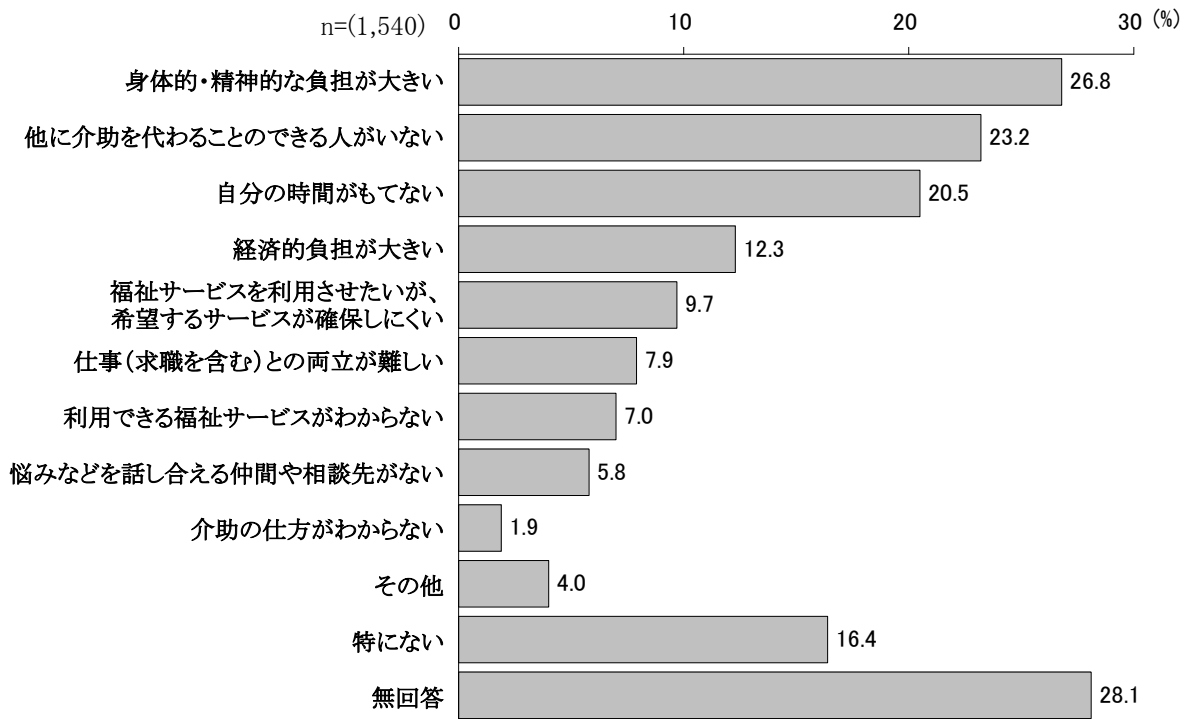
調査区分	人数	夜間のほとんど (%)	夜間の一部分 (%)	夜間の介助・見守りはない (%)	無回答 (%)
身体障害	(734)	10.4	22.9	24.1	42.6
知的障害	(416)	25.0	37.0	23.1	14.9
精神障害	(169)	8.3	18.3	25.4	47.9
難病・特定疾患	(221)	8.6	24.9	25.3	41.2

【年齢】

年齢	人数	夜間のほとんど (%)	夜間の一部分 (%)	夜間の介助・見守りはない (%)	無回答 (%)
0～5歳	(26)	42.3	38.5	11.5	7.7
6～18歳	(141)	27.0	42.6	23.4	7.1
19～29歳	(134)	26.1	35.8	25.4	12.7
30～39歳	(119)	10.9	28.6	31.1	29.4
40～49歳	(135)	12.6	24.4	29.6	33.3
50～64歳	(181)	9.4	22.7	20.4	47.5
65～74歳	(203)	7.9	21.2	29.1	41.9
75歳以上	(583)	10.6	23.3	21.4	44.6

## (3) 介助・支援で困っていること

問46 介助・支援では、どのようなことに困っていますか。(あてはまるもの3つまでに○)



介助・支援者が介助・支援で困っていることは、「身体的・精神的な負担が大きい」が26.8%で最も多く、以下、「他に介助を代わることのできる人がいない」(23.2%)、「自分の時間がもてない」(20.5%)、「経済的負担が大きい」(12.3%)などが続いている。

調査区分別に上位5位をみると、「身体的・精神的な負担が大きい」はいずれの調査区分でも第1位にあげられている。また、「他に介助を代わることのできる人がいない」、「自分の時間がもてない」、「経済的負担が大きい」もいずれの調査区分でも共通して上位にあげられている。この他、身体障害では「仕事(求職を含む)との両立が難しい」、知的障害では「福祉サービスを利用させたいが、希望するサービスが確保しにくい」、精神障害では「悩みなどを話し合える仲間や相談先がない」、難病・特定疾患では「利用できる福祉サービスがわからない」があげられるなど、調査区分による違いもみられる。

年齢別に上位5位をみると、「身体的・精神的な負担が大きい」、「他に介助を代わることのできる人がいない」、「自分の時間がもてない」はいずれの年齢でも上位にあげられている。また、「経済的負担が大きい」、「福祉サービスを利用させたいが、希望するサービスが確保しにくい」、「仕事(求職を含む)との両立が難しい」、「悩みなどを話し合える仲間や相談先がない」なども多くの年齢であげられている。

調査区分別、年齢別（上位5位表）

（%）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=1,540	身体的・精神的負担 26.8	介助を代わる人がいない 23.2	自分の時間 20.5	経済的負担 12.3	サービスの確保 9.7
身体障害 n=734	身体的・精神的負担 21.3	介助を代わる人がいない 20.2	自分の時間 19.8	経済的負担 11.2	仕事との両立 6.0
知的障害 n=416	身体的・精神的負担 36.8	介助を代わる人がいない 33.7	自分の時間 23.8	サービスの確保 23.3	経済的負担 14.2
精神障害 n=169	身体的・精神的負担 23.1	介助を代わる人がいない 16.0	経済的負担 13.0	悩みを話し合える相談先等/ 自分の時間 11.2	
難病・特定疾患 n=221	身体的・精神的負担 29.0	自分の時間 24.0	介助を代わる人がいない 19.0	経済的負担 11.8	利用できるサービスが不明 10.0
0～5歳 n=26	身体的・精神的負担 53.8	自分の時間/ 仕事との両立 34.6		介助を代わる人がいない/ サービスの確保 26.9	
6～18歳 n=141	身体的・精神的負担 43.3	介助を代わる人がいない 36.9	サービスの確保 35.5	自分の時間 26.2	仕事との両立 22.7
19～29歳 n=134	介助を代わる人がいない 34.3	身体的・精神的負担 32.1	自分の時間 22.4	サービスの確保 20.9	仕事との両立 11.9
30～39歳 n=119	介助を代わる人がいない 26.9	身体的・精神的負担 26.1	自分の時間 14.3	悩みを話し合える相談先等/ 経済的負担 10.1	
40～49歳 n=135	身体的・精神的負担 29.6	介助を代わる人がいない 21.5	自分の時間 19.3	経済的負担 14.1	悩みを話し合える相談先等/ サービスの確保/ 仕事との両立 6.7
50～64歳 n=181	身体的・精神的負担 24.3	介助を代わる人がいない 16.6	自分の時間 14.9	経済的負担 13.8	悩みを話し合える相談先等/ 仕事との両立 7.7
65～74歳 n=203	介助を代わる人がいない 21.7	身体的・精神的負担 18.2	自分の時間 16.3	経済的負担 7.4	利用できるサービスが不明/ 悩みを話し合える相談先等 5.9
75歳以上 n=583	身体的・精神的負担 24.0	自分の時間 22.6	介助を代わる人がいない 19.6	経済的負担 11.8	利用できるサービスが不明 5.7

※表記の都合上、選択肢は簡略して表示している。

**(4) 意見・要望（自由記述）**

問47 武蔵野市の障害者福祉にご意見・ご要望がございましたらお書きください。

（公開してもよい／公開しないでほしい）

市の障害者福祉に対して意見・要望を自由に記述していただいたところ、合計317件の記述があった。その内容をカテゴリー分けし、「公開してもよい」と回答のあったもののうちから、代表的、あるいは印象的な意見をいくつか掲載させていただいた。なお、1人が2つ以上の分類にわたる内容を記述していたり、同カテゴリーでも内容が異なる場合もあるため、合計件数は延べ件数となる。

**住居・生活環境・家族****53 件**

- ・市内のグループホーム、ケアホームを充実させて下さい（特に重度の障害者の為の）。
- ・年をとった親と障害を持った子が、共に暮らせるような施設は考えられないだろうか。
- ・通勤寮をつくっていただきたい。親と離れて暮らす経験を誰もが20歳ぐらいの若い時期に体験して、自立の自信をつけさせられる体験ができるよう、環境を整えていただきたい。
- ・武蔵野市にもぜひ安心して住み続けられる入所施設を作ってほしい（都内で入所施設がないのは3ヶ所だけだと聞きました）。
- ・障害者の住める住宅が少ない（現在も家賃負担が大きく、生活が苦しい）。
- ・家を建て替えバリアフリーにしたのに、セットバック道路工事をついた、家の玄関前の道路縁石段差に困っている。道路工事の際には、障害者の家の希望で段差を少なくする等してほしい。

**サービス・施設の利用****39 件**

- ・ショートステイが必要なときに利用できるよう、施設を増やして欲しい。
- ・介助している立場から考えた時、訪問リハビリ、デイケアがもっともおすすめのお話が多くありますが、本当に手助けしていただきたいと思う事は、1ヶ月一度でいいから、ショートステイに一晚でもいいから時間がほしいということです。但し、料金が高くなかなか希望がかないません。
- ・用事がある時などに井の頭はうすなど、一時預かりの施設の予約がいっぱいだということが多いので、定員や施設を増やして頂きたく宜しくお願い致します。
- ・武蔵野市に知的障害者入所更生施設をぜひお願いする。
- ・今後ガイドヘルパーが大幅に不足してくると考えます。早い段階で対策を取って頂きたい。

**通園・通学・教育/親なきあとの不安****38 件**

- ・障害児（知的）の学童保育の充実を望みます。現在4年生までですが、6年生までさらに加配の措置など考えていただきたいです。また、中学生も通える学童クラブ（週に何日かでなく、毎日通える場所）の設置を望みます（特に境地区）。
- ・来年中学生になるので学童（さくらっこ）が6年生までないので、来年からどうして良いかととても困っています。放課後デイも週1回しか見てももらえないし、夏休みなど長い休みの日でも午後からの受け入れなので、働く事が難しくなってきます。学童クラブみたいなシステムの所を作って欲しいです。安心して働けるように何か対策をお願いします。



- ・高齢者への社会福祉に対し、子供への支援が弱い気がします。特に障害児教育に関しては隔離して教育するという、効率優先の姿勢が気になります。障害児も個々に状態が異なります。その時々での発達のレベルに応じ、もっとフレキシブルに支援が行われれば、もっとのびる子どももたくさんいます。是非よりきめ細かな対応と予算配分を期待します。
- ・親の私が娘を支援できなくなった時のことを思うと、とても不安です。経済的に余裕があればまだ解決方法もあるでしょうが、うちには余裕もなく、娘も今後暮らしていけるだけの収入を得ることは望めないで、グループホームの数を増やし、内容も充実させていっていただけたらと切に望んでいます。よろしくお願い致します。
- ・通所中以外は常時の見守り、付添が必要です。親が老齢又は亡くなった時に、兄弟（仕事や家族がある）では同居は不可能です。

## 福祉全般

28 件

- ・他市に比べ当市の福祉対応は十分進んでいると思うが、さらにきめ細かくやっていただくことを期待する。
- ・障害のある人々、子どもたちが住み良い武蔵野市は、誰にとっても住み良い筈。それを目指して努力して下さることを願います。
- ・各家庭に障害者がいると悩みがあります。どうぞ個別の対応をお願いします。
- ・武蔵野市の障害者の割合は他の市区町より高いとのこと。これは障害者の親がすぎる思いでこの市を頼っていることの証だと考えます。ますますの充実をお願い申し上げます。

## 感謝

20 件

- ・他の区市町村に比べれば、本当に恵まれていると感謝しております。
- ・学校卒業後とても不安でしたが、武蔵野市では在宅者を作らないという方針を知り、安心して住み続けられると感謝しています。
- ・多様なサービスに感謝致します。
- ・本人の体調が急激に悪化したため、廊下、トイレの手すり、介護ベッドの手配を高齢者総合センターにお願いしたところ、迅速に手続きしていただけて大変助かりました。

## 職員・窓口・市役所

17 件

- ・武蔵野市役所にいつも相談に行っても、担当がいなくて、いちいち担当者でないと具体的な説明ができないのは何故か。他の市や区役所では担当者でなくても相談に乗ってくれ、このようなサービスがあると説明し、何かあったらすぐに来所するようにとさえ言うてくれるが、武蔵野市に引越して以来、担当がいなくてダメだと待たされ、相談に行ったところで具体的な対策は示さず、こちらは障害者を抱え日々身体的、肉体的に疲弊しているのに冗談ではない。
- ・今まで福祉課の方々には何でも話せて心強い存在でした。担当が変わってからは一変してとても威圧的な気がして、福祉課に行くのが、又、来てもらうのがイヤになりました。子供のことを理解してもらっていると思えない状況で、無理やり制度にあてはめようとしているように思えます。今までと極端に対応が変わったのはどういう理由なのか、利用者に説明されていません。あまりの変化に感情的なものだけが残ります。市として制度に対する考え方が変わったのならその説明が必要で

- す。一部の担当者だけなのでしょう。信頼関係が失われていくのは、とても不安で残念です。
- ・以前福祉課の窓口の方が、親身になって話を聞いてくださってとてもうれしかったです。一度保養施設も利用しました。少しお安く利用できて良いリフレッシュになりました。

## 相談・情報

16件

- ・学校に通学している間は学校の先生にご相談し、問題の解決を図っていますが、卒業後はどこに相談をしていったら良いものやよくわかりません。本人、家族、家庭の状態を良く知り、いつでも相談できる相談員の方がいて欲しいと思います。
- ・手帳取得した時の他、こちらからアプローチしないとどんなサービスがあって、どんなサービスが使えるかを知らされないのではないのでしょうか。新しく受けられる支援やサービスができれば、どんな障害のタイプの人に向いているかなどわかりやすく、つながりなどを書いてもらえるとありがたいです。
- ・広報誌「つながり」は大変役立つ情報が掲載されていて、いつも読ませていただいています。ありがとうございます。

## 介助で困っていること・不安なこと

15件

- ・介助している人は時間がなく、自分の事があまり出来ない。老介護なのでのんびり、ゆっくりしたいです。とても疲れます。
- ・私が病気になった時を考えるとすごく心配です。
- ・仕事につきたくても預け先が無いので、探す事が出来ない。

## アンケート

12件

- ・答えが難しい。
- ・本人が答えられる人と介護者が代わりに答える場合と、手数でももう少し設問の方法を考えていただきたい。本人の思いはこのようであろうと書いていても、親の希望かもしれないと、本人は違うかもと考えてしまう。
- ・今回のような調査が良くありますが、これらをどのような形で支援が行われているのか、将来的に生かされるかを知りたいと思います。

## 保健・医療

11件

- ・障害者は年を重ねるごとに、重複障害となってきます。その為医療費負担が重くのしかかってきます。年金、手当だけでは難しい時があります。親もやりくりしていますが、医療負担枠がゆるやかになってもらえれば嬉しいです（ちなみに息子は難病特定疾患とI型糖尿病、身体手帳はありますが何と役に立っていません）。
- ・毎日を何とか健康で生活出来るように頑張っているのですが、専門的な医療機関、病院にかかりにくいので残念です。
- ・愛の手帳3ですが、内科他の治療代金が基礎年金だけでは大変。

**就労****10件**

- ・市の施設での就労の場を作って頂きたい。
- ・息子はまだ中学生だが就労の話題が出る事が多い。この子たちが卒業した時、就労先は十分にあるのか、又、能力に合った職場があるのかなど不安に思う事は多い。
- ・就労の支援（市、公的機関において障害者の活用を進めるなど）

**外出・移動****10件**

- ・タクシー券は23区のように一年分いただいて、自由に使用出来るようにしていただきたいです。よろしくお願い致します。
- ・主人が障害者手帳を駅やバスなどで提示する際、右マヒで右手が動かないことにより、取り出すのに手間取ります。現在の手帳の形ではなく、スイカやパスモも免許証などと同じサイズにしてもらえると、取り出しやすく提示しやすくなると思います。又、バスや電車で障害者用の自動のパスモやスイカなどになると嬉しいです。
- ・歩道等、障害者が安全に安心して外出が出来て、健常者も自然に支援が出来るようなユニバーサルデザインをもっと取り込んだ街づくりをお願いします。

**介護者・家族等のサポート****9件**

- ・自宅での介護のなかで、介護者は自分の健康管理がなおざりになりがちです（健康診断に行く機会も失いがち）。介護者の心身の健康サポートにも目を向けて下さったらありがたいです。
- ・障害児・者の両親（特に母）の精神的なフォローをしてほしいと思います。

**手当て・助成・年金****6件**

- ・補助金の増額を希望。介護保険が負担増された分、家計が苦しくなりました。その分の増額を市でお願いします。
- ・福祉の充実（難病手当の増加）

**活動・交流****6件**

- ・趣味の活動の支援をお願いします。
- ・同じ病気をかかえている家族の悩みなどを、話し合える場があると色々参考になると思います。そのような機会を作っていただけると有難いです。

**高齢者施策・介護保険****5件**

- ・益々高齢者福祉に期待します。
- ・家族の介助、支援をいくつか軽減するため、一定時間、介護保険が利用出来ると有難い。

**障害者理解・啓発****5件**

- ・交通機関が一番困っています。身体ではなく内部疾患は外からわからない為、どんなにつらくても座る事ができない場合が多い。若いと立つのが当たり前と思われてしまう内部疾患者の為にも、身体障害者マークのように理解をしてもらえるマークを作ってほしい。見た目ではわからなくてもともつらい状態にあります。是非安心して電車を利用できるよう市からも国に働きかけて頂きたいです。
- ・まだまだ障害者にとって手をさしのべる、相手を思う気持ちが追いついて来てはいないと思います。年齢を経た人達にとっては、自分もという気持ちがあるので、ただ遠くから見ているだけ。一歩が出ないように思われます。

**現在の状況／今後のこと****現在 3件 / 今後 3件**

## ○現在の状況

- \* 「公開してもよい」とする意見なし

## ○今後のこと

- ・現在介助の必要はないのですが、これから先の事がとても不安です。

**成年後見人制度****3件**

- ・後見人制度は悪用される事件が多いので、安心してまかせられる制度が欲しいです。
- ・成年後見人制度の利用法、信頼できる後見人を紹介してもらえるサービスがあると安心です。

**申請、更新手続き****2件**

- ・どういう支援を受けられるかよくわからない。支援を受ける際の手続きが複雑、むずかしい（障害年金、生活保護など）。

**その他****6件**

- ・農作業のお手伝いをお願いします。
- ・公会堂をこわし、大きな劇場、美術館がほしい。

## 第 4 章 調査票



# 武蔵野市 障害者福祉についての実態調査

～生活支援ニーズ調査～

## － 調査ご協力のお願い －

日頃より武蔵野市の福祉施策にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この調査は、来年度改定を予定している武蔵野市障害者計画に反映するとともに、皆様が日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料とするために、武蔵野市が実施するものです。

調査対象者として平成25年11月12日現在、障害者手帳をお持ちの方や医療費の助成を利用されている方などへ調査票を送付させていただきました。立ち入ったことや、ご自身とは関係ないと思われる内容もあるかと思いますが、お答えいただけるものだけでも結構ですので、ぜひともご協力をお願いいたします。

なお、本調査票にお名前をお書きいただく必要はございません。また、ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理されますので、個々の方のお名前やご回答内容が特定されたり、公表されるようなことは一切ございません。どうぞ率直なご意見、お考えをお聞かせください。

平成25年12月

武蔵野市長

邑上守正

### 【この調査票の構成について】

2ページから・・・封筒の宛名のご本人について

18ページ ……ご本人を主に介助・支援している方について

### 【ご記入にあたって】

- 1 回答で、「その他」を選択される場合には、( )内にその内容を具体的にご記入ください。
- 2 記入が済みましたら、返信用封筒（切手不要）に入れ、  
**12月24日（火）までに**ご返送ください。
- 3 ご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。なお、おひとりでの記入が難しい方もご相談ください。

武蔵野市 健康福祉部 障害者福祉課

電話番号 0422-60-1904、1847

ファックス 0422-51-9239

E-mail SEC-SYUGAI@city.musashino.lg.jp

## あなた（封筒の宛名のご本人）についての質問

【ご記入にあたって】

調査票の設問中の「あなた」とは、封筒の宛名のご本人です。封筒の宛名のご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や支援者の方がご本人のことをお答えください。

### 回答者について、お聞きします。

問1 回答されている方はどなたですか。（1つに○）

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 宛名のご本人が記入                       |
| 2 宛名のご本人に聞きながら家族や支援者などがご本人の代わりに記入 |
| 3 宛名のご本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入      |
| 4 その他( )                          |

### あなた(封筒の宛名のご本人)についてお聞きします。

問2 あなたの性別と現在の年齢をお答えください。（1つに○）

① 性別	1 男性	2 女性
② 年齢	1 0～5 歳	5 40～49歳
	2 6～18歳	6 50～64歳
	3 19～29歳	7 65～74歳
	4 30～39歳	8 75歳以上

問3 あなたのお住まいの地区はどこですか。（1つに○）

1 吉祥寺東町	6 中町	11 境
2 吉祥寺南町	7 西久保	12 境南町
3 御殿山	8 緑町	13 桜堤
4 吉祥寺本町	9 八幡町	14 その他( )
5 吉祥寺北町	10 関前	



問4 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

※週末だけご自宅に戻られている方などは、週のうち一番長く居る場所をお答えください。

- |                   |          |
|-------------------|----------|
| 1 自宅(持ち家・ご家族の持ち家) | 4 病院に入院中 |
| 2 自宅(賃貸住宅)        | 5 施設に入所中 |
| 3 グループホーム、ケアホーム   | 6 その他( ) |

問5 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)

- |            |                           |
|------------|---------------------------|
| 1 ひとり暮らし   | 6 子・子の配偶者(妻・夫)            |
| 2 父母       | 7 孫・孫の配偶者(妻・夫)            |
| 3 祖父母      | 8 施設やグループホーム・ケアホームで生活している |
| 4 配偶者(妻・夫) | 9 その他( )                  |
| 5 兄弟・姉妹    |                           |

問6 あなたが生活するためのお金(収入源)は、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

- |               |                          |
|---------------|--------------------------|
| 1 給与          | 6 生活保護                   |
| 2 施設・作業所などの工賃 | 7 手当                     |
| 3 障害年金        | 8 同居家族の収入や仕送り            |
| 4 老齢年金        | 9 その他( )                 |
| 5 事業・財産収入     | 10 収入なし(今までの貯金を元に生活している) |

問7 あなたの世帯全体の平成24年中の収入額はどのくらいでしたか。(1つに○)

※収入には福祉手当や年金を含め、世帯で同居されている方全体の収入(税金を引かれる前の金額)でお答えください。

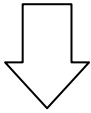
- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1 収入はない       | 7 300～400万円未満   |
| 2 50万円未満      | 8 400～500万円未満   |
| 3 50～100万円未満  | 9 500～1,000万円未満 |
| 4 100～150万円未満 | 10 1,000万円以上    |
| 5 150～200万円未満 | 11 わからない        |
| 6 200～300万円未満 |                 |

## あなたの状況についてお聞きします。

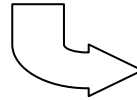
問8 あなたは、障害者手帳や愛の手帳をお持ちですか。(1つに○)

1 持っている

2 持っていない



以下の問にお答えください。



問10へ

問9 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまるものすべてに○をつけて記入)

1 身体障害者手帳を持っている …………… 級

2 愛の手帳を持っている …………… 度

3 精神障害者保健福祉手帳を持っている …………… 級

【問9で「1 身体障害者手帳を持っている」と回答した方にお聞きします。】

問9-1 障害の種類はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

1 視覚

2 聴覚・平衡

3 音声・言語・そしゃく

4 肢体不自由(上肢・下肢・体幹・脳原性運動機能障害)

5 内部(心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこうなど)

## すべての方にお聞きします。

問10 あなたは、以下の医療費の助成などを受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、マル都(難病、人工透析、肝炎など)、小児慢性疾患医療費助成制度)が含まれます。

1 医療費の助成を受けている

3 申請中

2 難病患者福祉手当を受給している

4 いずれも受けていない

問11 現在、以下の障害や疾患の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

1 身体障害

5 発達障害

2 知的障害

6 高次脳機能障害

3 精神障害(統合失調症・うつ病・適応障害・認知症など)

7 その他( )

4 難病・特定疾患

問12 その中で、主な障害・疾患は何ですか。(1つに○)

1 身体障害	5 発達障害
2 知的障害	6 高次脳機能障害
3 精神障害(統合失調症・うつ病・適応障害・認知症など)	7 その他( )
4 難病・特定疾患	

問13 主な障害・疾患がわかったのは何歳ごろでしたか。(1つに○)

1 0～5歳	4 30～39歳	7 65～74歳
2 6～18歳	5 40～49歳	8 75歳以上
3 19～29歳	6 50～64歳	9 わからない

問14 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)

1 はい	2 いいえ
------	-------

→【問14で「1 はい」と回答した方にお聞きします。】

問14-1 どのような場面で介助や支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 食事	9 家事(調理、洗濯、掃除)
2 排せつ	10 育児
3 入浴	11 日常的なコミュニケーション
4 寝返り	12 薬・服薬の管理
5 着替えや歯磨きなどの日常生活動作	13 お金の管理
6 家の中の移動	14 市役所や事業者との手続き
7 外出(通学・通勤・通院を含む)	15 その他( )
8 日常の買い物	

【40歳以上の方にお聞きします。(40歳未満の方は問16へ)】

問15 現在、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)

1 受けている	2 受けていない	3 申請中
---------	----------	-------

→【問15で、「1 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問15-1 あなたの認定内容はどれにあてはまりますか。(1つに○)

1 要支援1	3 要介護1	5 要介護3	7 要介護5
2 要支援2	4 要介護2	6 要介護4	

問15-2へ

【問15で、「1 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問15-2 利用している、又は利用したことがある介護サービスはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| 1 訪問介護(ホームヘルプ)      | 6 福祉用具購入・貸与   |
| 2 訪問看護              | 7 住宅改修        |
| 3 訪問リハビリテーション       | 8 その他( )      |
| 4 通所介護(デイサービス)      | 9 いずれも利用していない |
| 5 通所リハビリテーション(デイケア) |               |

**保健・医療についてお聞きします。**

問16 現在、医師の診療や訪問看護を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1 自宅で訪問診療を受けている | 4 時々通院している  |
| 2 自宅で訪問看護を受けている | 5 入院している    |
| 3 定期的に通院している    | 6 診療は受けていない |

問17 あなたには、日常的に診療や相談などを受けられる医師がいますか。(1つに○)

- |         |            |
|---------|------------|
| 1 市内にいる | 3 いない      |
| 2 市外にいる | 4 必要としていない |

問18 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- |                            |
|----------------------------|
| 1 近所で診療をしてくれる医療機関がない       |
| 2 通院するのが大変                 |
| 3 訪問診療をしてくれる医療機関がない        |
| 4 通院時に付き添ってくれる人がいない        |
| 5 障害を理由に診療を断られることがある       |
| 6 障害のため症状が正確に伝えられない        |
| 7 受診の手続きや案内などが障害への配慮に欠けている |
| 8 医療費の負担が大きい               |
| 9 入院の際に付き添いや個室の利用を強いられる    |
| 10 その他( )                  |
| 11 特にない                    |

**相談や情報入手についてお聞きします。**

問19 日常生活において、何か困っていることがありますか。(1つに○)

1 ある

2 ない⇒ 問20へ

→【問19で「1 ある」と回答した方にお聞きします。】

問19-1 困っていることを相談する人はいますか。〔家族や友人を除く〕(1つに○)

1 いる

2 いない ⇒ 問19-4へ

→【問19-1で「1 いる」と回答した方にお聞きします。】

問19-2 相談相手は、次のうちどれにあたりますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- |                                      |                 |
|--------------------------------------|-----------------|
| 1 市役所                                | 12 福祉公社         |
| 2 障害者福祉センター                          | 13 学校の先生        |
| 3 みどりのこども館                           | 14 市の教育支援センター   |
| 4 ぴーと                                | 15 こころの健康相談室    |
| 5 ライフサポートMEW(サポミュー)                  | 16 民生委員         |
| 6 施設や就労支援事業所                         | 17 身体(知的)障害者相談員 |
| 7 相談支援専門員<br>(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人) | 18 保健所          |
| 8 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど)            | 19 その他( )       |
| 9 ケアマネジャー                            |                 |
| 10 在宅介護支援センター、地域包括支援センター             |                 |
| 11 ホームヘルパーなどのサービス提供事業者               |                 |

→【問19-1で「1 いる」と回答した方にお聞きします。】

問19-3 悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることがありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1 相談場所が遠い            | 7 訪問での相談が受けられない  |
| 2 相談する日時が合わない        | 8 じっくり話を聞いてもらえない |
| 3 プライバシーが守られるか不安     | 9 相談先が限られている     |
| 4 相談先の知識不足や対応に不満     | 10 その他           |
| 5 実際に支援が始まるまでに時間がかかる | ( )              |
| 6 実際の支援につながらない       | 11 特にない          |

【問19-1で「2 いない」と回答した方にお聞きします。】

問19-4 相談相手がいない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 相談先が分からない	4 他人に相談するのが不安
2 誰にも相談したくない	5 その他( )
3 家族や友人以外に相談する必要がない	6 相談するほどのことでもない

**すべての方にお聞きします。**

問20 市の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

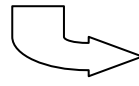
1 市役所	14 市の教育支援センター
2 障害者福祉センター	15 こころの健康相談室
3 みどりのこども館	16 民生委員
4 ぴーと	17 身体(知的)障害者相談員
5 ライフサポートMEW(サポミュー)	18 保健所
6 施設や就労支援事業所	19 市報
7 相談支援専門員 (事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人)	20 障害者福祉課の広報誌 (「つながり」・「こころのつながり」)
8 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど)	21 市のホームページ
9 ケアマネジャー	22 むさしのFM、武蔵野三鷹ケーブルテレビ
10 在宅介護支援センター、地域包括支援センター	23 インターネット
11 ホームヘルパーなどのサービス提供事業者	24 その他( )
12 福祉公社	25 特に情報を得ていない
13 学校の先生	

問21 あなたは現在、保育園や幼稚園、学校へ通園・通学をしていますか。(1つに○)

1 通園・通学している	2 通園・通学していない
-------------	--------------



以下の問にお答えください。



問26へ

問22 あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

【父親の就労状況】	【母親の就労状況】
1 正社員として働いている	1 正社員として働いている
2 パート・アルバイトなどで働いている	2 パート・アルバイトなどで働いている
3 働いていないが、できれば働きたい	3 働いていないが、できれば働きたい
4 働いていないし、その意向もない	4 働いていないし、その意向もない
5 その他( )	5 その他( )
6 父親はいない	6 母親はいない

## 通園・通学している方にお聞きします。

問23 通園・通学しているところはどこですか。(1つに○)

1 保育園	6 高等学校
2 幼稚園	7 大学
3 小学校・中学校(特別支援学級)	8 専門学校、高等専修学校、各種学校
4 小学校・中学校(通常学級)	9 職業能力開発校
5 特別支援学校	10 その他( )

問24 通園・通学する上で困っていることはありますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)

1 通うのが大変	7 普通学級に入れない
2 障害に応じた授業のサポートが不十分	8 教育や療育に関する情報が少ない
3 段差やトイレなどの設備が不十分	9 家族への支援が少ない
4 園内・校内での介助が不十分	10 学校以外の相談先がない
5 生徒や職員の障害への理解が不十分	11 その他( )
6 受け入れてくれる学校の数が少ない	12 特に問題はない

問25 放課後や休みの日、以下のサービスを利用していますか。

①現在の利用状況、②今後の利用意向、③希望する利用回数をお答えください。

(①、②はあてはまるものすべて、③は②の「1」または「2」に○をつけた方)

	①現在、利用しているもの	②今後、利用したいもの	③希望する利用回数
(1) 放課後等デイサービス	1	1	⇒ 週 ___ 回
(2) 日中一時支援	2	2	⇒ 週 ___ 回
(3) 武蔵野市内のショートステイ 桜はうす・今泉、井の頭はうす、なごみの家	3	3	
(4) 市外のショートステイ	4	4	
(5) 障害者福祉センター(音楽療法など)	5	5	
(6) 移動支援(ガイドヘルプ)	6	6	
(7) 学童クラブ	7	7	
(8) あそべえ	8	8	
(9) 上記以外の障害者団体の活動	9	9	
(10) 民間の塾や習い事	10	10	
利用しているものはない(利用したいものはない)	11	11	

⇒ 回答後、問29へ

## 仕事の状況や今後の希望についてお聞きします。

問26 あなたは、現在、どのように働いていますか。(1つに○)

- 1 会社員、団体職員などとして働いている
- 2 自営業をしている
- 3 パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている
- 4 内職をしている
- 5 就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用して働いている
- 6 その他( )

7 働いていない  
→ 問28へ

【問26で「働いていない」以外を回答した方にお聞きします。】

問27 現在の職場に就職したのは、疾患や障害の診断を受ける後でしたか。(1つに○)

- 1 診断を受けた後
- 2 診断を受ける前
- 3 わからない・覚えていない

【問27で「診断を受けた後」と回答した方にお聞きします。】

問27-1 就職する際に以下の機関を利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 ハローワーク
- 2 市役所
- 3 武蔵野市障害者就労支援センター「あいる」
- 4 障害者就業・生活支援センター
- 5 障害者職業センター
- 6 通っていた学校
- 7 就労移行支援事業所
- 8 その他の福祉施設
- 9 市内の福祉団体
- 10 いずれも利用していない

⇒ 回答後、問29へ

【問26で「働いていない」と回答した方にお聞きします。】

問28 あなたは今後、どこかで働いてみたいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- 1 会社員、団体職員などとして働いてみたい
- 2 自営業をしてみたい
- 3 パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい
- 4 内職をしてみたい
- 5 作業所や就労継続・移行支援を利用してみたい
- 6 働きたいとは思わない
- 7 その他( )
- 8 わからない



**【問28で「1」から「5」と回答した方にお聞きします。】**

問28-1 働くにあたって、特に心配なことはありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- 1 労働条件(時間や賃金)
- 2 自分の健康状態や体力
- 3 自分のスキル(ビジネスマナーやパソコン操作など)
- 4 通勤
- 5 疾患や障害の特性に合う仕事があるか
- 6 職場の設備(仕事に使う道具や、階段、段差、トイレなどの使いやすさ)
- 7 職場の人間関係
- 8 職場の人の疾患や障害への理解
- 9 作業所などから引き続き支援を受けられるか
- 10 その他( )
- 11 特にない

**すべての方にお聞きします。**

問29 あなたが働く際、特にどのような支援があったらよいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- 1 仕事内容を調整してくれる(障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など)
- 2 職場の設備(トイレ、エレベーターなど)がどのようになっているのかを確認してくれる
- 3 職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる
- 4 就労や生活に関する相談先がある
- 5 急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる
- 6 仕事に役立つ講習を受けられること(ビジネスマナーやパソコン操作など)
- 7 自分に合った仕事を見つける支援(仕事探しや会社訪問への同行など)
- 8 疾患や障害の特性に合った職業訓練
- 9 疾患や障害のある人向けの求人情報の提供
- 10 就労先に出向いて来て、直接、作業のやり方や職場環境の指導をしてくれる
- 11 作業所や就労継続・移行支援などの場がたくさんある
- 12 その他( )
- 13 特にない
- 14 わからない

## 外出の状況についてお聞きします。

問30 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)

- |          |                      |
|----------|----------------------|
| 1 ほぼ毎日   | 4 ほとんど外出しない ⇒ 問30-3へ |
| 2 週に1回以上 |                      |
| 3 月に1回以上 |                      |

→【問30で「1」から「3」と回答した方にお聞きします。】

問30-1 外出する時に利用する移動手段は次のうちどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |        |        |           |              |
|--------|--------|-----------|--------------|
| 1 徒歩   | 4 ムーバス | 7 タクシー    | 10 車いす・電動車いす |
| 2 自転車  | 5 路線バス | 8 リフトタクシー | 11 その他       |
| 3 自家用車 | 6 電車   | 9 レモンキャブ  | ( )          |

→【問30で「1」から「3」と回答した方にお聞きします。】

問30-2 あなたが外出時に困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                           |
|---------------------------|
| 1 介助者がいない                 |
| 2 利用する建物の設備(トイレなど)が利用しにくい |
| 3 バスや電車、タクシーなどが利用しにくい     |
| 4 道路や駅が障害者に配慮されていない       |
| 5 公共サイン(行き先表示や案内板)がわかりにくい |
| 6 リフトタクシーやレモンキャブの予約がとれない  |
| 7 その他( )                  |
| 8 特になし                    |

⇒ 回答後、問31へ

【問30で「4 ほとんど外出しない」と回答した方にお聞きします。】

問30-3 あなたが外出しない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| 1 健康や体力に自信がない   | 6 外出するのが不安 |
| 2 外出する必要がある     | 7 経済的余裕がない |
| 3 外出することが好きではない | 8 行くところがない |
| 4 介助者がいない       | 9 その他( )   |
| 5 交通機関の利用が難しい   |            |

## 趣味の活動や地域の活動についてお聞きします。

問31 あなたは現在、趣味などの活動に参加していますか。(1つに○)

1 参加している

2 参加していない

→【問31で「2 参加していない」と回答した方にお聞きします。】

問31-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 1 参加したい活動がない   | 7 一人では参加しにくい          |
| 2 介助者がいない      | 8 健康状態、障害の状況のため参加できない |
| 3 参加の仕方がわからない  | 9 どのような活動があるのかわからない   |
| 4 経済的に余裕がない    | 10 仕事や家事・育児が忙しく時間がない  |
| 5 参加するきっかけがない  | 11 年齢的に参加するのが難しい      |
| 6 新しい場所に行くのが不安 | 12 その他( )             |

問32 市内では以下のような活動が催されています。あなたが参加したい活動（現在参加している活動も含む）はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                    |                               |
|--------------------|-------------------------------|
| 1 スポーツ(水泳、ハイキングなど) | 6 教養講座(カルチャースクール、大学の社会人用講座など) |
| 2 音楽(合唱、楽器演奏など)    | 7 パソコン講習                      |
| 3 美術(絵画、陶芸、染物など)   | 8 ボランティア活動(福祉、環境保護、教育など)      |
| 4 料理教室             | 9 その他( )                      |
| 5 英会話教室            | 10 参加したい活動はない                 |

## 災害時の対応についてお聞きします。

問33 市の災害時要援護者支援対策事業に登録していますか。(1つに○)

1 登録している

2 申請中

3 登録していない

4 わからない

→ 問33-1へ

### 災害時要援護者支援対策事業とは？

- ・ 災害時にご近所の住民(支援者)が、事前に登録された障害者や高齢者など(要援護者)の安否確認などをする仕組みです。
- ・ 武蔵野市では、身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、または自立支援医療(精神通院)、難病者福祉手当を受給している方、要介護認定を受けている方などのうち希望する方を対象に実施しています。
- ・ くわしくは、市報 12月1日号をご覧ください。

【問33で「3 登録していない」と回答した方にお聞きします。】

問33-1 登録していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1 自分で十分避難できる           | 7 登録したいが、方法がわからない |
| 2 隣近所や地域に頼れる人がいる       | 8 事業の仕組みや内容がわからない |
| 3 疾病や障害のことを知られたくない     | 9 事業そのものを知らない     |
| 4 他人に家に来られるのは困る        | 10 その他( )         |
| 5 プライバシーが守られるか心配       | 11 特に理由はない        |
| 6 疾病・傷害の状況から他人では対応が難しい |                   |

問34 大地震などの災害に備えて、ご自宅でどのような準備をしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                                |
|--------------------------------|
| 1 日頃から家族で災害時の対応を話し合っている        |
| 2 非常時持出し品の用意や非常食などの備蓄をしている     |
| 3 疾病や障害に対応した機器を備えている           |
| 4 必要な薬や医療機関の連絡先がわかるようにしている     |
| 5 近所の人や知人に、災害が発生した時の助けをお願いしている |
| 6 地域の避難訓練に参加している               |
| 7 武蔵野市の災害時要援護者支援対策事業に登録している    |
| 8 その他( )                       |
| 9 特にない                         |

問35 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1 災害の発生を知る方法がない                  |
| 2 助けを求める方法がない                    |
| 3 近くに助けてくれる人がいない                 |
| 4 医療機器(人工呼吸器や吸引器)などが作動するか不安がある   |
| 5 薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある      |
| 6 できるだけ自宅で避難したいが一人では不安がある        |
| 7 できるだけ自宅で避難したいが災害情報が入手できるか不安がある |
| 8 できるだけ自宅で避難したいが水や食料が入手できるか不安がある |
| 9 避難所に避難したいが一人では避難できない           |
| 10 避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある     |
| 11 避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある       |
| 12 その他( )                        |
| 13 特にない                          |



**今後のことについてお聞きします。**

問39 あなたは、将来どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)

- |                       |              |
|-----------------------|--------------|
| 1 独立して暮らしたい           | 4 入所施設で暮らしたい |
| 2 家族と一緒に暮らしたい         | 5 その他( )     |
| 3 グループホーム・ケアホームで暮らしたい | 6 わからない      |

問40 どこで暮らしたいですか。(1つに○)

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| 1 武蔵野市内で暮らしたい       | 4 特に決めていない |
| 2 武蔵野市周辺の市で暮らしたい    | 5 その他( )   |
| 3 武蔵野市周辺以外の地域で暮らしたい | 6 わからない    |

問41 あなたは、周りの方々に、あなたの障害について理解されていないと感じることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1 お店で食料品や日用品などの買い物をするとき             |
| 2 電車やバス、タクシーなどで出かけるとき               |
| 3 風邪をひいたり怪我をしたりして、病院にかかるとき          |
| 4 映画館や美術館などを利用するとき                  |
| 5 レストランなどで外食するとき                    |
| 6 保育園や学校などに入園・入学しようとするとき            |
| 7 正社員やアルバイト、パートタイマーなどとして仕事をしようとするとき |
| 8 住む家を探すとき                          |
| 9 その他( )                            |
| 10 特にない                             |

問42 今後、武蔵野市の障害者福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまで○)

- 1 住宅の整備、住宅探しの支援(グループホーム、ケアホーム、住宅相談など)
- 2 日中の居場所の確保(大人のための)
- 3 趣味の活動の支援 (障害者福祉センターの講習会、障害者団体の活動支援など)
- 4 未就学児への支援
- 5 小中高生の放課後・休日に利用できるサービス  
(放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど)
- 6 発達障害児・者への支援
- 7 就労支援
- 8 いつでも気軽に相談できる窓口の充実
- 9 障害や疾病に対する理解を深めるための啓発活動
- 10 障害者が利用しやすい移動手段の整備(リフトタクシー、レモンキャブ、ムーバスなど)
- 11 地震や台風など災害時の支援体制の整備
- 12 疾病予防など健康づくりのための講習会などの開催
- 13 その他( )
- 14 特にない
- 15 わからない

問43 武蔵野市の障害者福祉にご意見・ご要望がございましたらお書きください。

記入いただいたご意見・ご要望を公開してもよろしいですか。(どちらかに○)  
( 公開してもよい / 公開しないでほしい )

あなた(封筒の宛名のご本人)に回答いただく質問は以上です。

ご回答いただきまして、ありがとうございました。

**※次のページはご本人を主に介助や支援をされている方がお答えください。**

## 主に介助・支援をされている方についての質問

### 【ご記入にあたって】

ここから先の設問については、封筒の宛名のご本人を主に介助・支援されている方がお答えください。ご本人が未成年の場合は、保護者の方がお答えください。

問44 ご本人を主に介助・支援されている方の続柄・年齢・健康状態などについてお聞きします。(それぞれ1つに○)

① 続柄 (ご本人からみた関係)	1 父母	5 子または子の配偶者(妻・夫)	
	2 祖父母	6 孫または孫の配偶者(妻・夫)	
	3 兄弟・姉妹	7 その他( )	
	4 配偶者(妻・夫)		
② 年齢	1 40歳未満	3 50～64歳	5 75歳以上
	2 40～49歳	4 65～74歳	
③ 健康状態	1 健康である	3 病気で治療中である	
	2 病弱である	4 障害がある	
④ 同・別居の状況	1 同居している	3 別居している(市外在住)	
	2 別居している(市内在住)		
⑤ 就労状況	1 就労している	2 就労していない	3 求職中

問45 介助・支援に費やす時間はどのくらいですか。(それぞれ1つに○)

① 日中	1 日中のほとんど	2 日中の一部分	3 日中の介助・見守りはない
② 夜間	1 夜間のほとんど	2 夜間の一部分	3 夜間の介助・見守りはない

問46 介助・支援では、どのようなことに困っていますか。(あてはまるもの3つまでに○)

1 介助の仕方がわからない	7 福祉サービスを利用させたいが、希望する
2 利用できる福祉サービスがわからない	サービスが確保しにくい
3 悩みなどを話し合える仲間や相談先がない	8 身体的・精神的な負担が大きい
4 他に介助を代わることのできる人がいない	9 仕事(求職を含む)との両立が難しい
5 経済的負担が大きい	10 その他( )
6 自分の時間がもてない	11 特にない

問47 武蔵野市の障害者福祉にご意見・ご要望がございましたらお書きください。

記入いただいたご意見・ご要望を公開してもよろしいですか。(どちらかに○)

( 公開してもよい / 公開しないでほしい )

アンケートは以上です。ご回答いただきまして、ありがとうございました。

返信用封筒に入れ、**12月24日(火)までに** 郵便ポストに入れてください。



---

---

武蔵野市障害者計画・第4期障害福祉計画策定のための  
武蔵野市障害者福祉についての実態調査  
報 告 書  
平成26年3月発行

編集・発行  
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28  
武蔵野市 健康福祉部 障害者福祉課  
電話 0422-60-1904（直通）

---

---